# 現代日本語の感情形容詞の研究

村上　佳恵

# 目次

**序章** ..... 8
1. 研究の目的 ..... 8
2. 構成 ..... 9
3. 術語 ..... 10
4. BCCWJ について ..... 11

**第 1 章　先行研究** ..... 13
1. 研究史のキーワード「対象語」「属性と情意の総合的な表現」「人称制限」 ..... 13
1.1. 時枝誠記(1941)(1950) ..... 13
1.2. 小山敦子(1966) ..... 14
2. 対象語 ..... 15
2.1. なぜガ格でマークされるのか ..... 15
2.1.1. 寺村秀夫(1982) ..... 15
2.1.2. 北原保雄(2010) ..... 16
2.2. 対象語は主語か目的語か ..... 17
2.2.1. 橋本進吉(1969) ..... 17
2.2.2. 鈴木重幸(1972a)(1972b) ..... 17
2.2.3. 久野暲(1973) ..... 18
2.2.4. 柴谷方良(1978) ..... 18
3. 「属性と情意の総合的な表現」 ..... 19
3.1. 三田村紀子(1966) ..... 19
3.2. 寺村秀夫(1982) ..... 20
3.3. 篠原俊吾(2008) ..... 20
4. 人称制限 ..... 21
4.1. 寺村秀夫(1971)(1973) ..... 22
4.2. 金水敏(1989) ..... 22
4.3. 益岡隆志(1997) ..... 23
5. 形容詞の分類 ..... 24
5.1. 感情形容詞と属性形容詞を中心とした分類 ..... 24
5.1.1. 三田村紀子(1966) ..... 24
5.1.2. 西尾寅弥(1972) ..... 25
5.1.3. 草薙裕(1977) ..... 26
5.1.4. 寺村秀夫(1982) ..... 27

5.1.5.　細川英雄(1989) 28
5.1.6.　小針浩樹(1994) 28
5.1.7.　仁田義雄(1998) 29
5.1.8.　北原保雄(2010) 30
5.2.　状態形容詞と質形容詞 30
5.1.2.　荒正子(1989)、樋口文彦(1996) 30
5.1.3.　八亀裕美(2008) 32
5.3.　「文機能」からの分類　山岡政紀(2000) 33
5.4.　先行研究の形容詞分類に対する本研究の考え 35
6.　まとめ 36

**第 2 章　現代日本語の形容詞分類　―様態のソウダを用いて―** 37
1.　はじめに 37
2.　問題の所在 37
3.　感情形容詞の定義 38
4.　分類の指標にソウダを用いる理由 38
5.　分類の指標 39
5.1.　様態のソウダの 2 つの解釈 39
5.2.　3 つの指標 42
5.3.　指標 1・2 42
5.4.　指標 3 46
6.　分類の対象と分類の際に問題となる語 47
7.　分類の結果 49
8.　まとめ 51

**第 3 章　感情形容詞の使用実態　―属性形容詞との対比を通して―** 53
1.　はじめに 53
2.　先行研究 53
3.　調査の対象 55
3.1.　調査対象の語彙数 55
3.2.　調査対象の形容詞の分類 55
4.　活用形による分類 59
4.1.　活用形別のデータ 60
4.2.　感情形容詞の語幹の出現頻度が高い理由 63
5.　文の成分による分類 64

5.1.　文の成分として何をたてるか ..... 64
5.2.　文の成分別データ ..... 69
5.3.　χ2 検定 ..... 71
5.3.1.　修飾部の有意差について ..... 71
5.3.2.　動詞句述部の有意差の理由について ..... 73
5.3.3.　形容詞述部と補部の有意差について ..... 75
6.　活用形と文の成分の関係 ..... 75
6.1.　終止形 ..... 75
6.2.　連体形 ..... 76
6.3.　連用形 ..... 78
6.4.　未然形 ..... 78
6.5.　意志推量形 ..... 79
6.6.　仮定形 ..... 79
6.7.　命令形 ..... 79
7.　まとめ ..... 80

**第 4 章　感情形容詞が述語となる複文 ―「動詞のテ形、感情形容詞」―** ..... 81
1.　問題の所在 ..... 81
1.1.　「Ｖテ、感情形容詞」の適格性 ..... 81
1.2.　非意志的な表現とは ..... 83
2.　「Ｖテ、感情形容詞」の 2 分類 ..... 84
3.　［対象事態］について ..... 85
3.1.　［対象事態］の下位分類 ..... 85
3.2.　A 前件と後件が同一主体 ..... 85
3.2.1.　前件肯定 ..... 85
3.2.2.　前件否定 ..... 87
3.2.3.　前件の制約について ..... 88
3.3.　B 前件と後件が異主体 ..... 90
3.3.1.　問題の所在 ..... 90
3.3.2.　先行研究 ..... 91
3.3.3.　前件に後件の主体が関与する場合 ..... 91
3.3.4.　前件に後件の主体が関与しない場合 ..... 92
3.4.　C 前件の主体が人間以外 ..... 94
4.　［対象認識］について ..... 95
4.1.　［対象認識］と［対象事態］の関係 ..... 95

4.2.　［対象認識］の自己制御性 ..... 96
5.　「Vテ、感情形容詞」と「～カラ、感情形容詞」「～ノデ、感情形容詞」 ..... 96
5.1.　先行研究 ..... 97
5.2.　「カラ」「ノデ」と「～テ」の違い ..... 97
6.　まとめ ..... 99

**第 5 章　連体修飾用法の感情形容詞と被修飾名詞の意味関係**
**―うれしい人、うれしい話、うれしい悲鳴―** ..... 102
1.　はじめに ..... 102
2.　先行研究と問題の所在 ..... 102
2.1.　西尾寅弥(1972) ..... 102
2.2.　畢暁燕(2010) ..... 103
2.3.　寺村秀夫(1975) ..... 104
2.4.　意味的分類と統語的分類のかかわり ..... 105
3.　考察の対象 ..... 106
4.　感情形容詞と被修飾名詞の意味的関係 ..... 107
4.1.　感情形容詞と被修飾名詞の意味的関係の 7 分類 ..... 107
4.1.1.　［対象］ ..... 107
4.1.2.　［経験者］ ..... 108
4.1.3.　［とき］ ..... 108
4.1.4.　［内容］ ..... 109
4.1.5.　［表出物］ ..... 111
4.1.6.　［相対補充］ ..... 114
4.1.7.　［その他］ ..... 115
5.　連体用法の感情形容詞の使用実態 ..... 117
5.1.　分類に迷う例 ..... 117
5.1.1.　感情を表していない形容詞 ..... 118
5.1.2.　周辺的な例 ..... 119
5.2.　結果 ..... 122
5.3.　考察 ..... 128
6.　まとめ ..... 129

**第 6 章　感情形容詞の副詞的用法** ..... 131
1.　問題の所在 ..... 131
2.　先行研究 ..... 132

2.1.　副詞全体の中での感情形容詞の副詞的用法の研究 ..... 132
2.2.　感情形容詞の副詞的用法の研究 ..... 132
2.3.　情態修飾成分と結果構文の先行研究 ..... 134
3.　考察の対象 ..... 136
3.1.　感情形容詞 ..... 136
3.2.　副詞的成分(非必須成分)とは ..... 137
4.　感情形容詞の副詞的用法の２分類 ..... 138
4.1.　動作主認識の副詞的成分 ..... 139
4.1.1.　主体が特定の例 ..... 139
4.1.2.　主体が不特定の例 ..... 141
4.1.3.　形容詞の偏り ..... 142
4.1.4.　動作主認識の副詞的成分と述語動詞の関係 ..... 143
4.2.　非動作主認識の副詞的成分 ..... 147
4.2.1.　主体 ..... 147
4.2.2.　副詞的成分と述語動詞の関係 ..... 149
5.　まとめ ..... 151

第７章　日本語教育に向けて ..... 152
1.　問題の所在 ..... 152
2.　「Ｖテ、感情形容詞」が適格文となる条件(日本語教育にむけて) ..... 153
2.1.　［対象事態］ ..... 153
2.2.　［対象認識］ ..... 154
3.　「Ｖテ、感情形容詞」と「Ｖテ、感情動詞」の比較 ..... 155
3.1.　［対象認識］の前件の制限 ..... 156
3.2.　「Ｖテ、感情動詞」の［対象認識］の前件の動詞 ..... 157
4.　初級の日本語のテキストの分析 ..... 159
4.1.　「Ｖテ、感情」の取り扱い ..... 160
4.1.1.　「原因・理由のテ」として扱うテキスト ..... 161
4.1.2.　「受け身テ、感情」として扱うテキスト ..... 163
4.2.　初級の日本語のテキストの用例の分析 ..... 165
4.2.1.　『みんなの日本語』 ..... 166
4.2.2.　『JAPANESE　FOR　BUSY　PEOPLE』 ..... 167
4.2.3.　『文化初級日本語改訂版』 ..... 167
4.3.　日本語の可能表現の２分類 ..... 169
4.4.　可能形の取り扱い ..... 170

4.4.1.　初級の日本語のテキストの可能形の取り扱いの有無 ..... 171
4.4.2.　実現可能を文型として取り上げているテキスト..... 172
4.4.3.　可能形の課に実現可能の例文があるテキスト ..... 174
4.4.4.　可能形の課で活用表を提示し
他の課に実現可能の例文が出てくるテキスト..... 176
4.4.5.　可能形の課に実現可能の例文がないが
他の課で実現可能が出てくるテキスト..... 177
5.　「Ｖテ、感情形容詞」の提出順序の一試案 ..... 179
6.　まとめ..... 181

**終章　まとめと今後の課題** ..... 184
1.　感情形容詞の分類..... 184
2.　感情形容詞の使用実態 ..... 185
3.　感情形容詞が述語となる複文 ..... 187
4.　感情形容詞の連体修飾用法..... 189
5.　感情形容詞の副詞的用法..... 190
6.　日本語教育に向けて ..... 190
7.　感情形容詞の 3 つの用法 ..... 191
8.　今後の課題 ..... 192

**参考文献** ..... 193

# 序章

## 1.　研究の目的

筆者が感情形容詞に関心を持ったのは、日本語学習者の次の誤用がきっかけであった。

(1)（日本語学校の卒業式で）「*みんなと会って、うれしいです。」

日本の大学や専門学校へ旅立っていく学生たちは、卒業式の最後の一言で、このように述べた。「会えてうれしいです」と言ってほしいなと思いつつ、なぜ(1)は非文なのだろうかと考えていた。次の(2)や(3)は、適格文であるのに、なぜ、(1)はおかしいのだろうか。

(2) 知らせを聞いて、うれしいです。
(3) みんなと会って、うれしかったです。

このような疑問が本研究の出発点であるが、日本語学習者の誤用の原因を特定することは容易ではない。教科書での取り上げ方、教え方、母語の干渉等、様々考え得るからである。本研究の主な目的は、日本語教育への応用の前段階として、感情形容詞が終止用法・連体修飾用法･副詞的用法という 3 つの用法において､どのような振る舞いを見せるのか、ということを明らかにすることである。

これまでの現代日本語の感情形容詞についての研究は、感情形容詞の人称の制限、感情形容詞が属性形容詞として使われること、「悲しい」と「悲しむ」のように、感情形容詞と語幹を共有する動詞との使い分け等が中心であった。そして、(1)のような複文の述語として働く感情形容詞や、次のような感情形容詞の連体修飾用法、副詞的用法については、まだ十分に明らかにされていない。次の(4)の「つらい」と「顔」はどういった意味関係なのだろうか。「つらい体験」や「(階段を上るのが）つらい人」とは、異なる関係である。

(4) 花子は、つらい顔を見せずにがんばった。

また、副詞的用法の(5)(6)は、何が「悲しい」のだろうか。

(5) 国からの知らせを悲しく聞いた。
(6) 花子は、ジュリエットを悲しく演じた。

本研究では、感情形容詞の終止用法・連体修飾用法・副詞的用法という 3 つの用法について考察を行い、感情形容詞の全体像を明らかにしていく。

## 2. 構成

本研究の構成は、次の通りである。

第 1 章では、感情形容詞の先行研究をまとめる。本研究では、「対象語」「属性と情意の総合的な表現」「人称制限」という 3 つのキーワードを取り出し、研究史を見ていく。感情形容詞が研究史上注目を集めてきたのは、感情形容詞が人間の感情を表すという意味的な特徴ではなく、「私が水が飲みたい」のように、二重ガ格をとるということからであった。この二重ガ格の問題から始まる感情形容詞の研究史をたどる。なお、第 3 章以降の先行研究は、各章の冒頭で述べる。

第 2 章では、形容詞の分類を行う。これは、3 章以降の議論の前提として、感情形容詞の範囲を確定する必要があるからである。具体的には、様態の「～ソウダ」という形式を用いた形容詞分類を提示し、感情形容詞 2 群、属性形容詞 2 群の計 4 群に分類をする。これは、従来の「私は、～い。」という第一人称の非過去の言いきりの形で話者の感情を述べることができるかという指標を裏側から見たものである。従来の指標は、「私は、暑い」のように、非文ではないが対比的な文脈でしか「私は、～い。」と言わないのではないかと思われる語があり、判断が難しい語もある。本研究の分類の指標を用いれば、これらの語も分類が可能であることを示す。

第 3 章では、国立国語研究所の『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ)を用いて、感情形容詞と属性形容詞が実際の文中でどのように使われているかを調査する。活用形による分類を活かしつつ、述部になるのか、補部になるのか、修飾部(副詞的用法)になるのかといったことを調査する。そして、形容詞全体では述部として使われることが最も多いこと、また、典型的な感情形容詞は、典型的な属性形容詞と比較して修飾部(副詞的用法)になることが少ないということをデータで示す。

第 4 章では、終止用法として、「動詞のテ形、感情形容詞」という文型を中心に考察を行う。そして、「娘が元気にがんばっていて、うれしい」のような前件が感情の対象であるタイプと「娘が元気にがんばっているのを見て、うれしい」のような前件の動詞が感情の対象を認識する段階の動作を表すタイプに分類できることを指摘する。そして、最後に「～カラ、感情形容詞」「～ノデ、感情形容詞」という文型との比較を行う。

第 5 章では、連体修飾用法の感情形容詞について考察する。BCCWJ から連体修飾用法の用例を収集し、感情形容詞と被修飾名詞の意味関係を［対象］・［経験者］・［とき］・［内容］・［表出物］・［相対補充］・［その他］の 7 つに分類する。主なものは、「悲しい知らせ」のような被修飾名詞が感情を引き起こすものである［対象］と、「(大声を出すのが) 恥ずかしい人」のように、被修飾名詞が感情の持ち主である［経験者］と、「うれしい気持ち」のよ

うに被修飾名詞が「気持ち」等で、感情形容詞がその内容である［内容］の 3 つである。この 3 つは、すでに先行研究で指摘されているものであるが、本研究では、これ以外に「悲しい顔」「うれしいふり」のような「被修飾名詞が、経験者が感情形容詞で表される感情を持っている時に、経験者から発せられるものである」［表出物］というタイプがあることを示す。そして、これらの使用実態を調査し、［対象］が多く、［経験者］は少ないということを明らかにする。

第 6 章では、「散っていく桜を恨めしく見上げた」、「花子はジュリエットを切なく演じた」といった感情形容詞の副詞的用法について考察を行い、副詞句と述語との関係を明らかにする。副詞的用法の感情形容詞は、述語との因果関係はなく、述語動詞で表される出来事と感情形容詞で表される感情が同時性を持つだけであることを明らかにしていく。

第 7 章では、本研究の成果をどのように日本語教育に活かしていくことができるかを「Ｖテ、感情形容詞／感情動詞」（以下、「Ｖテ、感情」）という文型を例に考察する。初級の日本語のテキストでの「Ｖテ、感情」の扱われ方を確認し、問題点を指摘する。そして、初級の日本語教育における「Ｖテ、感情」の扱い方を試案として提示する。

終章では、まとめを行い、今後の課題について述べる。

## 3. 術語

本研究では、学校文法の形容詞（例：楽しい）と形容動詞（例：残念な）をそれぞれ、イ形容詞、ナ形容詞と呼ぶ。そして、区別の必要のない場合は、2 つを合わせて形容詞と呼ぶ。ただし、第 3 章の「感情形容詞の使用実態」は、イ形容詞のデータに限られている。

また、本研究では、「心理形容詞」ではなく、「感情形容詞」という術語を用いる。第 2 章で「感情形容詞」を「感情・感覚を表し得る形容詞」と定義する。

「状態」「性質」「属性」は、形容詞の研究の際に用いられてきた用語であるが、本研究では次のように考えている。「状態」は、動きを伴わない事物の一時的なあり方であり、動詞によって表される動作と対立するものである。そして、その状態が長期にわたる、または半永久的なものと話者によってみなされたものが「性質」であると考える。「属性」については、「状態」と「性質」を含むものとして用いる。

本研究では、意味役割として「動作主」「経験者」「対象」を用いる。「動作主」は、動作を行う者、「経験者」は、感情の持ち主である。「対象」は、感情形容詞述語文においては、感情を引き起こすものであり、属性形容詞述語文においては、属性の持ち主である。

(7) わたしは、　試合に出た。
　　動作主

(8) わたしは、　彼女のやさしさが、　うれしい。
　　経験者　　対象
(9) このパソコンは、　古い。
　　対象

また、第4章と第6章では、(7)の動作主、(8)の経験者、(9)の対象を「主体」と呼ぶ。これは、述語が「述べる」部分であるのに対し、「述べられる」部分であるという共通点をとらえたもので、格関係ではガ格となる名詞句のことである。ただし、(8)の対象は、ガ格であるが、主体ではない。

## 4. BCCWJについて

本研究では、国立国語研究所の『現代日本語書き言葉均衡コーパス(Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese、略称BCCWJ)を用いる。以下、国立国語研究所のホームページより、BCCWJの概要を記す[1]。

BCCWJは、「出版(生産実態)サブコーパス」「図書館(流通実態)サブコーパス」「特定目的(非母集団)サブコーパス」という3つのサブコーパスからなる約1億語のコーパスである。「出版(生産実態)サブコーパス」は、出版目録を母集団としたコーパスで、書籍、雑誌、新聞が収録対象で、資料の刊行年は2001－2005年である。「図書館(流通実態)サブコーパス」は、東京都下の図書館の所蔵目録を母集団とし「単に出版されただけでなく、ある程度広い範囲に流通したことが確認されているテキストを対象」としたコーパスで、資料の刊行年は、1986－2005年である。「特定目的(非母集団)サブコーパス」は、「日本語にとって重要でありながら上記2つのサブコーパスには含まれにくいデータや、差し迫った言語問題の解決に向けて国立国語研究所をはじめとする関係機関が利用するためのデータ」であり、書籍、広報紙、Web上の書き言葉が収録の対象である。

BCCWJ のデータは、非コアデータとコアデータに分けられる。非コアデータとは形態素解析器により形態素解析を行ったデータである。コアデータとは非コアデータに人手による修正を加えたデータで、全体の約100分の1である。

BCCWJには、短単位と長単位という2つの言語単位がある。短単位は、言語の形態的側面に着目して規定した言語単位で、「現代語において意味を持つ最小の単位(最小単位)を規定する。その上で、最小単位を長単位の範囲内で短単位認定規程に基づいて結合させる(又は結合させない)こと」により得られる単位である。長単位は、「文節を基にした単位」で「文節の認定を行った上で、各文節の内部を規則に従って自立語部分と付属語部分に分割」することにより得られ、複合語を構成要素に分割せずに扱うことができる。

---

1 国立国語研究所ホームページ　「コーパス開発センター　現代日本語書き言葉均衡コーパス」
http://www.ninjal.ac.jp/corpus_center/bccwj/　(最終閲覧日 2014.08.16)

また、BCCWJ には、固定長サンプルと可変長サンプルという 2 つの長さのサンプルがある。固定長サンプルとは、「ランダムに選んだ文字を基準として、1000 文字を抽出する」サンプルで「抽出比が正確であることから語彙調査、文字調査などの統計的分析」に向いている。可変長サンプルとは、「ランダムに選んだ点を基準として、ある章や節など文章構成上のまとまりを一つのサンプル」とするもので、「談話研究や文章構造の分析」に向いている。

本研究では、第 3 章の「感情形容詞の使用実態」と、第 5 章の「連体修飾用法の感情形容詞と被修飾名詞の意味関係」で BCCWJ のデータを計量的に用いている。また、第 4 章の「感情形容詞が述語となる複文」と第 7 章の「日本語教育に向けて」では、用例収集に BCCWJ を使用している。その際に使用したサブコーパス等は、以下の通りである。

**表 1　使用した BCCWJ のサブコーパス等**

| | サブコーパス | コア・非コア | 短単位・長単位 | 固定長・可変長 |
|---|---|---|---|---|
| 第 3 章 | 出版(生産実態) | コア | 短単位 | 固定長・可変長 |
| 第 5 章 | 出版(生産実態)<br>図書館(流通実態) | コア・非コア | 短単位 | 固定長・可変長 |
| 第 4 章<br>第 7 章 | 出版(生産実態)<br>図書館(流通実態)<br>特定目的(非母集団) | コア・非コア | 短単位 | 固定長・可変長 |

第 3 章は、対象範囲の形容詞すべてを分類するため、より正確なタグ付けが行われたデータを使用したかったことと、一部に新たなタグ付けをする必要があるため処理できるデータ数に限りがあったことにより、コアデータのみを用いた。第 5 章では、より多くの感情形容詞の連体修飾用法の用例を見たかったため、サブコーパスも増やし、コアと非コアデータを用いた。第 4 章、第 7 章では、文型の用例をできるだけ多く採取するために、サブコーパスの指定を行わず、全データを対象として使用した。このように、BCCWJ のデータといっても異なる範囲を用いたことを述べておく。

# 第１章　先行研究

第１章では、感情形容詞の先行研究を概観する。研究史を見ていくと、感情形容詞は、語彙的意味が感情であるからではなく「私は水が欲しい」のように二重ガ格をとり得ることや、「*太郎はうれしい」という文が非文になるといった統語的な特徴から注目されてきたことがわかる。本研究では、「対象語」「属性と情意の総合的な表現」「人称制限」の 3 つを研究史のキーワードとして取り出し、研究史を見ていく。

以下、第１節では、「対象語」「属性と情意の総合的な表現」「人称制限」という 3 つのキーワードが出てきた研究を見ていく。第 2 節から第 4 節では、3 つのキーワードについての研究を概観する。そして、第 5 節では、形容詞の分類を見ていく。

## 1.　研究史のキーワード「対象語」「属性と情意の総合的な表現」「人称制限」

感情形容詞の研究史を見ていくと、「対象語」「属性と情意の総合的な表現」「人称制限」という 3 つのキーワードを取り出すことができる。はじめに、「対象語」と「属性と情意の総合的な表現」というキーワードが出てきた時枝(1941)と、「人称制限」について言及した小山(1966)を見ていく。

### 1.1.　時枝誠記(1941)(1950)

時枝(1941)は、言語とは、「『語ったり』『読んだり』する活動それ自体」で、「産出する主体を考えずしては、これを考えることができない」ものであり、言語の本質は心的過程であるという言語過程説を唱えたものである(p. 28)[1]。その中で、形容詞の格について言及している。そこに、「対象語」「属性と情意の総合的な表現」という 2 つのキーワードが登場する。

時枝(1941)は、まず、格について「主体の活動に対応するものを文に於ける客体と名付けるならば、客体の秩序が即ち文に於ける格である」と述べる(p. 69)[2]。そして、「述語から分立するところの主語、客語、補語等は、それらと述語との論理的関係の既定に基づくものであって、述語に対する主体、あるいはその客体、目的物等の主体的弁別に基づいて現れてくるものである」と述べたうえで、「特殊な現象」として次の例を挙げる(p. 76－78)。

(1) 色が赤い。　川が深い。
(2) 水がほしい。　母が恋しい。　(時枝 1941)

---

[1] ページ数は、時枝誠記(2007)『国語学原論(上)』(岩波書店)のものである。
[2] 以下の時枝(1941)のページ数は、時枝誠記(2007)『国語学原論(下)』(岩波書店)のものである。

(1)の「色」「川」は、「述語によって説明される主体としてこれを主語ということは可能」であるのに対し、(2)は、「主観的な情意の表現」であり「主語は、『欲しい』『恋しい』という感情の主体である処の『私』か『彼』でなければならない」とした。そして、(2)の「水」「母」は、「夫々に主語『私』或いは『彼』の感情を触発する機縁となるもの」であるとして「対象語」と呼び、格関係として「対象語格」を設けたのである。そして、「金が要る」の「要る」、「見える」「聞こえる」等の動詞も対象格をとると述べた。

そして、(1)の「赤い」「深い」のように「客観的な属性のみを表現する」語は「属性の所有者が主語」となり、(2)の「ほしい」「恋しい」のように「主観的な情意を表現する」語は「情意の主体が主語」となるが、その中間に位置する語があるとし、次の語を例に挙げている(p. 79)。

(3) 面白い　にくらしい　おかしい　淋しい　恐ろしい　暑い　寒い　等

(時枝 1941)

(3)は、「客観的な属性」も「主観的な情意」をも表すという主張である。そして、次の(4)を例に挙げ、「面白い」は「私の情意を表したものであると同時に、私の感情を刺戟した処のこの本の属性を表現したものと考えられる」と述べている(p. 80)。

(4) 私はこの本の筋が面白い。　(時枝 1941)

そして、(4)において「若し、『私』という語が表現されなかったならば、『面白い』の主語は、当然『この本の筋』と考えられるに違いないのである。そしてそれは又正しいのである」と述べ、(4)のような例は、「属性と情意の総合的な表現」であるとする[3]。

このように、時枝(1941)では、感情形容詞が、感情の持ち主と感情を引き起こすもののどちらをもガ格としてとり得るという現象の指摘がされた。そして、「対象語」という術語は、形容詞が2つ補語をとる場合の格関係、主語・目的語といった文法関係への問題提起となった。また、「客観的な属性」を表す語、「主観的な情意」を表す語、その中間に位置する「属性と情意の総合的な表現」という分類は、現代日本語の形容詞分類の出発点となる。

### 1.2. 小山敦子(1966)

小山(1966)は、助詞「の」「が」「は」の使い分けについて考察を行った論考で、「象は鼻

[3] また、時枝(1950)では、「属性と情意の総合的な表現」を「主観客観の総合的表現の語」と呼び、次の語を挙げている。

こはい　にくらしい　さびしい　暑い　すごい　面白い　(時枝(1950：53)

が長い」「酒は僕が買う」「私は水が欲しい」等をいわゆる「はが構文」の下位類として分析を行っている。その中で、感情形容詞の人称制限について言及している。

小山(1966)は、「私は水がほしい」について論じる中で、イ形容詞を「一般属性」を表すものと「感情」を表すものの2つに分類している。そして、次の(5)の例を挙げ、感情形容詞は、「述部の言い切りの形としては話者の感情内容しか表さない」と述べている[4]。そして、他者の感情を述べることができるのは、(6)(7)のように「のだ」か「がる」をつけるか、(8)のような連体修飾用法であるという指摘を行った。

(5) *あの人はうれしい。
(6) あの人はうれしいのだ。
(7) あの人はうれしがる。
(8) 行きたい人は、手をあげてください。 (小山 1966)

この小山(1966)の「述部の言い切りの形としては話者の感情内容しか表さない」というのが感情形容詞の人称制限とよばれる現象である。この「人称制限」も、これ以降の研究のひとつのキーワードとなっていく。

以上、時枝(1941)、小山(1966)で、「対象語」「属性と情意の総合的な表現」「人称制限」という3つのキーワードが出てきたことを見た。以下では、この3つのキーワードについての研究史を見ていく。

## 2. 対象語

時枝(1941)の「対象語」(「母が恋しい」の「母が」)については、なぜ「ガ」でマークされるのかという議論と、統語範疇として主語なのか目的語なのか、という議論がある。はじめに、なぜ「ガ」でマークされるのかという議論を、次に、統語範疇として主語なのか、という議論を見ていこう。

### 2.1. なぜガ格でマークされるのか

#### 2.1.1. 寺村秀夫(1982)

寺村(1982：146)は、感情動詞と感情形容詞による「感情表現」について考察を行い、感情形容詞の格について論じている。そして、次の(9)のような例を挙げ、感情の対象は「が」で、感情の主体は「が」または「に」でマークされるとしている。

(9) a. アノ子　ガ／ニ　犬ガ　コワイ　コト
　　b. アノ子ガ／ニ　コワイ　犬 (寺村 1982)

[4] 小山(1966)の例文の文法性を示す「誤り」「正」という表示は、他の例文と統一し、非文法的であるものに「*」を付した。

そして、ガ格は「その述語を中心として展開する事象の中でいわば主役と考えられるもの」であるとする。これは、意味的に最も重要なものがガ格でマークされるということである。感情形容詞述語文は、「主役が二人いる情景あるいは二つの中心を持つ楕円のような形としてイメージされている」と述べている。そして、(9)について、ある子供が犬に恐怖心を覚えた場合、子供を中心に描くことも、犬を中心に描くこともできるため、どちらもガ格でマークし得ると述べている。

### 2.1.2. 北原保雄(2010)

次に、北原(2010)を見てみよう。北原(2010)は、時枝(1950)が「こわい」「さびしい」等を「主観客観の総合的表現の語」と呼んだことを継承しつつ、「対象語」については「文法はあくまでも表現そのものに即して考えなければならない」と批判し、「『…が』の形である以上、主格と考えるほかない」と述べている(p. 122)。そして、次の(10)(11)の「欲しい」について、次のように述べている。

(10)私は水が欲しい。
(11)水の欲しい人。 (北原 2010)

(10)(11)などの「欲しい」は、「私」「人」の主観を表しているものではあるが、「水」の方も欲しいと感じられる属性をもつと考えていいのではないか[5]。水そのものに誰もが欲しいと感じるという客観的な属性があるというのは無理であるが、欲しいと感じている「私」なり「人」なりにとって(限って)欲しいと感じられる属性をもつと見ることはできないだろうか。

そして、「欲しい」には、主観的な側面と客観的な側面があり、「私が」は「主観的な側面」の、「水が」は「客観的な側面」の主格であるとする。そして、(10)の「二つの側面」として次の(12)を挙げている(p. 124)。

(12) a. (水が) 欲しがられる属性を持つ
b. (私が) 欲しく思う (北原 2010)

北原(2010)も、その根拠は寺村(1982)とは異なるが、感情形容詞が二重ガ格をとるのは、感情の主体も、感情を引き起こすものも、どちらも意味的にガ格をとり得るからだという主張であるといえるだろう。

---

[5] この引用文の「(10)(11)」は、筆者が書き加えたものである。

### 2.2. 対象語は主語か目的語か

次に、時枝(1941)の「対象語」が、統語範疇として主語か目的語か、という議論を概観する。この問題は、主語をどう規定するかに深くかわっており、本研究の射程を超えるものであるが、どのような議論が行われてきたかを簡単に見ていく。主語であるとするのは橋本(1969)、補語のひとつと扱うのは鈴木(1972a)、目的語であるとするのが久野(1973)、柴谷(1978)である。

#### 2.2.1. 橋本進吉(1969)

はじめに、時枝(1941)の「対象語」は主語であるとする橋本(1969)を見ていく。橋本(1969)は、「水がほしい」の「が」と「本のほしい人は申出て下さい」の「の」を目的語だとする説があることを述べ、「之は論理的な考へ方で、ことばとして主語と考えて間違ひなからう。全體が形容詞的の意味をなす時、主語の意味になるのは多くある」と述べ、次の例を挙げている(p. 103－104)。

(13)恐る　恐ろしい　雷を恐る　雷が恐ろしい。
(14)たのむ　たのもしい
　君に戀う　君が戀しい　(橋本 1969)

#### 2.2.2. 鈴木重幸(1972a)(1972b)

鈴木(1972a：79)は、時枝(1941)の「対象語」を主語ではない、という扱いをしている。鈴木(1972a)は、「感情を表す形容詞」と「～たい」、「可能を表す動詞」は、ガ格名詞句をとるとして、次のような文型を示す。

(15)(主語)　(対象語)　(述語)
　――は　――が　――(だ)。　(鈴木 1972a)

鈴木(1972a)の「対象語」とは、「述語にかかっていて、うごきや状態がなりたつために必要な人やもの」を表すものである。鈴木(1972a)は、文の部分として「主語」「述語」「対象語」「修飾語」「状況語」「規定語」「独立語」を立てていて、鈴木(1972a)の「対象語」とは、「主語」を除いたいわゆる補語であり、時枝(1941)の対象語とは異なる。鈴木(1972a)では、時枝(1941)の「対象語」は、ヲ格やニ格からなる補語のひとつという扱いである。そして、鈴木(1972b：229－230)では、時枝の「対象語」を「主語と直接目的語の中間的な現象」と言い、日本語の主語に関する問題点としてあげている。当時、時枝の「対象語」について、名づけは行われたものの、それは一体、何であるのかということが議論されていたことがわかる。

### 2.2.3. 久野暲(1973)

久野(1973)は、「状態を表わす他動詞・他形容詞・他形容動詞が目的語をマークする助詞として『ガ』をとる」という分析を行い、下記の述語が該当すると述べている(p.50－51)[6]。

(16)能力を表わす形容詞、形容動詞：上手、苦手、下手、得意、ウマイ

a.誰ガ英語ガ上手デスカ。

(17)内部感情を表わす形容詞、形容動詞：好キ、嫌イ、欲シイ、コワイ

a.太郎ガ花子ガ好キ／嫌イナコトハヨク知ッテイマス。

(18)動詞＋タイ

a. 僕ハ映画ガ／ヲ見タイ

(19)可能を表わす動詞：デキル、レル／ラレル

a.誰ガ日本語ガデキルカ

(20)自意志によらない感覚動詞：解ル、聞コエル、見エル

a.アナタハ日本語ガ解リマスカ。

(21)所有、必要を表わす動詞：アル、要ル

a.アナタガオ金ガアルコトハ皆ガ知ッテイル　(久野 1973)

そして久野(1973：56)は、時枝(1941)がすでに「太郎ハ花子ガ好キダ」の「花子」を主語ではないとしていることを述べつつ、「格関係を表わすのに、『対象語』のように意味に基づいた用語を用いるのには危険がある」と指摘している。

### 2.2.4. 柴谷方良(1978)

柴谷(1978)も、時枝(1941)の「対象語」を目的語であるとする。柴谷(1978)の議論は、動作主・対象といった意味範疇、主語・目的語と言った統語範疇、主格・対格といった格範疇は明確に区別されなければならないという前提の上で行われている(p.273)。そして、「太郎が花子が好きだ」の「花子が」について、意味範疇は対象だが、統語範疇は目的語であるとしている。

(22)

| | 太郎が | 花子が | 好きだ。 |
|---|---|---|---|
| 意味範疇 | 経験者 | 対象 | |
| 統語範疇 | 主語 | 直接目的語 | |
| 格関係 | 主格 | 主格 | |

(柴谷 1978)

その根拠は、まず、主語は尊敬語化規則の適用を誘発するのに対し、時枝(1941)の対象

6 (16)－(21)は、久野(1973)の例文の一部のみを引用している。

語は、(23b)のように尊敬語化規則が適用できないということである(p. 226－227)。(23b)の「山田先生」は述語の「好きだ」を尊敬語化することはできない。よって、(23b)は、主語ではない。

(23)a. 私は山田先生が好きだ。
b. #私は山田先生がお好きだ。 (柴谷 1978)

また、同一の作家による文章で「が」と「を」が交替する次の(24)のような例を挙げ、問題の名詞句が話者によって直接目的語と看做される強い証拠であるとしている(p. 229－230)。

(24) a. 「あなた・・・・・・もしかしたら、先生がお好きなんじゃない？」
b. 「あなたは先生をお好きなの？」
(以上，三浦『ひつじが丘』) (柴谷 1978)

このような理由から、柴谷(1978)は、時枝の「対象語」を目的語であるとしている。

以上、久野(1973)と柴谷(1978)のガ格目的語説を見てきた[7]。時枝(1941)の「対象語」をめぐる議論を見ると、この問題が主語とは何かという問題を投げかけてきたことがわかる。

## 3. 「属性と情意の総合的な表現」

2つめのキーワードである「属性と情意の総合的な表現」について見ていく。第1節で、時枝(1949)が「面白い」や「憎らしい」を「属性と情意の総合的な表現」と呼び、これらの語が属性をも感情をも表すと主張したことを見た。以下では、時枝(1949)が「属性と情意の総合的な表現」と呼んだ語の振る舞いが、篠原(2008)によって「対象の性質を相互作用的性質と見る」ことによって、きれいに説明できるとされるに至る経緯を見ていく。

### 3.1. 三田村紀子(1966)

三田村(1966)は、形容詞の意味分類を行ったものである。その中で、感情形容詞が属性を表すのは、経験による情報の一般化によるものであることと、文の形としては、とりた

[7] その後、柴谷(2001)は、ガ格目的語説を撤回し、「ケンが花子が好きな(こと)」は、「象が鼻が長い(こと)」のような二重主語構文の変種であるという主張を行っている。これに対し、久野・ジョンソン(2005)は、二重主語構文は、文の主語を形容する「Xの」を「Xが」に変えて新しい主語にする「主語化」(「ゆりの父親が亡くなった。」から「ゆりが父親が亡くなった。」が作られる)によるものであるとする。そして、「花子の手料理が食べたい。」を主語化すると「花子が手料理が食べたい」になり、文意が異なるため、主語化ではないとする。そして、「ケンが花子が好きな（こと)」も、同様に主語化ではなく、二重主語構文ではないとし、柴谷(2001)を否定している。柴谷(2001)の「ケンが花子が好きな(こと)」を「象が鼻が長い(こと)」と同じ二重主語構文と見るという主張は、久野(2005)が説得的な反論をしているように、無理があるように思われる。

て助詞の「は」がかかわることを指摘している。

三田村(1966)は、「別れが悲しい」と「別れは悲しい」を比較し、「前者において主語として文節されうる〈ワレハ〉が後者には認められない」とし、「別れは悲しい」が「別れ」というもの一般について述べる文になることを指摘している。また「痛い」について、「頭が痛い」は「頭は痛い」という形で頭一般について述べる文にはならないが、「経験の反復から一般化された判断」として、「ヴィタミン注射は痛い」「A 教授の講義は眠い」という文が作れることを指摘している。

以上のように、三田村(1966)は、感情形容詞が属性を表す文は、経験による一般化された判断を述べる文であること、感情を引き起こすものを「は」でとりたてると、とりたてられた事物の属性を述べる文になることを指摘したのであった。

### 3.2. 寺村秀夫(1982)

寺村(1982)も、三田村(1966)が指摘した現象を、次のようにまとめている。感情形容詞は(25)のような命題(コト)を持ち、通常の独立文では「X が主題化して、さらにそれが省略されて」(26)になるとする。そして、Y が主題化されると、(27)(28)のようにある対象についての一般的な品定めにも使われると述べている(p.150－151)。

(25)X(感情主)ガ／ニ　Y(対象)ガ　コワイ／ウレシイ(コト)
(26)(X ハ)　Y ガ　コワイ／ウレシイ
(27)マムシハ　コワイ
(28)冬ノ雨ハ淋シイ　(寺村 1982)

ただし、寺村(1982)は、「好キダ・キライダ・ホシイ・ウラメシイ」は、一般的な品定めにはならないと述べている。

以上のように、時枝(1941)で「中間的な語」として指摘された現象は、一部の感情形容詞には起きないけれども、多くの感情形容詞が対象を主題化すれば、対象の属性を述べる文になるとされたのである。

### 3.3. 篠原俊吾(2008)

篠原(2008)は、形容詞が表すとされる「『対象の性質』とはいかなるものであるか」を考察したものである。そして、「対象の性質」を「知覚者と知覚対象の相互作用から生まれる『相互作用的性質』として位置付ける」ことによって、時枝(1941)が「属性と情意の総合的な表現」と呼んだ語の振る舞いは、説明が可能であるとしている。

篠原(2008)は、まず、「我々は対象を捉える際、何らかの対象への働きかけ(相互作用)をおこないその中から自己と対象の間の有益な情報を見つけ出す」と考える。情報の中に

は、自己の情報と見なされるものもあれば、対象の情報と理解されるものもあるが、この2 つは表裏一体であるという。そして、対象の性質と呼ばれているものは、あらかじめ対象に内在しているのではなく、知覚者と対象の相互作用によって生じた関係が安定的である際に、「対象に元来備わる性質」と読み替えられたものであるという。

このような考えで形容詞を見てみると、まず、属性形容詞が対象に内在する性質を表すと見なされるのは、「対象と知覚者の関係」が安定的な場合であるとする。例えば、「この花は赤い」という文で述べられていることは「知覚者が『この花』を視覚という行為を通して経験すると、常に『赤い』という感覚が知覚者に生じる」ということであるという。そして、「知覚者と対象の関係」が安定的であるために「*私はあの花が赤い(が、弟は〔あの花が〕青い)」のように知覚者を顕在化することはできないと述べている。

一方、感情は同じ経験をしても、どう感じるかは人よって異なり、「知覚者と対象の安定的な関係」がないため、対象の性質ではなく「心のあり方」として捉えられるという。そして、知覚者を顕在化することもできる。

また、ある相互作用による経験は、「知覚者の心のあり方」としても把握でき、また、「それを生じせしめた何らかの原因を中心に理解する」ことも可能であると述べている。例えば、ソファの持つ特徴が原因で知覚者に快適さを感じさせる、本の難解さが起因となって知覚者に難しいという印象を与えるというように捉えるのは後者であるとする。そして、これらは、「知覚の結果」と「原因」というメトニミーによって結び付けられるとしている[8]。そして、時枝(1941)で「属性と情意の総合的な表現」と呼んだ語、「こわい」「たのしい」「さびしい」等が属性を表すのも、この枠組みで説明ができるとしている。「この道はさびしい」「この曲は楽しい」は、相互作用の経験を、原因の側から捉えたものであると言う。

そして、篠原(2008)は、「一見、対立関係にあるように見える情意・状態という区分は、背後にある対象と知覚者の相互作用を考慮に入れれば、同じ体験を対象側、知覚側から各々捉えたもの」であり、「同じ経験の異なる側面である」と結んでいる。

篠原(2008)の相互作用の経験は、対象の側からも知覚者の側からも捉えることができるという点は、本研究でも賛同し、特に第6章の副詞的用法の分析の際に取り入れている。

以上、3 つめのキーワードである「属性と情意の総合的な表現」についての研究史を見てきた。1940 年代に指摘されたこれらの語の振る舞いは、経験による情報の一般化が行われたものであること、そして、とりたて助詞の「は」が関与することが指摘され、その後、すべての形容詞を「相互作用の結果」と考えれば、説明がつくとされたのであった。

## 4. 人称制限

次に 3 つめのキーワードである「人称制限」についての先行研究を見ていく。

---

8 メトニミーとは、「(現実)世界の中で隣接関係にあるモノとモノとの間で、一方から他方へ指示がずれる現象」である(巻下・瀬戸(1997：105))。

### 4.1.　寺村秀夫(1971)(1973)

感情形容詞の人称制限については、寺村(1971)(1973)で詳しく考察が行われている。

寺村(1971)は、人称制限が解除されるのは、小山(1966)が指摘した「～ノダ」と「～ガル」と連体修飾節だけではなく、引用節や「ラシイ」「普通形＋ソウダ」等の推量形でも制限はないとした。そして、文が「客観的なコトを表わす部分」と「推量とか問いかけとか要求とかを表明する部分(いわゆるムード)」からなるという前提で、感情形容詞の人称制限は次の(29)(30)ような「感情表出のムード」を持つ文においてのみ現れるものだとした。そして、主節の述語が過去形の場合も、「タ」は「主張」というムードに変わるため、(31)のように人称制限はなくなるとしている。

(29)水ガホシイ
(30)僕ハウレシイ
(31)太郎ハ水ガホシカッタ　　(寺村 1971)

このように寺村(1971)は、感情形容詞の人称制限は、感情形容詞が「感情表出のムード」で使用されるときに「その素材となる文の感情主格語が三人称以外のものであることを要求する」現象であるとしたのである。

### 4.2.　金水敏(1989)

その後、金水(1989)は、寺村(1971)が述語でも過去形であれば人称制限がないとした(31)について、次の(33)を挙げ、述語が過去形であっても人称制限は残っていると批判した 。

(32)太郎は水が欲しかった。
(33)a.「その時太郎は、どんなだった？」
　　b.「うん。*?水が欲しかった」　　(金水 1989)

金水(1989)は、(33)のような「日常的対話で聞き手にある状況を知らせる行為またはその言表」を「報告」、「小説や物語の地の文」を「語り」と呼び、区別する必要性があるとする。そして、(32)が適格であるのは、「語り」の場合であるとした。また、「報告」において、「他人の心的状態を直接知ることはできない」という仮説をたて、「日本語では、報告の際に、直接知ったこと、または話し手が直接決定できることと、そうでないことを文の形式のうえで区別しなければならない」とし、感情形容詞の人称制限も、この規則によって生じるものだとした。

### 4.3. 益岡隆志(1997)

益岡(1997)は、感情形容詞の人称制限について「他者の内面の状態を直接知ることはできないという認識論的な説明」がなされることに異を唱え、語用論的な原則を示した。その根拠は、以下の通りである。

まず、「知識・情報として表現・伝達する演述型の文」では、当該の事態が真であるとみなされれば断定形が、そうでなければ非断定形が用いられるとする。

(34)弟は借金を返したよ。
(35)弟は借金を返したようだよ。 (益岡 1997)

弟が借金を返したと言った場合、話者はそれを信じれば、真偽を確認せずとも(34)を使うことができる。一方、確信できなければ(35)を使う。ところが、次の(36)のように「人物の内的世界に属する事態」の場合は、当該の人物が自己の気持ちを繰り返し表現し、話者が信じうる状況であっても、断定形を用いることができない。

(36)*花子は、とても悲しいよ。 (益岡 1997)

以上のことから、(36)は、(34)(35)とは異なる原則によって断定形を使用するかどうかが決まると言える。そして、益岡(1997)は、(36)が非文である理由として、語用論的な原則として次の(37)を立てる。

(37)人物の内的世界はその人物の私的領域であり、私的領域における事態の真偽を断定的に述べる権利はその人に専属する。 (益岡 1997)

つまり、(36)は、言語の運用において他人の権利を侵害することになるため用いられということである。そして、この原則が発動するのは、事態の真偽判定というモダリティ要素が関与する場合であり、次の(38)ような命題レベルと、小説や物語の世界では発動しないことを述べている。

(38)花子が芸術家になりたいとは知らなかった。 (益岡(1997)

このように、益岡(1997)は、感情形容詞の人称制限は、語用論的な原則に基づくものであると主張したのである。

以上のように、小山(1966)が指摘した感情形容詞の人称制限という現象は、寺村(1971)でムードの問題であるとされ、金水(1989)で「報告」と「語り」を区別する必要性が説か

れた。そして、益岡(1997)によって、人称制限は、他者の感情を直接知りえないからではなく、「私的領域の事態の真偽を断定的に述べる権利」を侵害することになるという語用論的な原則によるものであるとされたことを見た。

ここまで、「対象語」「属性と情意の総合的な表現」「人称制限」という 3 つのキーワードについての研究史を見てきたが、これらは 1940 年代からの研究の蓄積で明らかにされたと言える。これからの感情形容詞の研究は、新たな段階に入っていかなければならない。

## 5. 形容詞の分類

次に、形容詞の分類の研究史を見ていく。形容詞の分類には、感情形容詞と属性形容詞を中心とした分類と、それとは異なる観点からの「状態形容詞」と「質形容詞」という分類、そして両者を取り入れた山岡(2000)の分類がある。形容詞の分類の研究史をたどり、最後に、先行研究に対する本研究の考えを述べる。

### 5.1. 感情形容詞と属性形容詞を中心とした分類

はじめに、感情形容詞と属性形容詞を中心とした分類を見ていく。

#### 5.1.1. 三田村紀子(1966)

三田村(1966)は、上代語の形容詞と現代語の形容詞を共に分析している。そして、形容詞を大きく相的形容詞と用的形容詞の 2 つに分類をしている（相的形容詞とは「青し」「怪し」等の属性形容詞、用的形容詞は「いたし」「悲し」等の感情形容詞である)。

まず、三田村(1966)は、「青い」という形容詞について、緑や浅葱も「青い」といわれることがある例を挙げ、形容詞という品詞が「個々の場において、主体の過去の経験、記憶から無意識的に抽出され想起される基準との相対」であり「概して相対的な概念把握」であると述べる。すべての形容詞が「対象の客観的な状態としての意味」と「主体の主観的な把握としての意味」を常に持つとし、前者を「相的な意味」、後者を「用的な意味」と呼ぶ。そして、より相的な意味が強いか、用的な意味が強いかは連続的であるが、意味の分化が認められるとして、以下のように分類する[9]。

| | 相 | | 用 |
|---|---|---|---|
| もの | （ⅰ）青し | ―――― | （ⅰ’）痛し |
| | ｜ | | ｜ |
| こと | （ⅱ）怪し | ―――― | （ⅱ’）悲し |
| | ｜ | | ｜ |
| ひと | （ⅲ）優し | ―――― | （ⅲ’）恋し |

**図 1 三田村(1966)の形容詞分類**

[9] 図 1 は、三田村(1966)の p.21 の表であるが、表中のアラビア数字をローマ数字に改めた。表 1 の形容詞と形容詞の間の線は、それぞれが連続的であることを示している。

（ｉ）と（ｉ’）は、「空が青い」「頭が痛い」のように「もの」を対象とする語であるという点で共通するという。（ⅱ）（ⅱ’）は、「雲行きが怪しい」「天気が良くて嬉しい」のように「こと」を対象とする点、（ⅲ）（ⅲ’）は、「彼女は優しい」「母が恋しい」のように「ひと」を対象とする点で共通するとしている。

### 5.1.2. 西尾寅弥(1972)

西尾(1972)では、時枝(1941)、小山(1966)、その他の先行研究もふまえ、感情形容詞の特徴を詳細にまとめている。

西尾(1972)は、形容詞を「客観的な性質・状態の表現をなす」属性形容詞と「主観的な感情・感覚の表現をなす」感情形容詞に分類することが認められていると述べ、次の 10 の環境で生起するかどうかを分類の指標として挙げている(西尾(1972:22 の表より引用)。

Ⅰ　～がる
Ⅱ　(わたしは)～い(だ)。　話し手の感情・感覚
Ⅲ｛あなた／あの人｝は　～い(だ)。第二(三)人称の感情(覚)
Ⅳ｛あなた／あの人｝は～そうだ。感情・感覚の表れた様子
Ⅴ《対象＝モノ》が　～い(だ)
Ⅵ《対象＝人》が　～い(だ)
Ⅶ《対象＝コト》が　～い(だ)
Ⅷ　～い(な)こと〈内容〉
Ⅸ《体の部分》が　～い(だ)
Ⅹ　～くて(で)　たまらない

Ⅰは、感情形容詞には「～がる」がつくが、属性形容詞には「～がる」が付かないという指標である。ただし「つよがる」「あたらしがる」「いきがる」「汚がる」「重宝がる」等、感情を表すとは言い難い語にも「～がる」がつく場合があることも指摘している。

Ⅱは、感情形容詞の人称制限についてである。西尾(1972)は、「そのままの形で平叙文の言い切りの述語になる場合には、ふつうは、話し手自身の感情・感覚しか表さない」という「主語の制限」を感情形容詞と認定する基準として「いちばん適切なものであろう」と述べ、詳しく考察を行っている。

Ⅲは、「～そうだ」がついて感情・感覚の現れた様子を表すことができるかという指標である。本研究は、この指標について詳しく考察し、新たな形容詞の分類案を提案する。

Ⅳ－Ⅶは、形容詞が表す属性の持ち主を「主体」と呼び、それぞれの形容詞がどのような主体をとるかという観点で形容詞を分析する指標である。

Ⅷは、「嬉しい」「悲しい」のような感情形容詞が「嬉しいこと」「悲しいこと」のように

「こと」を修飾すると、「こと」が、具体的な展開のある出来事を指すというものである。

Ⅸは、感情形容詞を「感情」と「感覚」に下位分類する指標である。「感覚」は(39)のように「感覚を呼びおこす外界の物を対象語として表す」ほかに、(40)のように「その感覚を感じる体の部分が、『～が』の形で言い表される」ことがあり、これは感覚を表す形容詞に特有だとしている。

(39) 背負った鉄棒の細紐が痛かった。 (西尾 1972:36)

(40) a. わたしは　歯が　痛い。

b. 足がだるい。 (西尾 1972 : 39)

Ⅹは、「～くて(～で)たまらない」という形式を「感情の程度が(たえがたく感じるほどに)高まった状態を表す」形式であるとし、感情形容詞は「～くてたまらない」と言えるという指標である(p. 194)。

### 5.1.3. 草薙裕(1977)

草薙(1977)は、平叙文の話し手と疑問文の聞き手を「情報提供者」と呼び、「情報提供者が文の中で、形容表現の何にあたるか」によって、形容詞を大きく「観察形容表現」「感覚形容表現」「感情形容表現」「嗜好形容表現」の 4 つに分類をしている。「観察形容表現」は、さらに「比較形容表現」「判断形容表現」「記述形容表現」の 3 つに分類されている。以下の表 1 は、筆者が草薙(1977)を表にまとめたものである。

**表 1 草薙(1977)の形容詞分類**

| 分類 | | 例 | 情報提供者と形容詞の関係 |
|---|---|---|---|
| 観察形容表現 | 比較形容表現 | あの山は高い。新幹線は早い。 | 観察者として何かを観察し、色や形を記述し情報を提供する |
| | 判断形容表現 | この本はおもしろい。彼女は美しい。 | |
| | 記述形容表現 | この花は赤い。このテーブルは丸い。 | |
| 感覚形容表現 | | 私は頭が痛い。とても眠い。 | 情報提供者の生理現象を表したもの |
| 感情形容表現 | | 私はうれしい。私はさびしい。 | 情報提供者が自分の気持ちを表したもの |
| 嗜好形容表現 | | 私はすしが好きだ。<br>彼はすきが好きだ。 | 情報提供者が自分の気持ち（半恒久的な状態）を表したもの [10] |

表 1 のように草薙(1977)は、「情報提供者」が観察者であるのか、そうではなく、自分の内部の状態を述べるのか、という点で分類をしたものである。

10 草薙(1977)では、嗜好形容表現として「すきな」「きらいな」が挙げられていて、第三者のことも言い切りの形で述べることができるとされている。第三者のことを述べる場合は、情報提供者は「観察者」であると思われるが、その点は、はっきと述べられてはいない。

なお、観察形容表現の下位類について述べておくと、「比較形容表現」は、情報提供者が何らかの条件に基づいた基準との比較において用いられるもので、その条件を検討すれば情報の真偽が立証されるものであるとする。「判断形容詞」も、何らかの基準との比較にもとづくものであるが、「おもしろい」か「おもしろくない」か等、真偽の立証が不可能なものである。「記述形容表現」は、上述の 2 つの形容表現と異なり、比較を主な働きとせず、「そうかそうでないか」を問題とするものであるという。前 2 者は、「高い－低い」「おもしろい－つまらない」のように対になる形容詞が存在するが、記述形容表現は、対になる形容詞が存在しないとしている。

### 5.1.4. 寺村秀夫(1982)

寺村(1982)は、日本語の感情表現には動詞によるものと形容詞によるものがあると述べ、4 つに分類をしている。動詞は、ニ格と共起するかヲ格と共起するかによる分類である。形容詞は「動詞の場合ほどどの語がどの型とはっきり所属がきめ難い」としつつ、「感情形容詞による表現」と「感情的性状既定の形容詞による表現」に分類をしている。寺村(1982：139－154)の感情表現の分類をまとめると次のようになる。

・一時的な気の動き(感情の誘因を表すニ格補語をとる)

(41)物音ニ　オドロク／オビエル／ギョットスル　(寺村 1982：140)

・能動的感情の気の動き(感情の対象を表すヲ格補語をとる)

(42)人ヲ　愛スル／憎ム　(寺村 1982：142)

・感情の直接的表出(感情形容詞による表現)

(43) a. 私ハクモガコワイ

b. 水ガ欲シイ　(寺村 1982：140)

・感情的品定めの表現(感情的性状既定の形容詞による表現)

(44) a. サソリハオソロシイ

b. 政治道徳ノ低下ガ嘆カワシイ　(寺村 1982：140)

以上が寺村(1982)の感情表現の分類である。形容詞の分類としては、「感情形容詞」「感情的性状規定の形容詞」と、「コノ机ハ大キイ」のような「性状規定の表現」に用いられる形容詞という分類と言えるだろう。

### 5.1.5. 細川英雄(1989)

細川(1989)は、西尾(1972)を参考にし、次の 3 つの指標を用いてイ形容詞 501 語を大きく 4 群に分類した。

指標①「わたしは～い。」の形で、「わたし」の心の様子を表すことが可能か。
指標②「わたしは～てたまらない／～てならない」が可能か。
指標③ 対象内容としてモノ・コト・カラダ(話し手の身体部位)のどれをとるか。

指標①は、「形容詞諸語の表す状態が『わたし』の心の様子」、すなわち「内側の状態」を表すかを見る指標である。指標②は、第一人称で「心の状態を直接的に表出する文型」で使用が可能か見るものである。指標①②を満たす語が下記の表 2 の A 群、指標 1 を満たすが 2 を満たさない語が B 群、双方満たさない語が C 群である。指標③は、A－C の下位分類を行うものである。以下に細川(1989)の形容詞分類案を示す。表 2 は、細川(1989)の表 2 に、筆者が例を書き加え、説明の一部を削除したものである。なお、表 2 の破線で囲ったグループは、同一のグループであることを示す。

**表 2　細川(1989)の形容詞分類案**

| 状況／対象 | 外側の状態 | | 内側の状態 |
|---|---|---|---|
| ― | 該当語なし | | A－1　感覚（体温・温覚）／感情<br>例：暑い　けむい　涼しい |
| カラダ | | | A－2　感覚（体感・温覚）<br>例：あたたかい　痛い　かゆい |
| コト | C－3　人の様子・性格<br>－ポイ　－ドイ　－シイ<br>例：いやしい　うとい<br>うまい | B－3　感情　心の動作＋シイ<br>―感覚系形容詞<br>例：おかしい（変だ）<br>かたじけない　あさましい | A－3　感情　－シイ<br>－感情系<br>例：愛しい　うれしい<br>おかしい（滑稽）　悲しい |
| コト・モノ | C－4<br>例：新しい　危ない<br>あやうい | B－4<br>例：怪しい　やかましい<br>ややこしい | A－4<br>例：うるさい　おしい<br>おもしろい |
| モノ | C－5　色彩・形態・<br>程度・・・<br>例：青い　赤い　明るい | B－5　感覚（温覚・味覚）<br>例：あたたかい　熱い<br>あまい | A－5<br>「ほしい」のみ。 |

以上のように、細川(1989)の分類は、「従来の感情・属性の中間に位置する語彙群の存在と、感覚表現における二種の区別を認めた」ものとなっている。

### 5.1.6. 小針浩樹(1994)

小針(1994)は、「対象文」「対象判断文」といった「文類型」と述語の種類について考察した論考である。小針(1994)は、すべての文が「対象面」と「作用面」からなると考える。

(45)太郎は昨日、学校に行った。　　(小針 1994)

(45)では「太郎が昨日、学校に行った」という事態が「対象面」であり、「“私”が、自分の持つ登録情報として、その事態を断定して述べる側面」が「作用面」であるという。そして、文には「対象面」が前面に出る文から、「作用面」が前面に出る文があるとし、それを文類型として5つに分類し、それぞれにどのような述語文が現れるかを整理している。そのなかで、形容詞述語文を「属性形容詞述語文」「評価形容詞述語文」「感情形容詞述語文」に分類している。

分類には、「変化テスト」という指標を用いる。これは、形容詞文を「昨日(去年、以前・・・・・・)まではそうだったが、今日(今年、今・・・・・・)はそうではなくなった」という文にして、「対象面」と「作用面」のどちらが変化したかを見るテストである。

(46)風雨の勢いが激しい。
(47)彼女と別れ、僕はとてもさみしい。さっきまではそうだったが、今はそうではなくなった。
(48)××大学の試験は難しい。去年まではそうだったが、今年はそうではなくなった。
(小針 1994)

(46)をテストしてみると、「風雨の勢いが激しくなくなった」という「対象面」の変化であり属性形容詞文で、(47)は、「作用面」の変化でしかなく感情形容詞文であるとする。そして、(48)は、「外的な基準において難易度が低くなったという意味と、“私の学力が向上した結果『難しく感じられなくなった』」という2つの解釈があり、「作用面」と「対象面」の融合した評価形容詞文であるという。そして、評価形容詞の例として「怖い、有り難い、つまらない、面白い、かわいい等」を挙げている。

しかし、変化テストは、何によって判断が変わるのかという興味深い問題ではあるが、「対象面」だけの語は無いのではないかと思われる。例えば、「大きい」の「去年まではこのセーターは大きかったが、今はそうではなくなった」という例を考えてみると、体が大きくなった、セーターが洗濯により縮んだという「対象面」のほかに、今年はだぼっとしたセーターが流行しているため大きいと感じなくなったという「作用面」の解釈もある。どのような語でも「作用面」の変化があるのではないだろうか[11]。

### 5.1.7. 仁田義雄(1998)

仁田(1998)は、「属性形容詞」、「評価・判断形容詞」、「感情・感覚形容詞」の3分類を行っている。仁田(1998)は、現代日本語の形容詞が名詞を修飾する「装定」用法で使われる

[11] 変化テストについては、山岡(2000：124)でも同様の批判がなされている。

か、述語として働く「述定」用法で使われるかを考察する際に形容詞を分類したものである。属性形容詞(49)(50)、評価判断形容詞(51)(52)、感情形容詞(53)(54)の順に例を引用する。仁田(1998)では分類の指標については特に何も述べられてはいない。

(49) 膵臓の新しい手術法を考案し、
(50) 夕方の舟宿は忙しい。
(51)「あんたの相棒はすばらしい腕前だな」
(52) 須藤の飲みっぷりは相変わらず凄い。
(53) まるで懐かしい人物に出会ったかのような～
(54) 宇佐美は、～志奈子の身体が欲しかった。 (仁田 1998)

### 5.1.8. 北原保雄(2010)

北原(2010：28－32)は、感情形容詞と属性形容詞の間に「感覚形容詞」をたてる。属性形容詞は「事物の性質・状態を表す」形容詞であり、感情形容詞は「事物に対する人の気持ちを表す」形容詞であるとしている。「事物の属性は、言うまでもなく事物側のもの」であり、「人の感情・情意はこれまた言うまでもなく、人側のものである」とする。そして、五感によって認識される「まぶしい」「うるさい」「くさい」「苦い」「暑い」等は、ものの状態であるが、五感によって認識されなければ「まぶしい」「うるさい」という感覚にならないと述べ、属性形容詞と感情形容詞の中間の形容詞であるとしている。

以上、感情形容詞と属性形容詞を中心とした分類を見てきた。感情形容詞と属性形容詞の間に、「評価」や「判断」等をたてる分類は、ひとつの対象をどう捉えるか、人による異なり具合を捉えようとしているように見える。また、1960 年代からのすべての分類において、「感情形容詞」はひとつの群として取り上げられていることがわかる。

## 5.2. 状態形容詞と質形容詞

感情形容詞か属性形容詞かとは異なる観点から、形容詞を分類する一連の研究がある。荒(1989)、樋口(1996)の「状態形容詞」と「質形容詞」という分類である。この分類は、八亀(2008)によれば、「海外の研究(特にロシア語文法の記述)を参考にした分類」によるものであり、八亀(2008)の「時間的限定性」の有無と、「評価性」という 2 つの軸による 4 分類に続いていく。

### 5.1.2. 荒正子(1989)、樋口文彦(1996)

荒(1989)は、形容詞が述語の位置に現れたとき、どのような意味的なタイプを表現するかという観点で形容詞を分類したものである。述語の位置で「《状態》」を示すのが「状態形容詞」、「《特性》」を示すのが「質形容詞」であるという分類である。「《状態》」と「《特

性》」は「意味的カテゴリー」であり、「あたえられた時間の断片のなかで生じる、アクチュアルな現象をとらえていて、つねに特定の具体的な時間にしばられている」のが「状態」で、「物にコンスタントにそなわっている、ポテンシャルな特徴」が「《特性》」であるとする。　次の(55)と(56)が状態形容詞の例で、(57)は質形容詞の例である。状態形容詞には、(55)のように人の状態を表すものと、(56)のように物の状態を表すものがあるという。

(55)　「行ってくれるか。ありがたい。」
(56)　「おふとんが冷たい」と景子が言った。(以下略)
(57)　本場のカレーは辛いね。　(荒 1989)

そして、状態形容詞は「述語の位置にしかあらわれることのできない形容詞」で、質形容詞は「述語としても、連体修飾語としても使われる形容詞」であり、文法的な性格が大きく異なると述べている。この分類においては、「述語＝形容詞が時間のありかの限定をうけているかどうか」が重要で、同じ形容詞述語文でも、「時間のありかの限定」を受けていれば「《状態》」、受けていなければ「《特性》」となる。例えば、「冷たい」という形容詞は、次の(58)では「《状態》」、(59)では、「《特性》」であるとされている。

(58)　「きのうの風はつめたかった」
(59)　「北氷洋の風はつめたい」　(荒 1989)

また、荒(1989)では、質形容詞と状態形容詞は、相互に移行すると述べられている。次の(60)は、質形容詞が過去形をとることにより状態の表現への移行した例である。次の(61)は、状態形容詞が連体修飾語に使用され「語彙的な意味の変更が生じ」、質形容詞へ移行した例である。状態形容詞は、連体修飾語になると、「《特性》を表す」、すなわち質形容詞に移行すると述べている。

(60)被災した隣近所のことを思えば、昼日中から天ぷらの匂いなどさせて不謹慎のきわみだが、父はそうしなくてはいられなかったのだとおもう。母はひどく笑い上戸になっていたし、日頃怒りっぽい父が妙にやさしかった。
(61)　何といっても同じ悲しい記憶につながれている。　(荒 1989)

その後、樋口(1996)は、状態形容詞と質形容詞の対立について、「認識論的な観点からみれば、経験と経験の一般化という対立になるだろう」と述べている。そして、「冷たい」のように述語位置において質形容詞にも状態形容詞にもなる語の存在を認めつつ、この分類の背景には「つねに状態形容詞であるし、つねに質形容詞であるという形容詞のグループ」

が存在するとして、分類の必要性を説いている。例えば、「そっけない」「つらい」等は常に状態形容詞、「やさしい」「いじわるな」「りこうな」「ばかな」は常に質形容詞であるとする。

このように、荒(1989)、樋口(1996)は、形容詞が述語位置に現れたときに「《状態》」を表すか「《特性》」を表すか、という観点から分類を行った。

### 5.1.3. 八亀裕美(2008)

八亀(2008：28－45)は、荒(1989)、樋口(1996)の流れを汲むもので、「『属性形容詞』と『感情形容詞』という分類について、評価のタイプという側面から再度とらえなおす」と述べ、「状態形容詞」と「特性形容詞」に分類している。「特性形容詞」はそこに含まれる語に違いがあるが、荒(1989)、樋口(1996)の質形容詞である。

具体的な分類方法は、「時間的限定性」の有無と「評価性」の高低で形容詞を十字分類するというものである。時間的限定性とは、「具体的・一時的・偶発的な〈現象〉か、ポテンシャルで恒常的な〈本質〉かの違いをとらえる」意味論的なカテゴリーであるという。そして、時間的限定性は、「述語のみで決まるものではなく、文のレベルで表し分けるものである」と述べている。評価とは、「形容詞における話し手の主体的なかかわり」のことで、形容詞によって評価のタイプが異なるとする。特性形容詞では、「ある基準にてらして、それとの比較のなかで物を意味づけるのが特徴」であり、「話し手の評価的な関わり方は、基本的に背景化されている」とする。一方、状態形容詞では、「人間の感情をもとにして、その感情を引き起こす原因としての対象を意味づけて」おり、「話し手の評価的な関わり方、前面化してくる」としている。

八亀(2008)の分類は、次の図２の通りである(図２は、八亀(2008)のp.40の図に、p.41－42の説明からA・B・D・Eに含まれる形容詞を書き込んだものである)。

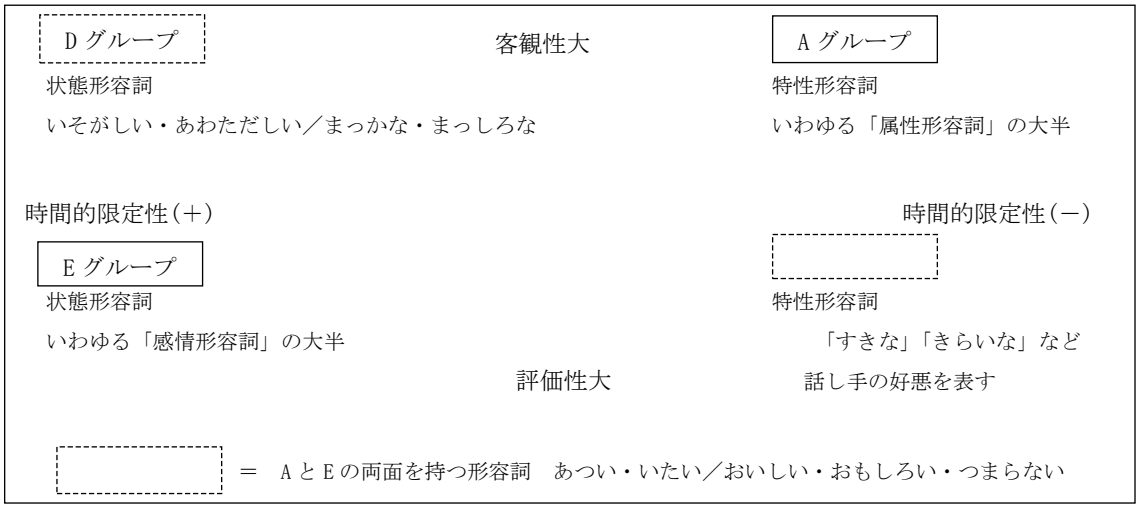


**図２　八亀(2008)の形容詞分類**

そして、A と E に所属する形容詞が多く、B・C・D に所属する語は限られると述べている。なお、E は、「評価的な側面では、『人間やものが、本来あるべき姿と比較して、逸脱した臨時的な状態』にあること」を表すものである(p. 91)。

以上、状態形容詞と質(特性)形容詞という分類の流れを見てきた。

### 5.3. 「文機能」からの分類　山岡政紀(2000)

最後に、感情形容詞と属性形容詞、状態形容詞と質形容詞という 2 つの分類を取り入れた山岡(2000)を見ていく。山岡(2000)の形容詞分類は、「感情形容詞と属性形容詞の語彙の対立を、〈感情表出〉と〈属性叙述〉という文機能の対立から捉え直」すという立場で行われたものである(p. 5)。「基本的には、感情形容詞と属性形容詞の二分類に依拠しているが、草薙(1977)、寺村(1982)が行っている文機能論的な発想を理論的に徹底した結果、そこに荒(1989)の状態形容詞と質形容詞の二分類を取り入れることとなった」と述べている(p. 126)。

山岡(2000)の「文機能」とは「語用論的条件ぬきの文としての機能」であり、〈遂行〉〈意志表出〉〈感情表出〉〈命令〉〈事象描写〉〈状態描写〉〈属性叙述〉〈関係叙述〉を認めている(p. 64)[12]。そして、それぞれの文機能が発動する命題内条件を記述している。

例えば、次の(62)(63)は、(64)の命題内条件を満たすことにより、〈感情表出〉という文機能を発動するという (p. 81)。

(62)私は水が飲みたい。
(63)私は水が欲しい。

(64)〈感情表出の命題内条件〉
① 述語が感情性述語であること
② 主語が第一人称経験者格であること( ［Ｉ］$^{Ex}$)[13]
③ 非過去時制辞を接続すること
(ただし、述語が感情変化動詞の場合は、過去時制辞を接続すること)
④ モダリティ付加辞を接続しないこと
⑤ アスペクト接辞を接続しないこと　(山岡 2000)

このように、どのタイプの述語が、どのような条件で、どのような文機能になるかという記述への必要性から、形容詞の分類が行われている。そして、荒(1989)で質形容詞と状態形容詞のどちらにもなるとされた「きのうの風はつめたかった」と「北氷洋の風はつめたい」のような例は、「語彙の区別ではなく、用法の区別」であり、山岡(2000)の立場では

[12] 山岡(2000)では、〈　〉を「語用論的条件ぬきの文機能」を示す記号として使用している(山岡(2000:3)。
[13] ［Ｉ］$^{Ex}$の「形式的に表れていない第一人称経験者格」を示す記号である (山岡(2000:2)。

「〈文機能〉の違いである」と述べている。

山岡(2000)の分類の指標は、次の通りである(p.126－127)。

指標 A　第一人称名詞句を主題として、〈感情表出〉文を作ることが可能か。
指標 A2　話し手の肉体部分を経験者格として構文中に言語化し得るか。
指標 B　名詞句を主題として、超時的〈叙述〉文を作ることが可能か。
指標 B2　2 項以上の必須格名詞句があるか。

指標 A は、細川(1989)の「私は、～い。」が言えるかどうか、という指標を山岡(2000)の枠組みで記述したものである。そして、指標 A を満たせば、感情形容詞であるとする。指標 A2 は、感情形容詞の下位類として「情意形容詞」と「感覚形容詞」を分類する指標である。指標 B は、荒(1989)の「状態形容詞」と「質形容詞」を取り入れた部分で、感情形容詞でない語、つまり従来属性形容詞とされてきた語から〈属性叙述〉文を作れないものを「描写形容詞」として取り出す指標である。指標 B2 は、〈叙述形容詞〉の下位類として「関係形容詞」と「属性形容詞」を分類する指標である。下の図 3 は、山岡(2000：126－129)をもとに筆者が作成したものである。

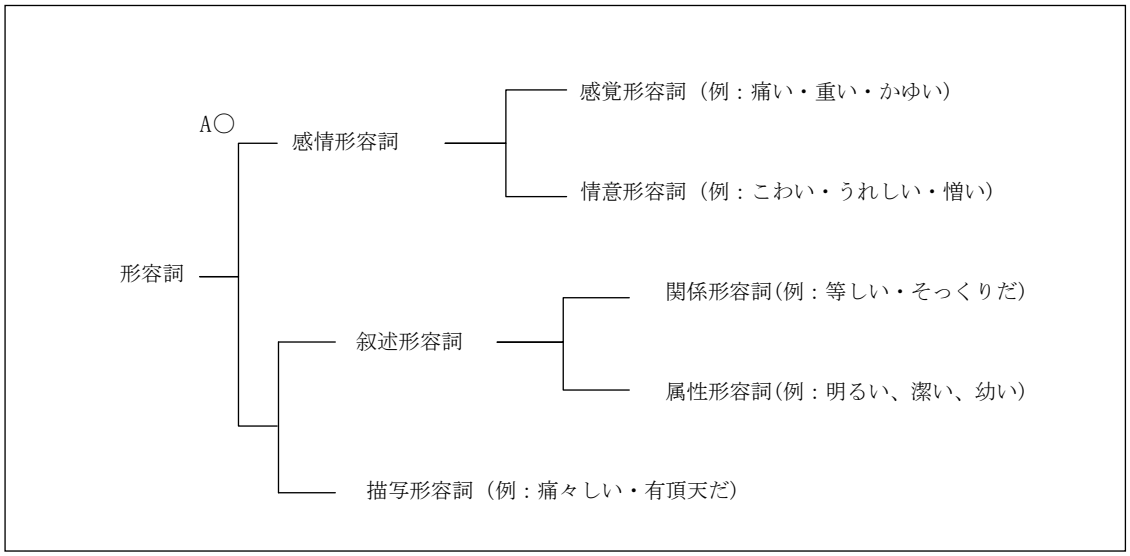


**図 2　山岡(2000)の形容詞分類**

さらに、山岡(2000)は、情意形容詞にも指標 B「名詞句を主題として、超時的〈叙述〉文を作ることができるか」のテストを行い、次の図 3 のように下位分類をしている(p.129)。情意形容詞のなかで指標 B を満たすのが図 3 横軸の「属性的情意形容詞」、満たさないのが「状態的情意形容詞」である。

表 2　情意形容詞の内部分類と語例（山岡(2000：129)

| | 属性的情意形容詞<br>〈属性叙述〉となり得る | 状態的情意形容詞<br>〈属性叙述〉となり得ない |
|---|---|---|
| a 対象型 | 恐ろしい、面白い、可愛い、<br>哀れだ、可哀想だ、心配だ | 愛しい、恨めしい、恋しい<br>惜しい、欲しい、いやだ |
| b 原因型 | うれしい、悲しい、悔しい<br>安心だ、爽やかだ、爽快だ | 面映ゆい、心細い、眠い<br>意外だ、遺憾だ、不本意だ |
| c 経験者型 | 嫌いだ、好きだ、せわしい<br>気楽だ、幸福だ、孤独だ | |

表 2 の縦軸の「a.対象型」は「必須格として対象格をとるもの」、「b.原因型」は「任意格として原因格をとるもの」である。原因格とは「～ノセイデ」に言い替えが可能な格のことである。次の(65)(66)は、動詞述語文の例であるが、(65)の「息子の暴力に」は(66)の「息子の暴力のせいで」に言い替えが可能であり、(65)の「ニ」は、原因格であるとしている(p.31)。

(65)父親は息子の暴力に悩んでいる。
(66)父親は息子の暴力のせいで悩んでいる。　　(山岡 2000)

表 2 の横軸の「c.経験者型」は「対象格や原因格を名詞句の項として取るが、それを主題化することがなく、非第一人称の経験者格(Ex)を主題として属性叙述文を作ること」ができる、つまり「太郎は酒が好きだ」のような文が作れる語のことである。以上のように山岡(2000)は、感情形容詞と属性形容詞、状態形容詞と質形容詞という 2 つの分類を取り入れた分類を行っている。

### 5.4.　先行研究の形容詞分類に対する本研究の考え

これまで、先行研究の形容詞分類を見てきたが、先行研究の形容詞分類に対する考えを述べておきたい。まず、感情形容詞と属性形容詞を中心とした分類については、その 2 つが両端にあり、その中間は連続的なもので截然と分けられるものではないという考えからか、分類の指標のないものがある。本研究では、感情形容詞という研究の対象を確定するという目的のために、指標のない分類は用いることができない。

そして、分類の指標が設けられている研究のうち、小針(1994)の指標は分類の指標として用いることは難しいのではないかということをすでに述べた。また、西尾(1972)のように、たくさんの指標ではなく、簡単な指標で分類することはできないだろうかと考えている。そして、分類の指標を立てている細川(1989)と山岡(2000)については、感情形容詞を取り出す「私は、～い。」が言えるかどうか、というテストは、はっきりと判断できる語がある一方、「私は、暑い。」のように、対比的な文脈でしか言わないのではないかと思われ

るものもあり、分類の難しい語もある。そこで、本研究では、第 1 章で、新たな分類の指標を提案する。

次に、荒(1989)、樋口(1996)の質形容詞、八亀(2002)の状態形容詞についての考えを述べておきたい。

まず、感情形容詞と属性形容詞という分類は、語レベルの分類であり、形容詞が何を表すのかという語彙の意味による分類である[14]。そして、状態形容詞と特性形容詞という分類は、当該の形容詞が述語となった際に表す状態(ここでの状態とは、動詞が描く動作と対立するものである)が、時間的限定性を持つか持たないかという分類で、文レベルでの分類である。よって、この 2 つは異なるレベルでの分類であり、どちらか一方しか成立しないといった関係ではない。

また、八亀(2002)で感情形容詞が「変な」「おかしい」等の逸脱状態を表す形容詞と同様に状態形容詞に分類されるという点も、人間の感情というものは変化するものだからこそ感情であるという知識によって納得ができる。しかし、本研究では、「その感情を表すと言える語は、どれなのか」というところから出発したい。

そして、本研究では、時間的限定性を形容詞の分類には用いていないが、時間的限定性に関しては、感情形容詞の文中での振る舞いを分析する際に有益であると考えている。本研究でも、第 2 章の 5.3 で「花子はうるさそうに耳をふさいだ」という文の解釈について述べる際にこの概念を用いる。以上、感情形容詞と属性形容詞、状態形容詞と特性形容詞という 2 つの分類について、本研究の考えを述べた。

## 6. まとめ

以上、感情形容詞の先行研究を「対象語」「属性と情意の総合的な表現」「人称制限」という 3 つのキーワードから見てきた。1940 年代からの研究で、この 3 つをめぐる問題は、解決されたと言ってよい。形容詞の分類も数多く見てきたが、先に述べたように、本研究では、先行研究の分類より、分類のしやすい指標を提案する。

近年は、上述のキーワードとは異なる観点からの研究も始まってはいるが、研究の中心は、上述の 3 つのキーワードが中心であった[15]。そのため、感情形容詞が複文の述語として働く際の振る舞いや、副詞的用法についての研究も十分ではない[16]。本研究では、感情形容詞の分類案を示し、コーパスを用いて感情形容詞の使用実態を調べ、終止用法・連体修飾用法・副詞的用法という 3 つの用法ごとに詳しく見ていき、感情形容詞の全体像を明らかにしていく。

---

14 本研究では、語の意味による統語的な特徴を形容詞の分類の指標として用いる。

15 例えば小竹(2012)は、条件文の主節に表れる感情形容詞について考察を行っている。

16 感情形容詞が複文の述語になる文や、副詞的用法についての先行研究については、各章で言及する。

# 第２章　現代日本語の形容詞分類　―様態のソウダを用いて―

## 1.　はじめに

本研究は、「感情形容詞」について考察を行うものであるが、考察の対象となる「感情形容詞」の範囲を定める必要がある。第 2 章では、感情形容詞の定義を行い、形容詞語幹と動詞連用形に接続するいわゆる「様態のソウダ」（以下、「ソウダ」）を用いて分類を行う。以下では、はじめに感情形容詞を「感情・感覚を表し得る形容詞」と定義する。次に、なぜソウダを用いて分類を行うのかを述べる。そして、分類の指標を提示し、感情形容詞 2 群、属性形容詞 2 群の計 4 群に分類する。なお、以下の用例で出典のないものは、作例である[1]。

## 2.　問題の所在

形容詞を分類した先行研究の中で、分類の指標を立て、多くの語をリストアップしているのは、細川(1989)、山岡(2000)である。どちらも感情形容詞と属性形容詞という単純な 2 分類ではなく下位分類を行っているが、感情形容詞と属性形容詞を分類する第一の指標は、「私は、～い。」という非過去・言い切りの形で話者の「心の様子」を表すことが可能であるか、である[2]。しかし、この指標は、「うれしい」等、はっきりと判断できる語がある一方で、判断が難しい場合も多い。例えば、細川(1989)では、「うるさい」「すみにくい」が、感情形容詞に分類されている。しかし、次の(1)(2)は、話者の心の様子を表す文として適格と言えるのだろうか。

(1) 私は、うるさい。
(2) 私は、(この街には)すみにくい。

(1)(2)は、「他の人はうるさいと感じないが、私はうるさいと感じる」「他の人はすみにくいと感じないが、私はすみにくいと感じる」という対比的な文脈では可能だと思われるが、対比的な文脈で考えると、次の(3)のような文との線引きが非常に難しい 。

(3) 私は、難しい。

これは、感情形容詞も、「うるさい」のような属性なのか感情なのか分りにくい形容詞も、

---

1 第 2 章は、次の論文に加筆修正を加えたものである。
村上佳恵(2012)「現代日本語の形容詞分類―様態のソウダを用いて―」『日本語文法』第 12 巻 1 号　日本語文法学会
村上(2012)では、感情形容詞述語文の感情の持ち主を「感情の主体」と呼んでいたが、本章では、他の章の術語と統一し「経験者」と呼ぶ。

2 山岡(2000)の指標は「第 1 人称名詞句を主題として、〈感情表出〉文を作ることが可能か」であるが、これは細川(1989)の指標を山岡(2000)の立場に沿って改めたものであると述べられている(p. 126)。

「高い」のような属性形容詞も、すべてが話者の判断であるため、対比的な文脈以外、「私」が言語化されることが少ないためであると思われる。そこで、本研究では、いわゆる様態のソウダを用いて形容詞の分類を試みる。「第三者は、～そうだ。」を分類の指標に使うことにより、「私は、～い。」が言えるかどうかの判断が難しい語も分類することができる。

そして、現代日本語の形容詞を感情形容詞 2 群、属性形容詞 2 群の計 4 群に分類できることを示す。感情形容詞は、経験者である人間の状態と、感情の対象となる事物の状態のどちらを表すことを志向するかによって 2 群に分類する。属性形容詞は、典型的な属性形容詞群と、属性形容詞ではあるものの副詞句としては感情形容詞と同じ振る舞いをする群に分類する。その結果、上記の「うるさい」は、属性形容詞であるものの副詞句として感情形容詞のように振る舞う語のグループに、また「すみにくい」は、本章の分類の対象語彙には含まれていないが、属性形容詞に分類される。

## 3. 感情形容詞の定義

分類の前に、感情形容詞の定義を行っておきたい。本研究では、感情形容詞を「感情・感覚を表し得る形容詞」と定義する。三田村(1966)、西尾(1972)、 寺村(1982)等で指摘されているように、感情・感覚を表す形容詞は、対象を主題化すると、対象の属性を述べることができる。

(4) ヴィタミン注射は痛い

(5) A 教授の講義は眠い　　(三田村 1966)

つまり「感情形容詞」とは、感情・感覚を専門に表す形容詞ではなく、感情や感覚を表し得る形容詞であるということである。よって、本研究では、感情形容詞を「感情・感覚を表し得る形容詞」と定義したうえで、分類の指標を立て感情形容詞をリストアップする。

## 4. 分類の指標にソウダを用いる理由

次に、形容詞の分類の指標に、様態のソウダを用いる理由を述べる。感情形容詞は、いわゆる人称制限と呼ばれる現象があることが広く知られている。人称制限とは、平叙文の言い切りの述語である場合、経験者が一人称の(6)は適格文であるが、一人称ではない(7)は非文となる現象である。第三者の感情を述べるには、(8)のように「～がる」をつけたり、(9)のようにソウダをつける等しなければならない[3]。

(6) 私は、うれしい。

(7) *花子は、うれしい。

[3] 感情形容詞の人称制限については、第 1 章 4 節をを参照されたい。

(8) 花子は、うれしがった。
(9) 花子は、うれしそうだ。

そして、次の(10)(11)のように、「私は、～い。」が言えるかどうかと、「第三者は、～そうだ。」が言えるかどうかは、一方が言えれば一方が言えないという関係にある。つまり、「第三者は、～そうだ。」が言えるかどうかは、感情形容詞の特徴とされる人称制限を裏側から見ているということに他ならない。

(10)a. 私は、うれしい。
b. *私は、うれしそうだ。
(11)a. *花子は、うれしい。
b. 花子は、うれしそうだ。

このように、人称制限の有無と「第三者は、～そうだ。」が言えるかどうかは、きれいな対応をなしているのである。

## 5. 分類の指標

次に、分類の前提として、分類に用いるソウダに、本研究で「内部ソウダ」と「外部ソウダ」と呼ぶ2つの解釈があることを述べる。そして、分類の指標と具体例を示す。

### 5.1. 様態のソウダの2つの解釈

ソウダは、ケキゼ(2000)で「とらえた特徴・様子について『ある事物の成立条件がそろっている』と判断した結果を述べる」形式とされている。ケキゼ(2000)は、この定義が 2つの用法として実現すると述べている。1つめは、例えば、ケーキを「おいしそうだ」と言う場合、話者は、外観、におい、作り方等、おいしいケーキの特徴を知っており、それらの特徴があると判断するのがソウダであるという。2つめは、例えば、家が「倒れそう」という場合、家が傾く・倒れる最中・倒れた状態というプロセスのうち、倒れるという事態の「成立条件」が整っていて、かつ、「開始前」の家が傾いている段階であることを述べるものであるという。

ソウダは、西尾(1972：28)でも、感情形容詞と属性形容詞を分類する指標のひとつとして挙げられているが、「高そうだ」のように属性形容詞にも付くため「積極的な条件にはなりえない」とされている。しかし、細川(1989)も、ソウダは、前接する形容詞により「心の様子」を表す場合と、「外側の様子」を表す場合があることを指摘しているように、次の(12)と(13)は、同じではない[4]。

[4] このソウダが前接する形容詞によって、解釈が異なることは、郡(1993)でも述べられている。

(12) 花子は、うれしそうだ。

(13) 花子は、かしこそうだ。

(12)は、話者が花子の様子から、「花子は、うれしいという感情を持っている」ように見えると述べているのに対し、(13)は、花子の様子や外見・その他の情報から「花子は、かしこい」という花子の属性が存在するように見えると述べているのである。(12)(13)の話者が推し量っている内容を［　］に入れてみると、「うれしい」は、次の(14b)のように「感じる」「思う」等の思考動詞を［　］の中に入れることができるのである[5]。一方、「かしこい」は、(15c)のように思考動詞を［　］の中に入れることはできない。(15a)の解釈は、(15b)である。

(14)a. 花子は、うれしそうだ。

b. ［花子は、うれしいと思っている］ように見える

(15)a. 花子は、かしこそうだ。

b. ［花子は、かしこい］ように見える

c. ~~［花子は、かしこいと思っている］ように見える~~

このように、形容詞にソウダが後接した場合、2 つの解釈があるのである。以下、(14a)のように思考動詞を［　］に入れられるものを［内部ソウダ］、(15a)のように思考動詞を入れられないものを［外部ソウダ］と呼ぶ。内部ソウダは、感情や感覚が経験者の外見に現れた様子を述べるもので、外部ソウダは、対象がある属性を持っているような様子であることを述べるものと言える[6]。

なお、従来感情形容詞に分類されながら、人称制限がないと言われている語は、2 つのソウダの解釈が可能である。「幸せな」を例に見てみると、(16a)は、外部ソウダの(16b)と、内部ソウダの(16c)の解釈ができる。

(16) a. 花子は、幸せそうだ。

b. ［花子は幸せな］ように見える。

c. ［花子は幸せだと思っている］ように見える。

---

5 「思う」と「感じる」については、「うれしい」のような感情はどちらも使えるが、「痛い」のような感覚は「感じる」しか使えない。以下のテストでは、「思う」を使用し、「思う」が使えない場合のみ「感じる」を用いる。

6 感情形容詞に「思う」や「感じる」が付くのは当然だと思われるかもしれないが、「思う」や「感じる」は引用節を伴い、どのような形容詞にも接続できる。次の(イ)は感情(感覚)であるが、(ロ)(ハ)は感情ではない。よって、「思う」「感じる」が接続するかしないかでは、テストはできない。

(イ)花子は、足が痛いと感じている。

(ロ)花子は、太郎をずうずうしいと思っている。

(ハ)花子は、今の家賃を高いと思っている。

(16b)の外部ソウダの解釈は、花子または第三者から花子の穏やかな暮らしぶりを聞いて「花子は幸せそうだ」と言うような状況での解釈である。(16c)は、結婚式を挙げている花子を見て「花子は幸せそうだ」というような状況での解釈である。このように、人称制限のない語は、ソウダが外部ソウダとも内部ソウダとも解釈ができる。このような語には、「幸せな」の他に、「忙しい」等がある。2 つの解釈がある点で、「幸せな」は、「うれしい」とは異なるわけであるが、本研究では内部ソウダの解釈があるという点を重視して分類を行う。これは、内部ソウダの解釈があれば、感情・感覚を表し得るという感情形容詞の定義にあてはまると考えられるからである。

次に、感情形容詞の連体修飾用法について述べている山本(1983)を見ていきたい。山本(1983：8)は、日英語の感情形容詞を比較し、日本語の感情形容詞と属性形容詞の境界は段階的なものとしたうえで、感情形容詞がソウナを伴い連体修飾句として用いられた場合、次の(17)のように、経験者は被修飾名詞にできるが、対象はできないことを指摘している[7]。

(17) a. 悲しい知らせ　うれしい話
b. *悲しそうな知らせ　　*うれしそうな話
c. あの悲しそうな子　　うれしそうな子　　(山本 1983)

これは、本研究の用語で言えば、「悲しそうな子」は、次の(18b)のように「思う」を入れられることから内部ソウダである。そして、「悲しい」は、連体修飾句として、内部ソウダにはなるが、(17b)のような対象がある属性を持っている様子であることを表す外部ソウダにはならないということである。

(18) a. 悲しそうな子
b. ［悲しいと思っている］ように見える子

「悲しい」は、次のような語を被修飾名詞とし、感情が外見に現れていることを表す。これらも、内部ソウダである。

(19)a. 悲しそうな　声／顔／表情／目
b. ［悲しいと思っている］ように聞こえる(見える) 声／顔／表情／目

このように「悲しい」は、連体修飾用法においては、内部ソウダにはなるが、外部ソウダにはならない。本研究では、このような内部ソウダと外部ソウダを指標として、形容詞の分類を試みる。

---

7 (17)は、山本(1983:9)の例文(1)(3)(5)a であるが、順序を入れ替えた。

### 5.2. 3 つの指標

本研究では、感情形容詞を「感情・感覚を表し得る形容詞」と定義し、以下の 3 つの指標を用いて、分類を試みる。

指標 1:「花子は、～そうだ(だった)」が［内部ソウダ］として適格文になる。
指標 2:「花子は、～そうに～する(した)」が［内部ソウダ］として適格文になる。
指標 3:「～そうな名詞」が［外部ソウダ］にならない。

指標 1 は、当該の形容詞が、他者の感情や感覚を話者が直接述べられないものとして表せるかを見るもので、感情形容詞の人称制限の有無を見るものである。指標 2 は、当該の形容詞が、副詞句として、他者の感情や感覚を話者が直接述べられないものとして表せるかを見るものである。次節で見るように、指標 1 を満たす語は、すべて指標 2 も満たすため、指標 2 は不要であるようにも見える。しかし、指標 1 を満たさないが、指標 2 のみを満たす語群が存在する。よって、この指標によりひとつの語群を取り出すことができる。指標 3 は、感情を表し得る形容詞を、より経験者の心の状態を表すことを志向する語と、そうでないものを分ける指標であり、指標 1・2 を満たす語に対してテストを行う。

先に概略を示すと、次の表 1 のように A－D の 4 つの群に分類される。A 群と B 群は感情形容詞で、A 群はより経験者の心の状態を表すことを志向する語、B 群は経験者の心の状態だけでなく対象の状態を表すことをも志向する語である。D 群は典型的な属性形容詞、C 群は属性形容詞ではあるものの副詞句としてのみ感情形容詞のように振る舞う語である。

**表 1　形容詞分類の概略**

| | 語例 | 指標 1<br>内部ソウダになる | 指標 2<br>内部ソウニになる | 指標 3<br>外部ソウナにならない |
|---|---|---|---|---|
| A | 悲しい | ○ | ○ | ○ |
| B | 寒い | ○ | ○ | × |
| C | うるさい | × | ○ | |
| D | 明るい | × | × | |

### 5.3. 指標 1・2

指標 1・2 を見てみよう。まず「悲しい」「迷惑な」と、「寒い」「重い」を例に見てみる。「悲しい」「迷惑な」は、次のように、内部ソウダになり、指標 1・2 を満たす。

(20) a. 花子は、<u>悲しそうだ</u>。
　　b. ［花子は悲しいと思っている］ように見える。
(21) a. 花子は、<u>悲しそうに</u>うつむいた。

b. 花子は［花子が悲しいと思っているように見えるやり方で］うつむいた。

(22) a. 太郎は、迷惑そうだ。

b. ［太郎は迷惑だと思っている］ように見える。

(23) a. 太郎は、迷惑そうに振り向いた。

b. 太郎は［太郎が迷惑だと思っているように見えるやりかたで］振り向いた。

「寒い」も、次のように内部ソウダになり、指標 1・2 を満たす。

(24)a. 花子は、寒そうだ。

b. ［花子は寒いと感じている］ように見える。

(25)a. 花子は、寒そうに手をこすった。

b. 花子は［花子が寒いと感じているように見えるやり方で］手をこすった。

「重い」は、従来の「私は、重い。」が言えるかという指標では、判断が難しい語であるが、次のように、内部ソウダになり、指標 1・2 を満たす。

(26)a. 花子は、(連日の試合で)体が重そうだ。

b. ［花子は、体が重いと感じている］ように見える。

(27)a. 花子は、重そうに箱を持ち上げた。

b. 花子は［花子が重いと感じているように見えるやり方で］箱を持ち上げた。

(20)－(27)は、「悲しい」「迷惑な」「寒い」「重い」という花子の感情・感覚が外見に現れた様子を述べる内部ソウダである。以上のように、指標 1 を満たす語は、すべて指標 2 も満たす。指標 1・2 を満たす語は、経験者の感情や感覚が外見に現れた内部ソウダになることが可能で、感情形容詞であると認定される。

なお、指標 1 についてであるが、「重い」「重たい」「軽い」「熱い」「冷たい」の 5 語は、(26a)のようにガ格名詞句が身体部位の場合に限り内部ソウダの解釈が可能である[8]。

次に「うるさい」について、指標 1 から見ていこう。「うるさい」は、指標 1 を満たさないが、指標 2 は満たす。

---

8 ガ格名詞句が身体部位以外の「花子は、荷物が重そうだ」は、「花子の持っている荷物は、重そうである」という荷物について述べる外部ソウダの解釈になると判断している。また、机を持っている花子を見て「？花子は、机が重そうだ」は容認度が低い。また、(26a)は、「花子のあの切れのない動きからして、体が重いのだろう」という内部ソウダではない解釈も可能である。(24a)も、雪の中を半袖で歩いている花子を見て「(花子は寒そうなそぶりはしていないが)きっと寒いだろう」という解釈も可能で、これは、花子の感覚が外見に現れた内部ソウダではない。それぞれの語がどのような条件下で感情・感覚を表し得るかは、記述していく必要があるが、その前に、「感情・感覚を表し得る形容詞」を感情形容詞としてリストアップすることが必要であると思われる。なお、本研究では、感情形容詞を「感情・感覚を表し得る形容詞」と定義しており、指標を満たす場合がひとつでもあればよいので、内部ソウダ以外の解釈ができることは、テストの結果には影響しない。

(28)a. 花子は、うるさそうだ。

b. ~~［花子は、うるさいと思っている］ように見える。~~

c. ［花子は、大声で話す迷惑な人間である］ように見える。

(28)は、花子が対象として解釈され、(28c)の花子に「うるさい」という属性があるように見えるという外部ソウダである。(28a)を(28b)のように内部ソウダと解釈するには「花子はうるさそうにしていた」のように副詞句にしなければならないと思われる。

次は、指標 2 である。

(29)a. 花子は、うるさそうに耳をふさいだ。

b. 花子は［花子がうるさいと思っているように見えるやり方で］耳をふさいだ。

c. ~~花子は［花子が大声で話す迷惑な人間であるように見えるやり方で］耳をふさいだ。~~

(29a)は、(29b)であり、花子の感覚が外見に現れていることを述べる内部ソウダである。このように「うるさい」は、指標 1 は満たさないが、指標 2 は満たす。

(29a)が(29c)でないのは、なぜだろうか。まず、(29c)の「大声で話す迷惑な人間であるように見えるやり方で耳をふさぐ」というのが、どんなやり方なのか不明である。そして、「花子が大声で話す迷惑な人間である」というのは、花子の属性である。「うるさそうに耳をふさいだ」のように副詞句として述語動詞にかかることによって、「耳をふさいだ」というある限定された時間における動きの行われ方を表すことになり、花子が「うるさい」という属性を持っているように見えるという外部ソウダの解釈ができなくなるためであると思われる[9]。「おもしろい」も同様である。

(30) a. 花子は、おもしろそうだ。

b. ~~［花子は、おもしろいと思っている］ように見える。~~

c. ［花子は、他人を笑わせる愉快な人間である］ように見える

(31) a. 花子は、おもしろそうに本を読んでいる。

b. 花子は［花子がおもしろいと思っているように見えるやり方で］本を読んでいる。

c. ~~花子は［花子が他人を笑わせる愉快な人間であるように見えるやり方で］本を読んだ。~~

9 この(29)の解釈については、八亀(2008)の時間的限定性という概念が有効であると思われる。時間的限定性とは、一時的・具体的な現象か、恒常的な性質かという意味的なカテゴリーである(八亀 2008：28)。(29a)の「耳をふさぐ」は時間的限定性がある。「うるさそうに」の内部ソウダの解釈は時間限定性があり、外部ソウダの解釈は時間的限定性がない。よって、時間的限定性がある「耳をふさぐ」の行われ方を述べる副詞句も、時間的限定性がある解釈をされるということであろう。

ただし、どんな形容詞でも副詞句になれば内部ソウダになるわけではなく、あることを感じた時にする動作が、日本語話者に共有されている必要があると思われる。次の(32)－(34)を見られたい。

(32) 花子は、おいしそうにケーキを食べた。
(33) ?花子は、甘そうにケーキを食べた。
(34) ?花子は、{いかにも／さも} 甘そうにケーキを食べた。

「おいしい」は、日本語話者の中で「おいしい物を食べるときの食べ方」が共有されているので適格となるが、「甘い」は「甘いものを食べるときの食べ方」が共有されていないので不自然である。(34)のように、「いかにも」「さも」といった「本当にそれらしい様子で」という副詞を付けてみても容認度は上がらない。「おいしそうに食べる」は、「一般に人間がおいしい物を食べるときの食べ方」をしていることを表し、ひいては、おいしいと感じているようであることを表せるものと思われる。

最後に、「明るい」「まじめな」の指標1を見てみよう。

(35)a. 花子は、明るそうだ。
b. ~~［花子は明るいと感じている］ように見える。~~
c. ［花子は明るい人間である］ように見える。
(36)a. 花子は、まじめそうだ。
b. ~~［花子はまじめだと感じている］ように見える。~~
c. ［花子はまじめな人間である］ように見える。

(35a)(36a)は、(35c)(36c)の［外部ソウダ］であり、指標 1 は満たさない。そして、次の(37)(38)は不自然であり、指標2も満たさない。

(37) ?花子は、明るそうにあいさつした。
cf.花子は、明るくあいさつした。
(38) ?花子は、まじめそうにあいさつした。
cf.花子は、まじめにあいさつした。

以上、「悲しい」「迷惑な」「寒い」「重い」のように指標 1・2 を満たす語(A 群と B 群)、「うるさい」のように指標 2 のみを満たす語 (C 群)、「明るい」「まじめな」のように指標1・2を満たさない語(D群)の3つの語群に分類できることを確認した。指標1・2を満たす語は、感情・感覚を表し得るので、感情形容詞であると言うことができる。

### 5.4. 指標 3

次に、指標 1・2 を満たす語(A・B 群)に対し、指標 3「「～ソウナ名詞」が外部ソウダにならない」を用いてテストを行う。これは、感情形容詞を下位分類するテストである。以下では、「うらやましい」「残念な」「きつい」「快適な」の 4 語について見ていくが、これらは、指標 1・2 を満たすことを確認しておく。

(39) 花子は、太郎が、うらやましそうだ。
(40)花子は、うらやましそうに太郎を見ていた。
(41)花子は、残念そうだった。
(42) 花子は、残念そうに話した。
(43) (マラソンをしている花子を見て)花子は、きつそうだ。
(44) 花子は、きつそうに坂道を上った。
(45) 花子は、快適そうだ。
(46) 花子は、快適そうにベッドに寝ころんでいる。

以上の(39)－(46)は、すべて「花子」の感情・感覚が外部に現れている様子を述べる内部ソウダとして適格で、指標 1・2 を満たす。では、「うらやましい」と「残念な」について、指標 3 を用いてテストしてみよう。

(47)a. *うらやましそうな　話／高待遇／美貌
　　b. うらやましそうな　顔／声／様子／目
(48)a. *残念そうな　結果／結末／点数
　　b. 残念そうな　顔／様子／声／そぶり／ため息

「うらやましい」「残念な」は、(47a)(48a)のように対象について述べる外部ソウダにはならないので、指標 3 を満たすと言える。なお、「うらやましい」「残念な」は、(47b)(48b)のように、内部ソウダになることは可能である。

次に、「きつい」と「快適な」を見てみよう。この 2 語は、指標 3 では先の「うらやましい」等とは、異なる振る舞いを見せる。

(49)a. きつそうな　坂／仕事／スカート／コース
　　b. きつそうな　顔／表情／様子／息遣い
(50)a. 快適そうな　部屋／環境／ソファ
　　b. 快適そうな　赤ちゃん／表情

「きつい」と「快適な」は、(49a)(50a)のように対象について述べる外部ソウダが言えるので、指標3は満たさないと言える。

このように「うらやましい」と「きつい」は、異なる振る舞いを見せるのであるが、このことから、何が言えるのであろうか。「うらやましい」のように外部ソウダにならない語は、対象の状態ではなく、より経験者の状態を述べることを志向する性質を持っていると考えることができる。「うらやましい」を例に見てみると、ある話を聞いて「うらやましい」と思った場合、それは、話者の感情であり、その話が「うらやましい話」であるのは、話者にとってであり、話の属性と捉えることはできないということである。よって、ある属性を持っているように見えることを表す外部ソウダとして使用し、「*うらやましそうな話」と言うことはできないのである。

一方、「きつい」は、例えば、坂を上って「きつい」と感じた場合に、「きつい」は話者の感覚でもあるが、坂の属性としても捉えることができる。坂の属性として捉えられるからこそ、「きつそうな坂」と外部ソウダが言えるのである。

以上、指標3によって、感情形容詞には、「うらやましい」のように連体修飾句として外部ソウダが言えず、経験者の状態を表すことを志向する語と、「きつい」のように対象の状態を表すことも志向する語があることを見た。そして、「きつい」「快適な」のように指標3を満たさない語は、従来の「私は、〜い。」が言えるかどうかという指標では、判断が難しい語である。

## 6. 分類の対象と分類の際に問題となる語

分類の対象とした語は、国際交流基金『日本語能力試験出題基準』(2002 年)の旧日本語能力試験1級の語彙表に含まれる形容詞638語である[10]。そのうち、次の4語は2義を認め、計642語について分類を行った[11]。

うまい(おいしい／上手な)　おかしい(こっけいな／変な)
かわいい(愛しい／外見がよい)　得意な(上手な／鼻が高い)

本研究の分類の指標を用いてテストを行うと、問題となる語がいくつかある。

まず、ソウダを用いた分類の難点であるが、ソウダが付かない語は、テストができない。「憎い」と「かわいい(愛しい)」は、従来の研究で感情形容詞と言われているが、「憎そう

---

10 旧日本語能力試験の語彙は、『日本語教育のための基本語彙調査』(1984年国立国語研究所編)や『分類語彙表』(1964年国立国語研究所編)等、7種の語彙調査の資料を基に「特殊な専門用語」を外す等の方針のもとに選定されており、本研究のような基礎研究の対象として妥当であると考え、これを採用した。

11 ナ形容詞の認定は、沖森・中村編(2003)『表現読解国語辞典』で「形容動詞」または「形容動詞・ナノ」と記された語(つまり名詞の前でナが現れ得る語)をナ形容詞として分類の対象とした。「大きな」「小さな」の2語は、連体詞ではなく、ナ形容詞として拾った。接頭辞「真」のついた「真っ赤」等は、同辞書には載っていないが、ナ形容詞として拾った。また同辞書では連語として扱われている「しょうがない」「すまない」「たまらない」「やむをえない」も考察の対象とした。カタカナ語は、三省堂編集所編(2001)『大きな活字のコンサイスカタカナ語辞典』第2版で「ナ」が付くと記載があるものを拾った。また「気持ちがいい」等の「気持ち」「気」等がつく表現は、分類の対象外とする。

だ」「かわい＋そうだ」という語形がないと思われる。そのため、テストをすることができないが、先行研究に従い、A に入れておく。また「かわいそうな」も、ソウダをつけることができなないため問題となるが、類義語である「気の毒な」「哀れな」とともに C に分類しておく。

次に、「好きな」と「きらいな」について見てみたい。この 2 語は、西尾(1972:25)でも、「好悪の感情を表す」語でありながら、他の感情形容詞と異なり「持続的な感情である」こと、次の(51)のように人称制限が無いこと、(52)のように～ガルがつかないこと等から、特殊な語と位置付けられている[12]。

(51)a. 私は、刺身が好きだ。
　　b. 花子は、刺身が好きだ。
(52)a. *花子は、太郎を好きがった。
　　b. *花子は、太郎をきらいがった。

では、「好きな」「きらいな」について、指標 1 から見てみよう。「好きな」「きらいな」は、(51a)が言えるわけであるから、ソウダを用いるのは、断定する情報がない場合である。

(53)a. 花子は、夜遊びが好きそうだ。
　　b. ~~［花子は、夜遊びが好きだと思っている］ように見える。~~
　　c. ［花子は、夜遊びが好きである］ように見える。

(53a)は、花子のことをよく知らないが、花子の派手な外見からして夜遊びが好きであろうと述べるような場合で、これは(53c)の外部ソウダであり、(53b)の花子の「好きだ」という感情が表情や態度に現れていることを述べる内部ソウダではないと思われる。では、「きらいな」はどうだろうか。

(54)a. ?花子は、夜遊びがきらいそうだ。
　　b. ~~花子は、［夜遊びがきらいだと思っている］ように見える。~~
　　c. 花子は、［夜遊びがきらいな］ように見える。

(54a)は、非文とまでは言えないが(53a)の「好きそう」と比べると、かなり不自然である。言えるとしても、(54a)は、例えば、花子は寡黙で出かけることもにぎやかな場所も嫌

[12] 西尾(1972:25)は、「好きな」と「きらいな」にガルがつかないのは「「すく」「きらう」という動詞の連用形に由来するものであり、これらの動詞も現に使われているために、「～がる」をつけて動詞化する必要があまりないのではないか」と述べている。

いだから、夜遊びもきらいであろうという外部ソウダであると思われる[13]。このように、「好きな」「きらいな」は、指標 1 を満たさない。そして、次の(55)(56)は、非文であり、指標 2 も満たさない[14]。

(55) *花子は、太郎を好きそうに見つめた。
(56) *花子は、太郎をきらいそうに顔をそむけた。

このように「好きな」「きらいな」は、指標 1・2 を満たさないため属性形容詞に分類される。指標 1・2 も満たさないが、指標 3 も見てみよう。

(57)a. 夜遊びが好きそうな花子
b. 花子が好きそうな花柄の服
(58)a. 夜遊びがきらいそうな花子
b. 花子がきらいそうな花柄の服

以上のように、「花子」を被修飾名詞にした(57a)(58a)も、対象を被修飾名詞にした(57b)(58b)も適格である。しかし、どちらも花子の感情が外見に現れたものではなく、外部ソウダであり、指標 3 を満たさない。つまり、「好きな」「きらいな」は、述部、副詞句、連体修飾句、いずれにおいても「内部ソウダ」にはならないということである。このように、「好きな」「きらいな」は、ソウダの振る舞いを見る限り、感情形容詞との共通点はなく、属性形容詞に分類される。以上、ソウダを使った分類で問題となる語を見てきた。

## 7. 分類の結果

3 つの指標に基づいて形容詞(642 語)を分類した結果は、次の表 2 の通りである。

**表 2 形容詞分類**

| |
|---|
| A【指標 1○ 指標 2○ 指標 3○ 39 語】 |
| 意外な 嫌な うっとうしい うらやましい うれしい 惜しい 悲しい |
| かわいい(いとしい) 感無量な きまり悪い 悔しい 恋しい 心強い 心細い 残念な |
| 心配な すまない 切ない 得意な(鼻が高い) 懐かしい 悩ましい 憎い 恥ずかしい |
| 不安な 不思議な 不審な 不服な 不平な 不満な 平気な 欲しい 待ち遠しい |

[13]花子が、遊んでいる最中に、さも、つまらないといった態度を示していることを述べる内部ソウダは、(54a)ではなく「花子は、ここにいるのが、いやそうだ」のように、「いやそうだ」が適切であると思われる。「ここにいるのがいやだ」が、ある一時点の感情であるのに対し、「夜遊びが嫌いだ」は、花子の属性であると考えることができる。
[14]「好きそう」と「きらいそう」は、ナ形容詞＋ソウではなく、動詞「好く」「きらう」の連用形にソウダがついたものである可能性もある。動詞＋ソウダは、「*花子は、怒りそうに、太郎をにらんだ」のような文は作れず、様態を表す副詞句にはならないから、「好きそう」と「嫌いそう」は、指標 2 を満たさないという点では、動詞的である。この点は、今後の課題としたい。

| |
|---|
| 満足な　空しい　無念な　迷惑な　申し訳ない　物足りない　憂うつな |
| B【指標 1○　指標 2○　指標 3×　49 語】<br>あたたかい(暖・温)　あたたかな(暖・温)　暑い　熱い　ありがたい　あわただしい<br>忙しい　痛い　おかしい(こっけい)　恐ろしい　おっかない　重い　重たい　快適な<br>かゆい　軽い　きつい　窮屈な　気楽な　くすぐったい　苦しい　煙い　煙たい　幸福な<br>怖い　寂しい　寒い　幸せな　すがすがしい　涼しい　退屈な　大変な　楽しい　多忙な<br>だるい　つまらない　冷たい　つらい　情けない　憎らしい　眠い　眠たい　暇な　複雑な<br>まぶしい　面倒な　面倒くさい　愉快な　煩わしい |
| C【指標 1×　指標 2○　24 語】<br>哀れな　うまい(おいしい)　うるさい　おいしい　おもしろい　かわいそうな　気の毒な<br>けがらわしい　さわやかな　渋い　邪魔な　深刻な　酸っぱい　切実な　大事な　大切な<br>頼もしい　苦い　ばかばかしい　ばからしい　まずい　珍しい　もったいない　やかましい |
| D【指標 1×　指標 2×　530 語】<br>曖昧な　青い　青白い　赤い　明るい　明らかな　あくどい　浅い　あさましい　鮮やかな<br>新しい　厚い　厚かましい　あっけない　危ない　甘い　危うい　怪しい　あやふやな<br>あらい(荒・粗)　新たな　荒っぽい　安易な　案外な　安心な　安全な　あんまりな<br>いい・よい　いいかげんな　いきなりな　勇ましい　異常な　意地悪な　偉大な<br>いたずらな　著しい　一様な　一律な　一生懸命な　卑しい　いやらしい　いろいろな<br>陰気な　インターナショナルな　薄い　薄暗い　美しい　空ろな　うまい(じょうずな)<br>浮気な　えらい　エレガントな　円滑な　婉曲な　円満な　多い　大柄な　大きい　大きな<br>大げさな　おおざっぱな　オートマチックな　オーバーな　大幅な　オープンな　大まかな<br>おかしいな(変な)　臆病な　厳かな　幼い　おしゃべりな　おしゃれな　遅い　穏やかな<br>おとなしい　同じ　おびただしい　おめでたい　思いがけない　愚かな　おろそかな<br>温暖な　温和な　格別な　賢い　過剰な　かたい(堅・固・硬)　勝手な　活発な　かなりな<br>可能な　過密な　からい　かわいい(外見がよい)　かわいらしい　簡潔な　頑固な　頑丈な<br>感心な　肝心な　完全な　簡素な　簡単な　完璧な　寛容な　黄色い　気軽な　危険な<br>きざな　汚い　貴重な　几帳面な　厳しい　気まぐれな　きまじめな　奇妙な　急激な<br>急速な　清い　器用な　強硬な　恐縮な　共通な　強力な　強烈な　極端な　きらいな<br>きらびやかな　きれいな　勤勉な　偶然な　臭い　くだらない　くどい　暗い　黒い<br>詳しい　軽快な　軽率な　けちな　傑作な　下品な　険しい　謙虚な　現金な　健康な<br>健在な　厳重な　健全な　謙遜な　厳密な　懸命な　賢明な　濃い　強引な　幸運な<br>高価な　豪華な　高級な　高尚な　公正な　好調な　高等な　公平な　巧妙な　小柄な<br>快い　こっけいな　孤独な　好ましい　細かい　細やかな　コンクリートな　困難な<br>最高な　最低な　幸い　逆さまな　盛んな　様々な　騒がしい　残酷な　塩辛い　四角な<br>四角い　自在な　静かな　自然な　親しい　シックな　しつこい　質素な　失礼な<br>しとやかな　しなやかな　しぶとい　地味な　自由な　重大な　柔軟な　十分な　重要な<br>主要な　純情な　純粋な　順調な　しょうがない　消極的な　詳細な　正直な　上手な<br>上等な　上品な　丈夫な　白い　真剣な　神聖な　親切な　新鮮な　迅速な　慎重な<br>垂直な　ずいぶんな　ずうずうしい　好きな　少ない　すごい　健やかな　素敵な　素直な |

すばしこい　すばやい　すばらしい　ずぶぬれな　スマートな　ずるい　鋭い　正確な
清潔な　精巧な　正式な　誠実な　清純な　正常な　盛大な　ぜいたくな　静的な　正当な
精密な　積極的な　狭いな　先天的な　善良な　相応な　早急な　騒々しい　壮大な
相当な　そそっかしい　そっくりな　そっけない　率直な　ソフトな　素朴な　粗末な
ぞんざいな　大丈夫な　大層な　大胆な　対等な　大部な　怠慢な　タイムリーな　平らな
高い　たくましい　巧みな　正しい　達者な　妥当な　だぶだぶな　たまらない　だめな
たやすい　多様な　だらしない　単一な　短気な　単純な　単調な　小さい　小さな　近い
力強い　知的な　茶色い　忠実な　重宝な　著名な　痛切な　月並みな　強い　強気な
丁寧な　でかい　手軽な　適格な　適切な　適度な　適当な　でこぼこな　手頃な
でたらめな　手近な　同一な　当然な　動的な　尊い　同様な　遠い　得意な(上手な)
独自な　特殊な　独特な　特別な　特有な　乏しい　ドライな　鈍感な　とんでもない
長い　和やかな　情け深い　名高い　なだらかな　何気ない　生意気な　生臭い　生ぬるい
滑らかな　なれなれしい　ナンセンスな　苦手な　にぎやかな　鈍い　ぬるい　熱心な
望ましい　のどかな のろい　のんきな　はかない　薄弱な　莫大な　はげしい　はでな
甚だしい　華々しい　華やかな　はやい(早・速)　はるかな　ハンサムな　反対な　半端な
卑怯な　低い 久しい　久しぶりな　悲惨な　非常な　ひそかな　ひたすらな　必然な
ぴったりな 必要な　ひどい　等しい　一筋な　皮肉な　秘密な　微妙な　平等な　平たい
広い 敏感な　貧困な　貧弱な　頻繁な　貧乏な　不意な　不運な　深い　不可欠な
不規則な　不吉な　不景気な　不潔な　不幸な　ふさわしい　無事な　不自由な　不順な
不振な　不正な　不足な　不調な　物騒な　太い　不当な　無難な　不評な　不便な
不明な 不利な　フリーな　不良な　古い　ブルーな　無礼な　ふわふわな　平凡な
平和な ベストな　別々な　変な　便利な　膨大な　豊富な　朗らかな　細い　本気な
紛らわしい　まじめな　貧しい　まちまちな　真っ赤な　真っ暗な　真っ黒な　真っ青な
真っ白な　真っ白い　まっすぐな　丸い　まんまるい　見苦しい　見事な　短い　惨めな
未熟な　みすぼらしい　身近な　密接な　みっともない　醜い　妙な　無意味な　無口な
無限な　無効な　蒸し暑い　無邪気な　難しい　無駄な　無知な　無茶な　無茶苦茶な
夢中な　無能な　むやみな　無用な　無理な　明確な　明白な　名誉な　明瞭な　明朗な
目覚ましい　めちゃくちゃな　滅多な　めでたい　猛烈な　モダンな　物好きな
ものすごい　もろい　易しい　優しい　安い　安っぽい　厄介な　やむをえない
ややこしい　やわらかい(柔・軟)　優位な　有益な　勇敢な　有効な　優秀な　優勢な
有能な　優美な　有望な　有名な　有利な　有力な　ユニークな　ゆるい　緩やかな
容易な　陽気な　幼稚な　欲張りな　欲深い　余計な　弱い　乱暴な　利口な　立派な
良好な　良質な　ルーズな　冷酷な　冷静な　冷淡な　露骨な　ロマンティックな　若い
わがまま　若々しい　悪い

## 8.　まとめ

以上、感情形容詞を「感情・感覚を表し得る形容詞」と定義し、以下 3 つの指標を用いて分類を行った。その結果を表 3 に示す。

指標 1:「花子は、～そうだ(だった)」が［内部ソウダ］として適格文になる。
指標 2:「花子は、～そうに～する(した)」が［内部ソウダ］として適格文になる。
指標 3:「～そうな名詞」が［外部ソウダ］にならない。

**表 3　形容詞の分類（まとめ）**

| | 指標 1<br>内部ソウダ<br>になる | 指標 2<br>内部ソウニ<br>になる | 指標 3<br>外部ソウナ<br>にならない | 語例 | 形容詞分類 | | 語数<br>計<br>642 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| A | ○ | ○ | ○ | 悲しい<br>残念な | 感情形容詞 | 典型的な感情形容詞<br>より経験者の状態を述べることを志向する | 39 |
| B | ○ | ○ | × | 寒い<br>快適な | | 対象の状態を述べることをも志向する | 49 |
| C | × | ○ | | うるさい<br>気の毒な | 属性形容詞 | 副詞句としてある限定された時間における動きの行われ方を表すことにより感情形容詞のように振る舞う | 24 |
| D | × | × | | 明るい<br>静かな | | 典型的な属性形容詞 | 530 |

表 2 の A 群と B 群は、感情・感覚を表し得、感情形容詞と言える。A 群は、より経験者の状態を述べることを志向する形容詞である。B 群は、対象の状態を述べることをも志向する形容詞である。「寒い」「快適だ」等、従来の「私は、～い。」が言えるかどうかという指標での判断が難しい語は、B 群に入っている。D は、典型的な属性形容詞である。C 群は、属性形容詞であるが「おいしそうに食べる」のように、副詞句としてある限定された時間における動きの行われ方を表すことによって、感情形容詞のように振る舞うことを見た。そして、この際、「おいしい食べ物を食べるときの食べ方」が日本語話者の中で共有されている必要があることを述べた。

この指標は、「憎い」「かわいい(愛しい)」のように、ソウダがつかない語をテストできないという難点があるが、今回の考察の対象に入っていない語彙もテストできるという点で有効なものであると考えている。

【資料】

沖森卓也・中村幸弘編(2003)『表現読解国語辞典』ベネッセ
国際交流基金(2002)『日本語能力試験出題基準〔改訂版〕』凡人社
三省堂編集所編(2001)『大きな活字のコンサイスカタカナ辞典第』第 2 版 三省堂

# 第３章　感情形容詞の使用実態　―属性形容詞との対比を通して―

## 1.　はじめに

第 3 章では、感情形容詞が文中でどのように使われているのか、コーパスを用いて属性形容詞との対比を通して見ていく。

コーパスは、国立国語研究所の『現代日本語書き言葉均衡コーパス(Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese,略称BCCWJ)を用いる。BCCWJは、「生産実態(出版)サブコーパス」「流通実態(図書館)サブコーパス」「非母集団サブコーパス(特定目的)」という３つのサブコーパスからなる約１億語のコーパスである[1]。本研究では、そのうちコアデータ(人手調整済みデータ)の「生産実態(出版)サブコーパス」の 714,822 語を対象として検索を行い、イ形容詞 8,274 例を考察の対象とした[2]。

BCCWJ の形容詞を感情形容詞 2 群、属性形容詞 2 群の計 4 群に分類し、活用形を活かしつつ、述語との関係という観点から文の成分として分類を施し、出現度数を調査した。その結果、形容詞全体では、「寂しいのだ」のような例を活用形の連体形ではなく述部として見ると、形容詞は述部として用いられることが最も多いことが明らかになった。また、典型的な感情形容詞 A 群は、他の形容詞群と比較すると、修飾部(副詞句)として使われることが少ないことが明らかになった。

なお、BCCWJ からの用例には、(　)に出典を示す。用例の下線は筆者によるもので、用例で出典の無いものは作例である。

## 2.　先行研究

形容詞が文中でどのように使われているかについては、いくつか先行研究がある。

細川(1990)は、「感情形容詞の連用用法」について考察を行うなかで、感情形容詞の連用用法(「～くなる」「～くする」「～くない」と「～そうに」等が続くものを除く)が出現する割合を調査している。『新潮現代文学 80』の他各種文庫本を資料とし、「資料内全数調査ではないため、統計的な数値は必ずしも有効ではない」との但し書き付きで、約 8,000 例の感情形容詞について、終止用法 50%、連体修飾用法 44%、連用修飾用法 6%という数字を出し、「連用修飾用法の使用率の低いことは指摘できよう」と述べている。

仁田(1998)は、「ごく小さな調査」として、『講談社ミステリー傑作選 4』を資料とし、形容詞が名詞を修飾限定する「装定用法」として使われるか、述語として働く「述定用法」として使われるか、動詞と比較する調査を行っている。その結果は、次の表 1 の通りであ

---

1 国立国語研究所ホームページ「言語コーパス整備計画 KOTONOHA」による。
http://www.ninjal.ac.jp/kotonoha/　(最終閲覧日 2012.09.01)

2「生産実態(出版)サブコーパス」コアデータの語数は、コーパス検索アプリケーション中納言の「語数について」に「2012/03/30 時点」として掲載された語数である。
https://chunagon.ninjal.ac.jp/search/about/suw　　(最終閲覧日 2012.09.01)

る。さらに、仁田(1998)は、形容詞のタイプと装定用法・述定用法の関係についても調査を行っている。形容詞を「属性形容詞」「評価・判断形容詞」「感情・感覚形容詞」の 3 つに分類し、それぞれの装定用法・述定用法の出現度数を調査している。その結果は、次の表 2 の通りである。そして、おおよその傾向として、属性形容詞は用法の中心が装定であり、評価・判断形容詞と感情・感覚形容詞は述定が多いと指摘している。

**表 1　仁田(1998)**

| | 述定 | 装定 |
|---|---|---|
| 動詞 | 850(85%) | 159(15%) |
| 形容詞 | 250(37%) | 428(63%) |

**表 2　仁田(1998)**

| | 述定 | 装定 |
|---|---|---|
| 属性 | 99 | 325 |
| 評価・判断 | 102 | 76 |
| 感情・感覚 | 49 | 27 |

八亀(2008)も、形容詞が述語として機能するか、規定語として機能するか、シナリオ・小説・週刊誌(アエラ)という 3 つの資料で調査を行っている[3]。八亀(2008)は、形容詞の連用形のうち、修飾語や状況語として用いられたものは、考察の対象から外すという立場をとっている(p. 21)。また、次の(1)は、「『吉村先生は』という主語に対して、述語が与えている属性は『先生だ』ではなく『やさしい』の部分である」と述べ、実質的には形容詞が述語として機能しているものとし、述語として扱っている(p. 56)[4]。

(1) 吉村先生はやさしい先生です。　　(八亀 2008)

そして、シナリオの 314 例については、述語 82%、規定語 18%、小説の 352 例については、述語 64%、規定語 36%という数字を挙げ、述語が多いことを指摘している(p. 136)。週刊誌(アエラ)については、数字は挙げていないが、「規定語として機能する場合の割合の方が高い」と述べている(p. 144)。

以上のように、形容詞の文中での使われ方については、形容詞の種類や資料によって異なるという興味深い指摘がなされている。しかしながら、細川(1990)は、感情形容詞についてのみ調査をしたものであるし、仁田(1998)と八亀(2008)は、小規模な調査である。

本研究では、コーパスのデータを用い、感情形容詞と属性形容詞の比較を通して、感情形容詞が文中でどのように使われているのかを調査していく。3 節で、第 2 章で見た形容詞の分類を確認し、4 節で活用形別のデータを、5 節で文の成分別のデータを示す。

[3]八亀(2008)の「規定語」は、鈴木(1972)の「文の部分」の分類に基づくものであり、「名詞からなる文の部分(主語・述語・対象語・状況語)にかかり、人・もの・場所・時などの特徴を説明する文の部分」であると述べられている。

[4] 新屋(2009)も名詞述語文と形容詞述語文についての論考で、「あの子は素直だ。」と「あの子は素直な子だ。」という文を比較し、後者の「子」は「主題の上位概念で、情報的に無意味」であり、この 2 つの文は、実質的には同じことを意味するという指摘を行っている。

## 3. 調査の対象

### 3.1. 調査対象の語彙数

BCCWJのコアデータの短単位検索の形容詞の出現度数は、9,731 語である[5]。そのうち表 3 の 1,457 例を考察の対象から外し、8,274 例を考察の対象とする。

**表 3 考察の対象から外す例**

| | |
|---|---|
| 形容詞否定辞「ない」 | 167 |
| 名詞・ナ形容詞否定辞「ない」 | 1,169 |
| 補助形容詞「てほしい」 | 121 |
| 計 | 1,457 |

BCCWJの「ない」は 2,810 例あるが、この中に形容詞の否定辞(形容詞くない) 167 例と名詞・ナ形容詞の否定辞(名詞・ナ形容詞でない) 1,169 例が含まれている[6]。本研究では、形容詞の否定辞は形容詞の活用語尾、名詞の否定辞は名詞につく判定辞の否定形、ナ形容詞の否定辞はナ形容詞の活用語尾と考え、考察の対象から外す。また、形容詞「ほしい」161 例のうち「～てほしい」121 例も、補助形容詞として考察の対象から外し、8,274 例を考察の対象とする。なお、5 節からは、8,274 例から「恥ずかし(がる)」「恥ずかし(さ)」の「恥ずかし」のような語幹 613 例を除いた 7,661 例を考察の対象とする。

### 3.2. 調査対象の形容詞の分類

第 2 章で、感情形容詞を「感情・感覚を表し得る形容詞」と定義し、いわゆる様態のソウダを用い、感情形容詞 2 群と属性形容詞 2 群の計 4 群に分類する案を提示した。ここでもう一度簡単に確認をしておく。

(2) a. 花子は、悲しそうだ。
　　b. ［花子は悲しいと思っている］ように見える。
(3) a. 花子は、賢そうだ。
　　b. ~~［花子は賢いと思っている］ように見える。~~
　　c. ［花子は賢い人間である］ように見える。

---

5 「言語コーパス整備計画 KOTONOHA」によれば、BCCWJ の言語単位には、「文節を基にした」長単位と、「意味を持つ最小の単位」を規定し、それを「文節の範囲内で短単位の認定基準に基づいて結合させる(又は結合させない)」という過程を経て得られる短単位がある。形容詞でいえば、「～たい」や「～らしい」「～やすい」等は、長単位では形容詞として検索されるが、短単位では検索されない。そのため長単位では「コートダジュールらしい」や「アプローチし易い」のようなものも含まれるため、「感情形容詞の使用実態を明らかにする」という目的には短単位の方が適していると判断し、短単位を使用した。
国立国語研究所ホームページ「言語コーパス整備計画 KOTONOHA」
http://www.ninjal.ac.jp/kotonoha/ (最終閲覧日 2012.09.01)

6 形容詞否定辞と名詞・ナ形容詞否定辞には、独自にタグ付けを行った。

(2a)は(2b)であり、「悲しそうだ」は、花子の心の様子を推し測っている。一方、(3a)は(3b)ではなく(3c)であり、「賢そうだ」は、花子の属性を推し測っている。このように「ソウダ」は前接する形容詞によって、[～と思っている／感じているように見える] ということができ、心の様子を推し量る場合と、対象の属性を推し量る場合がある。前者を [内部ソウダ]、後者を [外部ソウダ] と呼び、以下の 3 つの指標を用い、指標 1・2 を満たすものを感情形容詞と認定する。

指標 1:「花子は、～そうだ(だった)」が [内部ソウダ] として適格文になる。
指標 2:「花子は、～そうに～する(した)」が [内部ソウダ] として適格文になる。
指標 3:「～そうな名詞」が [外部ソウダ] にならない。

指標 3 は、感情形容詞と認められた形容詞を「対象の状態ではなく、より経験者の状態を述べることを志向する性質を持っている」語と、そうではない語に分類をする指標である。例を見てみよう。

(4) a. *うらやましそうな　話／高待遇／美貌
　　b. うらやましそうな　顔／声／様子／目
(5) a. きつそうな　坂／仕事／スカート／コース
　　b. きつそうな　顔／表情／様子／息遣い

(4)の「うらやましい」は、(4a)のような言い方はできず、「より経験者の状態を述べることを志向する性質」を持っている語であると考えられる。(5)の「きつい」は、(5a)のような言い方が可能であり、「経験者の状態だけでなく、対象の状態を表すことをも志向する」性質を持っている語であると言える。「うらやましい」の群を感情形容詞 A、「きつい」の群を感情形容詞 B と呼ぶ。

また、次の「うるさい」のように指標 1 は満たさないが、指標 2 を満たす語をひとつの群として取り出した。

(6) a. 花子は、うるさそうだ。
　　b. ~~[花子は、うるさいと思っている] ように見える~~。
　　c. [花子は、大声で話す迷惑な人間である] ように見える。
(7) a. 花子は、うるさそうに耳をふさいだ。
　　b. 花子は [花子がうるさいと思っているように見えるやり方で] 耳をふさいだ。
　　c. ~~花子は [花子が大声で話す迷惑な人間であるように見えるやり方で] 耳をふさいだ。~~

(6a)は、花子に「うるさい」という属性があるように見えるという外部ソウダである。内部ソウダにするには、「うるさそうにしていた」のように副詞句にしなければならない。しかし、副詞句として用いられた(7a)は心の様子を推し測る内部ソウダであり、指標 2 は満たす。「うるさい」は、副詞句としては感情形容詞と同様の振る舞いをするのである。この「うるさい」のような語を属性形容詞ではあるものの、感情形容詞とも類似点を持つ語として位置付ける。「うるさい」の群を属性形容詞 C、残りを属性形容詞 D と呼ぶ。以上の形容詞分類の概略を表 4 に示す。

**表 4　形容詞分類の概略**

| | 語例 | 指標 1<br>内部ソウダになる | 指標 2<br>内部ソウニになる | 指標 3<br>外部ソウナにならない |
|---|---|---|---|---|
| A | 悲しい | ○ | ○ | ○ |
| B | 寒い | ○ | ○ | × |
| C | うるさい | × | ○ | |
| D | 明るい | × | × | |

この形容詞分類は、典型的な感情形容詞群 A と典型的な属性形容詞群 D があり、その中間に B と C をたてた分類である。B は感情形容詞、C は属性形容詞と考える。この 4 つの形容詞群の使われ方を調査し、感情形容詞と属性形容詞の使われ方に違いがあるのかを明らかにする。

BCCWJの形容詞 8,274 例に、上記の形容詞分類に基づきタグ付けを行った。各群の異なり語数と延べ語数は、次の表 5 の通りである。なお、5 節の文の成分による分類では、語幹は文の成分になる際には他の品詞に転成するので、考察の対象から外す[7]。そのため、表 5 には、語幹の数も示す。

表 6 に、各群の形容詞と各語の延べ語数を示す。単語の次にある数字は述べ語数で、数字のないものは述べ語数が 1 であることを示す[8]。

7 語幹で他品詞に転成せずに用いられる例が 613 例中 4 例あった。語幹については、4.2 で詳しく述べる。

8 BCCWJ の語彙素の「旨い」「可愛い」「可笑しい」については、「旨い」(おいしい／じょうずな)、「可愛い」(愛しい／外見がよい)、「可笑しい」(こっけいな／へんな)の 2 義を認めた。よって、この 3 語は、表 6 の形容詞分類では、2 つの群に出現する。

表 5　形容詞群別形容詞の異なり語数と延べ語数

| | 異なり語数 | 延べ語数 |
|---|---|---|
| 感情形容詞 A | 33 | 230<br>（語幹以外　178）<br>（語幹　52） |
| 感情形容詞 B | 33 | 567<br>（語幹以外　485）<br>（語幹　82） |
| 属性形容詞 C | 15 | 236<br>（語幹以外　212）<br>（語幹　24） |
| 属性形容詞 D | 266 | 7,241<br>（語幹以外　6,786）<br>（語幹　455） |
| 計 | 347 | 8,274<br>（語幹以外　7,661）<br>（語幹　613） |

表 6　形容詞群別語彙リスト

| |
|---|
| **感情形容詞Ａ（異なり語数 33　述べ語数 230 語）**<br>嬉しい 46　ほしい 40　懐かしい 21　悲しい 18　後ろめたい 13　悔しい 13　恥ずかしい 11<br>惜しい 10　切ない 7　空しい 7　羨ましい 5　可愛い 4　気まずい 4　心強い 3　誇らしい 3<br>愛しい 2　疎ましい 2　恨めしい 2　気忙しい 2　恋しい 2　心細い 2　待ち遠しい 2<br>いとおしい　いぶかしい　気怠い　口惜しい　心苦しい　こっ恥ずかしい　憎い　歯痒い<br>腹立たしい　晴れがましい　物欲しい |
| **感情形容詞Ｂ（異なり語数 33　述べ語数 567）**<br>楽しい 76　重い 70　軽い 57　寒い 37　つらい 34　怖い 32　忙しい 26　温かい 25　熱い 25<br>冷たい 23　痛い 22　寂しい 22　苦しい 18　暑い 14　有り難い 14　恐ろしい 9<br>きつい 8　心地良い 8　涼しい 8　重たい 6　可笑しい 5　眠い 5　清々しい 4　慌ただしい 3<br>息苦しい 2　おっかない 2　痒い 2　くすぐったい 2　怠い 2　まぶしい 2　煩わしい 2<br>かったるい　眩い |
| **属性形容詞Ｃ（異なり語数 15　述べ語数 236）**<br>面白い 78　美味しい 58　珍しい 41　旨い 17　うるさい 14　苦い 6　渋い 5　疑わしい 4<br>馬鹿馬鹿しい 4　頼もしい 3　酸っぱい 2　忌まわしい　うざったい　物珍しい　やかましい |
| 属性形容詞Ｄ（異なり語数 266　述べ語数 7,241）<br>ない 1,474　いい 935　多い 413　高い 287　大きい 245　強い 235　少ない 179　新しい 168<br>長い 159　悪い 142　早い 140　若い 129　近い 119　深い 117　美しい 111　厳しい 100<br>難しい 95　小さい 80　激しい 76　広い 74　凄い 72　旨い 69　安い 64　低い 58<br>優しい 56　古い 55　白い 51　正しい 47　明るい 46　甘い 45　詳しい 41　酷い 41<br>薄い 37　固い 37　短い 37　弱い 37　可愛い 35　暗い 35　遠い 35　細かい 27 |

素晴らしい 26　厚い 25　狭い 25　濃い 24　鋭い 24　幅広い 24　赤い 23　遅い 23
黒い 22　幼い 21　可笑しい 20　素早い 20　青い 17　久しい 17　貧しい 17　親しい 16
相応しい 16　物凄い 16　太い 14　軟らかい 14　仕方無い 13　丸い 13　偉い 12　根強い 12
不味い 12　醜い 12　怪しい 11　賢い 11　力強い 11　手早い 11　乏しい 11　程良い 11
著しい 10　大人しい 10　可愛らしい 10　細い 10　浅い 9　危ない 9　好ましい 9
情けない 9　手厚い 8　でかい 8　めでたい 8　危うい 7　薄暗い 7　汚い 7　快い 7
逞しい 7　鈍い 7　望ましい 7　潔い 6　黄色い 6　粘り強い 6　呆気ない 5　あどけない 5
麗しい 5　からい 5　ごつい 5　さり気無い 5　しつこい 5　凄まじい 5　尊い 5　生々しい 5
等しい 5　止む無い 5　柔らかい 5　甘ったるい 4　粗い 4　淡い 4　勇ましい 4　険しい 4
懐こい 4　賑々しい 4　根深い 4　華々しい 4　細長い 4　安っぽい 4　危なっかしい 3
甘酸っぱい 3　荒い 3　輝かしい 3　臭い 3　香ばしい 3　小うるさい 3　騒々しい 3
素っ気ない 3　頼り無い 3　所狭い 3　生温かい 3　生臭い 3　甚だしい 3　平たい 3
分厚い 3　もろい 3　緩い 3　愛らしい 2　青白い 2　悪しい 2　味気無い 2　荒々しい 2
卑しい 2　初々しい 2　奥深い 2　おこがましい 2　木目細かい 2　際どい 2　極まりない 2
くどい 2　心無い 2　心もとない 2　小高い 2　すばしこい 2　狡い 2　だだっ広い 2
近しい 2　力無い 2　肌寒い 2　腹黒い 2　ふがいない 2　程近い 2　程遠い 2　微笑ましい 2
みっともない 2　目覚ましい 2　目まぐるしい 2　やばい 2　よろしい 2　弱々しい 2
愛くるしい　あえない　青臭い　赤黒い　あくどい　浅ましい　汗臭い　厚かましい
熱苦しい　荒っぽい　いかがわしい　いじらしい　いとわしい　嫌らしい　薄汚い
うずたかい　薄っぺらい　疑い深い　疎い　恭しい　恨みがましい　うら若い　縁遠い
惜しみ無い　おぞましい　おびただしい　おぼつかない　思わしい　愚かしい
かいがいしい　難い　堅苦しい　金臭い　黴臭い　か細い　がめつい　軽々しい　考え深い
甲高い　芳しい　気軽い　きな臭い　気安い　清い　仰々しい　口うるさい　口やかましい
気高い　けたたましい　神々しい　心憎い　こっ酷い　酒臭い　騒がしい　しどけない
しぶとい　図々しい　せこい　せわしない　ださい　たどたどしい　たやすい　茶色い
土臭い　手痛い　手堅い　手厳しい　手強い　どぎつい　刺々しい　どでかい　長たらしい
名高い　なまめかしい　生易しい　涙ぐましい　苦々しい　似付かわしい　粘い　野太い
はかない　ふてぶてしい　ぼろい　ほろ苦い　みずぼらしい　瑞々しい　みみっちい
蒸し暑い　睦まじい　目新しい　めざとい　物寂しい　物々しい　易しい　易い
ややこしい　揺るぎない　よそよそしい

## 4.　活用形による分類

初めに活用形別の出現度数を見ていく。BCCWJ の活用形のタグは、終止形(少ない)、連体形(少ない(＋名詞))、連用形(少なく)、語幹(少な)、未然形－補助動詞(少なから(ず))、意志推量形(少なかろう)、仮定形(少なけれ(ば))、命令形(少なかれ)の 8 つである。8,274 例のうち、連用形は 2,526 例(30.5%)である。BCCWJ の連用形には、次の通りにタグを付けなおした。「～くない」「～かった」「～くなかった」は、形容詞の活用形と考え終止形とし

た。「～くない」「～かった」「～くなかった」が名詞を修飾している例は、連体形とした。また、「～くなさ(そう)」は語幹とした。BCCWJ の連用形に新たに付けたタグは、次の表 7 の通りである。

**表 7　BCCWJ の連用形に新たにつけたタグ**

| | 語幹 | 終止形 | 連体形 | 連用形 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|
| BCCWJ 連用形 | 1 | 385 | 137 | 2,003 | 2,526 |

### 4.1.　活用形別のデータ

各形容詞群の活用形別の出現度数を次の表 8 に示す。図 1 は、出現度数の少ない未然形・意志推量形・仮定形・命令形を「その他」としてまとめ、グラフにしたものである。

**表 8　活用形別の出現度数**

| | 語幹 | 終止形 | 連体形 | 連用形 | 未然形 | 意志<br>推量形 | 仮定形 | 命令形 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 感情<br>形容詞 A | 52 | 63 | 80 | 33 | 1 | 0 | 1 | 0 | 230 |
| | 22.6% | 27.4% | 34.9% | 14.3% | 0.4% | 0.0% | 0.4% | 0.0% | 100% |
| 感情<br>形容詞 B | 82 | 113 | 228 | 142 | 2 | 0 | 0 | 0 | 567 |
| | 14.5% | 19.9% | 40.2% | 25.0% | 0.4% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 100% |
| 属性<br>形容詞 C | 24 | 83 | 90 | 37 | 0 | 0 | 2 | 0 | 236 |
| | 10.2% | 35.2% | 38.1% | 15.7% | 0.0% | 0.0% | 0.8% | 0.0% | 100% |
| 属性<br>形容詞 D | 455 | 2,021 | 2,904 | 1,791 | 9 | 7 | 49 | 5 | 7,241 |
| | 6.3% | 27.9% | 40.1% | 24.7% | 0.1% | 0.1% | 0.7% | 0.1% | 100% |
| 計 | 613 | 2,280 | 3,302 | 2,003 | 12 | 7 | 52 | 5 | 8,274 |
| | 7.4% | 27.6% | 39.9% | 24.2% | 0.1% | 0.1% | 0.6% | 0.1% | 100% |

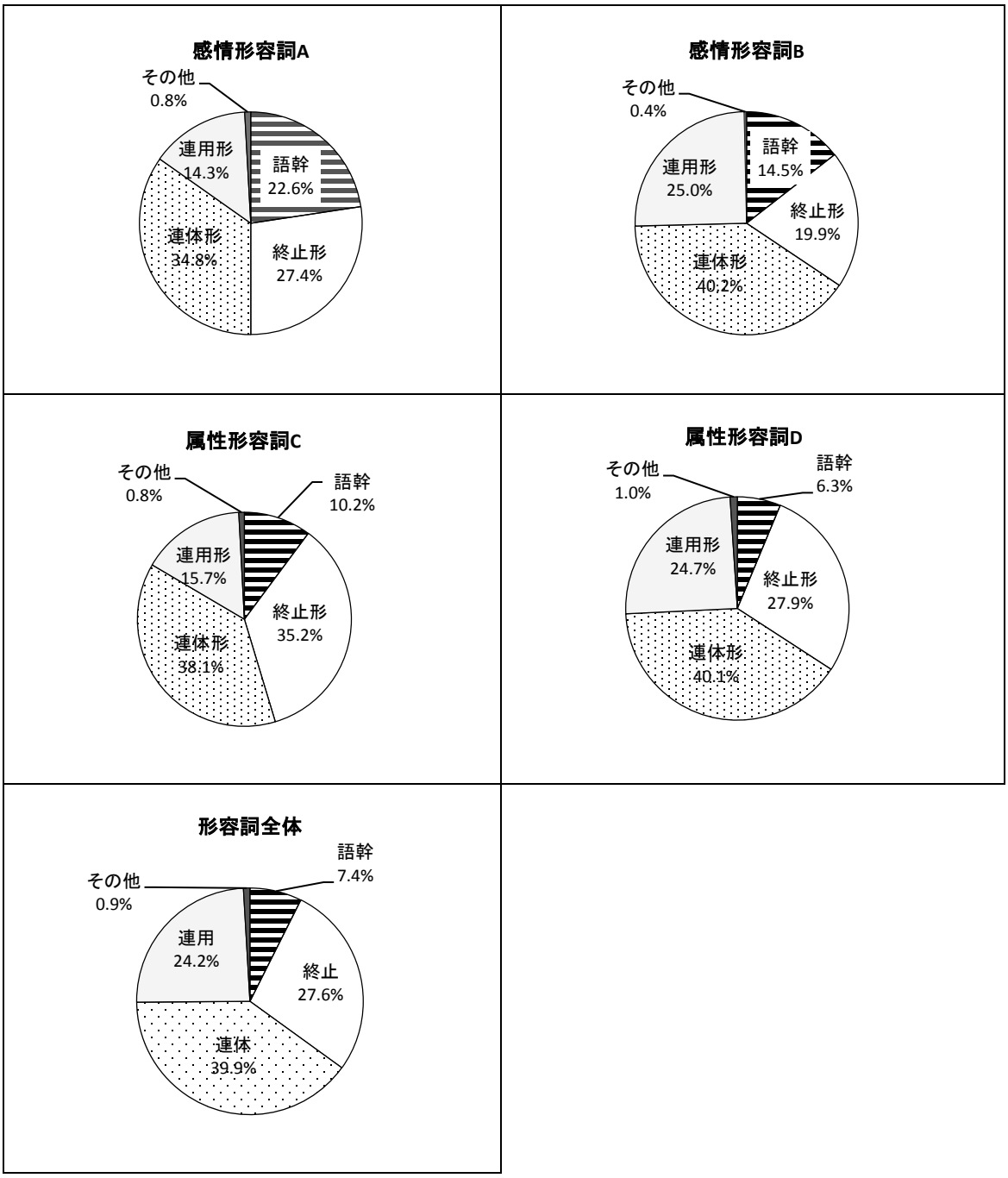


図１見ると、語幹の出現度数が A・B・C・D の順に多い。このことから、感情形容詞は、語幹が使われることが多いと言える。語幹については、次節で詳しく見ていく。

図１の形容詞全体のグラフを見ると、形容詞は連体形で使用されることが 39.9%と最も多く、次いで、終止形 27.6%である。2 節で見た仁田(1998)でも、形容詞は装定が述定よりも多いとされており、同じ結果であるように見える。しかし、仁田(1998)で挙げられている装定の例は、次の(8)(9)のように被修飾名詞が実質名詞の例だけである。

(8) やわらかい樹幹に深い穴ができていて、
(9) まるで懐かしい人物に出会ったかのような～　　(仁田 1998)

仁田(1998)では、次のような(10)のような例は、どちらに分類されているのだろうか。装定を「名詞を修飾限定する用法」であるとしているので、装定であると思われるが定かではない。

(10)あの店のすしは、おいしいのに、売れない。

(10)の「おいしい」は、連体形であるが、意味的には(11)に近く、「あの店のすし」の属性を述べている部分である。

(11)あの店のすしは、おいしいけれども、売れない。

そこで、本研究では、(10)も(11)も述語として働くものとして扱い、形容詞が実際にどのように使われているのかを明らかにしていきたい。
また、連体形は、被修飾名詞が実質名詞か形式名詞かというだけではなく、(12)のように述語の補語になる場合もあれば、(13)のように名詞句とともに述部となる場合もある。

(12)おいしいすしを食べた。
(13)父のおみやげは、おいしいすしだった。

本研究では、5節で詳しく述べるが、(12)は補部、(13)は名詞句述部として扱い、述語との関係という観点から形容詞がどのように使われているかを見ていく。
また、図1の形容詞全体のグラフを見ると、連用形は24.2%である。終止形は主に述語になることが明らかであるが、連用形は、果たしてどのように使われているのであろうか。活用形による分類では、(14)－(16)は、すべて連用形である。

(14)おすしをおいしくいただいた。
(15)このおすしは、ゆずを振り掛けると、いっそうおいしくなります。
(16)おすしがあまりにもおいしくて、涙が出た。

本研究では、(14)は非必須成分である修飾部とする。(15)は述語動詞の必須成分であり、動詞とともに述語を構成するものとして「動詞句述部」と呼び分類を行う。(16)は、「テ形述部」と呼び、主節への従属節が高い述部を構成するものとして分類する。

以上のように、活用形を活かしつつ、述語動詞との関係という観点から分類を行い、形容詞の使用実態を明らかにし、感情形容詞と属性形容詞の使われ方の異同を調査する。

### 4.2. 感情形容詞の語幹の出現頻度が高い理由

述語との関係という観点からの分類の前に、語幹について詳しく見ておきたい。4.1 で、感情形容詞の語幹の出現度数が高いことを見た。表 9 に各形容詞群の語幹に後接する形式と割合を示し、感情形容詞の語幹の出現頻度が高い理由を考察する。

**表 9　語幹に後接する形式**

| | ～がる | ～げ | ～さ | ～すぎる | ～そう | その他 | 複合名詞 | ぶり | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 感情形容詞 A | 9<br>17.3% | 9<br>17.3% | 17<br>32.8% | 0<br>0.0% | 15<br>28.8% | 2<br>3.8% | 0<br>0.0% | 0<br>0.0% | 52<br>100% |
| 感情形容詞 B | 4<br>4.9% | 5<br>6.1% | 53<br>64.6% | 3<br>3.7% | 16<br>19.5% | 0<br>0.0% | 1<br>1.2% | 0<br>0.0% | 82<br>100% |
| 属性形容詞 C | 1<br>4.2% | 0<br>0.0% | 14<br>58.3% | 1<br>4.2% | 5<br>20.8% | 0<br>0.0% | 3<br>12.5% | 0<br>0.0% | 24<br>100% |
| 属性形容詞 D | 1<br>0.2% | 10<br>2.2% | 336<br>73.9% | 36<br>7.9% | 36<br>7.9% | 2<br>0.4% | 20<br>4.4% | 14<br>3.1% | 455<br>100% |
| 計 | 15<br>2.4% | 24<br>3.9% | 420<br>68.6% | 40<br>6.5% | 72<br>11.7% | 4<br>0.7% | 24<br>3.9% | 14<br>2.3% | 613<br>100% |

表 9 を見てみると、「～さ」は、すべての形容詞群に表れ、A では約 3 割、B－D は約 6－7 割となっている。

「～がる」と「～げ」は、「いきがる」「新しがる」、「親しげ」等、属性形容詞にもつかないわけではないが、主に感情形容詞に後接するとされ、西尾(1972)では感情形容詞と属性形容詞を分類する指標のひとつとして用いられている接尾辞である。「～がる」と「～げ」は、A、B、C、D の順に低くなっている。また、本研究で感情形容詞の分類の指標として用いた「～そう」も A が約 3 割、B と C は約 2 割、D が約 1 割となっている。このように、A に「～がる」「～げ」「～そう」が多いのは、感情形容詞の人称制限によって感情形容詞が第三者の感情を述べる際にこういった形式を用いる必要があるためである。「～さ」のようにすべての形容詞につく接尾辞に加え、「がる」等のように感情形容詞に付きやすい接尾辞があることによって、感情形容詞の語幹の出現頻度が多くなるのであろう。

なお、複合名詞とは「形容詞語幹＋名詞」という語構成で名詞の一部になっている形容詞の語幹の数である。B では「あったかランチ」、C では「クラシック音楽ファン必読のオモシロ本」等、D では「安ホテル」「長丁場」「厚化粧女」「甘酸っぱ系」等がみられた。A には複合名詞が出てこなかったが、A にも「悔し涙」「うれし泣き」等があるため、データが少ないために出てこなかったと見るべきである。

「その他」は、語幹に助詞がついた例(17)－(19)と、語幹が単独で用いられた(20)である。

(17) 4年前に音楽事務所から声をかけられ、民謡や童謡、懐かしの歌謡曲など日本の名歌を取り上げるコンサートに、年に数回出演するようになった。
(『朝日新聞』)

(18)惜しや、五十鈴川の星と澄んだその目許も、鯰の鰭で濁ろう、と可哀に思う。
(『中日新聞』)

(19)主人は領事にパスポートをさしだして、ことばすくなに、ただ査証をしてくれと頼んだ。
(『八十日間世界一周』)

(20)日米首脳会談「沖縄基地」も議題に首相表明　難問山積、成果は期待 薄
(『産経新聞』)

「～ぶり」は、すべて「久しぶり」である。BCCWJ では、「久しぶり」の「ぶり」、「一年ぶり」の「ぶり」、「仕事ぶり」のぶりは、すべて「接尾辞（名詞的)」というタグがつけられており、本研究でも接尾辞として処理した。

以上、感情形容詞は属性形容詞よりも語幹が使われる頻度が高いこと、それは感情形容詞のいわゆる人称制限によると考えられることを見た。

## 5. 文の成分による分類

5節では、形容詞が文中でどのように使用されているのか、活用形による分類を活かしつつ、文の成分という観点から考察を行っていきたい[9]。本節では、形容詞8,274例から語幹613例を除き、残りの7,661例について考察を行う。

### 5.1. 文の成分として何をたてるか

コーパスの大量の用例を前にして、どのように分類するかは、非常に難しい問題である。複数の述部が補文として埋め込まれている文もあるからである。本研究では、形容詞が文の成分として関係を取り結ぶ最初の述語との関係という観点から、活用形を活かしつつ分類を行う。以下の図 2 のように大きく、形容詞述部、名詞句述部、テ形述部、補部、修飾部、動詞句述部、その他の 7 つに分類を行う。形容詞述部は、形容詞主節述部と形容詞従属節述部に、名詞句述部は、名詞句主節述部と名詞句従属節述部に下位分類を行った。そ

9 「文の成分」という用語を用いているが、ここでいう文の成分は一般的なものではない。工藤(2002)では、述語・主語・補語・修飾語・状況語・規定語・独立語の7つが文の成分としてたてられている。また、日本語記述文法研究会(2010)では、述語・主語・補語・修飾語・状況語・接続語・独立語・規定語・並列語の9の成分が挙げられている。本研究では、形容詞がどのように使われているのかを見るために、形容詞が名詞を修飾する規定語は被修飾名詞句の一部と考え補部として扱い、また、状況語も補部として扱っている。そして、「テ形述部」「動詞句述部」等、活用形が見える形で整理を試みたものである。

れぞれについて、以下で例を挙げながら詳しく説明を行う。

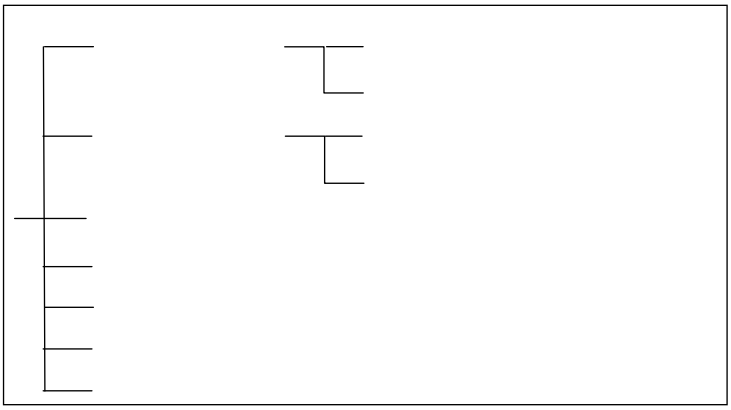

**図２　文の成分**

**Ⅰ　形容詞述部**

形容詞述部は、形容詞が主節および従属節の述部であるものである。

**Ⅰ－1　形容詞主節述部**

形容詞主節述部は、形容詞終止形がそのまま述語になるもの(21)(22)、または、終止形に「デス」がついたもの(23)である。また、モダリティ形式をはじめとする機能語を伴い述部になるもの(24)－(27)がある。(25)－(27)は、活用形による分類では「形容詞+名詞」であるが、形容詞終止形に機能語が付いたものとして扱いここに分類する。

(21)そう言われて改めて見ると、朝陽に輝く原野は確かに美しい。　（『小説宝石』）
(22)近年のアメリカ映画はさっぱり面白くない。　（『毎日新聞』）
(23)ゆっくり過ごされる方が多いです。　（『クロワッサン』）
(24)僕が「進化」と言うことに、反発を感じる人も多いかもしれない。
（『夢の架け橋』）
(25)「あたしは若いもん。気を使って、オヤジの神崎さんに合わせてただけよ」
（『小説宝石』）
(26)これ、じつは体の割りにとても小さいそうです。　（『オレンジページ』）
(27)「そんなことも考えないで、子供を産むつもりでいたのか。甘いんだよ」
（『青春と読書』）

機能語として扱うのものは、次の通りである。以下の形式の否定も機能語として扱う。

～かぎりだ　～せいだ　(終止形)そうだ　～だけだ　～のだ　～ばかりだ
～はずだ　～もん　～ようだ　～わけだ

### Ⅰ－2　形容詞従属節述部

形容詞従属節述部は、形容詞終止形または「形容詞終止形＋デス」に接続助詞や引用の「と」等がつくもの(28)(29)、「形容詞＋機能語」に接続助詞や引用の「と」等がつくもの(30)(31)である。これらは、従属節の述部ではあるが、「テ形述部」に比べて主節への従属度が低いと考えられるものである。

(28)いちいち引用書の名を出すのも煩わしいから、この点は自分のノートを信用してもらうことにしたい。（『毎日の言葉』）

(29)それを聞いたとき、私はこの女の子のことを美しいと思った。（『インド』）

(30)叩きながら痛いだろうなと思って、近くにあった新聞紙を丸めた。（『走り終わって考える』）

(31)「北海道舞台塾との共催で、各劇団の公演後に感想を語り合うアフタートークを開きます。プロがアマチュアを批評するのは難しいかもしれませんが、鐘下さんには厳しい目で見てほしいという気持ちもあります」（『北海道新聞』）

また、下記の形式も機能語として扱う。よって、(32)(33)のような例は、形容詞従属節述部となる。

～ので　～のに

(32)あの地下鉄の瞬きは、闇を走っていることを強烈に感じさせてくれて楽しかったので、なくなってしまって残念（『闇を歩く』）

(33)門脈という血管は、壁が薄いのに血流が多い。（『週刊現代』）

## Ⅱ名詞句述部

名詞句述部は、「形容詞＋名詞」が主節および従属節の述部になったものである。

### Ⅱ－1　名詞句主節述部

「形容詞+名詞」に判定辞「ダ」「デス」が付き述部になったもの(34)、それに機能語が付いたもの(35)を名詞句主節述部とする。なお、(36)(37)のような「もの」「こと」は、実質名詞と機能語との境界の判定が難しい例も多いため、すべて名詞として扱いここに分類した。

(34)地元民には、雰囲気、値段ともに馴染みの薄い場所だ。（『どこにいたってフツウの生活』）

(35)このとき、秋田さんには気になることがあった。泉津は、もっともお年寄りが多

い地区だったのだ。（『命を救え！愛と友情のドラマ』）

(36)診療所や訪問看護ステーションでは、本当に自分たちで予算をつくるのはなかなか難しいものです。（『 医療法人・医療生協の会計改革』）

(37)しかし、一日で醜い習慣を変え、美しさを創造するのはなんと難しいことだろうか。（『魂の燃ゆるままに』）

### Ⅱ－2　名詞句従属節述部

名詞句従属節述部は、「形容詞+名詞＋判定辞「ダ」「デス」」に接続助詞や引用の「と」がついたものである。

(38)阪神にすれば悔しい惜敗だが、その継投は何かを試していたようにもみえた。（『産経新聞』）

(39)「あなたと杉田は親しい間柄だと聞きました」（『青春と読書』）

### Ⅲ テ形述部

「テ形述部」は、形容詞が「～く」「～くて」「～ても」等の形式で従属節の述部になっているもの(40)－(42)である。また、活用形では「仮定形」であるもの(43)と「～たら」もここに分類する。「テ形述部」は、形容詞従属節述部、名詞句従属節述部に比べ、主節への従属度が高いと思われるものである。

(40)別居に至るまでの日々は悲しくつらいものでした。（『北海道新聞』）

(41)距離的には遠回りだが東名高速より車が少なくて、所要時間はほとんど変わらない。（『週刊朝日』）

(42)先場所の負け越しは苦しくても良い薬になったようだ。（『北海道新聞』）

(43)炊けたら野菜を竹ぐしで刺してみて、硬ければ数分保温する。（『朝日新聞』）

### Ⅳ 補部

補部は、「形容詞+名詞+助詞」という形で、文の補語として働くもの(44)(45)である。(44)のように「名詞句＋助詞」であるものと、(45)のように「名詞節＋助詞」であるものが混在している。これは、分類を試みたが判断に迷う例も多く、恣意的な分類になるよりは分類しないほうがよいという判断で一緒にした。「形容詞＋助詞」(46)も、補部に入れた。また、(47)の「幼いころ」ような助詞のつかない時の名詞句も、ゼロ助詞があるものとして補部に入れる。(48)のように助詞が脱落していると考え得るものも補部に入れる。

(44)今年の日本映画界は悲しいニュースで幕を開けた。（『産経新聞』）

(45)定職がない若者の納付意識が低いことも、滞納が増えた原因とみている。
（『西日本新聞』）

(46)一般的には、ファンドの運用資産が十億円を下回ったら繰上償還をするのが普通ですが、あくまでも運用のプロセスと照らし合わせて大きいか小さいかを見ていかなければなりません。（『経済界』）

(47)江崎は幼いころ父を失い、母に連れられて、母の再婚先へ来てから、愛に飢えていたのではないでしょうか。（『雪煙』）

(48)悪いことしたら本気で怒らないとだめですよ。（『北海道新聞』）

### Ⅴ　修飾部

修飾部は、「形容詞く」という形式で述語の程度やあり方を述べるもの(49)と、「形容詞くらいに」「形容詞ように」という形式で程度や述語の在り方を述べるもの(50)(51)、「形容詞ことに」という形式の陳述副詞(52)等である。

(49)私も出張などで東京や大阪に行ったときに、朝早く起きてカラスを観察することがあります。（『鳥羽水族館館長のジョーク箱』）

(50)そのことを、メンバーたちは、痛いくらいに強く感じていた。
（『命を救え！愛と友情のドラマ』）

(51)フォークも面白いように決まり結局、打者十九人で十三奪三振。（『読売新聞』）

(52)コンピュータに関する知識は玄人はだしでしたが、惜しいことに文系科目の成績が芳しくなかった。（『週刊現代』）

### Ⅵ　動詞句述部

動詞句述部とは、「～く+なる・する・思う(思われる・思える)・感じる(感じられる)・見える・聞こえる」の形容詞(53)(54)である。(55)のような例もここに入れる。これらは、述語動詞の必須成分であり、動詞句の一部となって述部を構成するものである。

(53)さっき飲んだ子供用の風邪薬が今ごろ効いてきたらしく、まぶたがとろりと重たくなってくる。（『IN　POCKET』）

(54)早乙女は初めて、他人の痛みを羨ましく思った。（『別冊文藝春秋』）

(55)一見すると国立大学病院の医師の給料は安いように思われる。（『週刊現代』）

### Ⅴ その他

新聞等の見出しで述語が何か判断ができないもの(56)や、体言止めの文の名詞句(57)は、その他とした。後者は、活用形ではなく述語との関係を見るという分類をすれば、名詞句

のみで使われた例の行き場がなくなってしまうという当然の帰結である。

(56)金融不信強く　海外メディアは不良債権問題に厳しい目を向ける。
（『西日本新聞』）

(57)目の前のハルコさんは昔とちっとも変わっていない。白いすべすべの肌、大きな瞳。（『走り終わって考える』）

以上が本研究で分類に用いる活用形を活かした文の成分である。

### 5.2. 文の成分別データ

BCCWJ の形容詞(語幹を除いた 7,661 語)に、文の成分によるタグ付けを行い分類した。結果は、次の表 10 の通りである。形容詞述部と名詞句述部の主節・従属節の下位分類は、表 11 に示す。図 3 は表 10 をグラフにしたものである。

**表 10　文の成分別の出現割合**

| | 形容詞述部 | 名詞句述部 | テ形述部 | 補部 | 修飾部 | 動詞句述部 | その他 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 感情形容詞 A | 72 | 12 | 13 | 49 | 12 | 14 | 6 | 178 |
| | 40.5% | 6.7% | 7.3% | 27.5% | 6.7% | 7.9% | 3.4% | 100% |
| 感情形容詞 B | 129 | 36 | 42 | 165 | 57 | 50 | 6 | 485 |
| | 26.6% | 7.4% | 8.7% | 34.0% | 11.8% | 10.3% | 1.2% | 100% |
| 属性形容詞 C | 97 | 13 | 16 | 59 | 17 | 8 | 2 | 212 |
| | 45.9% | 6.1% | 7.5% | 27.8% | 8.0% | 3.8% | 0.9% | 100% |
| 属性形容詞 D | 2,394 | 405 | 529 | 2,027 | 1,038 | 305 | 88 | 6,786 |
| | 35.2% | 6.0% | 7.8% | 29.9% | 15.3% | 4.5% | 1.3% | 100% |
| 計 | 2,692 | 466 | 600 | 2,300 | 1,124 | 377 | 102 | 7,661 |
| | 35.2% | 6.1% | 7.8% | 30.0% | 14.7% | 4.9% | 1.3% | 100.0% |

**表 11　形容詞述部と名詞句述部の下位分類**

| | 形容詞述部 | | 名詞句述部 | |
|---|---|---|---|---|
| | 主節 | 従属節 | 主節 | 従属節 |
| 感情形容詞 A | 52 | 20 | 8 | 4 |
| | 29.3% | 11.2% | 4.5% | 2.2% |
| 感情形容詞 B | 88 | 41 | 24 | 12 |
| | 18.1% | 8.5% | 4.9% | 2.5% |
| 属性形容詞 C | 69 | 28 | 8 | 5 |
| | 32.7% | 13.2% | 3.7% | 2.4% |
| 属性形容詞 D | 1497 | 897 | 219 | 186 |
| | 22.0% | 13.2% | 3.3% | 2.7% |
| 計 | 1706 | 986 | 259 | 207 |
| | 22.3% | 12.9% | 3.4% | 2.7% |

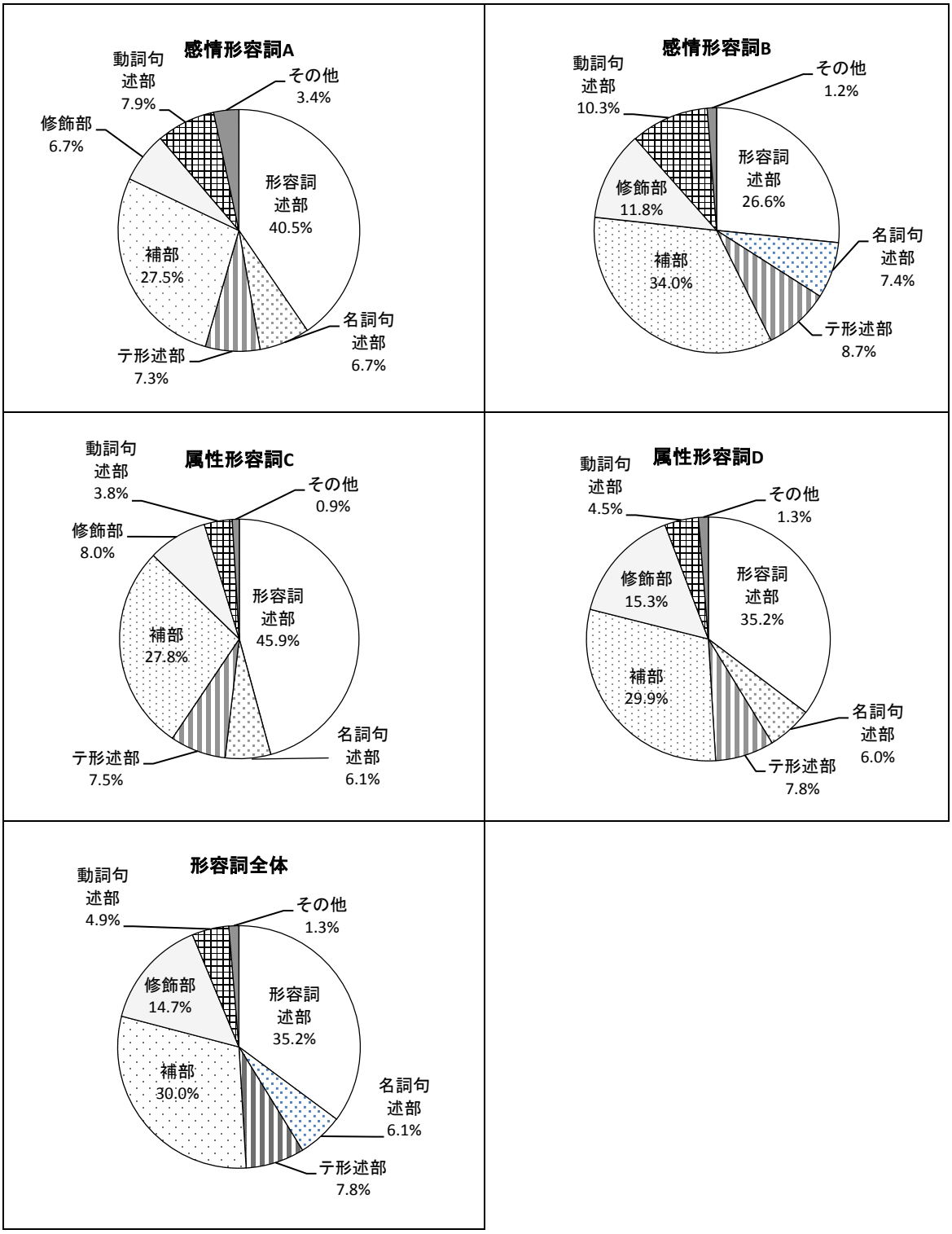


図 3　文の成分別の出現割合

図 3 を見ると、形容詞全体では、形容詞述部として用いられる場合が 35.2%と最も多く、次いで補部 30.0%、修飾部 14.9%である。先に、活用形で見ると、形容詞全体では連体形

が 39.9%と最も多いことを図１で見たが、「～のだ」等を形容詞述部と考えると、形容詞述部が 35.2%と最も多い。それに、「面白い話だ。」のような名詞述部の 6.1%、さらに、テ形述部の 7.8%も合わせると、述部は 49.1%で、約半数が述部であることがわかる。

また、各群のグラフを見てみると、A・C・D は、形容詞述部、補部の順であるが、B のみが補部、形容詞述部の順である。各形容詞群の異同については、次節でχ2 検定を行う。

### 5.3. χ2 検定

A－D の文の成分別出現度数について、形容詞群によって異なりがあるのか、$\chi^2$検定を行った。表 12 は、形容詞 A－D の文の成分別出現度数をクロス集計したものである。$\chi^2$検定の結果、感情形容詞 A－D の文の成分別出現度数の偏りは、有意であった（$\chi^2(18)=83.268$, $p<.001$）。残差分析の結果を表 13 に示す。表 13 の「*」は 5%水準で、「**」は 1%水準で有意差があることを示す。

**表 12　形容詞群別の形容詞の使われ方　χ2 検定**

| | 形容詞述部 | 名詞句述部 | テ形述部 | 補部 | 修飾部 | 動詞句述部 | その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 感情形容詞 A | 72(63) | 12(11) | 13(14) | 49(53) | 12(26) | 14(6) | 6(2) |
| 感情形容詞 B | 129(170) | 36(30) | 42(38) | 165(146) | 57(71) | 50(24) | 6(6) |
| 属性形容詞 C | 97(74) | 13(13) | 16(17) | 59(64) | 17(31) | 8(10) | 2(3) |
| 属性形容詞 D | 2,394(2,385) | 405(413) | 529(531) | 2,027(2,037) | 1,038(996) | 305(334) | 88(90) |

※カッコ内は期待度数

**表 13　形容詞群別の形容詞の使われ方　残差分析**

| | 形容詞述部 | 名詞句述部 | テ形述部 | 補部 | 修飾部 | 動詞句述部 | その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 感情形容詞 A | 1.50 | 0.37 | －0.27 | －0.73 | －3.03** | 1.84 | 2.40* |
| 感情形容詞 B | －4.07** | 1.28 | 0.70 | 1.98* | －1.88 | 5.67** | －0.19 |
| 属性形容詞 C | 3.28** | 0.03 | －0.16 | －0.71 | －2.78** | －0.78 | －0.5 |
| 属性形容詞 D | 0.71 | －1.17 | －0.33 | －0.81 | 4.30** | －4.81** | －0.74 |

** p＜.01　* p＜.05

χ2 検定の結果、修飾部、動詞句述部、形容詞述部、補部に有意差がみられた。修飾部は、A・C が少なく、D が多い。動詞句述部は、B が多く、D が少ない。形容詞述部は、B が少なく、C が多い。補部は、B が多い。以上の点について、順に考えてみたい。

#### 5.3.1. 修飾部の有意差について

初めに、修飾部の有意差について考えてみよう。修飾部は、A と C が少なく、D が多い。

修飾部とは、次の(58)のように形容詞の連用形が非必須成分の副詞句として用いられるものである。

(58)香保との約束を果たすためにグロスグロックナーへ行き、陽子と出会い、陽子と共に過ごした上高地の夜が切なくおもいだされた。（『雪煙』）

まず、Aの修飾部が少ないのは、(58)の例で言えば「何が切ないのか」ということが問題になることと関連があるものと思われる。何が「切ない」のかが分かりにくいのである。他の形容詞でも「桜が散っていくのを悲しく見ていた」のように、何が「悲しい」のかが問題となる[10]。このため、感情形容詞Aは、修飾部の出現割合が低いのではないだろうか。

また、A に限らず、形容詞には修飾部になりやすいものとなりにくいものがあるように思われる。(59)－(62)は、ぞれぞれ A・B・C・D の形容詞であるが、a は適格文であるのに対し、b の適格性は低い。理由は説明できないが、このように形容詞には修飾部になりやすいものとなりにくいものがある。そして、各形容詞群の修飾部になりにくい語の割合が異なるのではないだろうか。

(59)a. 太郎を切なく見ていた。
　b. ?太郎を憎くにらんでいた。
(60)a. 昨日は楽しく過ごした。
　b. ?昨日は暑く過ごした。
(61)a. ビールをおいしく飲んだ。
　b. ?ビールを苦く飲んだ。
(62)a. あぶなくけがをするところだった。
　b. ?やばくけがをするところだった。

ここで、各形容詞群の語の何割が修飾部として使用されているかを表 14 に示す。

**表 14　形容詞群別修飾部に使われた語の異なり語数の割合**

| | 異なり語数 | 修飾部異なり語数 | 割合 |
|---|---|---|---|
| 感情形容詞 A | 33 | 8 | 24.2% |
| 感情形容詞 B | 33 | 16 | 48.5% |
| 属性形容詞 C | 15 | 4 | 26.7% |
| 属性形容詞 D | 260 | 150 | 57.7% |

表 14 を見ると、A・C はそれぞれ、24.2%、26.7%の形容詞しか修飾部として使用されて

[10] この問題については、第 6 章で詳しく取り上げる。

いない。修飾部の多いDでは57%、有意差の出なかったBでは48.5%である。このデータより、修飾部として使われる語の割合が低いと、修飾部の出現割合も低くなっていることがわかる。もちろん、たまたま今回のデータに修飾部の例が出てこない形容詞もあろうが、修飾部として使われにくい語の割合が修飾部の少なさに無関係ではないだろう。

また、Aと同様に修飾部が有意に少ないという結果が出たCは、属性形容詞ではあるものの「花子はうるさそうに耳をふさいだ」のような副詞句において、感情形容詞と同じ振る舞いをする語群である。修飾部とは、副詞句のことであり、Cは、修飾部の出現割合という点でも、Aと同じ傾向を見せることが確かめられた。

以上、典型的な感情形容詞 A と修飾部において感情形容詞と同様の振る舞いを見せる C は、修飾部として使用されにくい語の割合が高いため、修飾部の割合が低く、Dは、修飾部として使用されにくい語の割合が低いために、修飾部の割合が高いと考えられるのではないかという考察を行った。

### 5.3.2. 動詞句述部の有意差の理由について

次に動詞句述部の有意差について考えてみたい。動詞句述部は、B が多く、D が少ない。動詞句述部とは、次の(63)のように、形容詞が述語動詞の必須成分であり、述語動詞とともに述部を構成するものである。

(63)最近めっきり寒くなりましたが、厚着は考えるのが面倒です。(『Weekly ぴあ』)

ここで、動詞句述部の述語動詞の内訳を見てみよう。表15は動詞句述部の述語動詞の内訳である。表15の「思う」は、「思う」「思われる」「思える」を含む。「感じる」も同様である。

**表 15　形容詞群別動詞句述部の述語動詞**

| | 思う | 感じる | する | なる | 見える | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 感情形容詞A | 6 | 1 | 0 | 7 | 0 | 14 |
| | 42.9% | 7.1% | 0.0% | 50.0% | 0.0% | 100% |
| 感情形容詞B | 0 | 1 | 8 | 41 | 0 | 50 |
| | 0.0% | 2.0% | 16.0% | 82.0% | 0.0% | 100% |
| 属性形容詞C | 1 | 0 | 1 | 6 | 0 | 8 |
| | 12.5% | 0.0% | 12.5% | 75.0% | 0.0% | 100% |
| 属性形容詞D | 6 | 7 | 83 | 197 | 12 | 305 |
| | 2.0% | 2.3% | 27.2% | 64.6% | 3.9% | 100% |
| 計 | 13 | 9 | 92 | 251 | 12 | 377 |
| | 3.4% | 2.4% | 24.4% | 66.6% | 3.2% | 100% |

動詞句述部で B が少なく D が多い理由は、今回の調査からは結論を導くことができそう

もない。表 15 を見るとわかるように、動詞句述部といっても、述語動詞は様々で、どれが影響しているかを見極めることが難しいからである。以下、今回のデータから考察できる範囲で考えてみる。

表 15 からは、B の動詞句述部のうち「～くなる」が 82.0%であり、B の動詞句述部が多いのは、「～くなる」が多いためと思われる。

形容詞を見てみると、変化としてとらえられやすい事態を表す形容詞と、変化としてとらえられることが少ない形容詞があるように思われる。B には、「寒い」「眠い」といった語が含まれている。これらは、「寒い」「眠い」と変化を伴わない状態として述べることもできるが、「寒くなる」「眠くなる」のように変化として捉えられることが多いのではないだろうか。B には、変化として捉えられやすい形容詞が多いことによって「～くなる」の出現度数が多いのである。

一方の D は、典型的な属性形容詞で、「大きい」「長い」といった形容詞である。これらは、もちろん「大きくなる」「長くなる」こともあるが、「寒い」「眠い」に比べて、変化を伴わない状態としてとらえられることが多いのではないだろうか。「大きい」「長い」は「寒い」「眠い」よりも変化として捉えられることが少ないということである。

以上、B の「～くなる」類が多いことについて考察を行ったが、これだけで B の動詞句述部が多い理由は説明できない。動詞句述部の述語は「～くなる」だけではなく、「～く思う」「～く感じる」等他にもあり、それぞれ、共起しやすい形容詞が先行研究で指摘されているからである。

「～く思う」は、感情形容詞とは共起しやすいが、属性形容詞とは共起しにくいことが指摘されている。藤田(1981)は、「美しく思う」の「美しく」と「思う」の統辞関係を「準引用」と呼び、「美しいと思う」との関係をふまえ分析した論考である。藤田(1981)は、三田村(1966)の形容詞分類を援用し、形容詞は、「対象の客観的な状態(相的な意味)」と「主体の主観的な把握としての意味（用的な意味)」を持ち、それぞれの形容詞はどちらかに傾くものであり、かつ、連続的であるとしたうえで、形容詞を 4 つに分類をしている。そして、「～く思う」「～く感じる」は、「青い」「大きい」のような相的な形容詞は前接せず、用的な意味を持つ形容詞が前接すると述べている。つまり、「～く思う」は感情形容詞が前接しやすく、属性形容詞は前接しにくいという指摘である。これは、A の動詞句述部が多くなる要因であると言える。

一方で、藤田(1981)では、「～く見える」「～く聞こえる」には、「つらい」「恋しい」のような感情形容詞は前接しにくいことも指摘されている。これは、A の動詞句述部が少なくなる要因である。

このように、動詞句述部の述語は、語によって前接しやすい形容詞があることが指摘されていて、B の動詞句述部が多い理由は、B の形容詞が「～くなる」と共起しやすいということだけでは説明ができないのである。「～くなる」に前接する語をはじめ、それぞれの述

語に前接する形容詞についてさらなる分析が必要であると思われる。

### 5.3.3. 形容詞述部と補部の有意差について

形容詞述部は、B が少なく、C が多い。B は、「寒い」「眠い」等である。B の形容詞述部が少ないことは、B の動詞句述部が多いことと関連があると思われる。B が述語になる際、「寒い」と現在の状態として述べることもできれば、「寒くなった」と変化としても述べることができるわけである。よって、変化として述べることが増えれば、その分、「寒い」と述べる形容詞述部が減ってもおかしくはない。

その他にも、C の形容詞述部と B の補部が有意に多いという結果が出ているが、この 2 点については、形容詞群全体ではなくそれぞれの形容詞を詳しく見ていく必要があるのではないかと考えている。この点については今後の課題としたい。

## 6. 活用形と文の成分の関係

最後に活用形と文の成分をクロス表で示すと、次の表 16 のようになる。活用形ごとに例を挙げながら見ていく。活用形と文の成分の関係を見ることによって、連体形が名詞とともに補部になるのか、述部になるのかといったことや、連用形の非必須成分と必須成分の割合等、活用形だけでは見えないことが見えてくる。

**表 16　活用形と文の成分**

| | 形容詞述部 | 名詞述部 | テ形述部 | 補部 | 修飾部 | 動詞句述部 | その他 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 終止形 | 2,221 | 0 | 1 | 50 | 1 | 0 | 7 | 2,280 |
| | 97.5% | 0.0% | 0.0% | 2.2% | 0.0% | 0.0% | 0.3% | 100% |
| 連体形 | 455 | 465 | 0 | 2,238 | 55 | 3 | 86 | 3,302 |
| | 13.8% | 14.1% | 0.0% | 67.7% | 1.7% | 0.1% | 2.6% | 100% |
| 連用形 | 9 | 0 | 545 | 4 | 1,063 | 373 | 9 | 2,003 |
| | 0.4% | 0.0% | 27.2% | 0.2% | 53.2% | 18.6% | 0.4% | 100% |
| 未然形 | 3 | 0 | 2 | 3 | 3 | 1 | 0 | 12 |
| | 25.0% | 0.0% | 16.7% | 25.0% | 25.0% | 8.3% | 0.0% | 100% |
| 意志推量形 | 3 | 0 | 0 | 4 | 0 | 0 | 0 | 7 |
| | 42.9% | 0.0% | 0.0% | 57.1% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 100% |
| 仮定形 | 0 | 0 | 52 | 0 | 0 | 0 | 0 | 52 |
| | 0% | 0% | 100.0% | 0% | 0% | 0% | 0% | 100% |
| 命令形 | 1 | 1 | 0 | 1 | 2 | 0 | 0 | 5 |
| | 20.0% | 20.0% | 0.0% | 20.0% | 40.0% | 0.0% | 0.0% | 100% |
| 計 | 2,692 | 466 | 600 | 2,300 | 1,124 | 377 | 102 | 7,661 |
| | 35.2% | 6.1% | 7.8% | 30.0% | 14.7% | 4.9% | 1.3% | 100% |

### 6.1. 終止形

終止形は、形容詞述部が 97.5%で、ほとんど述部になると言ってよいことがわかる。(64)

は形容詞主節述部例、(65)は形容詞従属節述部の例である。

(64)「面接は自分を否定されるから怖い。でも、練習で慣れることができる」と大塚さん。（『北海道新聞』）

(65)あと、うちのお古で悪いけれど、色々と必要になりそうなものを送るからって。（『青春と読書』）

終止形のほとんどが述部であるというのは、当然ではあるが、次の(66)(67)のように終止形に助詞が付いた例もある。これらは、補部として扱った。

(66)また、巨額の資金が必要な通信事業に、人為的なルールで新規参入をさせることがいかに難しいかもわかる。（『iNTERNET magazine』）

(67)絵と出会った時の娘の喜び様をお母さんが話され、女性は「ありがとう」と「嬉しい」が千回も書いてある笑顔をぼくにくれた。（『朝日新聞』）

なお、終止形の「テ形述部」と修飾部の 1 例は、それぞれ次の(68)(69)、その他の例は(70)である。その他の(70)は、前後との関係が不明であるため、「その他」に入れた。

(68)購入したビデオカードのファン音が異常にうるさかったら、付属のファンを静音仕様のものに交換する方法もある。（『ＡＳＡＨＩパソコン』）

(69)鈴木の良さは攻撃面だけではない。ファウル寸前の激しいチェック、時には守備ラインまで下がって ボールを囲い込む豊富な運動量、倒されても、何事もなかったかのようによみがえってくる不屈の闘志など、魅力にあふれている。（『中日新聞』）

(70)膝を締めているとどうしても後ろ寄りのポジションになりやすいので注意が必要です準指導員検定悪い準指導員検定では非常に多い典型的なパターンの滑りです。（『月刊 SKI JOURNAL』）

### 6.2. 連体形

連体形は、補部が 67.7%で、名詞を修飾した形容詞の約７割は、「形容詞＋名詞＋助詞」という並びで(71)のような補部になることがわかる。

(71)実はこの３試合で、面白い現象があった。（『週刊朝日』）

連体形の約 15%は、次の(72)(73)のような名詞句述部である。

(72)♪上野発の夜行　列車 ～♪は悲しい歌である。　（『週刊現代』）

(73)何だかんだいっても根の優しい人だから 、弱ってる人間を前にすると、きついことが言えないんだろう。　（『IN POCKET』）

そして、約 15%は、(74)－(77)のような形容詞述部である。これらは、活用形では連体形であるが、形容詞に機能語が付いたものとして形容詞述部として扱った。

(74)あれが羨ましいんだよ。　（『現代』）

(75)暑かったら団扇であおげばいいのに、水羊羹で涼を取るという発想が許せないだろ。　（『現代』）

(76)飲ませて、脈拍が速くなったほうが毒の回りも早いはずだ。　（『小説すばる』）

(77)この種の「フェミニズム」フィーバーは、少し間をおいて、わが国にも忽ち波動、反響をよび起した模様だったことは、私の記憶にさえかなり生ま生ましく残っているくらいだから、改めて書き立てることもないようなものの、この頃はともかく現実の作家・作品と、「イズム論議」とが結びつき、からみ合っていた。
（『文學界』）

また、連体形の修飾部は(78)(79) 、動詞句述部は(80)である。

(78)うん、その不安 は イタイほどよくわかる。
（『ゼッタイ失敗しないマイホーム購入大満足ガイドブック』）

(79)そして多くのケースで未然に大きな病気への進展をくいとめたり、安心という満足感をあたえたり、ありがたいことに顧問料をいただいている契約者から感謝の辞までいただくという医者冥利につきる仕事をさせていただいております。
（『プライベートドクターを持つということ』）

(80)意外とこの段階で手抜きをしている業者が多いように感じられます。
（『エコハウスに住みたい』）

「その他」は、次の(81)(82)のように、新聞のテレビ欄や雑誌の見出し等である。

(81)(TBS＝後 9･0)楽しい、おやじと 4 姉妹の会話　（『毎日新聞』）

(82)ブルータス住宅内所ＦＩＬＥ二十二　空間デザイナーならではの、心地よい住空間。　（『BRUTUS』）

### 6.3. 連用形

連用形は、(83)のような修飾部が 53.2%で、連用形の約半数が(83)のような非必須成分である修飾部として用いられていることがわかる。

(83)長兄は短く息を吐き出した。（『青春と読書』）

(84)のような動詞句述部が 18.6%である。

(84)私たちは空港からまっすぐに来たが、道に迷って遅くなった。（『週刊朝日』）

修飾部と動詞句述部を用例数で見てみると修飾部 1,063 例、動詞句述部 373 例である。前者は非必須成分、後者は必須成分で、その比率は、おおよそ 3：1 である。今回は、必須成分の述語を限定し必須成分かどうか迷うものはすべて修飾部に入れたが、必須成分と認める範囲を広げたとしても、非必須成分が多いと言うことができるであろう。

また、(85)(86)のような「テ形述部」が 27.2%である。

(85)「別のナットはないんですか？」「どいつも径が大きくて合わないんだ」（『小説宝石』）

(86)シスター達は美しく、又明るかった。（『インド』）

なお、連用形の形容詞述部の例は、次の(87)、補部の例は、次の(88)、「その他」は(89)のような新聞等の見出しである。

(87)汽船の入港も、もうまもなくだった。（『八十日間世界一周』）

(88)高原は前半１分、相手ミスから敵陣深くに切れ込み先制。（『産経新聞』）

(89)コソボ平和遠く（『毎日新聞』）

### 6.4. 未然形

未然形の形容詞述部の例は(90)、「テ形述部」は(91)である。補部は(92)、修飾部は(93)、動詞句述部は(94)である。

(90)「工藤君、強き は 懐かしからずって言葉、知ってるか」（『朝日新聞』）

(91)『新撰東京歳時記』にも、「笑声放歌に満され寒からす暑からす一歳中の好季節、特に此頃は海面風静なるものなれは（中略）麗かなるを例とす。（『江戸東京歳時記』）

(92)「クローン人間はもうどこかで密かに作られているのではないか」、少なからぬ生命科学者がそう考えているであろう。（『読売新聞』）

(93)生業が編集者なので、特にシビアに感じるのかもしれないが、最近の雑誌低迷の陰にはフリペの影響も少なからずある。（『産経新聞』）

(94)旧中立地帯沖合で必死の思いで石油操業を継続し、日本に対する評価を高からしめた。（『朝日新聞』）

### 6.5. 意志推量形

意志形の形容詞述部は、(95)(96)のような例である。また、補部は(97)での表 18 の補部 4 例はこの一文のものである。

(95)濃尾のゴッサンと防長のオゴウサンとは、まず同じ言葉と思ってよかろう。（『毎日の言葉』）

(96)またと言ってもおりがなかろうから 、ついでに私はもっと一般的に考えてみようと思っている。（『毎日の言葉』）

(97)実はアメリカの企業がカルチャーを重視し始めた原因は、日本の企業の隆盛にある。かつて日本の企業は安かろう悪かろうの認識を安かろう良かろうに変えた。（『21 世紀に勝ち残る IT スピード経営』）

### 6.6. 仮定形

仮定形は、すべて次のような形容詞節述部である。

(98)食べた人がおいしければ、それがいい料理であるはずなのに、みんなが勘違いしている。（『辻静雄コレクション』）

### 6.7. 命令形

命令形の形容詞述部の例は次の(99)、名詞句述部の例は(100)である。補部の例は(101)、修飾部は(102)である。

(99)スーツは二十七万円〜。高いと思うなかれ 。（『POPEYE』）

(100)とりあえず相手の怒りを鎮めるために、事実の客観性を確かめることもせずに、いきなり謝罪して事態を糊塗しようとした千九百八十二年の「近隣諸国条項」(「侵略」誤報事件)や千九百九十三年の「内閣官房長官談話」(従軍慰安婦問題)は、日本外交のことなかれ主義の典型であり、悔いを千載に残す外交であった。（『毎日新聞』）

(101)教育委員からは「現場が記載に際して事なかれ主義になり、調査書本来の機能が果たされなくなる」との懸念が出た。（『朝日新聞』）

(102)いえなくもないが、それはいつの時代にでも多かれ少なかれ起こっていることなのだ。（『いえづくりをしながら考えたこと。』）

以上、活用形と文の成分の関係について見てきた。終止形は、ほぼ述部になると言えるが、連体形と連用形は、様々な文の成分として使われているということがわかる。

## 7. まとめ

BCCWJ のデータを用いて、A－D の形容詞群が文中でどのように使われているかを調査した。調査にあたり、品詞による分類では、終止形はほぼ述部になると言えるが、連体形は補語や述部に、連用形は修飾部や動詞句述部となるため、形容詞が文中でどのように使われているかを見るには、文の成分で見る必要があることを述べた。

そして、形容詞全体では、約半数が述部として用いられることを見た。感情形容詞と属性形容詞の使われ方の違いについては、修飾部、動詞句述部、形容詞述部、補部に有意差がみられた。修飾部では、A と C が少なく、D が多かった。この点については、A・C の形容詞に修飾部になりにくい語が多いためであると考察した。動詞句述部については、B が多く、D が少ないという結果であった。この点からは、形容詞には「寒い」のように変化として捉えられ「～くなる」と共起しやすい語と、そうではない語があるのではないかという示唆を得たが、結論を導くには至らなかった。形容詞述部は、B が少なく、C が多いと言う結果であった。B の形容詞述部が少ないことについては、動詞述部が多いために、形容詞述部が少なくなるのではないかと考察をした。C の形容詞述部が多い理由については、明らかにはできなかった。補部は、B が多いという結果であったが、この点も、その理由は明らかにはできなかった。このように、それぞれの形容詞群の文の成分別の使われ方に、統計上の有意差があっても、その差をその形容詞群全体の特性であると断言するのは容易ではなかった。この点については、今後の課題としたい。

今回の調査は、課題の残るものではあったが、結果としてのデータのみではなく、それぞれのデータの中身が見える形でまとめることができたという点では、今後の研究につながっていくものであると思われる。自分が見たい部分だけではなく、全体がどうなっているのかを明らかにしていくことが必要であるし、その方法を確立していくことが今後の課題であると考えている。

### 用例出典

BCCWJ：国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパス』
コーパス検索アプリ中納言 https://chunagon.ninjal.ac.jp/login （最終閲覧日 2014.08.30）

# 第４章　感情形容詞が述語となる複文
# ―「動詞のテ形、感情形容詞」―

第４章では、感情形容詞が述語になる複文について考察を行う。「試験に合格して、うれしい。」のような「動詞のテ形、感情形容詞」という文型について詳しく考察を行い、最後に「～カラ、感情形容詞」「～ノデ、感情形容詞」との比較も行う。

「動詞のテ形、感情形容詞」については、前件が感情の対象(感情を引き起こす事物)であるタイプと、感情の対象を認識する段階の動作を顕在化したタイプに分類できることを示す。また、前件は、いくつかの例外があるが、自己制御性がない出来事であることが基本であることを指摘する。そして、「動詞のテ形、感情形容詞」と「～カラ、感情形容詞」「～ノデ、感情形容詞」を比較し、「～カラ、感情形容詞」「～ノデ、感情形容詞」は、前件が感情の対象ではなく、［条件的理由］を表す場合があることを述べる。なお、例文の下線は筆者が付けたものであり、「*」は非文、「?」は不自然、「#」は語用論的に不適切であることを示す。また、例文で出典がないものは作例である[1]。

## 1.　問題の所在

### 1.1.　「Ｖテ、感情形容詞」の適格性

「動詞のテ形、感情形容詞」(以下「Ｖテ、感情形容詞」)とは、次の(1)(2)のように、従属節が動詞のテ形で、主節が話者の感情を表す感情形容詞の文型である。以下、従属節のことを前件、主節のことを後件と呼ぶ。

(1) オリンピックに出場できて、うれしいです。
(2) 旅行に行けなくて、残念でした。

この文型には、次のような日本語学習者の誤用が見られる。

(3) (日本語学校の卒業式で)*みんなと会って、うれしいです。

このような誤用の要因は、教科書での扱い方や教え方、母語の影響等、様々考え得るが、本章では、(3)のような誤用を無くす第一歩として、「Ｖテ、感情形容詞」が適格文となる条件を記述することを目的とする。なお、次の(4)(5)のような「ハ」等でとりたてられた名詞句の属性を叙述する文は、(1)(2)のような話者の感情を述べる文とは異なるタイプであるため、考察の対象から除く。

---

[1] 本章は、次の論文を加筆修正したものである。村上佳恵(2011)「「動詞のテ形、感情形容詞」に関する一考察」『日本語／日本語教育研究』2　日本語／日本語教育研究会

(4) 「秋は虫の音が聞こえて寂しい」 (『読売新聞』1993.10.22)

(5) 悩んでいると、あるプロデューサーに「日本人のあなたが、スペイン人のように踊ろうとしているのは、見ていて悲しい」と言われました。「あなたらしく踊るのが本当じゃないか」って。 (『読売新聞』2010.06.17)

また、以下では「～て（例：食べて)」を「無標のテ形」、可能形のテ形（例：食べられて）を「可能テ形」、両者を合わせて「動詞のテ形」と呼ぶ。

「Ｖテ、感情形容詞」が適格文になる条件には、蓮沼他(2001：120)で、前件の意志性と後件のテンスが関与することが指摘されている [2]。蓮沼他(2001)は、次の(6)を例に挙げ、前件が「非意志的な表現」でなければならないと述べている。ただし、後件が「過去の出来事や状態の叙述の表現」であれば「非意志的な表現」でなくとも適格になるとしている [3]。

(6) a*欲しかった車を買って、うれしい
b 欲しかった車が買えて、うれしい
c 欲しかった車を買って、うれしかった (蓮沼他 2001)

しかし、次の(7)(8)の前件は、「非意志的な表現」と言えるのだろうか。

(7)「仲間と離れて寂しいが、復旧まで頑張ります」 (『読売新聞』2000.04.16)

(8)「会うたびに元気になっている姿を見てうれしい。(以下略)」 (『読売新聞』1995.03.12)

本章では、「Ｖテ、感情形容詞」の前件は、原則として「非意志的な表現」でなければならないが、(6c)のように後件が過去形の場合と、(7)のように前件が好ましくないことの場合は「非意志的な表現」でなくてもよいということを述べる。また、(8)のように例外に見えるけれども、例外ではない例があることを指摘する。ところで、(6)の例について、前件が否定の例も含め適格性を見てみると、次の表１のようになる。

**表１　「Ｖテ、感情形容詞」の適格性**

| 前件＼後件 | 非過去形 | 過去形 |
|---|---|---|
| 肯定 | (9)*車を買って、嬉しい。<br>(10)車を買えて、嬉しい。 | (11)車を買って、嬉しかった。<br>(12)車を買えて、嬉しかった。 |
| 否定 | (13)*車を買わなくて、残念だ。<br>(14)車を買えなくて、残念だ。 | (15)*車を買わなくて、残念だった。<br>(16)車を買えなくて、残念だった。 |

[2] 蓮沼他(2001)は、日本語学習者向けの条件表現の文法書である。

[3] 蓮沼他(2001)では、「欲しかった車を買って、うれしくなった」という例も適格文として挙げられているが、動詞述語文であるので、考察の対象から外す。

(11)(12)のように、前件肯定で後件過去形の場合、蓮沼他(2001)の指摘の通り、無標のテ形でも可能テ形でも適格である。しかし、読売新聞の 2007 年 7 月 1 日から 2010 年 6 月 30 日までの 3 年間の「～て、うれしかった(です)」の用例を調べてみると、135 例中、無標のテ形は 8 例だけで、実例は可能テ形が多かった [4]。なぜ実例は可能テ形が多いのかは、3.2.3 で考察する。

### 1.2. 非意志的な表現とは

蓮沼他(2001)では、「Vテ、感情形容詞」の前件は、「非意志的な表現」でなければならないとされている。しかし、「非意志的な表現」が何であるか、はっきりと定義されているとは言い難い。

本章では、仁田(2004)の「自己制御性」という概念を援用し、考察を行う。仁田(2004)は、命令形と意向形(例：しよう)の発話・伝達的な文法的意味のあり方から、「意志性(自己制御性」について論じている。仁田(2004)は、「自己制御性」を「事態全体の意味的性質」であるとしたうえで、「事態の主体が自らの意思でもってその事態の成立・実現」を「制御できる」ことを「事態が自己制御的」であるとする。

(17)すぐお客さんに書類をお渡ししろ。
(18)時には息子をビシッと叱ろう。
(19)雨、雨、早く上がれ！
(20)*彼らの無責任さに困ろう。 (仁田 2004)

そして、命令や意志が可能な(17)(18)は、自己制御性のある事態であるとする。一方、(19) は、語形は命令形であるが、「《願望》」であると述べ、命令や意志が表せない(19)(20)は、非自己制御的な事態であるとした。そして、「自己制御性」には、(17)のように、「事態の成立・実現」を制御できる「達成の自己制御性」と、次の(21)のように、「事態の成立・達成に向けての過程段階のみ」を制御できる「過程の自己制御性」があるとしている。

(21)洋平、まあ落ち着け！ (仁田 2004)

蓮沼他(2001)の「非意志的な表現」とは、「達成の自己制御性」がない表現であると考えると、「Vテ、感情形容詞」の適格性がうまく説明できる。以下では、「自己制御性」という概念を用いて論を進めるが、以下で「自己制御性」という場合、断りがなければ「達成の自己制御性」を指す。

[4] データは、ヨミダス文書館による。前件の主体が後件の主体と同一であり、「着て嬉しかった」と「着られて嬉しかった」のように無標のテ形も可能テ形も使用できる例を調査対象とした。なお、4節で述べる［対象認識］の例は調査の対象外である。

## 2. 「Ｖテ、感情形容詞」の２分類

「Ｖテ、感情形容詞」は、大きく２つのタイプに分類することができる。１つめは、次のように、前件が感情の対象であるタイプである。

(22)「花火を再び見られてうれしい。(以下略)」　(『読売新聞』2008.07.27)

(23)「国民に愛されていた国王が亡くなって悲しい。(以下略)
(『読売新聞』2001.06.03)

(24)「貴重な人材を失って残念だ」　(『読売新聞』2008.06.18)

(25)「何でも話せる母子なのに、病気のことだけは話せなくてつらかった」
(『読売新聞』1995.09.15)

(22)－(25)は、「花火を再び見られた」「国王が亡くなった」「貴重な人材を失った」「病気のことだけは話せない」ことが感情の対象である。このように、前件が感情の対象であるタイプを［対象事態］と呼ぶ[5]。

一方、次の(26)は、前件が感情の対象であるとは言えない。

(26)フジテレビ系１日「剣客商売スペシャル」。ゴールデンウイークを家で過ごす私としては、番組表を見てうれしかった。　(『読売新聞』2004.05.15)

(26)は「番組表を見た」ことではなく、番組表の内容、つまり「剣客商売スペシャルが放送される」ことがうれしかったのである。

(27)「せっかく安くなったのに、値段が戻ると聞いて残念。(以下略)」
(『読売新聞』2008.04.30)

(28)「もっと悲惨な島かと思いましたが、きれいな景色の中で眠っていると知ってうれしい」　(『読売新聞』1994.05.13)

(27)は、「聞いた」ことも、もちろん残念だが、「値段が戻る」ことが残念なのである。(28)も、「知った」ことも嬉しいが、「きれいな景色の中で眠っている」ことが嬉しいのである。(26)－(28)のように、前件の動詞が感情の対象を認識する段階の動作を表し、認識した内容が感情の対象であるタイプを［対象認識］と呼ぶ。［対象認識］は、動詞が「見る」「聞く」等の知覚動詞か、「知る」「わかる」等の何らかの情報を得たことを表す動詞に限られる。以下、［対象事態］［対象認識］の順に考察を行う。

---

5 第４章は、村上(2011)に修正を加えたものである(脚注１参照)。村上(2011)では、［対象］と［対象認識］という術語を用いたが、［対象］を［対象事態］に変更する。

## 3.　［対象事態］について

### 3.1.　［対象事態］の下位分類

はじめに、［対象事態］の下位分類を行う。まず、前件の主体が人間か否かにより 2 分類し、人間であれば、さらに、前後件が同一主体か否かにより 2 分類する。なお、受動態の場合は、能動態の動作主が前件の主体であり、「親友にだまされて、悔しい」では、「親友」が前件の主体である。以下、図 1 の ABC の順に考察を行う。

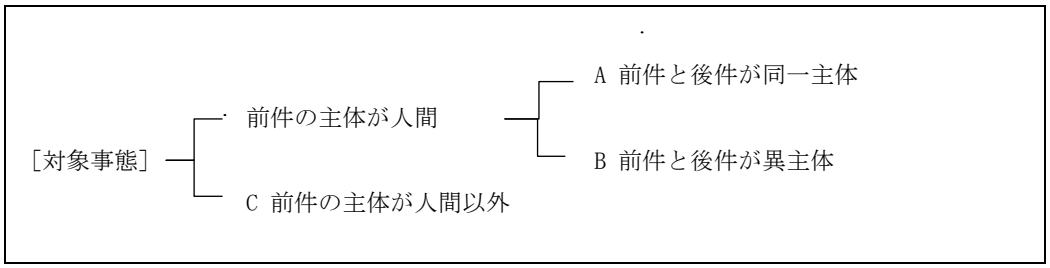


**図 1［対象事態］の前件の主体による下位分類**

### 3.2.　A 前件と後件が同一主体

前後件が同一主体の例は、原則として、前件は自己制御性のない出来事でなければならない。ただし、前件が肯定で後件が過去形の場合と、前件が肯定で好ましくないことの場合、自己制御性があっても適格になることを指摘する。

#### 3.2.1. 前件肯定

前件肯定で後件非過去形の例は、前件の出来事が後件の主体にとって好ましいことの場合、前件は自己制御性のない出来事でなければならない。

(29)「素晴らしいリンクで滑れてうれしい」　（『読売新聞』2010.01.30）
(29')＊「素晴らしいリンクで滑ってうれしい」
(30)「日本一の王監督に花束を手渡せて幸せです。(以下略)」(『読売新聞』2004.02.01)
(30')＊「日本一の王監督に花束を手渡して幸せです。」

(29)(30)の前件は、可能テ形である。可能形は命令・禁止にできず自己制御性がない。一方、(29')(30')の前件は、無標のテ形で自己制御性があり、これらは、非文となる。このように、前件が好ましいことの場合は、自己制御性がない出来事でなければならないと言える。

また、次の(31)(32)の「勝つ」「合格する」は、過程の自己制御性しかなく、達成の自己制御性はない。よって無標のテ形で適格文になる。なお、(31)(32)は、「勝てて」「合格できて」と可能テ形にしても適格である。

(31)「勝ってうれしい」（『読売新聞』2002.10.14）

(32)「国語の問題が難しかったので心配でしたが、合格してうれしい」（『読売新聞』2004.03.18）

しかし、前件肯定で好ましいことで後件過去形の例は、自己制御性がない(37)も、自己制御性がある(38)も適格である。

(33)「制服を着られてうれしかった。(以下略)（『読売新聞』2008.05.11）

(34)「赤い着物を着てうれしかった。(以下略)」（『読売新聞』2010.01.22）

ただし、1.1 でも述べたように、読売新聞の用例を調査したところ、「～て、うれしかった(です)」の用例は、135 例中、無標のテ形は 8 例のみで、127 例は可能テ形であった。実例は、自己制御性のない例が多いと言える。後件過去形の例は、なぜ自己制御性があってもよいのか、なぜ実例は可能テ形が多いのかは、3.2.3 で考察する。

次に、前件が好ましくないことを見てみよう。次の(35)－(38)のように、前件が好ましくないことの場合、自己制御性のある出来事でも適格になる。好ましくないことの場合は、(35)(36)のように非過去でも、(37)(38)のように過去でも同じであり、後件のテンスによる違いはない。

(35)「仲間と離れて寂しいが、復旧まで頑張ります」(=7)

(36)「いじめられた経験から人の心の痛みは分かるはずなのに、男性をいじめるようなことをして恥ずかしい」（『読売新聞』2008.02.27）

(37)「約 50 年やっていた店を閉めて寂しかったが、小さいながらいい映画館が出来た。友達も映画を見に来ると言っているのでうれしい」（『読売新聞』2005.08.23）

(38)親をだまして、つらかった。

そして、(35)－(38)の前件は、可能テ形にすることはできない。

(35')＊「仲間と離れられて寂しい」

(36')＊「男性をいじめるようなことができて、恥ずかしい」

(37')＊「約 50 年やっていた店を閉められて、寂しかったが、」

(38')＊ 親をだませて、つらかった。

これは、どうしてだろうか。この問題については、林(2007)の指摘が参考になる。林(2007)

は、実現可能文（例：恋人に会えた）と無標の動詞文（例：恋人に会った）の違いについての論考であるが、実現可能文について次のように述べている[6]。

> 実現可能文と無標の動詞文は、「主体の一回的な行為の実現」を表わす点で共通しているが、前者は〈事象が主体にとって好ましく、かつ得難い〉というプラスの意味特徴を持っているのに対して、後者は〈事象が過去に生起した〉というニュートラルな意味を伴っている。

つまり、好ましくない出来事は、可能形にできないということである。そうすると、(35)－(38)の前件は、好ましくないことであるために、可能形にできないと言える。なぜ可能形にできなければ自己制御性があっても適格になるのかは、3.2.3 で考察する。

### 3.2.2. 前件否定

前件が否定の場合、次の(39')(40')が示すように、後件のテンスに関わらず、前件は自己制御性のない出来事でなければならない。

(39)「チームに貢献できなくて悔しい」　（『読売新聞』2009.07.27）
(39') ＊「チームに貢献しなくて悔しい」
(40)「ボールがつなげず、自分たちのリズムが作れなくて苦しかった」
（『読売新聞』2006.04.17）
(40')＊「自分たちのリズムを作らなくて、苦しかった」

また、前件が否定の場合、過程の自己制御性しかない動詞も、次の(41)(42)のように、無標のテ形では非文である。

(41)*勝たなくて、悔しいです。
(42)*賞をもらわなくて、残念だ。

これは、否定の場合、肯定と違い、勝つまいと思い自分の意志で負けるための行動をとり「勝たない」こと、また、賞を辞退することもできるため、達成の自己制御性が生まれる余地があるためと考えられる。

---

6 林(2007)は「現代日本語における可能表現は、アスペクト的側面から、次の(ⅰ)のような、動作実現の可能性の有無という状態的な意味の様相を帯びる潜在(potential)可能文と、(ⅱ)のような、一回的な行為の実現・非実現を表し、動作的な意味の様相を伴う実現(actual)可能文に二分されている。」と述べている。
(ⅰ)私は刺身が食べられる。
(ⅱ)一年かかってやっと論文が書けた。　(林 2007)
この２分類は、奥田(1986)、渋谷(1993)等に基づく分類である。

このように、［対象事態］のＡ前後件が同一主体の前件は、原則として自己制御性のないことでなければならないが、前件肯定で後件が非過去形の場合と、前件が肯定で好ましくないことの場合は、自己制御性があってもよいと言える。以上をまとめると、次の表 2 のようになる。表 2 の網掛けの部分が、自己制御性があっても適格文となる個所である。

**表 2［対象事態］Ａ前件と後件が同一主体の前件の制約**

| タイプ | 後件／前件 | 非過去形 | 過去形 |
|---|---|---|---|
| ［対象事態］A | 肯定 | 好ましい⇒自己制御性無　(43) | 自己制御性有も可（44）<br>※実例は自己制御性無が多い |
| | | 好ましくない⇒自己制御性有も可（45） | |
| | 否定 | 自己制御性無（46） | |

(43)友達に｛*会って／会えて｝、うれしいです。

(44)友達に｛会って／会えて｝、うれしかったです。

(45)｛親に隠し事をして／*親に隠し事ができて｝、苦しいです／苦しかった。

(46)本当のことを｛*言わなくて／言えなくて｝、辛いです／辛かったです。

### 3.2.3. 前件の制約について

前節で見たように、前件が好ましくないことの場合は可能形が使えない。そのため、前件に自己制御性があっても適格文となる。これは、なぜだろうか。

「Ｖテ、感情形容詞」の前件は、動詞のテ形である。仁田(1995)は、「～シテ、動詞」の「～シテ」について考察を行ったものである。仁田(1995)は、「～シテ」は、接続形式として「明確な固有の意義」を持たず、前件と後件の述語のタイプ、および相互関係により意味のあり方が決まると述べている。そして、「～シテ」の用法のひとつとして、前件が後件に対し「起因的」に働く「起因的継起」を挙げている。前件または後件のどちらかが「無意志動詞」でなければ「起因的な関係」を表せないと言う。(47)は前件が、(48)は後件が無意志動詞の例として挙げられている。

(47)和泉は～、どうも間が持てなくなって、寝てしまう。

(48)事務所の奥へ来てもらい、犯人の素性を確かめて驚いた。　　(仁田 1995)

以上は、動詞述語文についての議論であるが、これは「Ｖテ、感情形容詞」にもあてはまるのではないだろうか。「Ｖテ、感情形容詞」の後件は、感情形容詞で、自己制御性がないと考えられる。よって、起因的に、前件の出来事が後件の感情を引き起こしたと解釈され得る。つまり、「Ｖテ、感情形容詞」は、すべて、前件が感情の対象であると解釈される可能性があるということである。そして、好ましくないことは、可能形を使えず、無標の

テ形を使うしかないので、自己制御性のある出来事でも、起因的に、前件の出来事が感情を引き起こしたと解釈されるのである。

一方、好ましいことの場合は、「好ましく、かつ、得難い」ことを表す可能テ形というより適切な表現があることにより、テ形は排除されると考えられる。

また、後件過去形の場合も、「～て、うれしかった(です)」の実例が、135 例中、無標のテ形は 8 例で、他 127 例は可能テ形であったことを 2 節で述べたが、このように可能テ形が多用されるのも、より適切な表現が選択されるということであると思われる。しかし、後件が非過去形の場合はテ形が完全に排除され、過去形の場合は、実例は可能テ形のほうが多いものの、無標のテ形でも適格である理由は、残念ながら説明することができない。

次に、なぜ、前件否定の場合は、必ず自己制御性のない出来事でなければならないのかを考えてみたい。これは、無標のタ形と可能タ形の関係が、肯定と否定では異なるためと考えられる。

何らかの出来事は、意図をもって行う場合と、全くの偶然で成立する場合がある。前者を「意図あり」、後者を「意図なし」とする。さらに、意図ありには、「しよう」という意図と、「しまい」という意図がある。ここでの意図とは、動作を行うこと、又は、行わないことを決断することであり、「甘いものを食べるまいと思っていたのに、誘惑に負けて食べた」という文の「食べた」は、「食べよう」と決断し食べたので「意図あり」である。そして、出来事の成否別に、無標のタ形と可能タ形の使い分けを見ると次の表 3 のようになる[7]。

**表 3　意図のあり方によるタ形と可能タ形の使い分け**

| 意図／出来事 | 意図あり | | 意図なし |
|---|---|---|---|
| | 「しよう」 | 「しまい」 | |
| 成立 | 首相に会った。<br>首相に会えた。 | 首相に会った。※[8]<br>— | 偶然、首相に会った。<br>偶然、首相に会えた。 |
| 不成立 | —<br>首相に会えなかった。 | 首相に会わなかった。<br>— | —<br>—※[9] |

表 3 を見ると、出来事が成立(肯定)の場合、「しよう」という意図ありでは、「会った」も「会えた」もどちらも使える。また、「会った」は、「しまい」という意図でも使用できる。以上のことから、肯定の場合は、無標のタ形と可能タ形は、意図のあり方では対立し

7 渋谷(1993)は、無標の動詞述語文と可能形述語文を比較し、「動作主性の高い動詞述語文」の「肯定表現」・「否定表現」と「可能文の肯定表現」は「動作主体の期待する(もくろむ)動作が、実現する動作と一致する」が「可能文の否定表現」は「一致しない」と述べている。

8「しまい」という意図を持ちながら動作が実現するというのは、「会うまいと思っていたのに、向こうから首相が歩いてきた」というような状況で、自己制御性がなく、かつ、好ましくない出来事であり、そのために、可能タ形は使えない。このような場合は、「～テシマウ」が使われると思われるが、ここでは立ち入らない。

9 意図なし不成立の欄が空白なのは、意図なし不成立とは、すなわち何も起きなかったと考えられるからである。但し、質問文の答えであれば、「首相に会わなかった」が使用できる。

ていないと言うことがわかる。出来事が成立した場合、可能タ形を用いて自己制御性が無く「好ましく、かつ得難い」出来事であると表現するか、無標のタ形を用いて自己制御性がある出来事が成立したと表現するか、選択の余地があるのである。

一方、不成立(否定)の場合、表 3 の通り、無標のタ形「会った」と可能タ形「会えた」は、自己制御性の有無だけでなく、「しよう」という意図があれば可能タ形、「しまい」という意図があれば無標のタ形というように、意図のあり方によって、対立している。そのため、テ形を使用した次の(49')は、不適格となる。「答えられなかった」のではなく「答えまい」という意図のもとで「答えなかった」ことによって、「恥ずかしい」という感情が生まれたことになってしまうからである。

(49)「『兼六園の入園料は？』と聞かれた時に、答えられなくて恥ずかしかった。(以下略)」 (『読売新聞』2005.04.10)

(49')＊「『兼六園の入園料は？』と聞かれた時に、答えなくて恥ずかしかった。」

テ形は、感情の対象をマークする形式ではないため、前件が感情の対象と解釈されるには、(49)のように、「しよう」という意図があったけれども叶わなかったことを表す可能テ形が適切で、意図のあり方で対立する無標のテ形は、排除されるものと思われる。

### 3.3. B 前件と後件が異主体

次に、前件の主体と後件の主体が異なる例を見ていく。

#### 3.3.1. 問題の所在

前後件が異主体の場合、前件は、他者の動作である。他者の動作は、自己制御性がない出来事であるため、テ形か可能テ形かという問題は生じない。しかし、受身と受益表現を使うかどうかが問題となる。用例を見てみると、次の(50)(51)のように前件が受身、又は、「～テクレル」・「～テモラウ」といった受益表現の例と、(52)のように受身や受益表現が使われていない例がある。

(50)「いじめられて悲しい。(以下略)」 (『読売新聞』2006.11.14)

(51)「地元で毎日見ていた野球部員がこんなに活躍してくれてうれしい」 (『読売新聞』2008.08.17)

(52)「日本で初めての女性知事が誕生してうれしい。(以下略)」 (『読売新聞』2000.02.07)

これらの受身や受益表現は、どのような場合に用いられるのだろうか。

### 3.3.2. 先行研究

守屋(2002)は、「テクレル」について論じる中で、次の(53)を挙げ、「他者の行為による受益性の有無」が問題になると、「テクレル」がなければ不自然な文になるとしている。

(53)＊A君が私に本を貸して、私はとても嬉しかった。

そして、このような例の受益表現や受身は必須であり、「他者の行為とそれによって生じた話し手の感情や行為」を「密接に結びつけ、日本語として自然な文にまとめる機能」を果たすとし、その機能を「文の結束機能」と呼んでいる。以下では、「文の結束機能」と前件の出来事に後件の主体が関与しているかどうかという観点から分析を行う。そして、関与している場合は受身と受益表現が必須であること、関与していない場合は、前件が好ましいことかどうかによって、受身と受益表現の使用が決まるということを述べる。

### 3.3.3. 前件に後件の主体が関与する場合

はじめに、前件の出来事に後件の主体が関与する例を見ていく。次の(54)(55)の前件の出来事は、「友達が私を裏切る」「私があこがれの選手に教えてもらう」ことであり、出来事に「私」が参加している。これは、後件の主体が「裏切る」「教える」という動作の受け手として、前件の出来事に関与しているということである。そして、関与している場合は、受身か受益表現が必須である。

(54)「(前略) 友達と思っていたのに裏切られて悲しい」　(『読売新聞』2007.06.07)
(54') ＊「友達が私を裏切って、悲しい。」
(55)「あこがれの選手に教えてもらってうれしかった。貴重な体験ができた」
(『読売新聞』2008.02.17)
(55') ＊「あこがれの選手が私に教えて、うれしかった。」

また、次の(56)の出来事は「私の作品が認められる」「たくさんの人が私からチラシを受け取る」ことである。(56)は「作品の作成者」として、(57)は「チラシの配布者」として前件の出来事に関与しており、受身か受益表現が必須である。

(56)「作品が認められてうれしい」　(『読売新聞』2009.04.29)
(56') ＊「(審査員が)私の作品を認めて、うれしい。」
(57)「最初は緊張したけど、たくさんの人がチラシを受け取ってくれて嬉しかった。
(以下略)」　(『読売新聞』2005.05.01)
(57')＊「たくさんの人がチラシを受け取って、嬉しかった」

これらは、受身や受益表現を用いて、後件の主体の視点から前件の出来事を述べることにより、文の結束性を高めているものと思われる。なお、受身を用いるか受益表現を用いるかは、受身と受益表現の問題である[10]。

### 3.3.4. 前件に後件の主体が関与しない場合

関与していない場合は、前件が好ましいことかどうか、前件と後件のむすびつきが社会通念でわかりやすいか、迷惑であると表現してよいか、という 3 点により受身や受益表現の使用が決まる。前件が好ましいこと、好ましくないことの順に考察する。

次の(58)(59)は好ましいことの成立、(60)は好ましいことの不成立の例である。(60)は、市長が県知事に市議会の議決の取り消しを申し立てたことに対する議長のコメントである。

(58)「身近な企業を他校の人に知ってもらってうれしい。(以下略)」
(『読売新聞』2008.08.07)
(59)「小さな子たちが動物をかわいがってくれてうれしい」(『読売新聞』2008.06.04)
(60)これに対し浅川議長は「議決の重みを感じていただけなくて残念」と話した。
(『読売新聞』2008.07.11)

(58)の「他校の人が身近な企業を知る」ことに、後件の主体は、全く関与していない。(59)(60)も同様である。(58)－(60)では、受益表現が必須である。

(58') ?「他校の人が身近な企業を知ってうれしい。」
(59') ?「小さな子たちが動物をかわいがってうれしい」
(60') ?「(市長が)議決の重みを感じなくて残念」

これは、本来関与していない前件の出来事を、受益表現を用いて恩恵の受け手であると表現することによって、後件の主体がその恩恵の受け手であると表現し、文の結束性を高めているものと思われる。

ところで、次の(61)(62)も、好ましいことの成立・不成立の例であるが、受益表現が使われていない。

(61)「悔しいけど、森島選手が活躍してうれしかった」 (『読売新聞』2002.06.19)
(62)「大ファンの清原選手が出場しなくて残念。(以下略)」 (『読売新聞』2006.02.26)

(58)－(60)と(61)(62)は、関与していないという点では同じである。では、違いは何だ

[10]受身と受益表現については、柿元(1993)を参照されたい。

ろうか。(61)(62)は、「応援している選手が活躍すれば、そのファンはうれしいものだ」というように、前件と後件の結びつきが社会通念として分かりやすい。一方、(58)－(60)は、「他校の人が身近な企業を知る」ことが、後件の主体にとってなぜ「うれしい」のか、「市長が議決の重みを感じない」ことが、なぜ「残念」なのか、社会通念として分かりにくい。そのため、受益表現を用い恩恵の受け手として表現することによって、文の結束性を高める必要があるためと考えられる。また、結びつきが分かりやすい場合も、任意で受益表現を使うこともできる。

(61')「悔しいけど、森島選手が活躍してくれてうれしかった」

以上、前件の出来事に後件の主体が関与しておらず、前件が好ましいことの場合は、受益表現を使用し文の結束性を高める必要があるが、前件と後件のむすびつきが社会通念でわかりやすければ、受益表現を使用しなくてもよいということを確認した。

次に、好ましくないことは、受益表現は使えないので、受身を用いるかどうかが問題になる。次の(63)は、好ましくないことの成立である。

(63) 9日の競技初日の柔道では、谷亮子選手が金メダルを逃して残念でした。

(『読売新聞』2008.08.12)

(63)の「谷亮子選手が金メダルを逃した」ことに、後件の主体は全く関与していない。そして、(63)は、次の(63')のように受身にすると、文意が変わる。

(63')　谷亮子選手に金メダルを逃されて残念でした。

(63')は、金メダルを取るかどうか、賭けでもしていた際に使うのではないだろうか。関与していない出来事を受身にすると、間接受身になり、その出来事が迷惑であることを表してしまうのである(三上 1953：103)[11]。そのため、次のように、迷惑だと表現することが不適切な例もある。

(64)多くの人が亡くなって悲しかったし、傷ついた。　(『読売新聞』2002.01.20)

(64') ＃ 多くの人に亡くなられて悲しかったし、傷ついた。

このように、関与していない場合は、迷惑だと表現してよい場合のみ受身が使われる。では、迷惑だと表現してよいときの受身は必須なのだろうか。

[11] 三上(1953)のページ数は、三上(1972)のものである。

(65) 後輩に先に博論を書かれて、悲しい。

(65') 後輩が先に博論を書いて、悲しい。

(66) 山田に 200M で新記録を出されて、悔しかった。

(66') 山田が 200M で新記録を出して、悔しかった。

(65)－(66')は、いずれも適格であり、迷惑であると表現してもいい場合の受身の使用は、任意であると言える。このように、前件の出来事に後件の主体が関与せず、好ましくないことの場合は、迷惑だと表現してもよいときのみ、任意で受身が使われる。

以上、B 前後件が異主体の例では、どのような場合に受身や受益表現を使うのかを見てきた。以上をまとめると、次の表 4 のようになる。

**表 4　［対象事態］B 前件と後件が異主体の前件の制約**

<table>
<tr><th>タイプ</th><th colspan="2">後件の主体の前件への関与</th><th>前件の制約</th></tr>
<tr><td rowspan="3">［対象事態］<br>B</td><td colspan="2">関与する</td><td>受身または受益表現が必須　(67)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">関与<br>しない</td><td>好ましいことの<br>成立・不成立</td><td>結びつきが分かりにくい⇒受益表現が必須　(68)<br>結びつきが分かりやすい⇒受益表現がなくてもよい (69)</td></tr>
<tr><td>好ましくないことの<br>成立・不成立</td><td>迷惑だ⇒任意で受身使用可　(70)<br>迷惑ではない⇒受身使用不可 (71)</td></tr>
</table>

(67)a. {*友人が私を騙して／友達に騙されて}、悲しい／悲しかった。

b. 多くの人が（私の）歌を {*聞いて／聞いてくれて}、嬉しい／嬉しかった。

(68) 子供たちが動物を {*かいわいがって／かわいがってくれて}、嬉しい／嬉しかった。

(69) 阪神が {優勝して／優勝してくれて}、嬉しい／嬉しかった。

(70) {弟に家業を継がれて／弟が家業を継いで}、悔しい／悔しかった。

(71) {多くの人が亡くなって／#多くの人に亡くなられて}、悲しい／悲しかった。

### 3.4.　C 前件の主体が人間以外

次に、前件の主体が人間以外の例を見ていく。前件の主体が人間以外の場合も、前件は自己制御性のないことであり、無標のテ形か可能テ形かという問題はない。また、前件が人間以外であるから、恩恵や被害を明示する必要もないため、次のように無標のテ形で適格になる。

(72)「自分の絵本が出来上がって嬉しい。(以下略)」　(『読売新聞』2004.01.23)

(73)「静かな街で物騒な事件が起きて恐ろしい。(以下略)」　(『読売新聞』2005.04.21)

(74)「シュートが入らなくて悔しかった。(以下略)」　　(『読売新聞』2008.06.02)

## 4.　［対象認識］について

次に、［対象認識］について見てみよう。はじめに、［対象認識］と［対象事態］の関係について、それから、［対象認識］の自己制御性について述べる。

### 4.1.　［対象認識］と［対象事態］の関係

［対象認識］とは、前件の動詞が感情の対象を認識する段階の動作を表し、認識した内容が感情の対象であるタイプである。動詞は、「見る」「聞く」「知る」等に限られる。

(75)「浜田市に世界に誇れる石があると知ってうれしい」　　(『読売』2006.12.20)

(76)「ごみが捨てられているのを見て悲しかったけど、自分の力できれいにできてとてもうれしい」　　(『読売』2009.10.08)

そして、［対象認識］は、［対象事態］の感情の対象を認識する段階の動作を言語として顕在化したものである。

(77)「会うたびに元気になっている姿を見てうれしい。」　　(=8)

(77')「(知人が) 会うたびに元気になって、うれしい。」

(77)の感情の対象は「(知人の) 会うたびに元気になっている姿」であり、(77)は(77')の前件を認識する動作を言語として顕在化したものであると考えられる。(77')は、［対象事態］B 前後件が異主体の例に分類される。

次の(78)の感情の対象は、「自転車盗や車上荒らしが多発している」ことである。(78')の前件を認識する動作を言語として顕在化したものである。(78')「は、［対象事態］C 前件の主体が人間以外の例である。

(78)「自転車盗や車上荒らしが多発していると聞き残念。(以下略)」
(『読売新聞』2005.10.12)

(78')「自転車盗や車上荒らしが多発して、残念。」

次の(79)の感情の対象は、「私が合格した」ことである。(79')は、［対象事態］A 前後件が同一主体の例であり、(79)は(79')の前件を認識する動作を顕在化したものである。

(79)(私が)合格したと聞いて、うれしいです。

(79’) 合格して、うれしいです。

このように［対象認識］とは、［対象事態］タイプの前件を認識する段階の動作を顕在化したものなのである。

### 4.2. ［対象認識］の自己制御性

［対象認識］は、「見る」「聞く」が意志動詞であることから、［対象事態］とは異なり、前件は自己制御性がないことでなければならないという制約がないように見える例もある。しかし、［対象認識］は、［対象事態］の感情の対象を認識する段階の動作を顕在化したものであり、感情の対象である出来事に自己制御性が無いという点では、［対象事態］と同じであるということができる。

(80)「この唄が各地で歌われていると聞いてうれしい。日本中の人たちに広めていきたい」（『読売新聞』2001.07.02）

(80’)「この唄が各地で歌われていて、うれしい」

(81)「母校が部員不足と聞いて寂しいが、合同チームで何かを学んでほしい」（『読売新聞』2003.06.15）

(81’)母校が部員不足で、悲しい。

(80)は［対象認識］で、［対象事態］の(80’)の感情の対象を認識する段階の動作を顕在化したものである。そして、「この唄が各地で歌われている」という感情の対象である出来事を「聞く」ためには、「この唄が各地で歌われている」という出来事が成立していなければならない。そして、この出来事は、後件の主体にとって、自己制御性はない。よって、(80)も(80’)と同様に、前件の自己制御性はないと言えるのである。(81)では、「母校が部員不足である」ことが感情の対象であり、それは、後件の主体にとって自己制御性がないことである[12]。このように、［対象認識］も、「Ｖテ、感情形容詞」の前件は、自己制御性がないことでなければならないという制約の例外ではないと言える。

以上、［対象認識］について、［対象事態］の感情の対象を認識する段階の動作を顕在化したものであり、感情の対象の出来事は自己制御性のないことであることから、前件には自己制御性がないと見なせるということを確認した。

## 5. 「Ｖテ、感情形容詞」と「～カラ、感情形容詞」「～ノデ、感情形容詞」

最後に、「Ｖテ、感情形容詞」と「～カラ、感情形容詞」「～ノデ、感情形容詞」という文型の違いについて確認する。はじめに、これらの文型についての先行研究の指摘を確認

[12] (81’)の前件は、「名詞デ」であり、「Ｖテ、感情形容詞」ではないが、(81)の「聞いた」の内容が感情の対象であるということには変わりがない。

する。次に、「～ノデ、感情形容詞」と「～カラ、感情形容詞」という文型は、「Vテ、感情形容詞」と同様に前件が感情の対象である例もあるが、前件が感情の対象ではなく、後件の感情が生まれた状況を条件的な理由としてを示す例があることを述べる。

### 5.1. 先行研究

蓮沼他(2001：121)では、「Vテ、感情形容詞」と「～カラ、感情形容詞」「～ノデ、感情形容詞」の違いについて、次の(82)(83)の例が挙げられ、下記のような説明がされている。

(82)希望の大学に合格できテ、とてもうれしい。
(83)希望の大学に合格できた{カラ・ノデ}、とてもうれしい。　(蓮沼他 2001)

テは、ある出来事Xがきっかけとなって、話し手に生じた感情変化をそのまま述べるときに使われます。「Xの結果、そのことに対して私はYと感じる」といった意味のもので、これはカラ・ノデのように因果関係を明示的に述べる表現とは異なります。このようにある出来事がひきがねとなって生じた感情変化を表す場合には、テを使うのが自然で、カラ・ノデは普通使われません。

では、「～カラ、感情形容詞」「～ノデ、感情形容詞」という文型は、いつ使われるのであろうか。

### 5.2. 「カラ」「ノデ」と「～テ」の違い

動詞のテ形が原因・理由を表すには、主節が動詞である場合、「～テ節」が主節よりも時間軸上で先行していなければならないが、「～ノデ」は、そのような制限がないことが指摘されている(仁田 1995)。次の(84)は、後件の「掃除をする」ことが「友人が訪ねてくる」ことより時間的に先行していても適格文であるが、(85)は非文である。

(84)明日友人ガ尋ネテ来ルノデ、部屋ヲ掃除シタ。
(85)*明日友人ガ尋ネテ来テ、部屋ヲ掃除シタ。　(仁田 1995)

これは、主節が感情形容詞の場合もあてはまる。

(86)来週、友人が帰国するので、寂しいです。
(87)*来週、友人が帰国して、寂しいです。

そして、「～カラ」も同様である。

(88)来週、友人が帰国するから、寂しいです。

(89)*来週、友人が帰国して、寂しいです。　　((＝86))

(86)(88)は、前件の「友人が帰国する」ことが「寂しい」の感情の対象であり、自然な発話であるかは別であるが、非文ではない。また、次の(90)(91)のように「～カラ」「～ノデ」が感情の対象である実例も存在する。(90)は、お祭りで馬に乗って神輿を先導する役に選ばれた少年のお祭りの前の発話であり、未来のことを「うれしい」と述べる文である。

(90)「稚児のお父さんの写真を見て格好良かった。初めて馬に乗ることができるのでうれしい」　　(『読売新聞』2008.06.16)

(91)日本にまた行きたいが、今は行けないので悲しいと言っていた。

(『読売新聞』2002.05.24)

ところで、用例を見てみると、「～カラ、感情形容詞」「～ノデ、感情形容詞」には、次のように、前件が感情の対象ではない例がある。

(92)「打つ自信があったので悔しい。負けたのは自分の責任」

(『読売新聞』2008.07.13)

(93)花を受け取った宮崎市本郷南方の主婦水浦良子さん(51)は「家で花を栽培しているが、ブーゲンビリアはないのでうれしい」と話していた。

(『読売新聞』2008.06.15)

(92)は、「負けた」ことが悔しいのであって、「打つ自信があった」ことが悔しいわけではない。(92)の前件は、感情の対象ではないのである。(92)は、打つ自信がなければ、負けても悔しくなかったかもしれないが、「打つ自信があった」という状況下では「悔しかった」ということを述べている。(93)も、「ブーゲンビリアをもらった」ことがうれしいのであり、前件は感情の対象ではない。そして、もし、すでにブーゲンビリアを持っていればうれしくないかもしれないが、「ブーゲンビリアを持っていない」という状況下では「うれしい」ということを述べている。(93)の前件は、「うれしい」という感情が生まれた状況を条件的な理由として示しているのである。このように、後件の感情が生まれた状況を条件的な理由として示すものを［条件的理由］と呼ぼう。

そして、［条件的理由］は、「～テ、感情形容詞」という文型で表すことはできない。

(92')　*打つ自信があって、悔しい。

(93')「家で花を栽培しているが、ブーゲンビリアはなくてうれしい」

(92')は非文である。(93')は適格文であるが、(93)とは文意が異なる。これらの例から、「Vテ、感情形容詞」は、［条件的理由］を表すことはできないことがわかる。

次の(94)はノデ節とテ節が共起している例である。(94)では、ノデ節「同人誌でご活躍されていた頃からのファンである」ことが［条件的理由］であり、テ節「イラストをつけていただけた」ことが感情の対象である。

(94) 同人誌でご活躍されていた頃からのファンですので、イラストをつけていただけて、本当に嬉しいです。 (BCCWJ『この愛にひざまずけ』)

以上、「～カラ、感情形容詞」「～ノデ、感情形容詞」は、「Vテ、感情形容詞」と同様に前件が感情の対象である例もあるが、後件の感情が生まれた状況を条件的な理由として示す［条件的理由］を表すことを見た。また、「Vテ、感情形容詞」は、［条件的理由］は表せないことも確認した。

## 6. まとめ

第4章では、「Vテ、感情形容詞」について考察を行い、最後に、「～カラ、感情形容詞」「～ノデ、感情形容詞」という文型との比較を行った。

「Vテ、感情形容詞」が適格になる条件について以下の3点をを主張した。

【1】「Vテ、感情形容詞」は、原則として、前件の出来事が後件の主体にとって自己制御性のないことでなければならない。

(95)友達に｛*会って／会えて｝、うれしいです。
(96)友達に｛*会わなくて／会えなくて｝、さびしいです。

【2】「Vテ、感情形容詞」は、前件が感情の対象である［対象事態］タイプと、［対象事態］の感情の対象を認識する段階の動作を言語として顕在化した［対象認識］タイプに分類することができる。

(97)娘が元気に頑張っていて、うれしい。 ・・・・・・・［対象事態］
(98)娘が元気に頑張っているのを見て、うれしい。 ・・・［対象認識］

［対象事態］は、一見、「Vテ、感情形容詞」の前件は、自己制御性のない出来事でなければならないという制約の例外に見えるが、前件の感情の対象を認識するには、自己制御性のない感情の対象となる出来事が成立しなければならないことから、［対象認識］の前件

も自己制御性がないと言える。

【3】［対象事態］は、前件の主体によって、図の通り、A・B・Cに分類される。それぞれの前件の制約は、以下の表5の通りである。

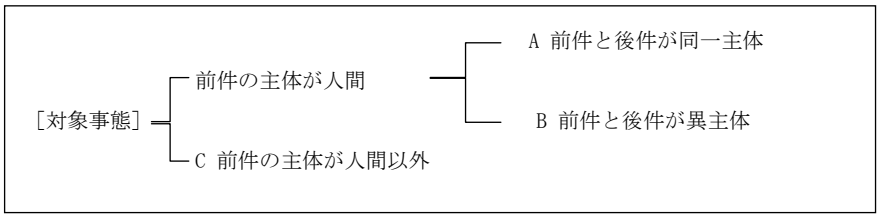


**図2　［対象］タイプの分類**

**表5　「Vテ、感情形容詞」が適格文となる条件**

| タイプ | 前件の制約 | | |
|---|---|---|---|
| 対象事態 | A | 肯定 | 好ましい⇒自己制御性無<br>（ア）着物を｛*着て／着られて｝、嬉しいです。<br>※後件が過去形⇒自己制御性有も可　（実例は可能テ形が多い）<br>（イ）着物を｛着て／着られて｝嬉しかったです。 |
| | | | 好ましくない⇒自己制御性有も可<br>（ウ）親に隠し事をして、苦しいです／苦しかったです。 |
| | | 否定 | 自己制御性無<br>（エ）本当のことを言えなくて｛つらいです／つらかったです｝。 |
| | B | 関与する | 受身または受益表現が必須<br>（オ）｛*友達が私を騙して／友達に騙されて｝、悲しい／悲しかった。<br>（カ）多くの人が（私の）歌を｛*聞いて／聞いてくれて｝、嬉しい／嬉しかった。 |
| | | 関与しない | 好ましい⇒結びつきが分かりにくい⇒受益表現が必須<br>（キ）子供たちが動物を｛*かわいがって／かわいがってくれて、嬉しい／嬉しかった。<br>好ましい⇒結びつきが分かりやすい⇒受益表現がなくてもよい<br>（ク）阪神が｛優勝して／優勝してくれて｝、嬉しい／嬉しかった。 |
| | | | 好ましくない⇒迷惑だ⇒任意で受身使用可<br>（ケ）｛弟に家業を継がれて／弟が家業を継いで｝、悔しい／悔しかった。<br>好ましくない⇒迷惑でない⇒受け身の使用不可<br>（コ）｛多くの人が亡くなって／#多くの人に亡くなられて｝悲しい／悲しかった。 |
| | C | | （サ）本が完成して、うれしい。<br>（シ）シュートが決まらなくて、残念だ。 |
| 対象認識 | 前件は「見る」「聞く」「知る」「わかる」等の認識系の動詞に限られる。<br>（ス）娘の元気な姿を見て、うれしいです／うれしかったです。<br>（セ）知らせを聞いて、残念です／残念でした。 | | |

そして、「～カラ、感情形容詞」「～ノデ、感情形容詞」は、「Vテ、感情形容詞」では表せない後件の感情が発生した状況を条件的な理由として示す［条件的理由］を表すことを見た。

（ソ）負けるとは思っていなかったので、負けて、悔しいです。

**用例出典**

BCCWJ：国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパス』
コーパス検索アプリ中納言による　https://chunagon.ninjal.ac.jp/login
（最終閲覧日 2014.08.30）
『読売新聞』ヨミダス文書館による　https://database.yomiuri.co.jp/rekishikan/
（最終閲覧日 2014.08.30）

# 第５章　連体修飾用法の感情形容詞と被修飾名詞の意味関係
## ―うれしい人、うれしい話、うれしい悲鳴―

### 1.　はじめに

第５章では、「うれしい人」「うれしい話」「うれしい悲鳴」といった連体修飾用法(以下、連体用法)の感情形容詞と被修飾名詞の意味関係について考察を行う。はじめに、連体用法の感情形容詞と被修飾名詞の関係についての先行研究を概観し、連体用法の感情形容詞と被修飾名詞の関係を７つに分類する。そして、先行研究では指摘されていない「うれしい悲鳴」のような「被修飾名詞が、経験者が感情形容詞で表される感情を持っている時に、経験者から発せられるもの(声や表情)である」という関係のタイプがあることを述べる。

また、国立国語研究所の『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese,略称BCCWJ)を用いて、７つのタイプの出現度数を調査し、連体修飾用法の感情形容詞の使用実態を明らかにする。BCCWJからの用例には、出典を併記する。以下の例文の下線は、すべて筆者によるものである。なお、本章の考察の対象は、「うれしい」のようなイ形容詞と「残念な」のようなナ形容詞である。以下で「形容詞」といった場合は、イ形容詞とナ形容詞を指す[1]。

### 2.　先行研究と問題の所在

はじめに、連体用法の感情形容詞と被修飾名詞の意味関係についての先行研究と、連体修飾節と被修飾名詞の統語的・意味的関係についての先行研究を見ていく。

#### 2.1.　西尾寅弥(1972)

西尾(1972：35)は、第２章で見たように、日本語の形容詞は感情形容詞と属性形容詞に二分されるとしたうえで、感情形容詞が属性を表したり、属性形容詞が感情を表したりすることもあると述べている。そして、「感情形容詞が連体修飾語の位置を占めるばあいは、もっと属性表現になりやすいようである」と述べ、次の例を挙げている。(1)の「いやな」は、「匂い」の属性を表しているという[2]。

(1) 野菜の味が浸み込み、肉特有のいやな匂いもぬける。　(西尾 1972)

---

[1] 第５章は、次の論文を加筆修正したものであり、データの一部を修正し大幅な変更を加えている。村上佳恵(2014)「連体修飾用法の感情形容詞と被修飾名詞の意味関係 ―うれしい人、うれしい話、うれしい悲鳴―」『学習院大學國語國文學会誌』57　p.56-45

[2] 荒(1989)も、形容詞を「状態」を表す「状態形容詞」と「特性」を表す「質形容詞」に分類し、「状態形容詞」が名詞を修飾する際は「質形容詞」に移行すると述べている。「状態」とは、「あたえられた時間の断片のなかで生じる、アクチュアルな現象をとらえていて、つねに特定の具体的な時間にしばられている」もので、「特性」とは「物にコンスタントにそなわっている、ポテンシャルな特徴」であるという。状態形容詞と質形容詞は、感情形容詞と属性形容詞とは異なる観点からの分類であるが、感情形容詞の多くは、荒(1989)では「状態形容詞」であり、「状態形容詞」が連体修飾用法では「質形容詞」に移行するという指摘は、西尾(1972)と同様の指摘と見ることができる。

## 2.2. 畢暁燕(2010)

畢(2010)は、連体用法の感情形容詞と被修飾名詞の関係には、「主体の心理的側面指定のむすびつき」、「対象の評価的属性指定のむずびつき」、「感情の内容指定のむすびつき」の 3 つがあるとしている。

「主体の心理的側面指定のむすびつき」の例は、次の(2)(3)であり、被修飾名詞の「心理状態を表すむすびつき」であるという。被修飾名詞は「情意・感情のモチヌシ性というカテゴリカルな意味」を持ち「ヒト名詞が典型」であるが、「欲しい」には、(2)のような組織名も見られると述べている。

(2) 第 3 句、連休になるように操作する政府と、休みだという理由だけで嬉しい国民との間の意味もへったくれもある訳がない。
(3) こうなると寄付の欲しい財団や NPO は、それに値する事業の立案や活動内容の開示をしっかりやる。 (畢 2010)

「対象の評価的属性指定のむすびつき」の例は、次の(4)(5)である。「対象の評価的属性指定のむすびつき」は、被修飾名詞に対し「特定する側(＝話者)が付与した、一種の評価性を帯びる属性を表すむすびつき」であるという。被修飾名詞は「人に感情的・心理的変化を生じさせる対象性・機縁性というカテゴリカルな意味」を持ち、「人に認知される具体的な物や人を表すモノ名詞・ヒト名詞は勿論、抽象的な事を表すコト名詞」であるとしている。

(4) 朝の海沿いの道は時に魚やイカ、海藻などの嬉しい収穫がある。
(5) あの人は退屈な人だ。 (畢 2010)

「感情の内容指定のむすびつき」の例は、次の(6)(7)である。「感情の内容指定のむすびつき」とは、被修飾名詞の「内容を具体化させるむすびつき」であり、被修飾名詞は「人の心理・感情を表し、且つ喜怒哀楽など具体的な感情を表す名詞の上位に位置するもの」であり、「～思いをする」「～気がする」等の「定型化した表現が多い」としている。

(6) 高校生の頃だったか、娘がそっとおでこをくっつけてつぶやいた。「最近、さみしいの」。自分なりに娘との時間を作ってきたつもり。でも寂しい思いをさせてきたのかな、とも思う。
(7) 電話相談員の女性は「悩んでいないで苦しい気持ちを打ち明けて。一緒に話をしてください」と話している。 (畢 2010)

以上のように、畢(2010)では、感情形容詞と被修飾名詞の関係として3つのタイプがあることが指摘されている。しかし、用例を見ていくと、上記の3つのタイプには当てはまらないものがある。

(8) 市社会体育課は「二月から三月にかけては六チームが利用し、スケジュールがいっぱい」とうれしい悲鳴を上げる。（『高知新聞』）

(9) 「大丈夫でしょうか？」不安な顔つきでで訊く集落の者に、あくまでも按司は平静であった。（『シギラの月』）

(8)(9)の「悲鳴」「顔つき」は、畢(2010)の「主体の心理的側面指定のむすびつき」「対象の評価的属性指定のむすびつき」「感情の内容指定のむすびつき」のいずれでもない。「悲鳴」と「顔つき」は、感情形容詞とどのような関係にあるのだろうか。

### 2.3. 寺村秀夫(1975)

上記の(8)(9)のような例を分析する前に、感情形容詞から離れ、連体修飾節と被修飾名詞についての先行研究を概観する。連体修飾節と被修飾名詞の関係の分類が、感情形容詞と被修飾名詞の関係を明らかにする際に参考になるからである。

寺村(1975)は、節が名詞句を修飾する場合、「「限定・修飾」のしかた」が異なるものがあるとして、「ウチの関係」と「ソトの関係」に分類を行っている。(10a)はウチの関係、(10b)はソトの関係の例である。

(10)a. 君がそのとき聞いた足音
b. 誰かが階段を降りて来る足音（寺村 1975）

ウチの関係とは、被修飾名詞が「格助詞『が』『を』『に』などをつけて修飾部の用言と結びつけることができる関係を、その用言あるいは修飾部全体に対して持って」いるもの、つまり、連体修飾節の述部を文の述部にした場合に、被修飾名詞が補語となる関係である[3]。(10a)は、「そのとき君が足音を聞いた」という文を作ることができ、「足音」は「聞く」の補語であり、ウチの関係である。ソトの関係とは、被修飾名詞が連体修飾節の述語の補語にならないものである。(10b)の「足音」は「降りて来る」の補語ではなく、寺村(1975)は、「『誰かが階段を降りて来る』(ときに生じる)そういう音だと了解される」と述べている。

そして、ソトの関係は、更に、連体修飾節と被修飾名詞の意味的な関係から「内容補充

[3] 寺村(1975)は、「補語の中にも、用言との縁の深さによって『第一次的』『第二次的』と区別する必要があると考える」が、連体修飾節の考察には「直接関係がない」とし、名詞句に格助詞がついたものは、すべて補語として一括している。また、「きのう」「朝」等の時の名詞は、格助詞なしで動詞と述語と結びつくが、補語と見なすとしている。本研究もこれに従う。

節」と「相対補充節」に分類されるとしている。次の(11)は、「内容補充節」で、連体修飾節が被修飾名詞の「内容そのもの」であるタイプで、連体修飾節「女房の幽霊が三年目に現れる」が「話」の内容である。(12)は、「相対補充節」で、連体修飾節が被修飾名詞の「本来的に相対する概念の内容を表すもの」であるタイプである。(12)の連体修飾節「火事が広がった」は、「原因」の内容ではなく、「結果」がどんなものであるかを述べており、「火事が広がったその原因」という関係である。

(11)女房の幽霊が三年目に現れる話
(12)火事が広がった原因は空気が乾燥していたことだ。　(寺村 1975)

このように、連体修飾節は、統語的な観点からウチの関係とソトの関係に分類され、ソトの関係は、連体修飾節と被修飾名詞の意味的な関係から、内容補充節と相対補充節に分類されることが指摘されている。

### 2.4. 意味的分類と統語的分類のかかわり

畢(2010)の感情形容詞と被修飾名詞の関係の分類と、寺村(1975)のウチの関係とソトの関係という分類をふまえ、連体用法の感情形容詞と被修飾名詞の関係を整理してみる。まず、2.2 で挙げた畢(2010)の例の名詞句を再掲し、形容詞を述語とする文にしてみる。(16)は、畢(2010)の「対象の評価的属性指定のむすびつき」で「つまらなくて、おもしろみのない人」という解釈である。名詞句「退屈な人」だけだと「退屈だと感じている人」という解釈もあるため、文を再掲する。

(13)a. 嬉しい国民
　b. 国民が嬉しい
(14)a. 寄付の欲しい財団
　b. 財団が寄付が欲しい
(15)a. 嬉しい収穫
　b. 収穫が嬉しい
(16)a. (あの人は)退屈な人だ
　b. (あの)人が退屈だ
(17)a. 寂しい思い
　b. *思いが寂しい
(18)a. 苦しい気持ち
　b. *気持ちが苦しい

感情形容詞は、「私が失敗が悔しい」のように、経験者であるガ格と、感情の対象であるガ格をとる。よって、経験者と感情の対象がウチの関係として被修飾名詞になることが予想される。畢(2010)が「主体の心理的側面指定のむすびつき」と呼ぶ(13)(14)は、被修飾名詞が経験者、「対象の評価的属性指定のむすびつき」と呼ぶ(15)(16)は、被修飾名詞が感情の対象であると言える。そして、「感情の内容指定のむすびつき」と呼ぶ(17)(18)は、感情形容詞と被修飾名詞は格関係を持たず、ソトの関係と考えることができる。

なお、連体用法の形容詞と被修飾名詞の関係は、文レベルでないと定まらない場合もある。先に述べたように、(16)の「退屈な人」は、名詞句単独では、「退屈だと感じている人」という解釈と「つまらなくて、おもしろみのない人」という2つの解釈ができる。以下では、文レベルで解釈をする。そして、先に挙げた(8)(9)の「うれしい悲鳴」「不安な顔つき」のような例も含めて感情形容詞と被修飾名詞の関係を整理する。

## 3. 考察の対象

第3節では、国立国語研究所の『現代日本語書き言葉均衡コーパス(Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese,略称BCCWJ)を用いて、感情形容詞の連体用法と被修飾名詞の意味関係について考察を行う。BCCWJは、「生産実態(出版)サブコーパス」「流通実態(図書館)サブコーパス」「非母集団サブコーパス(特定目的)」という3つのサブコーパスからなる約1億語のコーパスである。本研究では、BCCWJの「生産実態(出版)サブコーパス」と「流通実態(図書館)サブコーパス」の非コアデータとコアデータを使用し、コーパス検索アプリケーション中納言を用いて短単位検索を行った[4]。そして、第2章で感情形容詞と分類した語を検索し、出現度数50以上の66語、述べ34,165語を考察の対象とした。考察対象の66語は、次の通りである。なお、下記のA群、B群というのは、第2章の形容詞分類で感情形容詞と認定した語群で、A群が典型的な感情形容詞である[5]。

感情形容詞A群(28語)

意外な　嫌な　うっとうしい　羨ましい　嬉しい　惜しい　悲しい　可愛い(愛しい)
悔しい　心強い　心細い　残念な　心配な　切ない　得意な(鼻が高い)　懐かしい　憎い
恥かしい　不安な　不思議な　不審な　平気な　欲しい　満足な　虚しい　迷惑な
申し訳ない　憂鬱な

---

[4]非コアデータとは形態素解析器により形態素解析を行ったデータで、コアデータとは非コアデータに人手による修正を加えたデータである。
『中納言オンラインマニュアル』https://maro.ninjal.ac.jp/wiki/（2013.08.1参照）
短単位検索とは、「意味を持つ最小の単位」を規定し、それを「文節の範囲内で短単位の認定基準に基づいて結合させる(又は結合させない)」という過程を経て得られる単位である。
国立国語研究所　『現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ)形態論情報』
http://www.ninjal.ac.jp/corpus_center/bccwj/morphology.html　(2013.08.05参照)

[5] なお、第2章の形容詞分類では、上記の語のうち、次の語は下記の通りの2義を認めている。しかし、連体用法においては、分類が困難な例があるため、2義の分類を行わず、すべて考察の対象としている。詳しくは、5.1.1で述べる。
おかしい(こっけいな／変な)　かわいい(愛しい／外見が良い)　　得意な(上手な／鼻が高い)

感情形容詞B群(38語)
暖かい　暖かな　熱い　暑い　有り難い　慌ただしい　忙しい　痛い
おかしい(こっけいな)　恐ろしい　重い　重たい　快適な　軽い　きつい　窮屈な
気楽な　苦しい　幸福な　怖い　寂しい　寒い　幸せな　清々しい　涼しい　退屈な
大変な　楽しい　多忙な　冷たい　つらい　情けない　暇な　複雑な　まぶしい　面倒な
愉快な　煩わしい

## 4.　感情形容詞と被修飾名詞の意味的関係

本研究では、感情形容詞と被修飾名詞を次の7つに分類する。[対象]・[経験者]・[とき]・[内容]・[表出物]・[相対補充]・[その他] の7つである。これらの7つのタイプは、それぞれに典型的な例と周辺的な例があり、後者には、他のタイプとの非常に近い例、または、2つのタイプとして解釈が可能な例もある。周辺的な例については、5節で詳しく述べる。4節では、典型的な例を示し、7分類の全体像を示す。

### 4.1.　感情形容詞と被修飾名詞の意味的関係の7分類

7つのタイプを統語的に見ると、[対象]・[経験者]・[とき] はウチの関係、[内容]・[表出物]・[相対補充]・[その他] は、ソトの関係である。[対象] は、畢(2010)の「対象の評価的属性指定のむすびつき」、[経験者] は「主体の心理的側面指定のむすびつき」と同じである。[内容] は、畢(2010) の「感情の内容指定のむすびつき」を含むが、[内容] のほうが範囲が広い。

#### 4.1.1.　[対象]

[対象] は、「被修飾名詞が感情形容詞で表される感情を引き起こすもの」という関係である。次の(19)－(21)の「思い出」「人」「漂着物」は、「悲しい」「懐かしい」「迷惑な」という感情を引き起こすものであり、それぞれが「悲しい」「懐かしい」「迷惑な」という感情を引き起こすような属性を持っているということもできる。被修飾名詞は、畢(2010)の指摘の通り、事柄でも人間でも物でもよい。

(19)目を閉じると、悲しい思い出だけが浮かび上がってくる。
(『ジャガタラお春』)

(20)急に同窓会を開きたくなるかも。懐かしい人に連絡を取っては？
(『Hanako』)

(21)今の海岸には、発泡スチロールやペットボトル、釣り糸といった迷惑な漂着物も少なくないが、海はまだたくさんの「贈り物」を用意してくれている。

（『スローライフ in ふくしま』）

### 4.1.2. ［経験者］

［経験者］は、「被修飾名詞が感情形容詞で表される感情の持ち主」という関係である。次の(22)－(24)の「人間」「人」「政府機関や国営企業」は、「不安な」「嫌な」「欲しい」という感情の持ち主であり、［経験者］である。そして、［経験者］の被修飾名詞は、畢(2010)の指摘の通り、人間か組織である。

(22)まだピアスの取り外しに慣れていないので、セカンドピアスをうまくホールに通せず、せっかく完成したピアスホールを再び傷つけてしまうことも。不安な人は 、慣れるまでは医療用樹脂でできた柔らかい練習用ピアスを使ってみて。
（『non・no』）

(23)「おまえさ、仕事相手が自分より弱くなきゃいやな人間なんだよな…。(以下略)」
（『準備だけはあるのに、旅の』）

(24)正確にいえば、大学の卒業生をほしい政府機関や国営企業は、それぞれ教育部に専攻別の人数を要求する。（『孔子家の心』）

### 4.1.3. ［とき］

［とき］は、「被修飾名詞が感情形容詞によって表される感情が存在するときを表す」という関係である。

(25)私がつらい時、主人が台所にたってくれて、家事を手伝ってくれたり、会社に私のことを話して早くに帰って来てくれたり、一緒にいる時間をとってくれたので、その協力は大きかったと思います。（『現役ナースが明かす更年期ホントの話』）

(26)孤独でなんの展望もみえないとき、生きるのが辛いとき、祈るようにして「生きる意味」を探しもとめることがある。（西研『哲学のモノサシ』）

(27)どんなつらい時も闇の先には必ず光がさしてるよ。
（『心が元気になる英語のことば』）

(25)は経験者が共起した例、(26)は対象が共起した例、(27)は経験者も対象も共起しない例である。このように、経験者や対象が共起する場合も、しない場合もあるが、被修飾名詞が時や期間を表す名詞の場合、感情形容詞と被修飾名詞は、「被修飾名詞が感情形容詞によって表される感情が存在するときを表す」という関係になると言うことができる。

［とき］の被修飾名詞は、時や期間を表す語である。以下に示す被修飾名詞は、『分類語彙表』を参考に分類を行ったが、便宜的な分類である。⑥は、X に具体的な数字か「数」（例：数か月）が入るものである。⑦は、複合語の構成要素で「～期間」ならば、「妊娠期間」、「～

中(ちゅう)」ならば「調理中」等が例として挙げられる。⑧は、複合語の構成要素(例：8月末)、または、「の」を伴い用いられる(例：8 月の末)ものである。⑨は、「橋が転がってもおかしい年頃」のような例が挙げられる。⑩の語は、単独では時を表さないため、[とき]に入れるか迷ったが、ここに分類する。⑩の「盛り」は「暑い盛り」、「絶頂」は「苦しい絶頂」のような例がある。

① 一時期　一瞬　期間　歳月　時間　時間帯　時期　時刻　時代　時分　週末　瞬間　月　月日　年月　時　年　日　一時　日々　毎週　毎日　曜日
② 明け方　朝　朝夕　一夜　午後　早朝　黄昏どき　日夜　日中　晩　一晩　昼下がり　昼過ぎ　昼間　真昼　夕　夕方　夕暮れ　夕べ　夜
③ 秋　乾期　季節　シーズン　時季　時節　春日　冬季　夏　夏場　麦秋　春　冬　冬場
④ 今日　今日この頃　現在　現代　この頃
⑤ イブ　元日　休暇　休日　クリスマス　歳末　正月　師走　梅雨　年の瀬　夏休み　年末　春休み　ホリデー
⑥ X 年　X 年間　X 月　X カ月　X 週間　～曜日　X 日　X 日間　X 時間　X 時過ぎ　X 分間
⑦ ～期　～期間　～休暇　～時(じ)　～時間　～時代　～タイム　～中(ちゅう)　～日(び)
⑧ 暮　下旬　半ば　初め　末
⑨ 年頃　年齢
⑩ あいだ　うち　おり　ころ　最中　盛り　絶頂　峠　場合

#### 4.1.4. [内容]

次に、外の関係を見ていく。外の関係は [内容]・[相対補充]・[その他] の 3 つである。本研究で [内容] とよぶのは、「修飾部(形容詞または形容詞節)が被修飾名詞の内容を述べる」という関係のものである。

(28)その後ろ姿を見ると、さっきまでの悔しい気持ちが 薄れ、代わって申し訳なさで胸が一杯になった。　(『私は金正日の「踊り子」だった』)
(29)「使ってくれますかねぇ」不安な気分になりながら私はいう。　(『沖縄魂の古層に触れる旅』)
(30)原則として患者は言葉数が少ない。そこで医者の方から言葉をかけ、患者の苦しい心境を少しでも察するように努力する。　(『医者と患者』)
(31)「売れないときは悔しい思いもしましたが、金額的にはいくらにもならない種苗

をコツコツ売ってきて、少しでも覚えていただいていたことが良かったのでしょう。(以下略)」　　(『必ず繁盛店！地域密着商法の極意』)

(28)－(31)は、被修飾名詞が「気持ち」「気分」等であり、形容詞は、被修飾名詞の内容を具体的に述べている。以上の例は、畢(2010)の「感情の内容指定のむすびつき」と重なる。

次の(32)(33)のように、「熱い」「冷たい」のような感覚を表す語は、被修飾名詞が「感覚」のときに、[内容] となる。(32)(33)は、形容詞が被修飾名詞の「感覚」を具体的に述べている。(32)(33)のような例については、畢(2010)では言及されていない。

(32)木枯らしが吹きすさぶような寒い季節に、燗をした酒をぐいっと飲む。すると、じーんと熱い感覚が食道を通ってピタッと胃袋におさまる。
(『食の堕落と日本人』)

(33)ハッチから漏れ出てくる灯りを頼りに、ダクトの底部に向かう梯子を降りると、足元に予期せぬ冷たい感覚があっ た。(水か？)　　(『フラッシュ・オーバー』)

また、以下の(34)－(40)は、[内容] であるが、畢(2010)の「感情の内容指定のむすびつき」には含まれないと思われる。まず、(34)(35)のように「たち」「性分」といった人間がもつ心理的な特性を意味する語も [内容] となる。

(34)セックスとハチの子を並べなくてもよさそうなもんだが、人が楽しんでいることを自分がわからないでいるのは悔しいタチなのである。　　(『ぐろぐろ』)

(35)倉橋も滋子も、人に迷惑をかけるのがいやな性分だ。　　(『告発倒産』)

被修飾名詞が「感じ」の例も、次のように [内容] となる[6]。

(36)五十年前は二十四分の１で二十七枚、紙の使用量は文化のバロメータといった時代が懐かしい感じである。　　(『電子デバイス材料』)

(37)フシギな人形柄がどこか懐かしい感じ。折り返しタイプなので色々楽しめそう
￥九百四十五(靴下屋)　　(『Zipper』)

(38)「音楽が欲しい感じ」メインダイニングルームのテーブルの前で矢川美希がそう言うと、哲哉が、居間のピアノの上に置いてあるＣＤプレーヤーを持ってくればいい、と答えた。　　(『たたり』)

6 「感じ」が被修飾名詞で [内容] になるのは(36)－(38)のように節による修飾の例だけであると考える。この点については、5.1.2.1を参照されたい。

次の(39)(40)のような例も［内容］である。

(39)家でかけなくても、このご時勢、世の中どこでもクーラーは作動している。電車でもコンビニでも、外の気温はお構いなしに涼しい現実がある。それで十分なのである。（『子離れ宣言』吉田尚子）

(40)ただ初産婦よりも経産婦の方が、つわりが軽い傾向はあります。
（『妊娠を考えているあなたへそして妊娠をしたあなたへ』）

以上のように［内容］は、(28)－(33)のように「気持ち」「気分」等が被修飾名詞であるものと、(34)－(40)のようにそれ以外のものがある。後者は、すべて節による修飾である。BCCWJ でどのタイプがどのくらい用いられているかは　5.2 で述べるが、[内容]は、計 1,826 例中、「気持ち」等でないものは 13 例のみで、［内容］は、「気持ち」等が被修飾名詞であるものが、ほとんであると言うことができる。

### 4.1.5. ［表出物］

ソトの関係の 2 つめは、［表出物］である。［表出物］は、被修飾名詞が「顔」「声」等であり、「被修飾名詞が、経験者が感情形容詞で表される感情を持っている時に、経験者から発せられるものである」という関係である。

(41)ファウルされて痛がっているようでは相手をつけ上がらせてしまう。平然としていろ。殴られても苦しい顔を見せない。心で痛がって、顔で笑えるようじゃなければならない。（『蹴球神髄』）

(42)「矢場さん、いやなこと言ってくれるぜ。まだ消されるなんてごめんだよ」立石は心細い声を出した。（『ぼくらの「第九」殺人事件』）

これは、「苦しい」ときにする「顔」、「心細い」ときに出す「声」という関係であると思われる。このような例は、「うれしい悲鳴」のように組み合わせが慣用化しているものが多いが、修飾部と被修飾名詞が一定の意味関係を持つグループとして取り出すことができる。いずれも、「被修飾名詞が、経験者が感情形容詞で表される感情を持っている時に、経験者から発せられるものである」という関係である。

次に、［表出物］の被修飾名詞の特徴を詳しく見ていく。［表出物］の被修飾名詞は、人間が出す声や表情である。以下、3 つに分けて見ていく。

①顔・表情・目等

「顔」「表情」「目」といった名詞が感情形容詞の被修飾名詞になると、［表出物］になる。

(43)彼らは吐いたあとでも酒を飲んだ 。苦しい顔ひとつせずに、口を大きくあけて笑った。（『古惑仔』）

(44)今時、「携帯を持ってない」なんて言っても、「私には教えたくないんだ」なんて不快な顔をされてしまうのがオチであり、事実、そう言われたこともある。（『風俗ゼミナール』）

(45)摂食障害の方に聞いてみると、ほとんどの方は「食べ物をおいしく食べたことなんてここ数か月(数年)ない」と憂うつな表情でおっしゃいます。（『心理学ああだ、こうだ』）

(46)表情がうまい、というだけでは、いけないと思うんだ。悲しい表情、うれしい表情が巧みに出来る―つまり顔面筋肉の動きが自由自在だ、というだけではダメ、それならヤサシイと思うんだ。（『小津安二郎戦後語録集成』）

(47)西村は前から同じ高校に進学しようと言っていたのだが…。「ダメだって」西村はニキビのできた頬をピクッと震わせ悲しい目をした。（『かまち』）

その他には、「嫌な顔」「涼しい顔」「平気なつら」「複雑な表情」「幸せな寝顔」「不審な目」「不安な目」等がある。

②声・悲鳴・叫び・涙

「声」「悲鳴」「叫び」「涙」等も、感情形容詞の被修飾名詞になると［表出物］になる。

(48)この後どんな申し出も受け入れず、結婚するか愛人にしてほしいと繰り返すばかりであった。「こればかりはどうか勘弁して下さい」ということばを聞くと、エレインは悲しい声をあげ気を失って倒れた。（『滅びのシンフォニー』）

(49)「いま全国に古木はおよそ三千本。あぶないものが多い。とりわけ役所の管理している古木は、予算がつくまでもたないものが出てくる。私が見てあぶないとわかっていても手が出ない。来年度の予算がつくころには枯れて手遅れになる。せめて私達の仕事に補助金が出れば迅速に治療してやれるのだがね」樹の名医、山野の切ない叫びである。（『森に訊け』）

(50)前述したように、看護系学部、学科の新設ラッシュに当たり、優秀な教官を求める声が本学部に殺到し、嬉しい悲鳴をあげている昨今である。（『国立大学ルネサンス』）

(51)涙にも いろんな 種類がある。うれし涙、くやし涙、つらい、悲しい涙。ドラマは涙なくしては生まれないが、苦節何十年の後優勝したとか、栄冠を手にしたときの喜びは察するにあまりある。（『健康法あれこれ』）

(52)取りつく島もない言い方に、不安な笑いがもれそうになったけれど、反論しなけ

れば、という思いがそれを抑えた。　（『結婚と償いと』）

(53)「五百坪あるぞ」保之は自分の邸のように、得意な口調で甲平に言った。
（『一瞬の寵児』）

また、次の(54)は、人間ではなくネコの話であるが、「苦しい音」は「くるしいときに出す音」であり、［表出物］であると言える。

(54)ネコをだいていると、ゴロゴロ、ゴロゴロとのどを鳴らしますが、声ではありません。いったいなんなのでしょう。１気持ちよくねているときのいびき。２気持ちよいのではなく、息がつまって苦しい音　（『おもしろクイズいぬ・ねこ事典』）

③様子・ふり

「様子」「ふり」等も、感情形容詞の被修飾名詞になると、［表出物］になる。

(55)旅の様子や思い出などを盛り込んで、楽しい様子が相手にも伝わるように書きましょう。　（『女性から送る手紙の書き方』）

(56)すべてが静まりかえっていた。だがトップは、地面に寝そべり、頭を前足の上に乗せたまま、べつに不安なようすもみせていなかった。　（『神秘の島』）

(57)エキスパートは、そのあたりもきちんとフォローします。たとえば、吉田くんに新しい彼女の気配を感じたとき。「吉田に彼女ができたなんて、ちょっとショック…」と書いたメールを送ったりして、悲しいふりをします 。
（『「わがままな女」になろう』）

(58)真剣になって怒っては興醒め。また、余裕ぶって平気なそぶりをするのはもっと×。　（『an・an』）

以上のように、［表出物］の被修飾名詞は、「顔」「目」、「叫び」「涙」、「顔」「様子」等であるが、これらは、人間の感情を映し出すものである。そして、「被修飾名詞が、経験者が感情形容詞で表される感情を持っている時に、経験者から発せられるものである」という関係となる[7]。

ただし、上記の名詞が感情形容詞の被修飾名詞になると、必ずこの関係になるというわけではない。次の(59)の「顔」は、「恐ろしい」という感情を引き起こすものであり、［対象］である。

(59)私の個人的な蚊帳の思い出としては、あの独特な匂いや、入る時はすばやく入る

[7] なお、［表出物］は、「おこった顔」「おびえた目」のように動詞による連体修飾にも見られる。

ように親に教わったこと、そして映画の「四谷怪談」に必ず登場してくる蚊帳の中のお岩さんの恐しい顔が、どうしてもまず浮かんでしまうのである。

（『蚊遣り豚の謎』）

以上、［表出物］の被修飾名詞について見てきた。これらの例は、5.2 で見るように、感情形容詞の連体用法の被修飾名詞としては、数が少なく、また、すべての感情形容詞がこのような使い方ができるわけでもない。しかし、存在する例はすべて「被修飾名詞が、経験者が感情形容詞で表される感情を持っている時に、経験者から発せられるものである」という関係であり、ひとつのタイプとして取り出すことができるということを述べた。

4.1.6. ［相対補充］

ソトの関係の 3 つめは、［相対補充］である。これは、寺村(1975)の連体修飾節の議論で見られた「相対補充」の関係である。

(60)また、TOEIC のような総合力をはかる試験を受けて前後の点数を比較してみるのも、よい指標になるかもしれません。次に、不安な理由 2「飛ばしていては話がわからなくなるのではないか」については、飛ばしても話が追えるものを選んで読むことで解決できます。（『今日から読みます英語 100 万語！』）

(61)愚かなミスを犯すと、作品のリアリティを欠くおそれもある。ある作家の小説の冒頭で、棚に“ナポレオン、オールドパー、ホワイトホースが並んでいる”といった表現を読み、“ああ、この人は酒をたしなまない人だな”と思った。ナポレオンは等級の名称であり、あとの二つは銘柄の名称である。作品の本質にかかわることではないけれど、気にかける人もいるだろう。もちろん本質にかかわる失策を犯す可能性もある。いろいろな分野にわたってよい助言者がほしいゆえんである。（『エロスに古文はよく似合う』）

(62)ケビン山崎は忙しい合間を縫って、頻繁にアメリカへ足を運んでいる。

（『AERA』）

(63)山根が忙しい暇を盗んで明治四十四年(千九百十一)三月十日に上京したのは他でもない、九年前に本多と上野の料亭で初めて話し合い、二人で育て上げた努力の結晶が新しい生命を吹込まれて機能し始める瞬間を実際に確かめたいと思ったからであった。（『築地施療病院の生涯』）

(60)(61)は、「理由」「ゆえん」が感情の対象ではなく、「不安であるその理由」「よい助言者がほしいその理由」という関係である。その他に「大変な理由」「忙しい事情」という例があった。(62)は、「合間」が「忙しい」のではなく、「忙しいその合間」という関係で

ある。「忙しい合間」は3例あった。(63)も「忙しいその暇」という関係である。ただし、BCCWJの検索対象とした範囲からは、［相対補充］は、計8例しか見つからなかった。

そして、被修飾名詞が「理由」でも、次の(64)(65)のように［対象］のものもある[8]。

(64)鹿児島での二回もの転居には、それなりの筆舌に尽くしがたいほどの、つらく悲しい理由が多々ございました。（『ヤポネシアの海辺から』）

(65)ジェイミーとタマラが、何か奇妙な、恐ろしい理由でつながっていることを理解するのに、時間が必要だった。（『夜が終わる場所』）

(64)(65)の「理由」は、ある理由が存在し、その理由が「悲しい」「恐ろしい」という感情を引き起こすのであり［対象］である。このように「理由」は、［相対補充］の被修飾名詞となるが、常に［相対補充］の被修飾名詞となるわけではない。

#### 4.1.7. ［その他］

最後にソトの関係の4つめとして、［その他］を設けた。ここには、主に、次のような被修飾名詞が「はず」「限り」「ぶん」等、いわゆる形式名詞の例が分類される。

(66)出来合いのカードも、ぴったりのカードを選んで手書きのメッセージを添えればOKの場合もありますが、自分の言葉で感謝の気持ちを表現した礼状のほうが受け取った側にはもっと有り難いはずです。（『「ありがとう」の心を手紙に書こう』）

(67)周囲の景観、自然環境とマッチしない形や色の建物が、目立てばいいという感じで建てられる日本の現状と比べると、羨ましい限りである。（『トスカーナ田園ホテルのめぐみ』）

(68)この答えを見る前に『自分で苦しんでみる』ことはとても大事です。苦しい分、成長が早いのです。（『「ペンションを継ぐ！」という君へ』）

［その他］の被修飾名詞は、次の①の形式名詞と②の接尾辞、そして、「～気がする」の「気」である。

① あまり　以上　一方　うえ　限り　くせ　次第　せい　そう　だけ　ため
　ついで　なか　はず　はて　半面　ふう　ぶん　ほう　まま　ゆえ　わけ　わり
② 系　派　め

①は、いわゆる形式名詞である。「そう」は「苦しいそうだ」の「そう」であり、「ふう」

8 寺村(1975)の連体修飾節の議論でも、相対補充節を構成する名詞が、ウチの関係の被修飾名詞にもなることが指摘されている。

は「楽しいふうでもなく」の「ふう」ある。また、②については、下に例を挙げる。②の例は、すべて形容詞が「かわいい」で、雑誌の例である[9]。

(69)彼女にするなら、やっぱりかわいい系かな」とのことでした。(『女性セブン』)
(70)フォリフォリのラインストーン付き時計は可愛い派の私らしいアイテム。
(『JJ』)
(71)Fさんの年齢にあわせて少しかわいいめの物を提案しました。
(『エクステリア&ガーデン』)

次に、「気がする」について見ていく。「気がする」は、[内容]に分類するか迷うところであるが、次のような理由から、[その他]に入れた。

(72)酒がないとどうもさみしい気がするし、気分も晴れない。
(『ぐっすり眠る！37の方法』)

確かに、(72)の「気」は「気持ち」のことであり、「さみしい」は「気持ち」を具体的に述べるという解釈も可能である。ここで、属性形容詞の例を見てみよう。

(73)あえていうなら、人間とは堕落する動物である、そう信じ込んでいるような人が多い気がします。(『赤字を黒字にした社長』)

(73)の「気」は「気持ち」とは解釈しにくい。(73)の「気がする」は、ひとつの動詞句として「～と思う」という意味であると考えられる。本研究では、(72)(73)は、それぞれ(74)(75)のような構造であり、形容詞句は、「気」だけを修飾しているのではないと考え、すべて[その他]に分類をする。

(74)[[どうも寂しい]気がする]
(75)[[そう信じ込んでいる人が多い]気がする]

以上、感情形容詞と被修飾名詞を意味的な観点から7つに分類を行った。以上を表にまとめると、次の表1のようになる。

9 この「め」は、「ちいさめ」「たかめ」のように形容詞語幹に後接する接尾辞であり、連体形に後接する例は、今回の考察対象の範囲では、(71)の1例のみである。

表１　連体修飾用法の感情形容詞と被修飾名詞の意味的関係

| 統語関係 | 意味関係 | 例 | 被修飾名詞 |
|---|---|---|---|
| ウチ | 対象 | うれしいプレゼント　　つらい体験<br>迷惑な男　　懐かしい人 | 物でも出来事でも人間でもよい |
| | 経験者 | (一人で過ごすのが)つらい人<br>(成人病が)心配な方<br>優秀な学生が欲しい企業 | 人間または組織 |
| | とき | 一人で過ごすのがつらい時<br>つらい日曜日　　嫌な時代 | 時や期間を表す名詞 |
| ソト | 内容 | つらい気持ち　　冷たい感覚<br>人に迷惑をかけるのが嫌な性分<br>人形柄がどこか懐かしい感じ | 「気持ち」・「感覚」等<br>「性分」・「感じ」・「現実」等 |
| | 表出物 | つらい顔　つらい声<br>不安な面持ち　不安なまなざし | 「顔」「声」等、人間が出すもの |
| | 相対補充 | 彼女に会うのがつらい理由<br>不安な理由 | 「理由」「合間」等 |
| | その他 | 心配なはず　　つらい限り | 「はず」・「限り」等 |

## 5.　連体用法の感情形容詞の使用実態

次に、BCCWJ のデータを用いて、感情形容詞の連体用法の７つのタイプの出現度数を調査する。なお、被修飾名詞が「もの」「こと」「ところ」については、数を示すにとどめ、分類の対象とはしない。これは、「もの」を例に見ると、次の(76)のように明らかに［対象］であるものと、(77)のように明らかにソトの関係の［その他］であるものがあるのだが、(78)のように、どちらとも決めかねる例があるからである。

(76)本来、請求書はもらって嬉しいものではない。　　（『渡辺淳一全集』）
(77)相手にとって自分が特別な存在であり、貴重でかけがえのない人間であると言われれば、何年たってもうれしいものです。　（『好きな人と最高にうまくいく本』）
(78)あまり外出する機会のない娘にとって、手紙というのは本当にうれしいものです。
（『不登校になった時、先生とどう向き合う？』）

「もの」「こと」は、用例数が多く、恣意的な分類が結果に影響を与えることを避けるため、「もと」「こと」「ところ」は、出現度数を示すにとどめる。以下では、どこに分類をするか迷った例を挙げ、本研究ではどこに分類をしたのかを述べたうえで、結果を示す。

### 5.1.　分類に迷う例

以下では、分類する際に迷った例を見ていく。分類に迷った点は、2 つある。1 つめは感情形容詞が感情を表していない例をどうするか、2 つめは、2 つのタイプとして解釈が可能な周辺的な例をどこへ入れるか、ということである。以下、順に見ていく。

### 5.1.1. 感情を表していない形容詞

分類に迷った 1 つめの点は、感情形容詞が感情を表していない例をどうするか、ということである。第 2 章では、感情形容詞を「感情・感覚を表し得るもの」と定義している。つまり、感情形容詞と認定した語が、常に感情・感覚を表すわけではない。また、「おかしい(こっけいな／変な)」「かわいい(いとしい／外見が良い)」「得意な(上手な／鼻が高い)」のように 2 義を認めた語もある。しかし、連体修飾用法の例は、被修飾名詞が何であるかによって、属性か感情かが決まるのである。例えば「得意な」では、(79)(80)は感情を表す「得意な」であるが、(81)(82)は感情ではない。

(79)私は加奈がコーチしてくれなくても、一人で誰もいないプールで泳げることに、何かひどく得意な気持を味わった。（『辻邦生全集』）

(80) 得意な時、油断している時、アクシデントやトラブルで困っている時、すべての行動が評価されているのです。（『1 ヵ月以内に「いいこと」がたくさん降ってくる法則』）

(81)ビジネスの基本は「得意な分野で事業を展開する」ことである。（『経営コンサルタントという仕事』）

(82)ほら、バイトの子って、それぞれちがうでしょ。人と話すのが得意な子もいれば、内向的な子もいる。（『「モノ」を売るな！「体験」を売れ！』）

(81)(82)を属性形容詞であるとして考察の対象から外すならば、他の形容詞でも感情を表していない例を外さなければならなくなる。しかし、次の(83)の「かわいい」は「愛しい」のか「外見が良い」のか判断が難しく、分類は困難である。

(83)病室にやってきた彼はハンカチで目を拭きながら、顔をくしゃくしゃにして「おめでとう！ボクにとってははじめての孫だ。かわいい孫娘だ。どうかこの美しい女の子を、大切に大切に育ててくれ！」と太い声でゆっくりと言い、わたしの手を強くにぎった。（『いっしょにファイト』）

本研究の目的は、感情形容詞が被修飾名詞とどういった関係で使われているのかを見ることであるから、感情を表していない例もすべて考察の対象とする。なお、(81)(82)は、述語文にすると「(その)分野が得意だ」「(その)子が、人と話すのが得意だ」である。これらは、「得意な」が「分野」「その子」の属性であると考え［対象］に分類する。

### 5.1.2. 周辺的な例

次に、各タイプの周辺的な例を見ていく。

#### 5.1.2.1. ［対象］

被修飾名詞が「感じ」の例は、［対象］に入れるか［内容］に入れるか迷う例があるが、4.1.4 で見た「音楽がほしい感じ」のような節による修飾(36)－(38)の 3 例を除き、すべて［対象］に分類をした。まず、次の(84)は「印象」、(85)は「予感」と言い換えられる例であり、［対象］に入れて問題がないと思われる。

(84)誰に対しても嫌な感じを与えないし、他人のいいところを上手に誉められるという、そういう場を和ませる力と魅力をもった人でした。　（『九八歳の妊娠』）

(85)しかし、今回次々と起きる予想外の事態は、すべて関連していた。その事に対して私は「いやな感じ」はしていたものの、まだ重大な結果に結びつくとまでは考えていなかったのである。　（『イラク生残記』）

しかし、次の(86)は、「感じ」を「気持ち」と解釈し［内容］に入れることも可能であるように思われる。

(86)ハリーは神経質に何度も後ろを振り返った。なんとなく見張られているようないやな感じがするのだ。　（『ハリー・ポッターと賢者の石』）

しかし、本研究では、「感じ」は「外界の刺激から受ける印象」であり、その「印象」がある感情を引き起こすと考え、被修飾名詞が「感じ」であるものは、4.1.4 で見た(36)－(38)を除き、すべて［対象］に分類した。

#### 5.1.2.2. ［経験者］

被修飾名詞がヒトの例には、［経験者］か［対象］かの分類が難しい例がある。まず、感情形容詞が「幸せな」「忙しい」等の例は、［経験者］に分類するか［対象］に分類するか迷うが、［経験者］に分類した。

(87)金のことがそんなに好きになれるなんて、何てしあわせなやつらだろうと思う。
（『タン・ナピ・ナピ』）

(88)忙しい人は、限られた時間を有効に使わなくてはなりません。
（『超カンタン！ウイークトレードでラクして儲ける山本式投資法』）

「幸せな」「忙しい」等は、「花子は、幸せだ」「花子は、忙しい」といえるように、人称制限がない形容詞である。(87)(88)のように被修飾名詞が人間で、感情形容詞に人称制限がない場合は、［経験者］か［対象］かの分類が難しい。(87)は、「幸せだと感じるやつら」という［経験者］の解釈よりは、「やつらは、幸せである」という［対象］の解釈が適切であるようにも思われる。(88)は、「忙しいと感じている人」という［経験者］でもあるし、「(その) 人は、忙しい」の［対象］でもある。

ここで、人称制限のある感情形容詞「恥ずかしい」の［対象］と［経験者］の典型的な例を見てみよう。

(89)独り言といっても，できる限り大きな声で叫びます。ただし恥ずかしい人は 小声で言ってもよろしい。　　(『生きがいづくり健康づくりの明老ゲーム集』)

(90)裏の世界の日本語、人前では言えないような恥ずかしい単語の類にも通じていた。
(『わたしは猫になりたかった』)

(89)の「人」は「恥ずかしい」という感情の持ち主であり［経験者］であり、「(その)人は、恥ずかしい(人間である)」という［対象］の解釈はない。(90)の「単語」は「恥ずかしい」という感情を引き起こすものであり［対象］である。先の(87)(88)を［経験者］と［対象］のどちらに分類するかは、(87)(88)が(89)と(90)のどちらに近いかという問題である。本研究では、「しあわせなやつら」と「忙しい人」は、典型的な［対象］である「恥ずかしい単語」よりは「(大声で叫ぶのが)恥ずかしい人」に近いと考え、［経験者］入れた。

また、次の(91)(92)の「寂しい」「悲しい」は、人称制限のある形容詞であるが、［経験者］か［対象］か迷う例である。(91)(92)は、それぞれ、外部から見て「孤独な」、「哀れな」人であり［対象］とも解釈し得るが、［対象］よりは［経験者］に近いと考え、［経験者］に分類をした。

(91)さみしい時にできた恋人や友人というものは、まず例外なく相手もさみしい人です。　　(『女性の「オトコ運」は父親で決まる』)

(92)そうよね、戦争なんて終わらせたいわよね。自分みたいに大切なものを守れなくて後悔するような、そんな悲しい人たちを増やしたくないからなのよね。
(『アニメディア』)

このように［経験者］には、「(大声を出すのが)恥ずかしい人」のような典型的なものだけでなく、「忙しい人」「さみしい人」のように、［対象］の解釈も可能な例も含まれている。

#### 5.1.2.3. ［とき］

［とき］の例には、次のように［対象］とも解釈できる例も多い。

(93)みんなも楽しい夏休みを過ごしてね。（『小学五年生』）

(93)は、「夏休みが楽しい」とも解釈でき、「夏休み」が感情を引き起こすもの、すなわち［対象］解釈も可能である。これは、ある時や期間が何らかの感情を引き起こす、つまり感情の対象となることが可能であるためであろう。本研究では、名詞句が時や期間を表し［とき］の解釈が可能なものは、［とき］として分類する。

また、次の(94)－(96)は、それぞれ、［とき］［対象］［その他］の例であるが、この3例は、非常に連続的である。

(94)また、働く仲間にとって、新しく入った人の「前の会社では、こうやっていた。ああやっていた」という言葉は耳障りで、うっとうしい場合さえあります。（『新時代の飲食店店長のための教科書』）

(95)葬儀の間、准将はわたしに讃美歌を歌うように言い、とりわけ辛い場面では、いつもその腕がわたしを支えていた。（『躁うつ病を生きる』）

(96)とにかく人生の山が一つから二つに増え、人生二山という生き方を余儀なくされているのに、こんな不安なかで生きるっておかしいですよ。（『わたしの新幸福論』）

(94)は、［とき］の例である。(95)は、「つらい状況」という解釈で［対象］に分類したが、「つらいとき」と解釈することもできる。(96)は、［その他］の例であるが、「不安ななか」は「不安な状況」と解釈できる。ただし、「なか」は単独では使えないため、ウチの関係とは考えられないため、［その他］に分類した。

#### 5.1.2.4. ［表出物］

次のような例は、［表出物］とも［対象］とも解釈できるが、［表出物］に分類した。

(97)鉄男が足を速めると、祥子も足を速めた。「待って。待って下さい！」祥子の切ない声が響いた。（『ザホームレス！大逆転』）

(98)生きていく上で支えになる人間が月子には絶対に必要だ。しかし残念ながら自分は支えになってやれなかったと、貫一は苦笑いで次郎を見た。それはまぎれもない“父親失格者”の哀しい笑いだった。（『男について』）

(97)(98)の「声」「笑い」は、「切ないときに出す声」「かなしい時にする笑い」で［表出物］と解釈することもできるし、聞く者見る者に「切ない」「かなしい」という感情を引き起こすという［対象］解釈も可能である。これは、「切ないときに出す声」は、聞く者にも「せつないと感じさせる」ような声であると考えることができる。

以上、用例を分類する際に迷った例を挙げ、どこに分類をしたのかを述べた。

### 5.2. 結果

BCCWJ の連体用法の感情形容詞の被修飾名詞の例を分類した結果を表 2、表 3、表 4 に示す。表 2 が感情形容詞 A 群、表 3 が感情形容詞 B 群、表 4 が合計である。図 1、図 2 は、それぞれ、表 2、表 3 をグラフにしたものである。

グラフは、「もの」「こと」「ところ」の合計と、［経験者］・［対象］・［時］・［内容］・［相対補充］・［表出物］［その他］に分類し、割合を示す。なお、［相対補充］は、8 例だけであるので、グラフでは、［その他］にいれた。また、「もの」「こと」「ところ」は、感情形容詞と被修飾名詞の意味関係によって分類をしたものではない。しかし、7 つの分類の出現の割合を正確に示すために、ひとつのグラフに示す。

データは、「もの」「こと」「ところ」と［対象］の合計の割合が少ない順に並べてある。

## 表 2　感情形容詞 A 群の被修飾名詞との意味関係

| 形容詞 | もの | こと | ところ | 対象 | 経験者 | とき | 内容 | 表出物 | 相対補充 | その他 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 憎い | 8 | 5 | 0 | 51 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 65 |
| | 12.3% | 7.7% | 0.0% | 78.5% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 1.5% | 100% |
| 可愛い | 53 | 12 | 0 | 1079 | 1 | 9 | 0 | 0 | 0 | 24 | 1178 |
| | 4.5% | 1.0% | 0.0% | 91.6% | 0.1% | 0.8% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 2.0% | 100% |
| 意外な | 22 | 151 | 41 | 428 | 0 | 0 | 5 | 7 | 0 | 16 | 670 |
| | 3.3% | 22.5% | 6.1% | 64.0% | 0.0% | 0.0% | 0.7% | 1.0% | 0.0% | 2.4% | 100% |
| 満足な | 4 | 1 | 0 | 63 | 2 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 72 |
| | 5.6% | 1.4% | 0.0% | 87.4% | 2.8% | 0.0% | 2.8% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 100% |
| 残念な | 1 | 315 | 3 | 27 | 0 | 0 | 11 | 1 | 0 | 9 | 367 |
| | 0.3% | 85.7% | 0.8% | 7.4% | 0.0% | 0.0% | 3.0% | 0.3% | 0.0% | 2.5% | 100% |
| 不思議な | 153 | 455 | 19 | 1,282 | 0 | 11 | 70 | 6 | 0 | 44 | 2,040 |
| | 7.5% | 22.3% | 0.9% | 62.9% | 0.0% | 0.5% | 3.4% | 0.3% | 0.0% | 2.2% | 100% |
| 迷惑な | 4 | 20 | 0 | 56 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 3 | 86 |
| | 4.7% | 23.2% | 0.0% | 65.0% | 0.0% | 1.2% | 1.2% | 1.2% | 0.0% | 3.5% | 100% |
| 懐かしい | 22 | 4 | 0 | 488 | 0 | 0 | 28 | 0 | 0 | 11 | 553 |
| | 4.0% | 0.7% | 0.0% | 88.2% | 0.0% | 0.0% | 5.1% | 0.0% | 0.0% | 2.0% | 100% |
| 心強い | 9 | 11 | 0 | 52 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 4 | 78 |
| | 11.5% | 14.1% | 0.0% | 66.7% | 0.0% | 0.0% | 2.6% | 0.0% | 0.0% | 5.1% | 100% |
| 惜しい | 7 | 48 | 12 | 41 | 0 | 0 | 3 | 0 | 0 | 7 | 118 |
| | 5.9% | 40.8% | 10.2% | 34.7% | 0.0% | 0.0% | 2.5% | 0.0% | 0.0% | 5.9% | 100% |
| 得意な | 7 | 29 | 1 | 210 | 0 | 3 | 7 | 3 | 0 | 10 | 270 |
| | 2.6% | 10.7% | 0.4% | 77.8% | 0.0% | 1.1% | 2.6% | 1.1% | 0.0% | 3.7% | 100% |
| 不審な | 13 | 5 | 3 | 119 | 0 | 0 | 3 | 16 | 0 | 0 | 159 |
| | 8.2% | 3.1% | 1.9% | 74.8% | 0.0% | 0.0% | 1.9% | 10.1% | 0.0% | 0.0% | 100% |
| 虚しい | 22 | 18 | 0 | 91 | 0 | 4 | 12 | 0 | 0 | 2 | 149 |
| | 14.8% | 12.1% | 0.0% | 61.0% | 0.0% | 2.7% | 8.1% | 0.0% | 0.0% | 1.3% | 100% |
| 恥かしい | 15 | 144 | 9 | 128 | 1 | 1 | 41 | 4 | 0 | 15 | 358 |
| | 4.2% | 40.2% | 2.5% | 35.7% | 0.3% | 0.3% | 11.5% | 1.1% | 0.0% | 4.2% | 100% |
| 嫌な | 69 | 262 | 16 | 933 | 6 | 26 | 143 | 125 | 0 | 26 | 1,606 |
| | 4.3% | 16.3% | 1.0% | 58.1% | 0.4% | 1.6% | 8.9% | 7.8% | 0.0% | 1.6% | 100% |
| 嬉しい | 58 | 281 | 19 | 228 | 3 | 38 | 36 | 23 | 0 | 60 | 746 |
| | 7.8% | 37.7% | 2.5% | 30.6% | 0.4% | 5.1% | 4.8% | 3.1% | 0.0% | 8.0% | 100% |
| 悲しい | 31 | 192 | 7 | 395 | 0 | 52 | 68 | 47 | 0 | 13 | 805 |
| | 3.9% | 23.9% | 0.9% | 49.0% | 0.0% | 6.5% | 8.4% | 5.8% | 0.0% | 1.6% | 100% |
| 欲しい | 238 | 7 | 44 | 168 | 60 | 72 | 5 | 0 | 1 | 31 | 626 |
| | 38.0% | 1.1% | 7.0% | 26.8% | 9.6% | 11.5% | 0.8% | 0.0% | 0.2% | 5.0% | 100% |
| うっとうしい | 5 | 10 | 0 | 30 | 0 | 13 | 4 | 0 | 0 | 0 | 62 |
| | 8.1% | 16.1% | 0.0% | 48.3% | 0.0% | 21.0% | 6.5% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 100% |
| 心配な | 4 | 34 | 3 | 25 | 6 | 13 | 5 | 2 | 0 | 0 | 92 |
| | 4.3% | 37.0% | 3.3% | 27.2% | 6.5% | 14.1% | 5.4% | 2.2% | 0.0% | 0.0% | 100% |
| 申し訳ない | 0 | 44 | 0 | 3 | 0 | 0 | 24 | 0 | 0 | 10 | 81 |
| | 0.0% | 54.4% | 0.0% | 3.7% | 0.0% | 0.0% | 29.6% | 0.0% | 0.0% | 12.3% | 100% |
| 切ない | 8 | 7 | 0 | 67 | 1 | 0 | 46 | 13 | 0 | 2 | 144 |
| | 5.6% | 4.9% | 0.0% | 46.5% | 0.7% | 0.0% | 31.9% | 9.0% | 0.0% | 1.4% | 100% |
| 羨ましい | 4 | 7 | 0 | 32 | 0 | 0 | 6 | 1 | 0 | 29 | 79 |
| | 5.1% | 8.9% | 0.0% | 40.4% | 0.0% | 0.0% | 7.6% | 1.3% | 0.0% | 36.7% | 100% |
| 心細い | 7 | 11 | 0 | 19 | 4 | 1 | 18 | 5 | 0 | 9 | 74 |
| | 9.5% | 14.9% | 0.0% | 25.6% | 5.4% | 1.4% | 24.2% | 6.8% | 0.0% | 12.2% | 100.0% |
| 不安な | 7 | 13 | 3 | 56 | 13 | 28 | 117 | 30 | 1 | 8 | 276 |
| | 2.5% | 4.7% | 1.1% | 20.3% | 4.7% | 10.1% | 42.4% | 10.9% | 0.4% | 2.9% | 100% |
| 憂鬱な | 5 | 3 | 0 | 26 | 3 | 20 | 49 | 23 | 0 | 0 | 129 |
| | 3.9% | 2.3% | 0.0% | 20.2% | 2.3% | 15.5% | 38.0% | 17.8% | 0.0% | 0.0% | 100% |
| 悔しい | 1 | 8 | 1 | 13 | 0 | 3 | 65 | 2 | 0 | 4 | 97 |
| | 1.0% | 8.2% | 1.0% | 13.4% | 0.0% | 3.1% | 67.1% | 2.1% | 0.0% | 4.1% | 100% |
| 平気な | 5 | 0 | 1 | 3 | 14 | 1 | 0 | 70 | 0 | 5 | 99 |
| | 5.1% | 0.0% | 1.0% | 3.0% | 14.1% | 1.0% | 0.0% | 70.7% | 0.0% | 5.1% | 100% |
| 計 | 782 | 2,097 | 182 | 6,113 | 114 | 296 | 771 | 379 | 2 | 343 | 11,079 |
| | 7.1% | 18.9% | 1.6% | 55.2% | 1.0% | 2.7% | 7.0% | 3.4% | 0.0% | 3.1% | 100% |

## 表 3　感情形容詞 B 群の被修飾名詞との意味関係

| 形容詞 | もの | こと | ところ | 対象 | 経験者 | とき | 内容 | 表出物 | 相対補充 | その他 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 冷たい | 100 | 19 | 3 | 1,410 | 0 | 9 | 3 | 0 | 0 | 19 | 1,563 |
| | 6.4% | 1.2% | 0.2% | 90.2% | 0.0% | 0.6% | 0.2% | 0.0% | 0.0% | 1.2% | 100.0% |
| 有り難い | 27 | 256 | 4 | 184 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 8 | 481 |
| | 5.6% | 53.2% | 0.8% | 38.3% | 0.0% | 0.2% | 0.2% | 0.0% | 0.0% | 1.7% | 100.0% |
| 恐ろしい | 141 | 230 | 0 | 982 | 0 | 18 | 12 | 0 | 0 | 11 | 1,394 |
| | 10.1% | 16.5% | 0.0% | 70.4% | 0.0% | 1.3% | 0.9% | 0.0% | 0.0% | 0.8% | 100.0% |
| きつい | 17 | 29 | 3 | 272 | 1 | 3 | 2 | 0 | 0 | 6 | 333 |
| | 5.1% | 8.7% | 0.9% | 81.7% | 0.3% | 0.9% | 0.6% | 0.0% | 0.0% | 1.8% | 100.0% |
| 重たい | 9 | 1 | 0 | 93 | 0 | 0 | 4 | 0 | 0 | 0 | 107 |
| | 8.4% | 0.9% | 0.0% | 87.0% | 0.0% | 0.0% | 3.7% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 100.0% |
| 重い | 152 | 19 | 2 | 1,327 | 1 | 23 | 14 | 2 | 0 | 31 | 1,571 |
| | 9.7% | 1.2% | 0.1% | 84.4% | 0.1% | 1.5% | 0.9% | 0.1% | 0.0% | 2.0% | 100.0% |
| 大変な | 136 | 577 | 14 | 1,185 | 1 | 57 | 30 | 1 | 1 | 4 | 2,006 |
| | 6.8% | 28.8% | 0.7% | 59.2% | 0.0% | 2.8% | 1.5% | 0.0% | 0.0% | 0.2% | 100.0% |
| 面倒な | 24 | 156 | 4 | 154 | 2 | 11 | 2 | 0 | 0 | 4 | 357 |
| | 6.7% | 43.7% | 1.1% | 43.1% | 0.6% | 3.1% | 0.6% | 0.0% | 0.0% | 1.1% | 100.0% |
| 快適な | 13 | 1 | 1 | 315 | 0 | 15 | 5 | 1 | 0 | 2 | 353 |
| | 3.7% | 0.3% | 0.3% | 89.2% | 0.0% | 4.2% | 1.4% | 0.3% | 0.0% | 0.6% | 100.0% |
| まぶしい | 4 | 0 | 1 | 119 | 0 | 5 | 2 | 1 | 0 | 3 | 135 |
| | 3.0% | 0.0% | 0.7% | 88.2% | 0.0% | 3.7% | 1.5% | 0.7% | 0.0% | 2.2% | 100.0% |
| 怖い | 199 | 71 | 22 | 405 | 6 | 8 | 33 | 0 | 0 | 20 | 764 |
| | 26.0% | 9.3% | 2.9% | 53.1% | 0.8% | 1.0% | 4.3% | 0.0% | 0.0% | 2.6% | 100.0% |
| 軽い | 75 | 14 | 2 | 1,147 | 0 | 27 | 76 | 1 | 0 | 34 | 1,376 |
| | 5.5% | 1.0% | 0.1% | 83.3% | 0.0% | 2.0% | 5.5% | 0.1% | 0.0% | 2.5% | 100.0% |
| 熱い | 89 | 4 | 4 | 986 | 0 | 117 | 3 | 0 | 0 | 4 | 1,207 |
| | 7.4% | 0.3% | 0.3% | 81.8% | 0.0% | 9.7% | 0.2% | 0.0% | 0.0% | 0.3% | 100.0% |
| おかしい | 6 | 64 | 11 | 57 | 1 | 3 | 1 | 0 | 0 | 12 | 155 |
| | 3.9% | 41.3% | 7.1% | 36.9% | 0.6% | 1.9% | 0.6% | 0.0% | 0.0% | 7.7% | 100.0% |
| 煩わしい | 0 | 21 | 0 | 35 | 0 | 0 | 3 | 0 | 0 | 4 | 63 |
| | 0.0% | 33.3% | 0.0% | 55.6% | 0.0% | 0.0% | 4.8% | 0.0% | 0.0% | 6.3% | 100.0% |
| 暖かな | 5 | 0 | 0 | 164 | 0 | 12 | 10 | 0 | 0 | 0 | 191 |
| | 2.6% | 0.0% | 0.0% | 85.9% | 0.0% | 6.3% | 5.2% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 100.0% |
| 暖かい | 81 | 7 | 17 | 877 | 0 | 82 | 38 | 0 | 0 | 9 | 1,111 |
| | 7.3% | 0.6% | 1.5% | 79.0% | 0.0% | 7.4% | 3.4% | 0.0% | 0.0% | 0.8% | 100.0% |
| 情けない | 12 | 47 | 1 | 190 | 0 | 2 | 29 | 0 | 0 | 10 | 291 |
| | 4.1% | 16.2% | 0.3% | 65.3% | 0.0% | 0.7% | 10.0% | 0.0% | 0.0% | 3.4% | 100.0% |
| 窮屈な | 5 | 2 | 3 | 77 | 0 | 1 | 13 | 0 | 0 | 2 | 103 |
| | 4.9% | 1.9% | 2.9% | 74.8% | 0.0% | 1.0% | 12.6% | 0.0% | 0.0% | 1.9% | 100.0% |
| 複雑な | 109 | 24 | 2 | 1,224 | 0 | 5 | 204 | 70 | 0 | 14 | 1,652 |
| | 6.6% | 1.5% | 0.1% | 74.2% | 0.0% | 0.3% | 12.3% | 4.2% | 0.0% | 0.8% | 100.0% |
| 愉快な | 6 | 18 | 1 | 107 | 0 | 4 | 22 | 0 | 0 | 4 | 162 |
| | 3.7% | 11.1% | 0.6% | 66.0% | 0.0% | 2.5% | 13.6% | 0.0% | 0.0% | 2.5% | 100.0% |
| 気楽な | 14 | 6 | 2 | 65 | 7 | 2 | 6 | 5 | 0 | 0 | 107 |
| | 13.1% | 5.6% | 1.9% | 60.7% | 6.5% | 1.9% | 5.6% | 4.7% | 0.0% | 0.0% | 100.0% |
| 退屈な | 21 | 5 | 3 | 102 | 1 | 24 | 3 | 1 | 0 | 3 | 163 |
| | 12.9% | 3.1% | 1.8% | 62.7% | 0.6% | 14.7% | 1.8% | 0.6% | 0.0% | 1.8% | 100.0% |
| 楽しい | 169 | 216 | 15 | 883 | 3 | 230 | 66 | 6 | 0 | 35 | 1,623 |
| | 10.4% | 13.3% | 0.9% | 54.3% | 0.2% | 14.2% | 4.1% | 0.4% | 0.0% | 2.2% | 100.0% |
| 痛い | 17 | 31 | 70 | 186 | 6 | 26 | 48 | 2 | 0 | 6 | 392 |
| | 4.3% | 7.9% | 17.9% | 47.5% | 1.5% | 6.6% | 12.3% | 0.5% | 0.0% | 1.5% | 100.0% |
| 清々しい | 5 | 3 | 0 | 87 | 2 | 1 | 21 | 7 | 0 | 1 | 127 |
| | 3.9% | 2.4% | 0.0% | 68.5% | 1.6% | 0.8% | 16.5% | 5.5% | 0.0% | 0.8% | 100.0% |
| 辛い | 104 | 261 | 38 | 393 | 4 | 126 | 145 | 4 | 0 | 17 | 1,092 |
| | 9.5% | 23.9% | 3.5% | 35.9% | 0.4% | 11.5% | 13.3% | 0.4% | 0.0% | 1.6% | 100.0% |
| 苦しい | 30 | 61 | 10 | 337 | 9 | 97 | 44 | 7 | 0 | 19 | 614 |
| | 4.9% | 9.9% | 1.6% | 54.9% | 1.5% | 15.8% | 7.2% | 1.1% | 0.0% | 3.1% | 100.0% |
| 慌ただしい | 1 | 1 | 0 | 87 | 0 | 35 | 2 | 1 | 0 | 3 | 130 |
| | 0.8% | 0.8% | 0.0% | 66.9% | 0.0% | 26.9% | 1.5% | 0.8% | 0.0% | 2.3% | 100.0% |

| 形容詞 | もの | こと | ところ | 対象 | 経験者 | とき | 内容 | 表出物 | 相対補充 | その他 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 涼しい | 1 | 4 | 15 | 167 | 0 | 27 | 4 | 59 | 0 | 3 | 280 |
| | 0.4% | 1.4% | 5.4% | 59.6% | 0.0% | 9.6% | 1.4% | 21.1% | 0.0% | 1.1% | 100% |
| 幸福な | 4 | 11 | 0 | 135 | 37 | 35 | 16 | 6 | 0 | 2 | 246 |
| | 1.6% | 4.5% | 0.0% | 55.0% | 15.0% | 14.2% | 6.5% | 2.4% | 0.0% | 0.8% | 100% |
| 寂しい | 35 | 47 | 23 | 210 | 57 | 61 | 83 | 15 | 0 | 36 | 567 |
| | 6.2% | 8.3% | 4.1% | 37.0% | 10.1% | 10.8% | 14.6% | 2.6% | 0.0% | 6.3% | 100% |
| 幸せな | 7 | 62 | 1 | 169 | 87 | 71 | 98 | 7 | 0 | 7 | 509 |
| | 1.4% | 12.2% | 0.2% | 33.1% | 17.1% | 13.9% | 19.3% | 1.4% | 0.0% | 1.4% | 100% |
| 寒い | 9 | 12 | 21 | 134 | 2 | 381 | 8 | 0 | 0 | 30 | 597 |
| | 1.5% | 2.0% | 3.5% | 22.5% | 0.3% | 63.9% | 1.3% | 0.0% | 0.0% | 5.0% | 100% |
| 多忙な | 0 | 1 | 0 | 31 | 34 | 40 | 0 | 0 | 0 | 8 | 114 |
| | 0.0% | 0.9% | 0.0% | 27.2% | 29.8% | 35.1% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 7.0% | 100% |
| 忙しい | 11 | 18 | 39 | 78 | 138 | 212 | 4 | 3 | 5 | 51 | 559 |
| | 2.0% | 3.2% | 7.0% | 14.0% | 24.7% | 37.9% | 0.7% | 0.5% | 0.9% | 9.1% | 100% |
| 暑い | 4 | 4 | 10 | 77 | 0 | 331 | 0 | 1 | 0 | 27 | 454 |
| | 0.9% | 0.9% | 2.2% | 17.0% | 0.0% | 72.9% | 0.0% | 0.2% | 0.0% | 5.9% | 100% |
| 暇な | 2 | 3 | 1 | 6 | 35 | 87 | 0 | 0 | 0 | 3 | 137 |
| | 1.5% | 2.2% | 0.7% | 4.4% | 25.5% | 63.5% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 2.2% | 100% |
| 計 | 1,644 | 2,306 | 343 | 14,457 | 434 | 2,189 | 1,055 | 200 | 6 | 452 | 23,086 |
| | 7.1% | 10.0% | 1.5% | 62.5% | 1.9% | 9.5% | 4.6% | 0.9% | 0.0% | 2.0% | 100.0% |

**表 4　感情形容詞 A 群 B 群合計**

| 形容詞 | もの | こと | ところ | 対象 | 経験者 | とき | 内容 | 表出物 | 相対補充 | その他 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 感情 | 782 | 2,097 | 182 | 6,113 | 114 | 296 | 771 | 379 | 2 | 343 | 11,079 |
| 形容詞 A | 7.1% | 18.9% | 1.6% | 55.2% | 1.0% | 2.7% | 7.0% | 3.4% | 0.0% | 3.1% | 100% |
| 感情 | 1,644 | 2,306 | 343 | 14,457 | 434 | 2,189 | 1,055 | 200 | 6 | 452 | 23,086 |
| 形容詞 B | 7.1% | 10.0% | 1.5% | 62.5% | 1.9% | 9.5% | 4.6% | 0.9% | 0.0% | 2.0% | 100% |
| 計 | 2,426 | 4,403 | 525 | 20,570 | 548 | 2,485 | 1,826 | 579 | 8 | 795 | 34,165 |
| | 7.1% | 12.9% | 1.5% | 60.3% | 1.6% | 7.3% | 5.3% | 1.7% | 0.0% | 2.3% | 100% |

※　内容の 1,826 例のうち、被修飾名詞が「気持ち」等でないものは、13 例である。

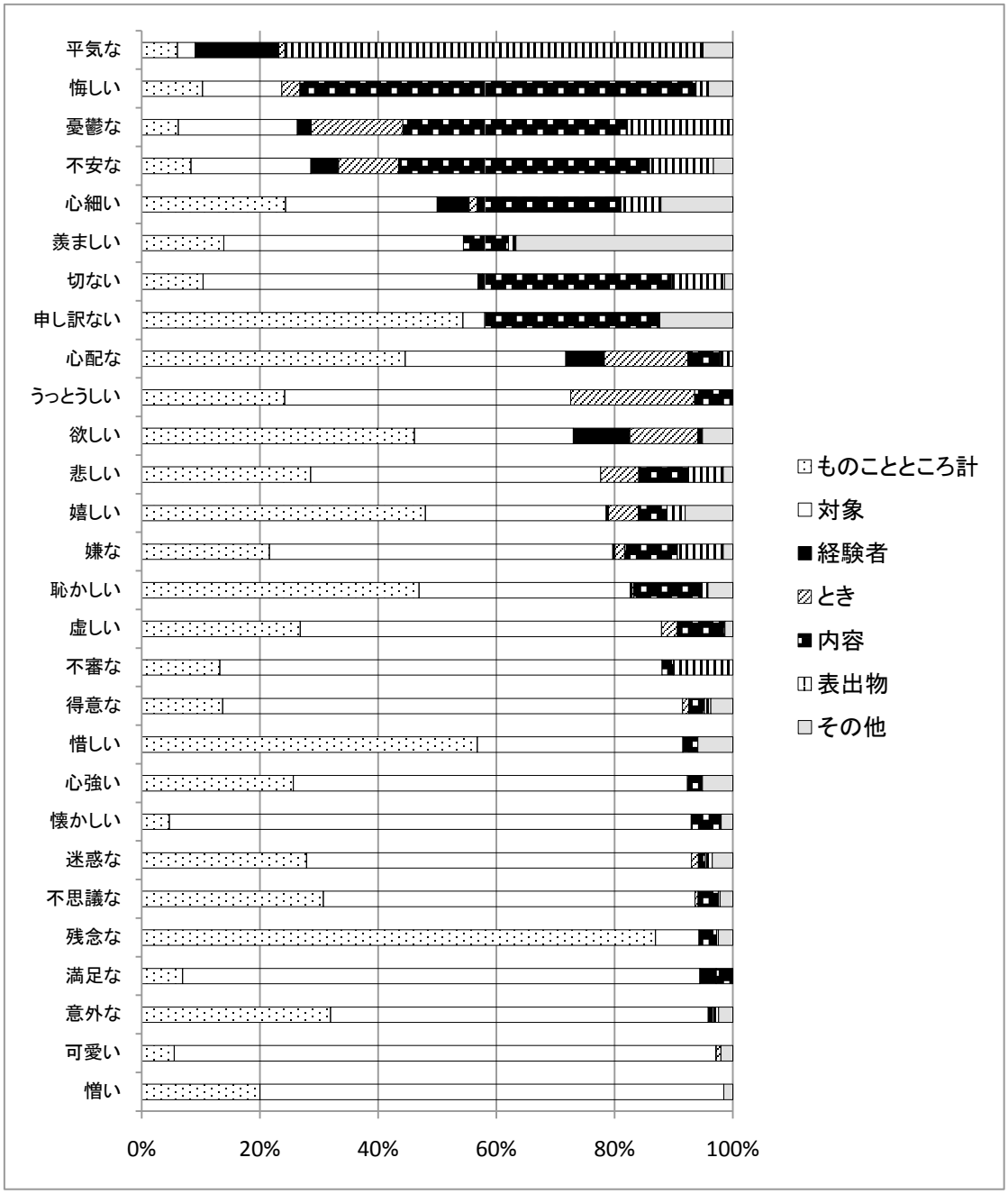


図１　感情形容詞 A 群の被修飾名詞との意味関係

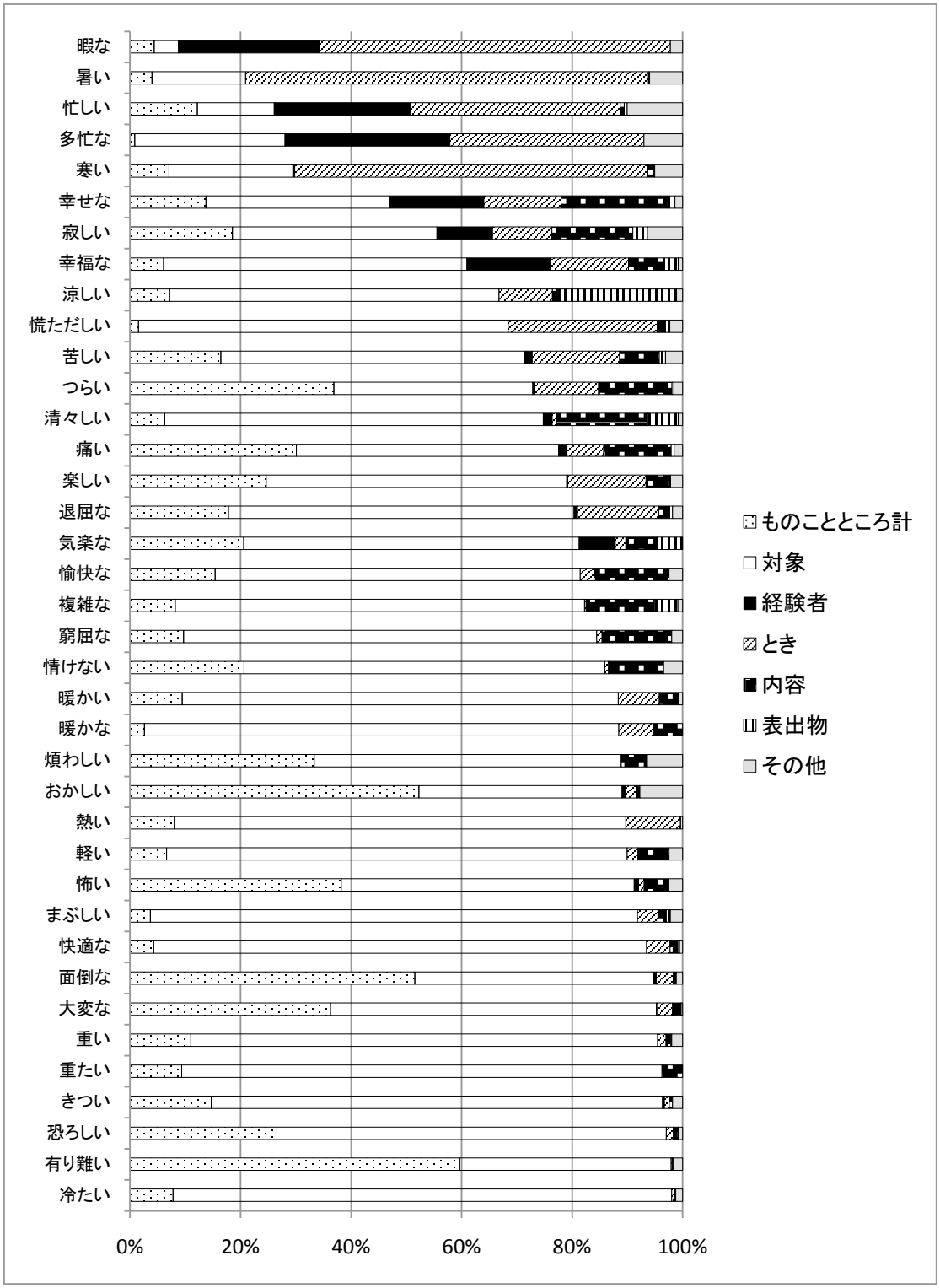


図２　感情形容詞 B 群の被修飾名詞との意味関係

### 5.3. 考察

以下、表 2、表 3、表 4 について、考察を行う。

［対象］は、全体では 60.3%を占め、66 語すべての語に例が見られる。「平気な」の 3%から「かわいい」の 91.6%までと、語による違いはあるが、［対象］の割合は、総じて高い。このことから、感情形容詞は連体用法においては［対象］として使われることが多いと言える。これは、西尾(1972)等で、感情形容詞が連体用法で使われる場合、被修飾語の属性を表すといわれていることをデータとして示したといえるだろう。

次に［経験者］について見てみる。［経験者］は、全体では 1.6%である。そして、用例が見られたのは、66 語中 32 語で、割合も「可愛い」の 0.1%から「多忙な」の 29.8%までである。そして、［経験者］が 15%以上であるのは、「幸せな」「幸福な」「忙しい」「多忙な」「暇な」の 5 語であるが、これらは、すべて人称制限のない語であり、「忙しい人」のように［対象］とも解釈が可能な例であり、［経験者］の例としては、周辺的なものである。このことから、感情形容詞の連体用法では、「(大声を出すのが) 恥ずかしい人」のような典型的な［経験者］は、少ないということが言える。

［時］は、全体では 7.3%で、66 語中 53 語に用例が見られた。［とき］は、割合の高い語が限られている。「慌ただしい」「寒い」「多忙な」「忙しい」「暑い」「暇な」の 6 語は、25%を超え、「暇な」と「暑い」においては、それぞれ 63.5%、72.9%である。この 6 語は、「暑い」とその対義語である「寒い」、「暇な」とその対義語の「忙しい」等であり、これらの意味を持つ語は、連体修飾用法においては［とき］が多く見られるということがわかる。

［内容］は、全体で 5.3%と低い。しかし、66 語中 60 語で用例が見ら、出現頻度は低いものの、多くの感情形容詞で見られるタイプであると言える。

［表出物］は、全体で 1.7%で、66 語中 38 語で用例が見られる。用例が多い語は、「平気な」70.7%、「涼しい」21.1%、「憂鬱な」17.8%である。それぞれ「平気な顔」「涼しい顔」「憂鬱な顔」が多い。これらは、用例の見られる語が［内容］ほど多くもなく、出現頻度も低いけれども、66 語中 38 語に用例があることから、ある一定数見られるタイプであるということができる。

［相対補充］は、66 語中、「欲しい」「不安な」「大変な」「忙しい」の 4 語でしか用例が見られず、総用例数は 8 例である。［相対補充］は、感情形容詞の連体用法では非常に少ないということが言える。

［その他］は、全体では 2.3%で、66 語中 58 語に用例が見られた。［その他］が特に多かったのは、「羨ましい」の 36.7%で、被修飾名詞は 27 例中 25 例が「限り」であった。［その他］は、「羨ましい」を除き 1～10%前後であり、感情形容詞の連体用法の中では少ないということができる。

最後に、「もの」「こと」「ところ」の合計をみると、「もの」7.1%、「こと」12.9%、「ところ」1.5%で、3 つの合計は 21.5%である。「もの」「こと」「ところ」の合計の割合が 4 割を

超える語は、「申し訳ない」「恥ずかしい」「うれしい」「心配な」「残念な」「惜しい」「欲しい」「おかしい」「めんどうな」「ありがたい」の 10 語である。このうち「欲しい」は「もの」が 38.0%と多く、それ以外は「こと」が多い。「残念な」においては、「こと」が 85.7%を占めている。これらのことから、「もの」「こと」と共起しやすい語があることがわかる。

以上、表 2、表 3、表 4 のデータについて考察を行った。連体用法の感情形容詞は［対象］が約 6 割と多く、［経験者］は少ないこと、また［内容］と［表出物］も、出現頻度は高くないが、ある一定数用いられていることを見た。

## 6. まとめ

連体修飾用法の感情形容詞について考察を行った。感情形容詞と被修飾名詞の意味的な関係を 7 つに分類した。7 分類は次の表 5 の通りである。ただし、［その他］は、感情形容詞と被修飾名詞の意味関係ではなく、ソトの関係で被修飾名詞が形式名詞のものである。

また、BCCWJ のデータを用いて、各タイプの出現度数を調査した。用例数は、34,165 例であるが、うち、「もの」2,426 例、 「こと」4,403 例、「ところ」525 例の計 7,354 例を除く 26,811 例の出現度数も表に示す。

**表 5　感情形容詞と被修飾名詞の意味的な関係（まとめ）**

| 統語関係 | 感情形容詞と被修飾名詞の意味関係 | | 例 | 被修飾名詞 | 用例数計 26,811 |
|---|---|---|---|---|---|
| ウチ | 対象 | 被修飾名詞が感情形容詞で表される感情を引き起こすもの・こと | うれしいプレゼント<br>つらい体験<br>迷惑な男　　懐かしい人 | 物・出来事・人間 | 20,570 |
| | 経験者 | 被修飾名詞が感情形容詞で表される感情の持ち主 | (一人で過ごすのが)つらい人<br>(成人病が)心配な方<br>優秀な学生が欲しい企業 | 人間・組織 | 548 |
| | とき | 被修飾名詞が感情形容詞で表される感情が存在するとき | 一人で過ごすのがつらい時<br>つらい日曜日　　嫌な時代 | 時や期間を表す名詞 | 2,485 |
| ソト | 内容 | 修飾部(形容詞または形容詞節)が被修飾名詞の内容を表す | つらい気持ち　　冷たい感覚<br>人に迷惑をかけるのが嫌な性分<br>人形柄がどこか懐かしい感じ | 気持ち・感覚等<br>性分・感じ等 | 1,826 |
| | 表出物 | 被修飾名詞が、経験者が感情形容詞で表される感情を持っているときに、経験者から発せられるものである | つらい顔　つらい声<br>不安な面持ち　不安なまなざし | 顔・声・様子等 | 579 |
| | 相対補充 | 「感情形容詞(節)その被修飾名詞」という関係 | 彼女に会うのがつらい理由<br>大変な理由 | 理由・合間等 | 8 |
| | その他 | (被修飾名詞が形式名詞) | 心配なはず　　つらい限り | はず・限り等の形式名詞 | 795 |

この 7 つの中で、［表出物］は従来の研究では見逃されていたタイプであり、「うれしい悲鳴」「悲しいふり」等、「被修飾名詞が、経験者が感情形容詞で表される感情を持ってい

る時に、経験者から発せられるものである」という関係であることを述べた。

そして、BCCWJ のデータを用いた調査によって、連体用法の感情形容詞は、［対象］が多く、［経験者］が少ないことが明らかになった。また、［内容］や［表出物］も、一定数用いられていることをデータで示すことができた。

本章では、分類の際に迷った例をどこに入れたかを示したうえでデータを示すという方法をとったが、迷った例については、更なる考察が必要である。この点は、今後の課題としていきたい。

**用例出典**

BCCWJ：国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパス』
コーパス検索アプリ中納言　https://chunagon.ninjal.ac.jp/login
(最終閲覧日 2014.08.30)

# 第６章　感情形容詞の副詞的用法

## 1.　問題の所在

第６章では、「知らせを悲しく聞いた」のような感情形容詞の副詞的用法について考察を行う。本章で考察を行うのは、次のような例である。

(1) 国の「死活」に固執し、パレスチナ国家との隣接共存を拒否するブルメンタール氏の議論を私は悲しく聞きました。（『朝日新聞』1990.09.30）
(2) 出品されているシーレの描いたひまわりは、彼の早すぎる死を暗示するように悲しく枯れている。（『朝日新聞』2002.01.17）
(3) 個性的な三人が、女たちの金銭欲や老いへの不安をコミカルに、そして、ちょっぴり悲しく演じる。（『読売新聞』1993.01.01）

(1)－(3)は、誰が何を悲しいと思っているのだろうか。また(1)－(3)のような文がある一方で、次のような文は、不自然、または非文である[1]。感情形容詞の副詞的用法が適格文になるのは、どんな時なのだろうか。

(4) *私は、うれしく合格した。
(5) ?私は、悲しく泣いた。

本研究では、(1)－(3)のように副詞句として働く感情形容詞の連用形を「副詞的成分」と呼ぶ[2]。そして、副詞句として用いられた感情形容詞を(1)のような「動作主が動作の実現中に思った・感じたこと」を表す「動作主認識の副詞的成分」と、(2)(3)のような話者がモノや第三者の外から見たサマを述べる「非動作主認識の副詞的成分」に分類し、それぞれの特徴を考察する。そして、動作主認識の副詞的成分は、述語動詞の表す出来事と副詞的成分の表す感情には因果関係がなく、同時性を持っているだけであることを確認する。非動作主認識の副詞的成分も、述語動詞と同時性を持っていることを確認する。なお、用例で出典がないものは、作例である[3]。

---

[1] ただし、(5)は、「悲しく、泣いた」のように、副詞的成分の後にポーズを入れれば、「悲しくて、泣いた」という解釈で適格文になり得る。

[2]本研究で「連用形」と呼ぶのは、イ形容詞の「～く(例：悲しく)」とナ形容詞の「～に(例：憂鬱に)」という２つの形であり、ナ形容詞の「～で(例：憂鬱で)」は考察の対象外である。

[3] 本章は、次の論文を加筆修正したものである。村上佳恵(2012)「感情形容詞の副詞的用法について―うれしい人、うれしい知らせ、うれしい悲鳴―」『学習院大学人文科学論集』21　学習院大学人文科学研究科　左 p.39－52

## 2.　先行研究

はじめに、副詞全体の中で感情形容詞の副詞的用法について言及した研究、それから、感情形容詞の副詞的用法について論じた研究を見て行く。それから、情態修飾成分の研究と結果構文についての研究を本研究と直接かかわる範囲で見て行く。

### 2.1.　副詞全体の中での感情形容詞の副詞的用法の研究

新川(1979)は、「副詞と動詞のくみあわせ」を整理し、人の動作の側面を特徴づけるもののひとつとして「心理的な側面」を挙げている。例を一部引用する。

(6) 貴様らなんだって人がたのしくあそんでいるのにじゃまをするんだい。
(7) 私はゆかいに口笛をふいてしまっていよう。
(8) 不きげんに倫や女中をしかる声が、
(9) いつまでもないている猫の声をさびしくききながら、　(新川 1979)

このように、すでに 1979 年に、感情形容詞の副詞的用法は、ひとつの副詞のタイプとして取り上げられていた。

その後、加藤(2000)は、副詞的成分全体の分類のどこに感情形容詞の連用形が現れるかという考察を行っている。加藤(2000)は、「感情・感覚形容詞の連用形の主な機能」として、「命題に対する価値判断」、「表現主体の心情・感覚表現」「動作や動き評価」を挙げている。(10)－(12)は、それぞれの例である。

(10)かわいそうに、あいつもせっかくの縁談をこれでふいにすることになるかもしれない。
(11)そういうわけで、私は長いこと不遇をかこってきた。「不遇」と「ひがみ」は同一線上にあるから、ときどき過ぎし日々のことを思い出して苦々しく舌打ちしたりする。
(12)ますます空が心細く暗みを増し、桃子は足を急がした。　(加藤 2000)

加藤(2000)は、(10)のような例も包括的に扱っているという点で優れているが、副詞句と述語動詞の関係については十分に考察が行われていない。

### 2.2.　感情形容詞の副詞的用法の研究

細川(1990)は、「感情形容詞の連用修飾用法」について考察を行っている。そして、動作主体がヒトかモノ・コトか、感情主体が特定か不特定か、述語動詞の種類という 3 つの観点から次のようにまとめている。表 1 に細川(1990)の分類を引用し、次に、それぞれの例

を挙げる。

**表１　細川(1990)の連用修飾用法の分類**

| 動詞の種類 ＼ 動作主体 ＼ 感情主体 | | 「思う／感じる」類の動詞<br>〈知覚動詞類－エル／－ラレルを含む〉 | その他の動詞 |
|---|---|---|---|
| ヒト | 特定できる | A　思うことの内容に対する感情表示<br>(感情主体の心の状態の表現) | B 叙述内容に関する感情反映 |
| モノ<br>コト | 特定できる | ― | C’　B と C の中間的な用法 |
| | 特定できない | ― | C 叙述内容に関する評価限定<br>(対象の状態の表現) |

(13)家へ来てくれたことを嬉しく思います。　…A

(14)次の年わたしは田舎に疎開していて、旧家の離れで生まれたばかりの香代子により添って庭の木の葉が散って行くのをかなしく眺めていた。　・・・B

(15) 厚い檜皮ぶきの屋根が、重く暗い重量感で、おそろしく迫ってきた。　・・C’

(16)「そんなに楽しく事が運ぶわけがないさ」　・・・C　(細川 1990)

細川(1990)は、A は、形容詞の連用形が「思うことの内容」であるが、B は、「この連用修飾の用法は動詞の叙述内容に対して行われているものである」と同時に「感情主体の感情が反映されている」と述べている。しかし、細川(1990)の動作主体の分類では、次の(17)は、動作主体が人間のため、B に入ってしまうと思われる。(17)は、細川の分類では、C’に入るべき例ではないだろうか。「個性的な三人」は、「感情主体」ではないからである。

(17)個性的な三人が、女たちの金銭欲や老いへの不安をコミカルに、そして、ちょっぴり悲しく演じる。　(＝(3))

次に、ドラガナ(2005)を見てみよう。ドラガナ(2005)は、「感情・感覚や主観的評価を表す形容詞」が副詞的成分として働く例について考察を行っている。そして、次の(18)は、「述語動詞の行われ方を話者の評価を伴いながら記述して」おり、「主観的評価の主体が『話者』」であるのに対し、(19)は、「動作主が動作の実現中に思った・感じたこと」について述べており、「主観的評価の主体が『動作主』である」としている。

(18)上田さんは何気ないことを無茶苦茶面白く話す。

(19)田中さんは報告書を面白く読んだ。　(ドラガナ 2005)

そして、(19)を「動作主認識の副詞的成分」と呼び、「〈様態の副詞的成分〉などと区別

する」と述べている。そして、動作主認識の副詞的成分がある文の主語は、述語動詞の動作を行う動作主と、経験者という 2 つの意味役割を持つと述べている。本研究では、この動作主認識の副詞的成分という概念を援用し、感情形容詞の副詞的用法について考察を行っていく。

ただし、ドラガナ(2005)は、「動作主認識の副詞的成分」には、「形容詞連用形(ソウダを伴わないもの)」と「形容詞語幹＋ソウダの連用形」の 2 つがあるとし、次のような例も、「動作主認識の副詞的成分」であると述べている。

(20)葵君は私の採血の様子を恐ろしそうに見つめていました。　　(ドラガナ 2005)

しかし、ドラガナ(2005)も(20)は、「葵君がお母さんの採血を『恐ろしい』と感じるような様子」であることを述べていると言っているように、「ソウダ」が付いた成分は、そう思っているような様子であることを述べているだけであるため、本研究では動作主認識の副詞的成分とは考えない。また、ドラガナ(2005)は、ソウダが付かない動作主認識の副詞的成分と述語の組み合わせには、「おいしく」と「食べる」「飲む」等の飲食動詞と、「興味深く」「面白く」と「見る」「聞く」「(自分が住む地域の歴史を)調べる」等の「理解や知的活動を前提とする動作を表すもの」があるとしている。そして、「形容詞連用形による副詞的修飾をもっとも多く受けるのは、『聞く』系の動詞である」とし、次の組み合わせを挙げている。

(21)面白く／興味深く／わかりやすく／楽しく／嬉しく／悲しく聞く
(ドラガナ 2005)

本研究は、上記以外の組み合わせも可能であることを指摘する[4]。また、ドラガナ(2005)で、すでに動作主認識の副詞的成分は、「動作主が動作の実現中に思った・感じたこと」であると指摘されているが、本研究では、述語動詞と副詞的成分には、因果関係はなく、同時性があるだけであることを指摘する。そして、その同時性によって、感情形容詞の非動作主認識の副詞的成分との共通点を見いだせることを述べる。

### 2.3. 情態修飾成分と結果構文の先行研究

次に、情態修飾成分の先行研究と、結果構文の先行研究を見ていくが、本節の議論に直接関連する点のみを取り上げる。

矢澤(1983)は、形容詞の連用形を含む「情態修飾成分」を(22)の下線部のような「動作・作用の行われ方」を表す「様態相修飾成分」と、(23)(24)の下線部のような「動作・作用

[4] なお、筆者は、(21)の中で、「わかりやすく聞く」は不自然であると判断する。

によって現れるモノのサマ」を表す「状態相修飾成分」に分類した。そして、更に後者を「動作・作用の最中に現れるモノのサマ」を示す「状況相修飾成分」(23)と「動作・作用の結果に現れるモノのサマ」を示す「結果相修飾成分」(24)に分類している[5]。

(22)非常灯ガ　急ニ　赤ク　点滅スル
(23)夜明ケノ海ガ　白ク　輝ク
(24)壁ヲ　白ク　塗ル　(矢澤 1983)

矢澤(1983)の主張で本研究にとって重要なのは、形容詞の連用形が、「動作・作用の行われ方」だけでなく、「動作・作用の最中に現れるモノのサマ」も表すという点である[6]。

次に、結果構文についての議論であるが、鷲尾(1996)、 Washio(1997)を見てみる。

(25)僕は靴の紐を固く結んだ。　(鷲尾 1996)

鷲尾(1996)は、結果構文の多言語比較を行う中で、(20)の「固く」は、「靴紐を結ぶという行為の結果を表しているのではなく、むしろ「結び方」(様態)を修飾している」と述べ、"Spurious Resultatives"と呼び、「厳密に言えば結果表現ではない」としている[7]。そして、Washio(1997)では、"Spurious Resultatives"の特徴のひとつとして次のように述べている。

They involve an activity such that a particular manner of action directly leads to a particular state.　(Washio 1997:17)

これは、(25)の例で言えば、「固く」は、動作の行われ方を表すものであるが、力を入れて靴紐を結べば結び目は固く、力を入れないで結べば結び目はゆるくなるというように、結果句で表される動作の行われ方が、ある状態に直結するという指摘である。

その後、宮腰(2009)は、結果構文を広く定義する立場をとり、Washio(1997)で"Spurious Resultatives"と呼ばれたタイプを「動詞の表す行為の結果新たに生み出されたモノの状態を描写する」「(副)産物志向の結果句」と呼んだ。そして、「日本語形容(動)詞の連用修飾ク・ニ形が一般にプロセス志向」であり、「モノの結果状態だけではなくそこに至るプロセスも常にある程度表している」と述べた。(25)の「固く」は「(ⅰ)産物である結び目の状態、(ⅱ)その出現過程、そして(ⅲ)行為主の靴紐に対する働きかけ方の３つの意味」を表すと言う。

[5]矢澤(1983)は、様態相修飾成分も「生起相修飾成分」と「過程相修飾成分」に分類し、更に後者を「動作相修飾成分」「進行相修飾成分」に下位分類している。なお、(22)－(24)の下線は、筆者が手を加えており、矢澤(1983)とは異なる。

[6]本研究では、「動作主認識の副詞的成分」と「非動作主認識の副詞的成分」に分けて考察を行っていくが、これは、副詞的成分で表される感情が動作主の感情であるか否かという観点での分類であり、本研究で扱う例は、すべて、矢澤(1983)でいう「情態修飾成分」に含まれるものと考えている。

[7]鷲尾(1996)では、その根拠として、(25)の「固く」は、英語では、副詞句に置き換えが可能であること、フランス語では、目的語と数の一致を示さず副詞的な資格を持つことを挙げている。

本研究では、結果句かどうかという議論は行わないが、感情形容詞の副詞的用法にも、動作の行われ方を表しつつ、動作の結果生まれたモノのサマを表す例があることを指摘する[8]。

## 3. 考察の対象

### 3.1. 感情形容詞

本章では、第2章の形容詞分類で感情形容詞と認定される語を対象に考察を行う。また、副詞的成分と呼べる非必須成分の範囲も限定しなければならない。以下、動作主認識の副詞的成分となる形容詞の範囲と、非必須成分と考えられる範囲について見ていく。

第 2 章の指標で感情形容詞と認定することができ、かつ、副詞的用法の実例を集められた形容詞は、次の AB の通りである。A と B は、第 2 章の形容詞分類の A 群と B 群であり、A 群が「より経験者の状態を述べることを志向する語」で、B 群が「対象の状態も表すことを志向する語」である。A 群 19 語、B 群 28 語、計 47 語の用例があった。

A　愛しい　後ろめたい　うっとうしい　恨めしい　うらやましい　うれしい　悲しい
　気まずい　くやしい　心細い　切ない　懐かしい　恥ずかしい　腹だたしい
　誇らしい　空しい　もどかしい　やるせない　憂鬱な

B　あたたかい(暖・温)　熱い　ありがたい　あわただしい　忙しい　おかしい(滑稽な)[9]
　恐ろしい　重い　重たい　快適な　窮屈な　興味深い　気楽な　苦しい　幸福な
　心地よい　怖い　寂しい　幸せな　すがすがしい　涼しい　退屈な　楽しい
　つまらない　つらい　情けない　まぶしい　愉快な

なお、ドラガナ(2005)で「主観的評価を表す形容詞」の動作主認識の例として挙げられている「面白く聞いた」の「面白い」は、本研究の分類では、「うるさい」と同様に、C 群の「属性形容詞であるものの副詞句としては感情形容詞と同様の振る舞いをする語」に分類される。動作主認識の副詞的成分になる形容詞は、A・B の感情形容詞が中心であるが、C の形容詞 4 語にも動作主認識の実例が見られた。

C　おいしい　おもしろい　さわやかな　頼もしい

(26)「本格的な茶室でたいへん<u>おいしく</u>いただきました」　(『読売新聞』2012.04.27)

---

8 宮腰(2009)は、次の(イ)の下線部を「感情喚起物志向の結果句」と呼び、結果構文の一種として位置づけている。
(イ) a.　贈り物を<u>ありがたく</u>受け取った。
b.　ご飯を<u>美味しく</u>食べた。
c.　論文を<u>興味深く</u>読んだ。　(宮腰(2009))

9 第 2 章の形容詞分類では、「おかしい」は、「おかしい(滑稽な)」と「おかしい(変な)」を認めており、感情形容詞に分類されるのは、「おかしい(滑稽な)」のみである。

(27)入れ替わった二人が、それぞれ初めての体験に戸惑うようすを、おもしろく読みました。（『読売新聞』2004.08.16）

(28)つまり、オルニチンを摂取すると、お酒を飲んだ翌日もさわやかに目覚められたり、美肌効果などが期待できたりするという。（『読売新聞』2011.12.19）

(29)走者が出た時、マスクを取り、守備位置を細かく指示する息子をスタンドから頼もしく見守った。（『読売新聞』2003.08.01）

そして、属性形容詞である「ほほえましい」にも、動作主認識の副詞的用法と思われる例がある。

(30)近くの公民館の軒下にツバメが巣をつくり、ヒナの声がするのをほほえましく見ていた。（『読売新聞 2008.05.28』）

このように、動作主認識になる形容詞の範囲については、課題が残っているが、本研究で主張する動作主認識の副詞的成分と述語動詞の関係は、(26)－(30)にもあてはまることを述べておきたい。以下では、A・B の例をもとに考察を行う。

### 3.2. 副詞的成分（非必須成分）とは

本章で考察の対象とするのは、次のような感情形容詞の連用形が非必須成分で、副詞的成分として働く例である。

(31)ギターを弾き学園祭のヒーローになる友人をうらやましく見つめていた。（『読売新聞』2008.06.08）

(32)「あんな風に飛べたらなあ……」と、地上から切なく見上げたことは数知れない。（『読売新聞』2006.04.20）

(33)「今日はみなさんに楽しんでもらって、楽しく歌えた。ロサンゼルスでは『福島は元気です』と伝えたい」（『読売新聞』2012.07.23）

次のように述語が「なる」「する」と「思う」「思える」「思われる」「感じる」「感じられる」と「見える」「聞こえる」の例は、必須成分として考察の対象から外す。

(34)たった１分の自己紹介ができなかったことで、今まで何をしてきたのだろうと、悲しくなりました。（『読売新聞』2010.03.08）

(35)昨年秋には、経営難のＪＲ黒部駅前のホテルを運営する新会社の設立に向けて、地元企業に呼びかけた。街を寂しくしたくなかったからだ。

（『読売新聞』2004.07.27）

(36)「カードを使われたらどうしよう」などと悪用されるとばかり考えていた自分を恥ずかしく思いました。（『読売新聞』2008.11.01）

(37)周囲約２４キロの小さな島は南国の美しさをたたえているが、歴史を知ると、すべてが悲しく見えてくる。（『読売新聞』2005.04.04）

(38)「これ落としたんちゃう？」とおじさん。僕は昨春、関西から引っ越してきたので、久しぶりの関西弁がとても懐かしく聞こえました。（『読売新聞』2003.01.29）

以下、非必須成分の副詞的成分について考察を行うが、必要に応じで必須成分についても言及する。

## 4. 感情形容詞の副詞的用法の２分類

議論に入る前に、術語について確認をしておきたい。以下、「主体」という術語を用いるが、「太郎が歩く」では述語動詞の動作主である「太郎」が、「花が枯れる」では「花」が主体である。また、「モノ」を人間以外の具体物・抽象物・出来事の総称として用いる。

本研究では、感情形容詞の副詞的用法をドラガナ(2005)の「動作主が動作の実現中に思った・感じたこと」を表す「動作主認識の副詞的成分」と、話者が第三者やモノの外から見たサマを述べる副詞的成分に分類する。後者を「非動作主認識の副詞的成分」と呼ぶ。

次の(39)(40)は、述語動詞の動作主である話者が、「恨めしい」「もどかしい」と感じたことを表している動作主認識の副詞的成分である。

(39)休み時間は校庭でバレーボールをして遊び、勢い余ったボールが時々フェンスを乗り越え、がけ下の富士川に転がっていった。何度恨めしくボールを拾いに行ったことか。（『読売新聞』2005.03.27）

(40) 仲間たちが対応に追われる姿をもどかしく見つめることしかできない。（『読売新聞』2007.10.31）

一方、次の(41)は、「草花」の感情とは考えられず、動作主認識の副詞的成分にはなり得ない。

(41)春に咲いた多くの草花たちも麦秋と同様に寂しく枯れて、地上からそっと姿を消す。（『読売新聞』2008.06.16）

また、次の(42)も、「歌う」の動作主である「志賀さん」が「切ない」と感じたという解釈はできず、非動作主認識の副詞的成分である。

(42)主婦時代に司法試験を受け続け、13 回目で合格したという志賀さんは「人生は過ぎゆく」を切なく歌い、聴衆をうならせた。　（『読売新聞』2009.03.28）

以下、動作主認識の副詞的成分、非動作主認識の副詞的成分の順に見ていく。

### 4.1. 動作主認識の副詞的成分

はじめに、動作主認識の副詞的成分の主体について見ていく。動作主認識の副詞的成分は、動作主が副詞的成分で表される感情の持ち主であるあるから、主体は、人間でなければならない[10]。そして、動作主認識の副詞的成分の例には、主体が特定の例と不特定の例がある。以下、順に見ていく。

#### 4.1.1. 主体が特定の例

主体が特定の例は、主体に制限があり、それは、感情形容詞の非過去・言い切りの述語の「人称制限」と呼ばれる現象と同じであることを確認する。

感情形容詞が非過去形・言い切りの述語として用いられた場合、「ふつうは、話し手自身の感情・感覚しか表さない」とされている(西尾(1972：26))。

(43)*あなたは　かなしい。
(44)*あの人は　うれしい。　（西尾 1972）

そして、「書き手(話し手)が第三者の気持ちにはいり込んで、自分のことのように表現するばあい」は「この原則にあてはまらない、例外的なばあい」であると言う。

(45)時雄は常に苛々して居た。書かなければならぬ原稿が幾種もある。書肆からも催促される。金も**欲しい**(以下略)。　（西尾 1972）

また、「述語が質問・推量・解説などの形をとっている時には、一人称以外の人を感情の主体とする文」が成立すると述べている。

(46)「これが**いたい**か」相手はその手をとびかかるようにようにしてつかんで前へ引いた。
(47)「大宮さんがいらつしてはあなた**お淋しい**でせう」
(48)うちの親爺は、貴郎の親爺が余程**憎い**んだわ。　（西尾 1972）

---

[10]モノが主体でも、擬人化されている場合、動作主認識の副詞的成分になり得る。
(ロ)りんごは、仲間が捨てられていくのを悲しく見ていました。

これらの感情形容詞が述語として使われた場合の人称の制限は、副詞的用法にもあてはまる。まず、主体が話者の文は、適格文となる。

(49)お便り、ありがとう。あやめさんは、時間の正体をちゃんとご存じなんだなと、うれしく読みました。（『読売新聞』2011.07.17）

(50)これが判ったのは日本を出発する二日前だったので、辞退するわけにもいかず、なにをしたらいいのか分からない内科医として心細く参加したのだった。（『冬物語』）

(51)豊島係長は「ありがたく使わせてもらう」と話している。（『読売新聞』2011.01.11）

(49)－(51)は、主体が「うれしい」等と感じた動作主認識の副詞的成分で、かつ、主体が話者、つまり第一人称である。

次は、主体が第三者の例であるが、このような文は、語りの文としてしか許容されない。これは、(45)の「(時雄は)金が欲しい」が語りの文としてのみ適格であるのと同じである。

(52)花子は、太郎からの手紙をうれしく読んだ。

(53)花子は、恨めしく空を見上げた。

そして、次のような主体が聞き手の述べ立ての文は、非文であると言ってよいだろう。

(54)*あなたは、太郎からの手紙をうれしく読んだ。

(55)*君は、恨めしく空を見上げた。

主体が聞き手で適格文であるのは、次のような文である。

(56)石垣正夫市長が「楽しく遊ぼうね」と園児に呼びかけ、保護者に「安心して子育てや仕事に励んで下さい」と話した。（『読売新聞』2010.05.09）

(57)「うつ病は、他人の目を気にしない『マイペース』が大事。同好会のような会なので、いつでも気楽に参加してください」（『読売新聞』2003.01.29）

(58)「楽しく飲んでる？」

(56)で「楽しい」と感じるのは、「園児(または園児と市長)」であり、聞き手である。このように、主体が聞き手の文は、勧誘や依頼・質問の文であれば、適格文である。これは、感情形容詞が述語として用いられる場合、「述語が質問・推量・解説などの形」の場合は、主体が話者でなくとも適格文となるのと並行的であると言える。人称制限は、述語におい

て見られる現象とされているが、副詞的用法にも見られるのである。感情形容詞の人称制限は、感情形容詞が人間の感情を述べる際に見られるものである。このことから、動作主認識の副詞的成分も人間の感情を述べているものであると言うことができる。

#### 4.1.2. 主体が不特定の例

次に主体が不特定の例を見てみる。主体が不特定の例は、述語動詞が可能形である。

(59)好奇心とチャレンジ精神がうまく組み合わさって、人間は一生を楽しく過ごせる。
(『読売新聞』2011.01.17)

(60)ドーナツ形の枕の中央に頭を載せて抱きかかえるようにすると、姿勢が安定し、心地よく眠れるという。 (『読売新聞』2011.04.27)

(59)は、「人間」が主体で、好奇心とチャレンジ精神を持っていれば、誰でも「一生を楽しく過ごせる」ことを述べている。(60)は、「ドーナツ形の枕の中央に頭を載せて抱きかかえるようにする」と、誰でも「心地よく眠れる」ことを述べている。(59)(60)は、ある条件を満たせば、誰でも副詞的成分の感情・感覚を持って、述語動詞の動作が行えると述べているのである。

ところで、寺村(1982：259)は、可能表現の中には次の(61)のように、「は」で取り立てられた名詞句が「動作を受けるもの」である「受動的可能」の存在を指摘している。これらは、「一般に、人々、我々、あなた(がた)にとって」いうことを表しているという。

(61)コノ茸ハ食ベラレナイ
(62)〔人間ニ〕コノ茸ガ食ベラレル(コト) (寺村 1982)

そして、(61)は、「コノ茸」が主題としてとりたてられ、「コノ茸」の属性を述べる文になっていると考えられる。次の(63)も、同様に、モノの属性を述べる文となっている。

(63)将棋好きで知られる作家の団鬼六さんが米長名人を論じた「米長邦雄の運と謎」(山海堂、千三百円)を著した。団さんの体験談が中心で楽しく読める。
(『読売新聞』1999.01.06)

(63)は、「米長邦雄の運と謎」という本は、誰にでも「楽しく読める」ということを述べることで、この本の属性を述べる文に移行していると考えられる。以上のように、主体が不特定の文は、述語動詞が「受動的可能」であり、「誰でも～く～できる」と述べる文、または、「誰でも～く～できる」と述べることによって、モノの属性を述べる文である。

### 4.1.3. 形容詞の偏り

次に、動作主認識の副詞的成分の例の形容詞の偏りについて見ていく。述語動詞で表される出来事と副詞的成分で表される感情とが実現したかどうかという観点で分けて見よう。なお、第三者が主体の文は、語りの文でしか許容されないので考察の対象から外す。

次の(64)－(67)は、実現済みの文である。(64)－(67)は、「読んだ」こと等、述語動詞が表す出来事は実現しているため、「うれしい」「切ない」等の感情・感覚も実現している。実現済みの例には、感情形容詞Aと感情形容詞B、どちらも動作主認識の副詞的成分として現れる。

(64)宮城県塩釜漁港できのう、マグロの水揚げがあったという記事をうれしく読んだ。
(『読売新聞』2011.04.15)

(65)２度目の病院では、呼吸困難があると伝えておいたにもかかわらず、カルテが届かないからと、またも待たされることに。医師たちのいる部屋から談笑する声が廊下に響き渡るのを恨めしく聞くしかなかった。 (『読売新聞』2005.09.07)

(66)四日市には３か月前に赴任したばかりで、緊張や戸惑いの日々が、「おいしかった」「歌って楽しかった」と癒やされ、心地よく眠りにつけた(『読売新聞』2009.08.06)

(67)フジテレビ系２日「衝撃！三世代比較ＴＶ」を楽しく見た(『読売新聞』2010.11.19)

(64)(65)のような「うれしい」「恨めしい」といったAの「より経験者の状態を述べることを志向する語」に分類された感情形容詞も、(66)(67)のような「楽しい」「心地よい」のようなBの「対象の状態も表すことを志向する語」に分類された感情形容詞も現れる。

一方、次の(68) －(72)は、未実現の文である。(68)(69)は、述語動詞の表す「飲む」「頂戴する」という出来事はまだ実現しておらず、「楽しい」「ありがたい」も実現していない。また、(70)－(72)のように不特定多数を主体とする文も、未実現である。これらの未実現の文には、Bの形容詞は現れる。

(68)「節約はしたいけど、たまには友人らと楽しく飲みたい(『読売新聞』2009.06.20)

(69)つべこべいわず、ありがたく頂戴しておけ。

(70)ドーナツ形の枕の中央に頭を載せて抱きかかえるようにすると、姿勢が安定し、心地よく眠れるという。 (＝(60))

(71) 山岡さんは「漱石の作品は、現代人の心に通じるものが多く、100 年たっても面白く読める。実際に手に取ることができる展示にした」と話した。
(『読売新聞』2009.12.0)

(72)シャツは 5300(税込み)。市商工労政課は「涼しく着られると思う。たくさんの人に着て欲しい」と話し、市民にも購入を呼びかけている。(『読売新聞』2005.06.25)

(68)－(72)の未実現の例は、「ありがたく」「おもしろく」「楽しく」「暖かく」「快適に」「心地よく」「涼しく」がほとんどで、これらの形容詞は、すべてBに分類される語である。第2章で見たように、AとBは、経験者である人間の状態と、感情の対象となる事物の状態のどちらを表すことを志向するかという分類であった。Aの感情形容詞では、未実現の文を作りにくいようである。Aの形容詞で未実現の例は、次のように不適格である。

(73)*せっかく妻が買ってくれたのだ。うれしく受け取っておこう。
(74)？東北出身者が集まるあの店に行けば、方言を懐かしく聞くことができます。

述語動詞の表す出来事が実現したか否かと、形容詞A･Bによる文の適格性をまとめると、表2のようになる。

**表2　述語動詞の表す出来事の実現未実現と形容詞の関係**

| 形容詞／動作 | 感情形容詞A群 | 感情形容詞B群 |
|---|---|---|
| 実現 | 懐かしく聞いた。 | 楽しく聞いた。 |
| 未実現 | ？懐かしく聞ける。 | 楽しく聞ける。 |

以上、述実現済みの例の副詞的成分には、AとBの感情形容詞が共に現れるが、未実現の例はBのみでAの形容詞は現れにくいということを確認した。

第2章で、Aの形容詞、例えば「うらやましい」が「うらやましい話」は言えるのに、「*うらやましそうな話」と言えないことについて、話者がある話を「うらやましい」と思って初めて「うらやましい話」なのであり、「話の属性と捉えることはできない」ためであることを見た。そして、動作主認識の副詞的用法においても、Aの形容詞は実現済み、つまりその感情が実際に起きた文でしか使えない。「*方言を懐かしく聞ける」が言えないのも、「懐かしい」がある方言が持っている属性と捉えることは難しいからであり、あくまでも話者が方言を聞いて「懐かしい」と思ってはじめて、「懐かしく聞いた」と言えるのであろう。これは、「*うらやましそうな話」が言えないのと同様に、感情形容詞の「より経験者の状態を述べることを志向する」性質によるものであると考えられる。

### 4.1.4. 動作主認識の副詞的成分と述語動詞の関係

次に、動作主認識の副詞的成分と述語動詞の関係について見ていこう。動作主認識の副詞的成分の例を集めてみると、述語が「見る」「聞く」等の何かを認識することを表す動詞の例が目につく。認識系の動詞と認識系以外の動詞に分けて見ていく。

#### 4.1.4.1. 認識系の動詞

はじめに、述語が「見る」「聞く」等の認識系の動詞の例について見てみる。

(75)テレビ朝日系９月２３日「永遠の名曲歌謡祭３」で昔の歌を懐かしく聞かせてもらったが、多くの歌手は以前とリズムを変えて歌っていて、違和感があった。

（『読売新聞』2011.10.04）

(76) 住み込みの奉公先の店先を通る制服制帽姿の高校生を、まぶしく見つめていた。

（『読売新聞』2008.12.21）

(75)(76)は、述語が「見る」「聞く」等の認識系の動詞である。なお、これらは、下線部の副詞的成分をとることも可能で、非必須成分である。もうひとつ例を見てみる。

(77)小学校のあのころを今も悲しく思い出します。　（『読売新聞』1997.01.28）

(77)は、述語が「思い出す」であるが、「見る」や「聞く」が現実の情報を認識するのに対し、「思い出す」は「記憶」を認識する動詞である。「現実の情報」か「記憶」かという違いだけであり、「思い出す」も、認識系の動詞と考えることができる。

これらの例の副詞的成分と述語動詞は、どのような意味関係にあるのだろうか。次の(78)(79)について、細川(1990)では、「眺めている」こと、「冗談めかしていう」ことが「感情の対象」になっていると述べられている。「眺めている」こと、「冗談めかしていう」ことが「かなしい」「苦しい」という感情を引き起こしたという解釈である。

(78)次の年わたしは田舎に疎開していて、旧家の離れで生まれたばかりの香代子により添って庭の木の葉が散って行くのをかなしく眺めていた。　（＝(14)

(79)どうしたらいいんでしょうか、と私は苦しく冗談めかしていった。　（細川 1990）

確かに、(78)(79)は、そのような解釈が可能である。しかし、次の(80)では、「見上げた」ことが「うらめしい」わけではない。

(80)しかし、今年はソメイヨシノの開花が遅く、やっと咲いたと喜んだのもつかの間、雨であっという間に散ってしまい、どんどん緑が色濃くなっていく枝を恨めしく見上げたものでした。　（『読売新聞』2005.04.25）

「見上げた」と「うらめしい」は、どういう関係なのだろうか。以下では、副詞的成分と述語動詞の意味的な関係について考えていく。そして、動作主認識の副詞的成分は、述語動詞の表す出来事と副詞的成分の表す感情が同時性を持っているだけであり、述語動詞の表す出来事が感情の対象、つまり感情を引き起こしたわけではないということを述べる。ここで、非文ではあるが、次の 2 つの例の副詞的成分と述語動詞の表す出来事の関係を見

てみよう。

(81)*私は、うれしく合格した。　(＝(4))
(82)?私は、悲しく泣いた。　(＝(5))

(81)は、「合格した」ことが原因となり「うれしい」という感情が生まれた、(82)は、「悲しい」という感情が原因となり「泣いた」という関係であると考えてみる。これらは、現実に起こり得ることであるが、(81)(82)は、非文または不自然である。つまり、動作主認識の副詞的成分は、副詞的成分と述語動詞の因果関係を表すものではないと言える。

では、「枝を恨めしく見上げた」の「恨めしい」と「見上げる」は、どういう関係なのだろうか。「枝を見上げた」ことが、「恨めしい」という感情を引き起こしたわけではない。また、「恨めしい」という感情が「枝を見上げる」という動作を引き起こしたわけでもない。「恨めしい」が感情を引き起こした場合は、「恨めしくて、枝を見上げた」としなければならない。(80)の例で、「恨めしい」のは、「見上げた」ことではなく、「どんどん緑が色濃くなっていく枝」ではないだろうか。つまり、認識系の動詞の場合、見たり聞いたりした内容が感情を引き起こしているのであり、「見上げた」は、「枝」を認識する動作を表しているだけなのである。

第4章の「Vて、感情形容詞」の分析で、「娘が元気に頑張っているのを見て、うれしい」のような見聞きした内容が感情の対象である［対象認識］というタイプの存在を指摘したが、見聞きした内容が感情の対象であるという点は、(80)も同じである。そして、(80)の「枝を見上げた」と「恨めしい」の間には、「見上げた」ときに「恨めしい」と思っていたという同時性が存在するだけである。

次の(83)も、「聞き流した」ことが「つらい」わけでも、「つらい」から「聞き流した」わけでもない。(84)も「思い出した」ことが「恥ずかしい」わけでも、「恥ずかしい」から思い出したわけでもない。

(83)「私の人生って一体何だったのかしら」。つぶやく母に「あら。いい子供たちを育てたじゃないの」と冗談めかして言ってみるが、他の人格におんぶした自己表現の悲しさを、片棒をかついだ者として、つらく聞き流している。
(『読売新聞』1991.10.29)

(84)2歳の娘を抱いて混雑した電車に乗った時、近くの男性が「大変ですね」と娘を抱き取ってくれました。その時、「危険な人では」と勘ぐったことを恥ずかしく思い出します。　(『読売新聞』2009.04.01)

このように、動作主認識の副詞的成分は、述語動詞が行われているときに副詞的成分の

感情を持っていたことを表しているだけなのである。そのため(81)の「うれしく合格した」のように「合格する」という出来事が終わってから「うれしい」という感情が起きたというように、時間的に同時性がないと思われる文は、非文になるのである。

(82)の「悲しく泣いた」という例については、「泣いたときに悲しいという感情を持っていた」という解釈が可能で、適格な文が成立してもよいはずであるが、不自然である。感情形容詞の副詞的成分と述語動詞が同時性を持っているというのは、存在する例がそうであるだけで、この条件を満たせば適格文を産出できるというわけではないという点が課題として残っている。ただし、実例を見ていると、「このような言い方をするのか」と感じるような例も、述語動詞と副詞的成分の間に因果関係はなく、同時性があるだけであるという原則を守っているということを述べておきたい。

(85)その後も一年間、朝練習を続けたが、「苦しく走ることしかできない」自分を見つけて驚いた。引退を決めた。（『読売新聞』2002.01.07）

(86)『天使？…。じゃあ、僕死ぬの？』『…』輝羅は目を細めて微笑むと、そっと彼の上に手を翳した。すると、その掌に柔らかな光が現れ、愛しく抱くように、達郎少年を包んでいった。（『アブナイ』）

#### 4.1.4.2. 認識系以外の動詞

次に、述語が認識系ではない例を見てみよう。認識系以外の動詞でも、次の(87)－(89)のように、述語動詞の表す出来事と副詞的成分の間に因果関係はなく、同時性が存在するだけである。

(87)「序盤は負けるかと思ったが、開き直って気楽に指したのが良かった」（『読売新聞』2011.08.24）

(88)意識的に飲み逃げしたのではないが、ジングルベルの音楽鳴り響く師走の街を追いかけられている思いで、後ろめたく家路を急いだ。（『読売新聞』1992.12.20）

(89)「全員でもらった賞。ありがたく頂きます」（『読売新聞』2011.08.01）

(87)は、「気楽だから(将棋を)指した」や、「(将棋を)指したから気楽だ」という因果関係は持っておらず、「気楽な」と「指す」は、同時性を持っているだけである。(88)(89)も同様である。このように、感情形容詞の副詞的用法の例は、述語動詞の表す出来事と同時性がある、つまり、動作時に副詞的成分の表す感情・感覚を持っているということを表すものであると言える。

以上、動作主認識の副詞的成分の述語動詞を認識系とそれ以外に分けて見てきた。どちらにおいても、副詞的成分と述語動詞は、因果関係を持たず同時性を持っているだけであ

ることを確認した。

### 4.2. 非動作主認識の副詞的成分

次に非動作主認識の副詞的成分の例を見てみよう。非動作主認識の副詞的成分とは、話者がモノや第三者の外側から見たサマを述べる副詞的成分である。非動作主認識の副詞的成分の主体と、副詞的成分と述語動詞の関係について考察する。

#### 4.2.1. 主体

非動作主認識の副詞的成分の主体は、(90)のようにモノか、(91)(92)のように第三者である。そして、動作主認識の副詞的成分とは異なり、主体の感情を表す成分ではない。

(90) 商店街はシャッターが下りて自動販売機だけが寂しく立っている。
(『朝日新聞』2009.08.19)

(91)「若い人たちの飲み方、好みの曲が変わってしまって……」と女将(おかみ)さんは寂しく笑った。 (『読売新聞』2000.07.23)

(92)事件記者出身のミシェル・ビアネイ監督が、権力をバックにした構造犯罪を不気味に、恐ろしく描く。 (『読売新聞』1987.03.10)

(90)は、主体がモノであり、「自動販売機」の感情とは考えられない。(91)の例については後述するが、「女将さん」が「寂しい」と思ったわけではない。(92)は、「ミシェル・ビアネイ監督」が、「恐ろしい」と思いながら「描いた」わけではない。これらは、述語動詞の主体の感情・感覚を表すものではないという点で共通している。以下では、動作主認識の副詞的成分と非動作主認識の副詞的成分との比較を通して、非動作主認識の副詞的成分の例が感情の対象の側から出来事を描いている文であることを確認する。

はじめに、主体がモノの例から見ていく。次の(93)は、非動作主認識の副詞的成分の例だが、(94)のように動作主認識の副詞的成分の文でも、同様の出来事を描くことができる。

(93)はがきを見つめていたら、将来が見通せない若い日の不安が、ちょっと懐かしくよみがえった。 (『読売新聞』2011.08.28)

(94)はがきを見つめていたら、将来が見通せない若い日の不安を、懐かしく思い出した。

感情形容詞が描く出来事には、多くの場合、経験者である人間と感情の対象であるモノがあるわけであるが、非動作主認識の副詞的成分は、感情の対象であるモノの側から述べた文であると考えることができる。次の(95)も、(96)のように述べることもできる。

(95)風穴の中は５度程度の涼風が心地よくそよいでいる。　(『読売新聞』2009.07.06)
(96)風穴の中で５度程度の涼風を心地よく感じた。

(95)は、モノの側から述べた文である。(96)は、述語動詞が「感じる」で、必須成分か非必須成分か難しい例であるが、人間の側から描いていると言えるだろう。無論、これらの文が全く同じであるわけではない。ここで主張したいことは、(94)の動作主認識の副詞的成分や(96)が、経験者である人間の側から出来事を描いているのに対し、(93)(95)の非動作主認識の副詞的成分は、感情を引き起こすモノの側から描いているということである。このような考えのもとで、もうひとつ例を見てみる。

(97)澤田さんの「私は花束を作り続けてきた、道の傍らに寂しく咲いていた花、誰かがそっと置いていった花を集めて」という言葉が心に響く。
(『読売新聞』2009.03.11)

(97)も、咲いている花が「寂しい」という感情を引き起こすようなサマであることを述べており、感情を引き起こすモノの側から描いている非動作主認識の副詞的成分である。
次に、主体が人間の例を見ていこう。次の(98)は、人間が主体であるが、「女将さん」が寂しいと感じたことではなく、女将さんの笑うサマが「寂しい」と述べているのである。

(98)「若い人たちの飲み方、好みの曲が変わってしまって……」と女将(おかみ)さんは寂しく笑った。　(＝(91))

(98)は、「女将さん」が「寂しい」と思っていることを表しているわけではない。女将さんの感情を述べるには、次のように「ソウダ」を用いて、「女将さんは寂しいと思っているように見える」と表現しなければならない。

(99)女将さんは、寂しそうに笑った。

(98)の「女将さんは寂しく笑った」は、「花が寂しく咲く」と同様に、外側から見た「笑った女将さん」のサマが「寂しい」と述べていると考えられる。これらの非動作主認識の副詞的成分は、属性形容詞と同じように、モノや第三者の外側から見たサマを述べているのである。そう考えることにより、次の(100)と(101)の副詞的成分と述語の関係が同じであることが説明できる。(100)は感情形容詞、(101)は属性形容詞であるが、どちらも「花」と「花子」の外側から見たサマを述べているのである。

(100) a. 花が、寂しく咲いている。
b. 花子は、寂しく笑った。
(101) a. 花が、かわいく咲いている。
b. 花子は、かわいく笑った。

以上、非動作主認識の副詞的成分の例は、主体がモノや第三者であり、モノや第三者の外側から見たサマを述べている成分であることを見た。

### 4.2.2. 副詞的成分と述語動詞の関係

非動作主認識の副詞的成分と述語動詞の関係を見てみると、動作主認識と同様に、同時性を持つと言うことができる。

(102) 間近に迫る山々のシルエットを浮かび上がらせる夕やけに、スズムシの音が寂しく響いた。 (『読売新聞』2004.10.06)
(103) 氏神さまの分霊を翌年の世話役に引き渡す伝統行事「今岳権現つうわたし」14日、伊万里市大坪町古賀地区で行われ、顔に墨を塗りたくった一行が愉快に家々を巡った。 (『読売新聞』2009.12.15)

(102)は、「スズムシの音」のサマであるが、「スズムシの音」が「響いている」ときに、「寂しい」と思わせるようなサマなのであり、同時性がある。(103)も、「一行が家々を巡った」ときに「愉快だ」と思わせるようなサマなのである。このように、非動作主認識の副詞的成分は、副詞句と述語動詞に同時性があるという点で、動作主認識の副詞的成分と共通する。

ところで、非動作主認識の副詞的成分の例を集めていると、述語動詞が「踊る」「演じる」「描く」等の芝居・絵画等を作り出す動詞の例がある。

(104) クララと王子は夢の国を旅するうちに、愛し合うが、いつしか夢は覚める。そこで最後に「別れのパ・ド・ドゥ」を切なく踊る。 (『読売新聞』2009.11.06)
(105) 個性的な三人が、女たちの金銭欲や老いへの不安をコミカルに、そして、ちょっぴり悲しく演じる。 (＝(3))

確認しておくが、(104)は、主体である「クララと王子」が「切ない」と思ったわけではない。「クララと王子」について外側から述べる非動作主認識の副詞的成分である。(105)は、「踊り方」が「切ない」と感じさせるような踊り方であることを述べつつ、出来上がった作品としての踊りが「切ない」ということを述べていると思われる。出来上がった作品

のサマをも述べるのは、述語動詞が何らかの作品を生み出す作成系の動詞であることによると思われる。ここで、感情形容詞以外の副詞的成分を見てみよう。

(106) a. 花子は、ゆっくり踊った。
b. 花子は、力強く踊った。
(107) a. 花子は、ゆっくり歩いた。
b. 花子は、力強く歩いた。

(106)は、「踊り方」が「ゆっくり」「力強い」ことを表しているが、ゆっくり踊れば、作品としての踊りも「ゆっくり」したものに、「力強い」踊り方で踊れば、作品も「力強い」ものとなり、出来上がった作品のサマをも表していると言える。一方、(107)の「歩く」は何も作り出さないので、「歩き方」が「ゆっくり」「力強い」という動作の行われ方を表す解釈しかない。そうすると、先に見た(104)(105)は、述語動詞が作成系であるために、動作の行われ方を述べつつ、歌や演技といったできあがった作品のサマを述べていると考えることができる。述語動詞が作成系の例は、できあがった作品のサマをも述べているという点が他の例と異なるが、動作の行われ方をも述べていると考えられるので、同時性は持っていると言えるだろう。

ところで、述語が作成系の例には、受動文も存在する。

(108) ふつうの家庭と変わらない愛が心地良く描かれた小説でした。
(『読売新聞』2010.05.08)
(109) ロボットが同級生、という大きなウソが物語の中心に据えられているが、それを受け止める平太たちの心情は繊細に、切なく描かれている。
(『読売新聞』2010.10.10)

(108)(109)は、受動文になり、「描く」という行為の動作主が見えなくなっているため、「描く」という行為と「心地よい」「切ない」の同時性はない。しかし、これは、受動文になり「描かれたもの」が主体となった文であり、(108)は、「ふつうの家庭と変わらない愛」のサマが「心地よい」、(109)は、「それを受け止める平太たちの心情」が「切ない」のであり、主体のサマを述べている文である。(108)(109)は、「花が寂しく枯れている」と同じタイプであると見ることができる。

以上、非動作主認識の副詞的成分は、モノや第三者の外側から見たサマを述べる成分であり、副詞的成分と述語動詞の間には同時性があると考えられることを確認した。また、述語動詞が何らかの作品を作り出す作成系の能動文の例は、動作の行われ方を表しつつ出来上がった作品のサマを述べる文であることを見た。

## 5. まとめ

感情形容詞の副詞的用法について、表にまとめると、次のようになる。

**表 3　感情形容詞の副詞的用法の分類**

<table>
<tr><th colspan="2">分類</th><th colspan="2">述語動詞の主体</th><th>例</th><th>副詞的成分</th></tr>
<tr><td rowspan="4">動作主認識の副詞的成分</td><td rowspan="3">特定</td><td rowspan="2">話者</td><td>知らせを悲しく聞いた。<br>友人をうらやましく見ていた。<br>ありがたくもらっておこう。</td><td rowspan="4">主体(動作主)の<br>感情を表す</td></tr>
<tr><td>みんなで楽しく遊びましょう。</td></tr>
<tr><td>聞き手</td><td>太郎は、雨雲を恨めしく見上げた。</td></tr>
<tr><td>第三者<br>(語りの文のみ)</td></tr>
<tr><td colspan="2">不特定の人間</td><td>この枕を使えば心地よく眠れる。<br>この本は、楽しく読める。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">非動作主認識の副詞的成分</td><td colspan="2" rowspan="2">モノ<br>第三者</td><td>鐘が悲しく響いた。<br>花が寂しく枯れている。<br>花子は寂しく笑った。<br>花子の苦しみが切なく描かれている。</td><td>主体の外から見た<br>サマを表す</td></tr>
<tr><td>花子はジュリエットを切なく演じた。</td><td>主体の外から見たサマと、<br>できた作品のサマを表す</td></tr>
</table>

そして、以下のことを述べた。

【1】感情形容詞の副詞的用法は、「動作主が動作の実現中に思った・感じたこと」を表す「動作主認識の副詞的成分」と、話者がモノや第三者の外から見たサマを表す「非動作主認識の副詞的成分」に分類できる。

【2】動作主認識の副詞的成分の主体は、人間で、主体は第一人称でなければならない。動作主認識の副詞的成と述語動詞には、因果関係はなく、同時性が存在するだけである。

【3】非動作主認識の副詞的成分の主体は、モノか第三者である。非動作主認識の副詞的成分の述語動詞と副詞的成分の間にも同時性が存在する。

本章では、感情形容詞の副詞的用法について考察を行った。動作主認識の副詞的成分は、述語動詞と副詞的成分の間に因果関係はなく、同時性があるだけであることを述べた。しかし、これは、存在する例がそうであるだけで、この条件を満たせば適格文を産出できるというわけではないという点が課題として残っている。因果関係がなく同時性がある以外に、どのような条件を満たせば適格文になるのかは、今後も考えていきたい。

**用例出典**

『朝日新聞』聞蔵Ⅱビジュアルによる　http://database.asahi.com/library2/　(最終閲覧日 2014.08.30)

『読売新聞』ヨミダス文書館による　http://www.yomiuri.co.jp/bunshokan/　(最終閲覧日 2014.08.30)

『アブナイ天使』藤田一輝(2005)文芸社

『冬物語』「タオルと銃弾」南木佳士(1997)文芸春秋

# 第７章　日本語教育に向けて

第７章では、本研究の結果をどのように日本語教育に応用し得るかについて、本研究の出発点でもある「動詞のテ形、感情形容詞」（以下、「Ｖテ、感情形容詞」）という文型を例に考えてみたい。

はじめに、問題の所在を確認し、第４章で見た「Ｖテ、感情形容詞」が適格文となる条件を日本語教育への応用という観点から確認する。そして、前件が無標のテ形(例：着て)か、可能テ形(例：着られて)かが問題となることを確認する。次に、「動詞のテ形、感情動詞」（以下、「Ｖテ、感情動詞」）と「Ｖテ、感情形容詞」との違いを見る。これは、初級の日本語のテキストでは、「Ｖテ、感情形容詞」と「Ｖテ、感情動詞」は同じ文型として扱われているからである。そして、この２つは初級の日本語教育においては、同じ文型として扱うことが可能であることを指摘する。次に、初級の日本語のテキストにおける「Ｖテ、感情形容詞／動詞」（以下、「Ｖテ、感情」）という文型と、可能形の扱われ方を確認し、問題点を指摘する。最後に「Ｖテ、感情」の初級の日本語のテキストにおける提出順序をひとつの案として示す。なお、以下の例文で出典のないものは、作例である。

## 1.　問題の所在

初級の日本語クラスで文型を導入し使用場面を理解させたのちに、例文を考えさせると不自然な文ができる文型がある。そのひとつが「Ｖテ、感情」という文型である。

(1) *友達に会わなくて、寂しかったです。
(2) *みんなと会って、うれしいです。

(1)(2)は、前件を「会えなくて」「会えて」と可能テ形にすれば適格文になるが、いつも可能テ形であるわけではない。次の(3)(4)のように、前件が無標のテ形で適格の文もある。

(3) 大学に合格して、うれしかったです。
(4) 地震のニュースを聞いて、びっくりしました。

(1)(2)のような誤用をなくすには、前件がどんな場合に無標のテ形で、どんな場合に可能テ形なのかを示さなければならないのである。なお、この文型を教えた後に例文を作らせると不自然な文ができると考えているのは、筆者のみではない。『初級日本語』（東京外国語大学留学生日本語教育センター編)の教師用指導書である『直接法で教える日本語』の「文型導入〈Ｖて、Result〉」の個所には、「あなたに会えて、うれしいです。」「あなたに会えなくて、ざんねんです。」等の例文の下に、次のような記述がある(p. 392)。

留意点 2 :「Ｖて」が理由を表す例文は、ここに提示されたものにとどめておく方がよい。

なぜ「例文は、ここに提示されたものにとどめておく方がよい」のかは言及されていないが、不自然な文ができてしまうことによると思われる。本章では、初級の日本語のテキストで「Ｖテ、感情」をどのように扱えばよいのかを考察する。

## 2.　「Ｖテ、感情形容詞」が適格文となる条件（日本語教育にむけて）

はじめに、第 4 章で見た「Ｖテ、感情形容詞」が適格文となる条件を日本語教育への応用という観点から確認する。

「Ｖテ、感情形容詞」は、前件が感情の対象である［対象事態］タイプと、感情の対象を認識する段階の動作を言語として顕在化した［対象認識］タイプに分類できる。

(5) 娘が元気にがんばっていて、うれしい。　・・・・・・［対象事態］
(6) 娘が元気に頑張っているのを見て、うれしい。　・・・・・・［対象認識］

### 2.1.　［対象事態］

［対象事態］の前件は、原則として後件の主体にとって自己制御性のない出来事でなければならない。前後件が異主体の場合、前件の出来事はすべて自己制御性がなく、前件が無標のテ形で適格文となる。例えば、(7)の前件の主体は友人であり、前件の出来事は後件の主体にとって自己制御性はない。(8)(9)の主体も「プロジェクト」「シュート」であり、自己制御性はないと言える。よって、(7)－(9)は、前件が無標のテ形で適格文である。なお、前後件が異主体で人間の場合は、受け身やテモラウ等の受益表現の使用が問題となるが、その点については第 4 章を参照されたい。

(7) 友達にほめられて、うれしいです。
(8) プロジェクトが成功して、うれしいです。
(9) シュートが決まらなくて、残念です。

一方、次の(10)－(12)のように前後件が同一主体の場合は、自己制御性の有無が問題になる。(10a)(11a)は、前件が可能テ形で自己制御性がなく適格文であるが、(10b)(11b)は、前件が無標のテ形で自己制御性があるため非文である。(12)は、「試験に合格する」かどうかは、後件の主体が決めることはできず自己制御性がない。よって、無標のテ形でも適格文となる。このように、前後件が同一主体の場合は、前件の出来事が後件の主体にとって自己制御性があるかどうかによって文の適格性が決まる。

(10)a みんなと会えて、うれしいです。

b. *みんなと会って、うれしいです。

(11)a. 旅行に行けなくて、残念です。

b. *旅行に行かなくて、残念です。

(12)試験に合格してうれしいです。

そして、前後件が同一主体でも、次の2つの場合は、前件に自己制御性があってもよい。1つめは、(13)のように前件が好ましくないことの場合である。(13)は、前件が好ましくないことであるため、「嘘をつけて」と可能形にできない。この場合、自己制御性があっても適格文となる。

(13)友達に嘘をついて、苦しいです。

2つめは、(14)のように後件が過去形の場合である。(14)のように、後件が過去形の場合は、自己制御性があっても適格文となる。

(14)着物を着て、うれしかった。

ところで、(14)は、「着物を着られて」に言い替えが可能である。そして、第4章で述べたように、読売新聞の2007年7月1日から2010年6月30日までの3年間の「Vテ、うれしかった(です)」の用例を調べてみると、135例中、可能テ形が127例であるのに対し、無標のテ形は8例であり、可能テ形の使用が多い。つまり、実例では「着られて」のように、可能テ形が多いということである。後件が過去形の場合は、前件に自己制御性があってもよいというのは興味深い現象ではあるが、実例が少ないことから、初級の日本語教育では取り上げなくてもよいものと思われる。よって、以下の表1では、(　)に入れて示す。

### 2.2. ［対象認識］

［対象認識］の前件は、次の(15)のように「聞く」等の認識系の動詞に限られる。見たり聞いたりした内容が感情の対象である。そして、前件の動詞は、感情の対象を認識する段階の動作を表すものであるため、次の(16)のような前件が否定の文は存在しないと思われる。感情の対象を認識していないのに、後件の感情が生まれるというのが論理的におかしいからである[1]。

(15)知らせを聞いて、うれしいです。

[1] なお、待ち望んでいる知らせが届かず、悪い結果が起きたと判断した場合は「知らせが聞けなくて残念です」になると思われる。これは、「知らせを聞くことができなかった」ということが感情の対象であり［対象事態］である。

(16)*知らせを聞かなくて、残念です。

以上の「Ｖテ、感情形容詞」が適格文になる条件を日本語教育への応用ということを踏まえてまとめると、次の表１のようになる。表１の［対象認識］の網掛けの部分は、文が論理的に存在しないと思われる個所である。そして、太線で囲んだ部分が、可能テ形が必須の部分である。このように、「Ｖテ、感情形容詞」は、前件が無標のテ形の場合と可能テ形の場合があり、この点が日本語教育においては問題となるのである。

**表１　「Ｖテ、感情形容詞」が適格文になる条件（日本語教育に向けて）**

| タイプ | 前件の肯否 | 前後件の主体 | | 後件非過去 | 後件過去 |
|---|---|---|---|---|---|
| 対象認識 | 肯定 | 同一 | | 知らせを聞いて、嬉しいです。 | 知らせを聞いて嬉しかったです。 |
| | 否定 | 同一 | | *知らせを聞かなくて、残念です。 | *知らせを聞かなくて残念でした。 |
| 対象事態 | 肯定 | 同一 | | 着物を着られて、嬉しいです。<br>*着物を着て、嬉しいです。 | 着物を着られて、嬉しかったです。<br>（着物を着て、嬉しかったです。） |
| | | | | 合格して、嬉しいです。<br>ミスをして、恥ずかしいです。 | 合格して、うれしかったです。<br>ミスをして、恥ずかしかったです。 |
| | | 異 | 人間 | 友達にほめられて、嬉しいです。 | 友達にほめられて、嬉しかったです。 |
| | | | モノ | 絵が完成して、嬉しいです。 | 絵が完成して、嬉しかったです。 |
| | 否定 | 同一 | | 旅行に行けなくて、残念です。<br>*旅行に行かなくて、残念です。 | 旅行に行けなくて、残念でした。<br>*旅行に行かなくて、残念です。 |
| | | 異 | 人間 | 松井が試合に出なくて、残念です。<br>松井が試合に出られなくて、残念です。 | 松井が試合に出なくて、残念でした。<br>松井が試合に出られなくて、残念でした。 |
| | | | モノ | シュートが決まらなくて、残念です。 | シュートが決まらなくて、残念でした。 |

## 3.　「Ｖテ、感情形容詞」と「Ｖテ、感情動詞」の比較

第３節では、「ニュースを聞いて、びっくりしました」のような「Ｖテ、感情動詞」と「Ｖテ、感情形容詞」を比較する。初級の日本語のテキストでは「Ｖテ、感情形容詞」と「Ｖテ、感情動詞」は同じ文型として扱われているからである。

はじめに、「Ｖテ、感情動詞」も［対象認識］と［対象事態］に分類できることを述べる。そして、「Ｖテ、感情動詞」の［対象認識］には、前件が認識系の動詞に限られるという制約がないことを指摘する。しかし、実例を見てみると、認識系の動詞が多いため、「Ｖテ、感情形容詞」と「Ｖテ、感情動詞」は、初級の日本語教育においては、同じ文型として扱うことが可能であることを述べる。

### 3.1. ［対象認識］の前件の制限

「Ｖテ、感情動詞」も、［対象事態］と［対象認識］に分けることができる。

(17)面接に落ちて、がっかりしました。　　・・・・・・［対象事態］
(18)面接の結果を聞いて、がっかりしました　　・・・・・・［対象認識］

(17)は、「(私が)面接に落ちた」ことが「がっかりする」という感情を引き起こしている［対象事態］である。一方、(18)は、「がっかりする」という感情を引き起こしたのは「面接の結果」であり、「聞く」は感情の対象を認識する段階の動作を表しているだけである。このように、「Ｖテ、感情動詞」も［対象事態］と［対象認識］に分類できる。

しかし、「Ｖテ、感情形容詞」の［対象認識］の動詞が「見る」「聞く」といった認識系の動詞に限られるのに対し、「Ｖテ、感情動詞」は、認識系以外の動詞も可能である。

(19)そうしたら、公衆便所の辺りで、大勢の野次馬が集まってて、何か騒いでた。俺も見にいって驚いたよ。全身血まみれの男がふらふら歩いてたんだ。
(BCCWJ『蛍降る惑星』)

(20)これまでの船旅の思い出というと、クイーンエリザベス２が横浜に寄港したとき、チャータークルーズに参加して感動しました。それまで経験したことのない、すごい世界があると思いました。日本人にも、いずれはこんな豪華な船旅がより身近になると、その時は感じたものです。また、船旅の楽しみ方も肌で感じました。
(BCCWJ『船の旅』)

(19)(20)の前件の動詞は、「行く」「参加する」であり、認識系の動詞ではない。(19)は、「全身血まみれの男がふらふら歩いていた」ことに驚いたのであり、「いった」は、感情の対象ではなく、感情の対象を認識する段階の動作である。(20)も豪華な船旅に感動したのであり、「参加した」は感情の対象を認識する段階の動作である。このように「Ｖテ、感情動詞」の［対象認識］は、認識系以外の動詞も可能である。

そして、「Ｖテ、感情動詞」は、前件の自己制御性の有無により［対象事態］か［対象認識］かが決まる。次の(21)は［対象事態］、(22)は［対象認識］の例である。

(21)洞窟に入れて、びっくりしました。　・・・・・［対象事態］
(22)洞窟に入って、びっくりしました。　・・・・・［対象認識］

(21)の前件は、自己制御性がなく、「(入れるとは思っていなかった)洞窟に入れたこと」にびっくりしたのである。一方の(22)の前件は、自己制御性があり、「洞窟に入った」こと

は感情の対象ではない。そして、何にびっくりしたのかは不明である。このように、「Vテ、感情動詞」では、前件に自己制御性がなければ［対象事態］であり、自己制御性があれば［対象認識］となる。

以上、「Vテ、感情動詞」も［対象認識］と［対象事態］に分類できることを見た。そして、「Vテ、感情形容詞」と異なり、前件の動詞が認識系の動詞に限定されず、前件に自己制御性がなければ［対象事態］、自己制御性があれば［対象認識］となることを確認した。

### 3.2. 「Vテ、感情動詞」の［対象認識］の前件の動詞

次に、「Vテ、感情動詞」の［対象認識］の前件には、認識系の動詞が多いのか、それ以外の動詞が多いのかを調査し、認識系の動詞が多いということを指摘する。

BCCWJのデータを用いて「Vテ、感情動詞」の前件の動詞を調査した[2]。吉永(2008)で「感情的心理動詞」として挙げられている139語のうち、『日本語能力試験出題基準(改訂版)』で旧2級の語彙として挙げられている以下の39語について検索をかけ、後件の主体が第一人称の例を取り出した。

愛する　あがる　あきらめる　飽きる　あきれる　憧れる　安心する　嫌になる
イライラする　恨む　おそれる　落ち着く　驚く　がっかりする　悲しむ　感激する
感謝する　感心する　感動する　緊張する　悔やむ　苦しむ　困る　こらえる
実感する　失望する　心配する　尊敬する　退屈する　楽しむ　ためらう　悩む
慣れる　憎む　のんびりする　びっくりする　まよう　満足する　喜ぶ

その結果、「Vテ、感情動詞」の用例が20例以上あった次の6語を対象とし、［対象認識］と［対象事態］に分類をした。そして［対象認識］の前件の動詞を「見る」「聞く」等の認識系と「入る」等の認識系以外に分類し、異なり語数と述べ語数を出した[3]。その結果を表2に示す。

驚く　困る　びっくりする　安心する　悩む　感動する

---

[2] BCCWJは、サブコーパス、コア・非コアデータ、固定長・可変長の指定を行わず、全データを対象に短単位検索を行った。

[3] 「楽しむ」も20例以上用例があったが「楽しむ」は、前件と後件の関係が他と異なるため、ここでは除外する。ここで扱う「Vテ、感情動詞」は、「部屋に入って、驚いた」のように、前件の後で後件の感情が発生すると考えられる。一方、「パンを焼いて楽しんだ」は、前件と後件は同時であると考えられる。

表 2　「Ｖテ、感情動詞」の［対象事態］の前件の動詞(BCCWJ)

| | | ［対象認識］ | | ［対象事態］ | 計 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 認識系の動詞（見る等） | 認識系以外の動詞（入る等） | | |
| 驚く | 述べ語数 | 80 | 44 | 38 | 162 |
| | | 49.4% | 27.2% | 23.4% | 100% |
| | 異なり語数 | 8 | 27 | 29 | 64 |
| | | 12.5% | 42.2% | 45.3% | 100% |
| 困る | 述べ語数 | 1 | 2 | 154 | 157 |
| | | 0.6% | 1.3% | 98.1% | 100% |
| | 異なり語数 | 1 | 2 | 103 | 106 |
| | | 0.9% | 1.9% | 97.2% | 100% |
| びっくりする | 述べ語数 | 55 | 12 | 72 | 139 |
| | | 39.6% | 8.6% | 51.8% | 100% |
| | 異なり語数 | 8 | 11 | 48 | 67 |
| | | 11.9% | 16.4% | 71.7% | 100% |
| 安心する | | 26 | 1 | 16 | 43 |
| | | 60.5% | 2.3% | 37.2% | 100% |
| | | 8 | 1 | 14 | 23 |
| | | 34.8% | 4.3% | 60.9% | 100% |
| 悩む | 述べ語数 | 7 | 1 | 16 | 24 |
| | | 29.2% | 4.2% | 66.6% | 100% |
| | 異なり語数 | 6 | 1 | 12 | 19 |
| | | 31.6% | 5.3% | 63.1% | 100% |
| 感動する | 述べ語数 | 13 | 2 | 8 | 23 |
| | | 56.5% | 8.7% | 34.8% | 100% |
| | 異なり語数 | 5 | 2 | 6 | 13 |
| | | 38.5% | 15.4% | 46.1% | 100% |
| 計 | 述べ語数 | 182 | 62 | 304 | 548 |
| | | 33.2% | 11.3% | 55.5% | 100% |
| | 異なり語数 | 17 | 37 | 179 | 233 |
| | | 7.3% | 15.9% | 76.8% | 100% |

表 2 を見ると、「困る」は、［対象事態］が述べ語数で 98.1%であり［対象事態］が圧倒的に多い。「困る」以外は、［対象事態］が 20－60%代である。このように、［対象事態］と［対象認識］の割合は、語によって異なることがわかる。

ここでは［対象認識］の前件の動詞を見たいので、表 2 の「困る」を除く 5 語を見てみよう。［対象認識］の述べ語数を見てみると、5 語すべてにおいて、認識系の動詞が認識系以外の動詞より多いことがわかる。そして、認識系の動詞の異なり語数は、述べ語数より少ないことがわかる。以上のことから、「Ｖテ、感情動詞」の［対象認識］においては、認識系の動詞が多く、かつ、限られた語が何度も使用されているということがわかる。

なお、「困る」をも含んだ6語の［対象認識］の認識系の動詞182例の異なり語は、次の17語(句)である。括弧の数字は、当該の語の述べ語数を示し、数字がないものは述べ語数が1であることを示す。

見る(73) 聞く(54)　知る(23)　思う(8)　気付く(4)　読む(4)　気が付く(3)
考える(2)　感じる(2)　気がする(2)　伺う 感じがする 尋ねる 覗く 判断する
見返す わかる

以上のデータより、「Vテ、感情動詞」の［対象認識］においては「見て、驚いた」「聞いて、安心した」「知って、感心する」のような組み合わせが多く使われると言える。

また、認識系以外の動詞の異なり語37語のうち、2例以上例があったものは、次の8語である[4]。「入って、びっくりした」「行って、驚いた」「来て、感動した」のような組み合わせが多い。そして、「会う」「入れる」「調べる」以外は、移動を表す動詞である。

入る(8)　行く(7)　来る(5)　会う(3)　調べる(3)　入れる(2)　訪れる(2)　着く(2)

なお、「入れる」は、2例とも次のような「口に入れる」である。

(23)　田村さんが絞めた鶏肉は、さばいて切り分け塩を軽く振って焼き、柚子を絞って食べた。「あれ、硬いんですね」私は鶏肉を口に入れて驚いた。すごく弾力があるのだ。　(BCCWJ『天国はまだ遠く』)

以上、「Vテ、感情動詞」の前件の動詞にについて見てきた。「Vテ、感情動詞」は、前件の動詞に制約はないものの、認識系の動詞が多いことを確認した。よって、初級の日本語教育においては、前件が認識系の動詞に限られる「Vテ、感情形容詞」と同じ文型として扱って差し支えがないと思われる[5]。また、認識系以外の動詞では「行く」等の移動を表す動詞が多いことも確認した。

## 4.　初級の日本語のテキストの分析

初級の日本語のテキストの「Vテ、感情動詞」と可能形の取り扱い方を見ていく。

---

[4] なお、「驚く」「びっくりする」については、「調べてみて、驚いた」のように「～てみる」の付いた例が17例あったが、これらは本動詞の「調べる」で集計した。また尊敬語「お会いして、安心しました」は「会う」で集計した。

[5] 感情動詞は、「迷うなあ」のように、非過去形でも現在を表すことがあることが指摘されている(高橋(1985)、堀川(1991)、三原(2000、山岡(2000)等)。そして、Vテ、感情動詞においても、次のように、後件がル形の文もないわけではない。

(ｉ)くすみ・しみ・クマで悩んでます。サプリメントを飲もうと思ってるんですが色々あって迷います。
(BCCWJ　Yahoo!知恵袋)

しかし、日本語教育においては、感情動詞がル形で現在を表すという現象は、「Vテ、感情動詞」とは別に扱うべきものである。よって、ここでは、上記の(ｉ)のような例は議論の対象外とする。

### 4.1. 「Ｖテ、感情」の取り扱い

はじめに、初級の日本語のテキストにおける「Ｖテ、感情」の取り扱いの有無と、取り扱われ方を見てみよう。現在、市販されている初級の日本語のテキストのうち、ある特定の職業の学習者と短期の滞在者を対象としたものでないものを調査の対象とした。以下での議論は、初級中級上級と学習を進める学習者を想定している。

テキスト 16 種を調査した結果、「Ｖテ、感情」を文型として扱っているのは 13 種、扱っていないものが 3 種であった。初級の日本語のテキストの「Ｖテ、感情」の扱い方は、次の 2 つに分類できる。「原因・理由のテ形」として扱うものと、「受け身のテ形、感情」という文型として扱うものである。それぞれ「原因・理由のテ」「受け身テ、感情」と呼ぶ。初級の日本語のテキストの「Ｖテ、感情」の取り扱いの有無と扱われ方を表 3 に示す[6]。

**表 3　初級の日本語のテキストの「Ｖテ、感情」の取り扱いの有無と取り扱われ方**

| | テキスト | 刊行年 | 原因・理由のテ | 受け身テ、感情 | 扱い無 | 課 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | JAPANESE FOR BUSY PEOPLE Ⅰ／Ⅱ／Ⅲ(第 3 版) | 2006<br>2007<br>2007 | ● | | | Ⅱ－11 課 |
| 2 | SITUATIONAL FUNCTIONAL JAPANESE Ⅰ／Ⅱ／Ⅲ(第 2 版) | 1995<br>1994<br>1994 | ● | | | Ⅲ－21 課 |
| 3 | みんなの日本語初級Ⅰ／Ⅱ(第 2 版) | 2012<br>2013 | ● | | | Ⅱ－39 課 |
| 4 | 初級日本語げんきⅠ／Ⅱ(第 2 版) | 2011 | | | ○ | |
| 5 | にほんご 90 日 1／2／3 | 2000 | ● | | | 2－38 課 |
| 6 | 語学留学生のための日本語Ⅰ／Ⅱ | 2002 | ● | | | Ⅱ－25 課 |
| 7 | 学ぼう!にほんご初級 1／2(第 4 版／第 3 版) | 2014<br>2013 | | ● | | 2－30 課 |
| 8 | はじめよう日本語初級 1／2(改訂版) | 2013 | | ● | | 2－21 課 |
| 9 | J.Bridge for Beginners 1／2(第 2 版／初版) | 2009<br>2008 | | | ○ | |
| 10 | 日本語初級大地 1／2 | 2008<br>2009 | | ● | | 2－36 課 |
| 11 | 初級日本語 上／下(新装改訂版) | 2010 | ● | | | 下―24 課 |
| 12 | 日本語 5 つのとびら初級編 1／2 | 2009<br>2010 | ● | | | 2－13 課 |
| 13 | NEJ 1／2 | 2012 | | | ○ | |
| 14 | 初級日本語 あゆみ 1／2 | 2012<br>2013 | | ● | | 2－13 課 |
| 15 | できる日本語 初級／初中級 | 2011<br>2012 | ● | | | 初中級－5 課 |
| 16 | 文化初級日本語改訂版 Ⅰ／Ⅱ | 2013 | ● | | | Ⅱ－29 課 |

[6]テキストは、各テキストの初版の刊行年順に並べてある(ただし『初級日本語新装改訂版』と『文化初級日本語改訂版』は奥付に初版の刊行年の記載がないため、改訂版の初版の刊行年で並べた)。表 3 に示した刊行年は、調査対象とした 2014 年 8 月現在刊行されている最新版の刊行年であり、巻によって刊行年が異なるものは、それぞれを記載した。初版の刊行年は、章末の初級の日本語のテキストのリストを参照されたい。

取り扱いのある 13 種のうち、「原因・理由のテ」が 9 種、「受け身テ、感情」が 4 種である。「受け身テ、感情」も、原因・理由を表すテの前件を動詞の受け身に制限したものである。このことから、「～テ、感情」は、初級の日本語のテキストでは、原因・理由を表すテとして扱われると言える。以下で、それぞれの例を見て行く。以下、表と表のタイトル以外では、『JAPANESE FOR BUSY PEOPLE』は『JFBP』、『SITUATIONAL FUNCTIONAL JAPANESE』は『SFJ』と表記する。

### 4.1.1. 「原因・理由のテ」として扱うテキスト

「Vテ、感情」を「原因・理由のテ」として扱うテキストは 9 種である。表 4 に『JFBP』、『みんなの日本語』、『日本語 5 つのとびら』の例文と文法解説を挙げる。表 5 に、「原因・理由のテ」でも、前件を動詞、後件を感情に限定しているものとして『文化初級日本語改訂版』の例文を挙げる[7]。

**表 4　「原因・理由のテ」として扱うテキスト 1**

| 『JAPANESE FOR BUSY PEOPLE 』Ⅱ　(第 3 版) | |
|---|---|
| LESSON11　SELECTING A VACATION　PLAN<br>GRAMMAR & PATTERN PRACTICE<br>Ⅱ Giving a Reason(2)　(p.168)<br>The -*te* form can indicate a reason for or cause of what the main sentence expresses. Used in this way, it is usually followed by an explanation of the speaker's feelings or circumstances and is virtually interchangeable with ので. | |
| 行きたい　ところが　多くて、まよっているんです。 | *There are so many places I want to go, I'm at a loss.* |
| この部屋は　しずかで、気に入っています。 | *This room is quiet and I'm pleased with it.* |
| 時間が　なくて、本が　読めません。 | *I don't have time, so I can't read the book.* |
| If the main sentence expresses a result you have control over, you cannot use the -*te* form. Instead you have to use から or ので. Compare the following sentences. | |
| お金が　なくて、新しい　くるまが　買えません。 | *I have no money, so I can't buy a new car.* |
| お金が　ないので、新しい　くるまを　買いません。 | *I have no money, so I won't buy a new car.* |
| A noun followed by the particle で can also express a reason or cause. | |
| じこで　みちが　こんでいます。 | *The road is crowded because of an accident.* |
| びょうきで　会社を　休みました。 | *I was absent from work due to illness.* |
| **『みんなの日本語初級』Ⅱ(第 2 版)**　文法解説は『みんなの日本語初級Ⅱ翻訳・文法解説英語版』による | |
| 39 課　練習 A (p.114) | |
| 1.　メールをよんで、安心しました。<br>電話をもらって、安心しました。<br>家族にあえなくて、寂しいです。<br>友達がいなくて、寂しいです。<br>問題がむずかしくて、わかりません。<br>使い方がふくざつで、わかりません。 | 2.　じしんで人が大勢死にました。<br>つなみで人が大勢死にました。 |

[7] 日本語のテキストからの引用の例文番号は、テキストのものである。また、日本語のテキストからの引用の際、ルビは削除した。

Ⅳ Grammar Notes (p.90)

1. ～て(で)、～

The sentence pattern ～て(で)、～ was introduced in Lesson16 and 34, but the present lesson introduces the usage in which the first part of the sentence (i.e. the ～て(で) part) indicates a cause or reason for the result indicated in the second part. The second part of the sentence can only be a non-volitional expression or expression of state.

1) V て-form
V ない-form なくて
い-adj(～い)→～くて
な-adj[な]→で
} 、 ～

The second part of the sentence usually consists of an expression of the following type:

(1) Verbs and adjectives expressing emotions: びっくりします，安心します，こまります，さびしい，うれしい，ざんねん[な]，etc:

① ニュースを聞いて、びっくりしました。 *I was surprised to hear the news.*

② 家族に会えなくて、寂しいです。 *I'm sad at being unable to see my family.*

(2)Verbs and expressions expressing potential or state.

③ 土曜日は都合が悪くて、行けません。 *Saturday's no good for me; I can't go.*

④ 話が複雑で、よくわかりませんでした。 *What was being talked about was complicated; I could't really follow it.*

⑤ 事故があって、バスが遅れてしまいました。 *There was an accident, and the bus was late.*

⑥ 授業に遅れて、先生にしかられました。 *I was late to the lesson, and the teacher told me off.*

［Note］When second part of the sentence consists of an expression embodying intention(an intention, order, invitation or request)，～から is used.

⑦ 危ないですから、機械に触らないでください。 Please don't touch the machine; it's dangerous.

×危なくて、機会に触らないでください。

『日本語 5 つのとびら初級編』2

トピック 13 ようこそ

文法の説明と練習 (p.42)

1. て／で(reason)

When you give reasons, you can use the て-form of the verbs or adjectives or nouns ＋で. But this expression has many constraints. The following are examples of when it can be used.

①With verbs and adjectives which express feelings such as:びっくりする，困る，さびしい，うれしい，ざんねんな，すみません, etc.

1) テレビのニュースを聞いて、びっくりしました。 *I was surprised to hear the TV news.*

②When expressing a state before negative potential verbs:

2) このコーヒーはあつくて、飲めません。 *I cannot drink this coffee because it is too hot.*

③With nouns or verbs which indicate a natural phenomena, happenings, events, etc.:

3)Verbs：事故があって、電車が遅れました。 *The train was delayed because there was an accident.*

4)Nouns：雪で授業は休みです。 *The class was canceled because of the snow.*

以上のように、上記のテキストでは、「Ｖテ、感情」は、動詞・形容詞のテ形のひとつの用法である「原因・理由のテ」として扱われている。「～テ」は、後件に自己制御性がない場合に原因・理由を表すと説明され、「Ｖテ、感情」は、その中に収まるものとして扱われているのである。そして、「原因・理由のテ」は、後件には制約があると説明がなされているが、前件については、後件の原因または理由であるということしか言及されていない。

次の表 5 は、「原因・理由のテ」でも、後件を感情に限定して扱っている『文化初級日本

語改訂版』である。表 5 に、テキストの例文と教師用の解説を挙げる[8]。

**表 5　「原因・理由のテ」として扱うテキスト 2**

| 『文化初級日本語改訂版』Ⅱ | |
|---|---|
| 29 課　お見舞い (p.119)<br>文型 2　入院したと聞いて心配しました。<br>　　最近、夜寝られなくて困っています。<br>1) 昨日、東京スカイツリーで偶然クラスメートに会ってびっくりしました。<br>2) (ワンさんの日記)<br>今日は誕生日だった。マリーさんとリーさんにネックレスをもらってとてもうれしかった。<br>3) チン：この前の日曜日、幸子さんに会ったそうですね。<br>マリー：ええ。久しぶりにいろいろな話ができて楽しかったです。<br>4) A：隣の部屋がうるさくて困っているんです。<br>B：そうですか。それは大変ですね。<br>5) (メールで)<br>今日、「消えたダイヤ」を見に行ったよ。とってもおもしろかったよ。いっしょに行けなくて残念だったね。今度はいっしょに行こうね。良子<br>6) A：天気予報では雨だと言っていたけど、いい天気になったね。<br>B：本当だね。花火大会が中止にならなくてよかったね。 | |
| 『文化初級日本語Ⅰ・Ⅱ改訂版教師用指導例集』<br>～て (理由・原因)(p.65) | |
| ●理由を表す「～て」1　［初級Ⅰ第 17 課－4］<br>学校が忙しくてあまり行けません。 | ●理由を表す「～て」2　［初級Ⅱ第 29 課－2］<br>入院したと聞いて心配しました。<br>最近、夜寝られなくて困っています。 |

『文化初級日本語Ⅰ・Ⅱ改訂版教師用指導例集』の記述より、『文化初級日本語改訂版』では、「原因・理由のテ」を 2 つに分け、後件が感情であるものをひとつの文型として扱っていることがわかる。

以上のように、調査対象の 16 種のテキストのうち、9 種のテキストでは「Vテ、感情」を、このような「原因・理由のテ」として扱っている。

### 4.1.2. 「受け身テ、感情」として扱うテキスト

「Vテ、感情」を「受け身テ、感情」という文型として扱うテキストは、4 種ある。『まなぼう！にほんご初級 2』、『はじめよう日本語初級』、『初級日本語大地』、『初級日本語あゆみ』である。それぞれの例文と、文法解説があるものは文法解説も挙げる。

---

8 『文化初級日本語改訂版』Ⅱの例文 6)の「花火大会が中止にならなくてよかったね。」の「いい」は本研究では感情形容詞とは考えていない。そして、「～て、よかった」という文型は、「Vテ、感情形容詞」とは異なり、前件が自己制御性のないことでなければならないという制約はない。よって、「Vテ、感情」と同一に扱うことはできない。しかし、ここでは、便宜的に「～テ、感情」という文型として扱う。

表 6　「受け身テ、感情」として扱うテキスト

| 『まなぼう！にほんご初級』2（第 3 版） |
|---|
| 30 課　～れます／られます　受け身(2)（p.87）<br>《基本文》　わたしは　犬に　手を　かまれました。<br>練習 3　例：犬が　わたしの手を　かんだ。わたしは　大声で　泣いた。<br>→わたしは　犬に　手を　かまれて　大声で　泣いた。<br>(1)弟が　わたしの時計を　壊しました。わたしは　悲しくなりました。<br>(2)妹が　わたしのおやつを　食べました。わたしは　一つも　食べられなかった。<br>(3)弟が　わたしの日記を　読みました。わたしは　とても　怒った。<br>(4)みんなが　わたしの失敗を　笑いました。わたしは　少し　はずかしかった。<br>(5)誰かが　わたしの肩を　たたきました。わたしは　びっくりした。<br>(6)先生が　わたしの発音を　ほめました。わたしは　とても　うれしかった。<br>(7)友達が　わたしの秘密を　知った。わたしは　とても　あわてた。 |
| 『はじめよう日本語初級』2　（改訂版） |
| 21 課 されたこと・困ったこと<br>3 やめてほしいですね　(p.177)<br>練習 1　不快だったこと、困ったことを言いましょう。<br>① 例　となりの　人に　たばこを　すわれて、いやでした。<br>② 例　いっしょに　バイトをしている　人に　急に　休まれて、たいへんでした。<br>［いやなこと］レストランのとなりの席の人がたばこをすった　となりの人がうちの前にごみを置いた<br>アルバイトの面接で外国人はだめだって言った<br>［たいへんなこと］いっしょにバイトしている人が急に休んだ　道でけいさつかんがいろいろきいた |
| 『初級日本語大地』2 |
| 36 課　いろいろな国の言葉に翻訳されています<br>3－2　(p. 86)<br>A：どうしたんですか。<br>B：ゆうべ酔っ払いに騒がれて、大変だったんです。<br>A：そうですか。(酔っ払いは嫌ですね)。<br>例)酔っ払いが騒ぐ　1)蚊が刺す　2)友達が急に来る　3)雨が降る　4)子供が泣く |
| 『初級日本語あゆみ』2 |
| 13 課　わたしは昨日友達に運動会に誘われて、迷いました。　(p.93)<br>例文 1（わたしは)昨日友達に運動会に誘われて、迷いました。<br>説明(1)　(p.93－94)<br>話す人が外で起こったことを受けて、不安や不満を感じたり、困ったり、迷ったり、疑問に思ったりしたとき、「受身」の表現を使います。「受身」の表現は、行為を受けた人・動物が主格の文です。<br>カプルさんはわたしを運動会に誘いました。<br>↓<br>わたしはカプルさんに運動会に誘われました。<br>「受身」の表現の動詞「て」の形＋て　の後に、状態・気持ちの表現が続きます。<br><br>寮長：わたしの妻はわたしを「よっちゃん」と呼びます。2 歳の孫もわたしを「よっちゃん」と呼びます。わたしは孫に「よっちゃん」と呼ばれて、困っています。<br>キム：放課後、わたしは教室で歌を歌っていました。そのとき吉田先生が教室へ来ました。「キムさんは上手に歌いますね。」とわたしを褒めました。わたしは先生に褒められて、恥ずかしかったです。だれも聞いていないと思っていましたから。<br><br>見てね　(p.96)<br>「て(で)」を使って、2 つの文をつないだ文は、まえの動作、状態のあとに、自分が思ったことを言いたいときに使います。これは、話す人の個人的な意見ですから、理由を客観的、論理的に言うときには使いません。 |

| | |
|---|---|
| 名詞 | わたしは初級の学生です。わたしは日本語のニュースがわかりません。<br>わたしは初級の学生で、日本語のニュースがわかりません。 |
| な形容詞 | この部屋はきれいです。この部屋が好きです。<br>この部屋はきれいで、好きです。 |
| い形容詞 | この果物は甘いです。この果物はおいしいです。<br>この果物は甘くて、おいしいです。 |
| 動詞(状態) | わたしは昨日熱がありました。わたしは学校へ行けませんでした。<br>わたしは昨日熱があって、わたしは学校へ行けませんでした。 |
| 動詞(動作) | わたしは友達の家の火事のニュースを見ました。わたしはびっくりしました。<br>わたしは友達の家の火事のニュースを見て、びっくりしました。 |
| 動詞(受け身) | わたしは友達に運動会に誘われました。わたしは今不安です。<br>わたしは友達に運動会に誘われて、不安です。 |

『まなぼう！にほんご初級 2』は、文型シラバスのテキストであり、受け身の課で「受け身テ、感情」を扱っている。『はじめよう日本語初級 2』は、話題・場面シラバスのテキストで、「不快だったこと、困ったことを言いましょう」という練習の個所で「受け身テ、感情」が出てくる。後件は、「いやな」と「大変な」に制限している。『初級日本語大地』では、受け身の課の会話練習で、後件を「大変な」に制限して「Ｖテ、感情」を扱っている。『初級日本語あゆみ』は、受け身の 13 課で「Ｖテ、感情」を扱っている。外部で起きた出来事を受け感情が動いたときに受け身を使うという提示の仕方をしているため、練習は「受け身テ、感情」が中心である。「～テ」については、「見てね」というコーナーに解説がある。これらの 4 種が「Ｖテ、感情」を「受け身テ、感情」として扱うテキストである。

以上、初級の日本語のテキストの多くは、「Ｖテ、感情形容詞」を「原因・理由のテ」として扱っていること、また、前件を受け身に限定し「受け身テ、感情」として扱うテキストもあることを見た。そして、「原因・理由のテ」について、「～テ」が原因・理由を表すのは、後件に自己制御性がないからであるという説明で、前件の制約については、何も言及されていないことを確認した。

### 4.2. 初級の日本語のテキストの用例の分析

初級の日本語のテキストの例文を分析する。まず、［対象認識］と［対象事態］をそれぞれ、前件がテ形か可能テ形か、否定か肯定かで十字分類し、表中の各欄を ABCD と呼ぶ。［対象認識］は A しかない(表 7)が、［対象事態］は、A－D すべてある(表 8)。

表 7［対象認識］

| | Ｖテ形 | Ｖ可能テ形 |
|---|---|---|
| 肯定 | **A. Ｖテ、感情**<br>知らせを聞いてうれしいです／うれしかったです。<br>知らせを聞いて、驚きました。<br>みんなと会って、驚きました。 | **B. Ｖ可能テ、感情** |
| 否定 | **C. Ｖナクテ、感情** | **D.　Ｖ可能ナクテ、感情** |

表 8［対象事態］

| | Ｖテ形 | Ｖ可能テ形 |
|---|---|---|
| 肯定 | **A. Ｖテ、感情**<br>合格して、うれしいです。<br>ミスをして、恥ずかしいです。<br>友達にほめられて、うれしいです。<br>絵が完成して、うれしいです。 | **B. Ｖ可能テ、感情**<br>着物を着られて、うれしいです。 |
| 否定 | **C. Ｖナクテ、感情**<br>松井が試合に出なくて、残念です。<br>シュートが決まらなくて、残念です。 | **D. Ｖ可能ナクテ、感情**<br>旅行に行けなくて、残念です。 |

以下では、［対象事態］と［対象認識］をひとつの表にし、［対象認識］の例を網掛けで示す。分析に用いるのは「Ｖテ、感情」の例が 5 例以上ある『みんなの日本語』、『JFBP』、『文化初級日本語改訂版』『できる日本語』の 4 種である。そして、3 種のテキストでは［対象認識］と［対象事態］が分けられていないこと、4 種のテキストで「Ｖテ、感情」と「Ｖ可能テ、感情」の違いが説明されていないことを指摘する。

### 4.2.1. 『みんなの日本語』

はじめに『みんなの日本語』の例を見てみる。例文は、p. 115 の練習B1. 2 より抜粋した [9]。

表 9『みんなの日本語』Ⅱの例文の分析

| 後件 / 前件 | Ｖテ形 | Ｖ可能テ形 |
|---|---|---|
| 肯定 | **A. Ｖテ、感情**<br>母の元気な声を聞いて、安心しました。<br>地震のニュースを見て、びっくりしました。<br>旅行中に財布をとられて、困りました。<br>試験に合格して、うれしかったです。<br>ペットの犬が死んで、悲しかったです。 | **B. Ｖ可能テ、感情** |
| 否定 | **C. Ｖナクテ、感情**<br>息子から連絡がなくて、心配です。 | **D. Ｖ可能ナクテ、感情**<br>旅行に行けなくて、残念です<br>家族に会えなくて、寂しいです。<br>スピーチが上手にできなくて、恥ずかしかったです。<br>パーティーに彼女が来なくて、がっかりしました。 |

表 9 の A を見ると、『みんなの日本語』では、［対象認識］と［対象事態］の例が混在していることがわかる。表 9 の A で網掛けにした例文「母の元気な声を聞いて、安心しました」と「地震のニュースを見て、びっくりしました」は、［対象認識］であり、それ以外の例文は、［対象事態］である。また、B の例文は提示されていない。そして、A の［対象事態］の前件は、「さいふをとられる」「試験に合格する」「ペットが死ぬ」のようにすべて自己制御性がない例文である。しかし、先に 4. 1 で見たように、前件が自己制御性のないことでなければならないという説明はないのである。この説明と B の例の提示がないという

9 『みんなの日本語』の練習 B は、変形練習であるが、変形後の例文を載せる。

ことは、「Ｖテ、感情」と「可能Ｖテ、感情」の違いを説明していないということである。そして、このことは、「*会って、うれしいです」のような誤用の一因となるものと考えられる。以上、『みんなの日本語』では、［対象認識］と［対象事態］の例が混在し、「Ｖテ、感情」と「Ｖ可能テ、感情」の違いが説明されていないことを見た。

### 4.2.2. 『JAPANESE FOR BUSY PEOPLE』

次に『JFBP』Ⅱを見てみよう。例文は、p.169 とp.173 より抜粋した[10]。

**表 10『JAPANESE FOR BUSY PEOPLE』Ⅱの例文の分析**

| 前件＼後件 | Ｖテ形 | Ｖ可能テ形 |
|---|---|---|
| 肯定 | **A.Ｖテ、感情**<br>じしんのニュースを聞いて、しんぱいになりました。<br>店にたいせつなかみぶくろをわすれて、たいへんでした。<br>アイスホッケーのしあいにまけて、くやしかったです。<br>前、すんでいたまちがかわっていて、びっくりしました。<br>スピーチで、日本語をまちがえて、はずかしかったです。 | **B.Ｖ可能テ、感情** |
| 否定 | **C.Ｖなくて、感情** | **D. 可能Ｖなくて、感情**<br>友だちに会えなくて、ざんねんでした。<br>日本に来たとき、かんじが読めなくて、こまりました。 |

表 10 の A を見てみると、『JFBP』でも、［対象認識］と［対象事態］の例が混在していることがわかる。また、提示されているのは、A と D のみである。そして、後件はすべて過去形にしてあり、とてもシンプルな提示の仕方である。しかし、A・D のみの提示では、前件が肯定の場合は「Ｖテ形」、否定の場合は「可能テ形」という一般化が可能であり、これもまた「*みんなと会って、嬉しいです」という文を産出する要因のひとつになり得るだろう。

### 4.2.3. 『文化初級日本語改訂版』

次に、『文化初級日本語改訂版』の例文を見てみよう。例文は、p.119－120 より抜粋した。

10 『JFBP』の p.169 は、変形練習の個所であるが、表 10 には変形後の文を掲載した。また、分かち書きのブランクは、紙幅の都合上、削除した。

表 11　『文化初級日本語改訂版』Ⅱの例文の分析

| 前件＼後件 | V テ形 | V 可能テ形 |
|---|---|---|
| 肯定 | **A. V テ、感情**<br>入院したと聞いて心配しました。<br>昨日、東京スカイツリーで偶然クラスメートに会ってびっくりしました。<br>(ワンさんの日記)<br>今日は誕生日だった。マリーさんとリーさんにネックレスをもらってとてもうれしかった。 | **B. 可能テ、感情**<br>チン：この前の日曜日、幸子さんに会ったそうですね。<br>マリー：ええ。久しぶりにいろいろな話ができて楽しかったです。 |
| 否定 | **C. V なくて、感情**<br>A：天気予報では雨だと言っていたけど、いい天気になったね。<br>B：本当だね。花火大会が中止にならなくてよかったね。 | **D. 可能なくて、感情**<br>(メールで)<br>今日、「消えたダイヤ」を見に行ったよ。とってもおもしろかったよ。いっしょに行けなくて残念だったね。今度はいっしょに行こうね。良子<br>最近、夜寝られなくて困っています |

表 11 のAを見ると、『文化初級日本語改訂版』でも、［対象認識］と［対象事態］の例が混在していることがわかる。また、『文化初級日本語改訂版』では、A－Dすべての例が挙げられている[11]。このように、A－Dをひとつの文型の例として挙げることも、「*みんなと会ってうれしいです」という文を産出するひとつの要因となり得るのではないだろうか。なぜならば、例文があっても、いつ可能形で、いつテ形なのが示されていないからである。

#### 4.2.3.1.　『できる日本語』

次に『できる日本語』の例文を見てみる。例文は、『言ってみよう別冊』p. 19 練習 1 より引用した[12]。

表 12　『できる日本語』例文の分析

| 前件＼後件 | V テ形 | V 可能テ形 |
|---|---|---|
| 肯定 | **A. V テ、感情**<br>道に迷って、大変でした。<br>電車が急に止まって、びっくりしました。<br>すぐに財布が見つかって、よかったです。<br>電車にかばんを忘れて、困りました。<br>鍵をなくして、困っています。<br>長い時間立っていて、疲れました。<br>終点まで行ってしまって、困りました。<br>すぐに電車が動いて、安心しました。 | **B. 可能テ、感情** |
| 否定 | **C. V なくて、感情**<br>行き方がわからなくて、困りました。 | **D. 可能なくて、感情**<br>パーティーに行けなくて、残念です。<br>長い時間座れなくて、大変でした。 |

[11]なお、脚注 8 で述べたように、C「中止にならなくてよかったね」の「いい」は感情形容詞ではないここでは、テキストの例文の分布を見るために、便宜的に「Vテ、感情形容詞」として扱う。

[12]『できる日本語』は、単文レベルの変形等の練習が別冊になっている。また、『言ってみよう別冊』p. 19 練習 1 は、変形練習の個所であるが、変形後の文を掲載する。

『できる日本語』の例文は、すべて［対象事態］に統一されており、［対象認識］の例との混在は見られない。この点は、先の3種とは異なる。そして、Bの例は提示されていない。Bの例がないと、「「Vテ、感情」は、前件が肯定の場合はテ形である」という一般化が可能であり、「みんなと会って、うれしいです」という誤用につながる可能性がある。

以上のテキストの分析と、4.1で見た初級の日本語テキストの「Vテ、感情」の取り扱い方から、次の2点が、「Vテ、感情」の誤用の原因につながる問題点としてあげられる。

ア.「Vテ、感情」に、［対象認識］と［対象事態］が混在しているテキストがある。
イ.「Vテ、感情」の前件について、前件の制約(自己制御性の有無)についての説明がない、または、前件が肯定で可能テ形の例が挙げられていないため、いつ無標のテ形で、いつ可能テ形かがわからない。

以上、初級の日本語のテキストを分析し、「Vテ、感情」の誤用の原因を2点指摘した。

### 4.3. 日本語の可能表現の２分類

ここで、日本語の可能表現の分類を見ていく。「Vテ、感情」を産出する際には、前件を可能テ形にするかどうかが問題となるためである。

渋谷(1993：14)は、小矢野(1979)、奥田(1986)の可能表現の分析を整理し、可能表現を「動作の実現(非実現)を含意しない『潜在系(potential)の可能』」と「動作の実現を(非実現)を含意する『実現系(actual)の可能』」に分類している。以下では、それぞれ「実現可能」「潜在可能」と呼ぶ。次の例は、筆者の作例であるが、(24)は潜在可能、(25)は実現可能である。

(24)a. 私は、500m泳げる／泳げない。
　　b. 私は、小学１年生の時、500m泳げた／泳げなかった。
(25)a. 昨日、私は、やっと500m泳げた。
　　b. 昨日、私は、がんばったけれども500m泳げなかった。

そして、潜在可能は状態を表すため「テイル」が付かないが、実現可能には「テイル」が付くことが指摘されている(小矢野(1979)、井島(1991)、渋谷(1993))。

(26)ア、ちゃんと泳げている。　　(井島 1991)

ただし、渋谷(1993)では、テンスが未来の場合は、ル形の潜在可能が未来の動作実現を含意するため、潜在可能と実現可能の区別は中和されるとし、次の例を挙げている。

(27)ぼくは明日までに絵が画ける。　(渋谷 1993)

(27)は、絵を書く能力を持っているという潜在可能と、実際に絵を書く前提でいつまでに書けるかを問題にする実現可能、2 つの解釈が可能であるとしている。

そして、渋谷(1993)でも指摘されているように、可能の否定と無標の動詞の否定では、動作主の意図のあり方が異なる。「シナイ」「シナカッタ」と「デキナイ」「デキナカッタ」では動作主の意図のあり方が異なるのである[13]。

(28)昨日、500m 泳がなかった。
(29)昨日、500m 泳げなかった。

(28)は、自分の意志で泳ぐという行為を行わなかったことを、(29)は、「泳ぎたい」という意思はあったものの叶わなかったことを表しているのである。このように、可能形の否定と無標の動詞の否定は、意図のあり方が異なり、それがはっきりと見えるのは、(28)(29)のような過去形の場合である。

一方、肯定の場合、次の(30)も(31)も「500m 泳ぐ」という行為が実現したことを表し、否定のような違いはない。

(30)昨日、500m 泳いだ。
(31)昨日、500m 泳げた。

林(2007)は、無標の動詞文(30)と 実現可能文(31)は、どちらも「主体の一回的な行為の実現」を表わすが、実現可能文は「〈事象が主体にとって好ましく、かつ得難い〉というプラスの意味特徴」を持つのに対し、無標の動詞文は「〈事象が過去に生起した〉というニュートラルな意味」であると述べている。このように、日本語の可能表現は、潜在可能と実現可能に分類されること、否定の場合、実現可能文と無標の動詞文では、動作主の意図のあり方が異なることが指摘されている。

### 4.4. 可能形の取り扱い

次に、初級の日本語のテキストにおける可能形の取り扱われ方を確認する。そして、テキストの多くが潜在可能に重点を置いていること、実現可能の可能形の否定と無標の動詞の否定の違いを明示的に扱っているテキストが少ないことを指摘する[14]。

---

13 この点については、第 4 章の 3.2.3 を参照されたい。

14 当然であるが、テキストに実現可能がないからといって「教えられていない」と断言することはできない。実際の授業が完全にテキストに沿って行われていとも限らないし、テキストにないものは扱っていないとは限らないからである。しかし、個々の実際の授業について論じることは難しいため、ここでは教科書の取り扱いについて論じる。

### 4.4.1. 初級の日本語のテキストの可能形の取り扱いの有無

初級の日本語のテキストを見てみると、調査対象の 16 種のテキストすべてで潜在可能は文型として扱われている。次のような例文が典型である[15]。

(32)　マリーさんは漢字が書けます。

(33)　図書館で本が借りられます。　　(『日本語初級大地 2』24 課)

初級の日本語のテキストの実現可能の扱われ方を見てみると、次の 4 つに分けられる。4 分類の結果を表 13 に示す。

①実現可能を可能形の課、または他の課で文型として取り上げているもの。
②文型としては取り上げていないが、可能形の課に実現可能の例文があるもの。
③可能形の課では、活用表を提示し、それ以後の課で実現可能の例が出てくるもの。
④可能形の課では潜在可能のみを取り扱い、それ以降の課に実現可能の例が出てくるもの。

**表 13　初級の日本語のテキストの実現可能の取り扱い**

| | | 刊行年 | 可能形 | ①<br>文型有 | ②<br>例文有 | ③<br>活用表 | ④他課に<br>例文有 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | JAPANESE FOR BUSY PEOPLE Ⅰ／Ⅱ／Ⅲ(第 3 版) | 2006<br>2007<br>2007 | Ⅱ－10 課 | ●<br>(Ⅲ－8 課) | | | |
| 2 | SITUATIONAL FUNCTIONAL JAPANESE Ⅰ／Ⅱ／Ⅲ(第 2 版) | 1995<br>1994<br>1994 | Ⅱ－14 課 | | | ● | |
| 3 | みんなの日本語初級Ⅰ／Ⅱ<br>(第 2 版) | 2012<br>2013 | 2－27 課 | | ● | | |
| 4 | 初級日本語げんきⅠ／Ⅱ(第 2 版) | 2011 | Ⅱ－13 課 | ●<br>(Ⅱ－13 課) | | | |
| 5 | にほんご 90 日 1／2／3 | 2000 | Ⅱ－46 課 | | | | ● |
| 6 | 語学留学生のための日本語Ⅰ／Ⅱ | 2002 | Ⅰ－19 課 | | | | ● |
| 7 | 学ぼう!にほんご初級　1／2<br>(第 4 版／第 3 版) | 2014<br>2013 | 2－22 課 | | | | ● |
| 8 | はじめよう日本語初級 1／2<br>(改訂版) | 2013 | 2－14 課 | | ● | | |
| 9 | J.Bridge for Beginners　1／2<br>(第 2 版／初版) | 2009<br>2008 | Ⅰ－21 課 | | | | ● |
| 10 | 日本語初級大地　1／2 | 2008<br>2009 | 2－24 課 | ●<br>(2－30 課) | | | |
| 11 | 初級日本語　上／下<br>(新装改訂版) | 2010 | 下－16 課 | ●<br>(下－16 課) | | | |
| 12 | 日本語 5 つのとびら初級編　1／2 | 2009<br>2010 | 2－11 課 | | | ● | |
| 13 | NEJ　1／2 | 2012 | 2－16 課 | | | | ● |
| 14 | 初級日本語 あゆみ 1／2 | 2012<br>2013 | 1－10 課 | | ● | | |

[15] (32)のようなある特定の主体の能力の有無を示す文はすべてのテキストで扱われているが、(33)のような主体が不特定多数の文は、扱っていないテキストもある。ここでの関心は、実現可能にあるので、これ以上は立ち入らない。

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 15 | できる日本語　初級／初中級 | 2011<br>2012 | 初中級－<br>1 課 | ●(初中級<br>－5 課) | | | |
| 16 | 文化初級日本語改訂版　Ⅰ／Ⅱ | 2013 | 2－17 課 | ●<br>(2－17 課) | | | |

### 4.4.2. 実現可能を文型として取り上げているテキスト

実現可能を文型として取り上げているのは、『JFBP』、『日本語初級大地』、『初級日本語げんき』、『初級日本語新装改訂版下』、『できる日本語』、『文化初級日本語改訂版』の 6 種である。このうち、『初級日本語げんき』、『初級日本語新装改訂版』、『文化初級日本語改訂版』の 3 種では、可能形の課で実現可能が文型として取り上げられている。他の 3 種は、可能形とは異なる課で実現可能を文型として取り上げている。以下、実現可能を網掛けで示す。

表 14　実現可能を文型として取り上げているテキスト

| |
|---|
| 『JAPANESE　FOR　BUSY　PEOPLE』Ⅱ(第 3 版) |
| Ⅱ－10　ASKING FOR TIME　OFF<br>GRAMMAR & PATTERN PRACTICE<br>Ⅱ Expressing Potentiality　(p.154)<br>Examples<br>あした　9 時に　来られる　人は　だれですか。　*Who can come tomorrow at nine?*<br>かんじが　よめないとき、どうしますか。　*What do you do when you can't read a kanji?* |
| Ⅲ－8　MY PASSPORT WAS STOLEN.<br>GRAMMAR & PATTERN PRACTICE<br>Ⅱ Expressing Intention(2)　(p.144)<br>ねむろうとしましたが、ねむれませんでした。　*I tried to sleep, but couldn't.*<br>2　Complete the sentences using ～う／ようとしましたが<br>1)にもつをはこぶ。→＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿、おもくてはこべませんでした。<br>2)勉強する。→＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿、おとうとにじゃまされて、できませんでした。 |
| 『日本語初級大地』2 |
| 24 課　この動物園は夜でも入れます<br>文型　(p.8)<br>2.　マリーさんは漢字が［かけます。／よめます。］　図書館で本が［かりられます。／よやくできます。］ |
| 30 課　お菓子の専門学校に入ろうと思っています<br>2-4　(p.48)<br>A：B さん、旅行に行きましたか。<br>B：いいえ、行こうと思っていたんですが、行けませんでした。<br>A：そうですか。残念でしたね。<br>例)旅行に行く<br>1)カメラを持って来る　2)彼／彼女にプレゼントを渡す　3)スピーチを覚える<br>4)日本語で発表する　5)彼／彼女に告白する |
| 『初級日本語げんき』Ⅱ　13 課　アルバイト探し |
| 13 課　アルバイト探し<br>文法<br>1.　Potential Verbs (p.30－31)<br>私は日本語が話せます。　*I can speak Japanese.*<br>私は泳げないんです。　*(The truth is) I cannot swim.*<br>雨が降ったので、海に行けませんでした。　*We could not go to the beach, because it rained.* |

練習Ⅰ-F (p.39)

Answer the questions using the potential verb in negative.

Example　Q：着物を買いましたか。(too expensive)

A：いいえ。高すぎて買えませんでした。

1.スリランカ(Sri Lanka)のカレーを食べましたか。(too spicy)

2.宿題をしましたか。(too difficult)

3.温泉に入りましたか。(too hot)

4.きのう出かけましたか。(too busy)

5.漢字を全部覚えましたか。(too many)

6.海で泳ぎましたか。(too cold)

『初級日本語新装改訂版下』

16 課　民宿

ぶんけい　(p. 5)

1.　Vdic. ことができます　V(Potential Form)

留学生はこのりょうに入ることができます。

留学生はこのりょうに入れます。

わたしは今朝五時に起きることができませんでした。

わたしは今朝五時に起きられませんでした。

もう一度日本へ来ることができますか。

もう一度日本へ来られますか。

N を Vdic. ことができます　N が V(Potential Form)

試験の時、答えを思い出すことができませんでした。

試験の時、答えが思い出せませんでした。

アリさんはさしみを食べることができますか。

アリさんはさしみが食べられますか。

『できる日本語初中級』初中級

第 1 課－1　アルバイトを探す

言ってみよう　(p.20)

5　例）　A：B さんは料理が作れますか。

B：はい、作れます。　　B：いいえ、作れません。

A：そうですか。　　A：そうですか。

第 5 課－2　駅で

『言ってみよう別冊』5 課　　(p.19)

練習 1

例 1)　道に迷いました・大変でした　⇒　道に迷って、大変でした。

例 2)　行き方がわかりませんでした・困りました　⇒　行き方がわからなくて、困りました。

①　電車が急にとまりました・びっくりしました

②　すぐに財布が見つかりました・よかったです

③　電車にかばんを忘れました・困りました

④　鍵をなくしました・困っています

⑤　長い時間立っていました・疲れました

⑥　終点まで行ってしまいました・困りました

⑦　すぐに電車が動きました・安心しました

⑧　パーティーに行けません・残念です

⑩　長い時間座れませんでした・大変でした

練習 2

例)　財布をなくしました・何も買えませんでした　⇒　財布をなくして、何も買えませんでした。

①　道に迷いました・4 時までに渋谷駅に行くことができません

②　携帯電話をなくしました・連絡することができません

③　電車が動きません・学校に行くことができません

④　約束の時間に間に合いませんでした・映画が見られませんでした

『文化初級日本語』Ⅰ

17 課　アルバイト文型 1　(p.194)

ピアノが弾けます。

| 文型４　学校が忙しくてあまり行けません。(p.200) |
| --- |
| 1)人が多くて乗れません。<br>2)(レストランで)<br>A:そのスパゲッティ、おいしくないんですか。<br>B：いいえ、おいしいんですが、量が多くて食べられないんです。<br>3)荷物がたくさんあって持てません。<br>4)A:テストはどうでしたか。<br>B:難しくてぜんぜんできませんでした。 |

『JFBP』は、可能形の課では潜在可能を提出し、別の課で「～う／ようとしましたが」という表現といっしょに、「にもつをはこぼうとしましたが、おもくてはこべませんでした」のような文を提示している。『日本語初級大地』でも、可能形の課で潜在可能を扱い、意向形の課で実現可能を扱っている。この２種のテキストは、意向形と実現可能を一緒に扱うことによって、実現可能の否定が「やろうと思った、または、やりたがったが叶わなかった」ということを教えられるようになっている。

『げんき』では、可能形の課で潜在可能の後で、「～すぎる」という表現といっしょに実現可能を取り上げている。

『初級日本語新装改訂版』では、可能形の課の「ぶんけい」に実現可能の例文が挙げられている。ただし、文型に当該の課の文型として挙げられてはいるものの、練習は潜在可能のみである。

『できる日本語』は、可能形の課では潜在可能のみを扱い、別の課の「原因・理由のテ」のところで実現可能の例が出てくる。表 13 に引用した練習１は、「原因・理由のテ」の変形練習で、１例実現可能がある。そして、練習２は、後件が可能形の否定の文型で、実現可能は２例のみであるが、無標の否定と可能形の否定の違いを取り上げられる例文であると言えるだろう。

『文化初級日本語改訂版』では、「状態性述語のテ形、可能形否定」という文型の中に実現可能の例がある。実現可能の例は１例であるが、可能形の否定に焦点を当てているものと見ることができるだろう。

以上の６種のテキストでは、取り上げ方は様々であるが、実現可能が文型として取り上げられていることを見た。

### 4.4.3. 可能形の課に実現可能の例文があるテキスト

『みんなの日本語』、『はじめよう日本語』、『初級あゆみ』の３種は、可能形の課に実現可能の例がある。ただし、いずれも実現可能に焦点を当てたものではない。

表 15　可能形の課に実現可能の例文があるテキスト

| 『みんなの日本語』Ⅱ　第２版 |
| --- |
| 27 課　練習 A　(p.12)<br>2.　わたしは　はしが　つかえます。　　わたしは　さしみが　食べられます。 |

| |
|---|
| **練習 B-6　(p.14)**<br>例　近くに　小さい　スーパーが　あります・不便です。<br>→近くに　小さい　スーパーしか　ありませんから、不便です。<br>1)簡単な　料理が　作れます・料理を　習いに　行きます→<br>2)朝　ジュースを　飲みました・おなかが　すきました→<br>3)日曜日　休めます・なかなか　旅行に行けません→<br>4)ことしは　雪が　少し　降りました・スキーができませんでした→<br>5)4 時間　寝ました・眠いです→<br>6)100 円　あります・コーヒーが買えません→ |
| **『はじめよう日本語』初中級** |
| **14 課　面接を受ける**<br>**1.　あした来られますか**　(p. 25)<br>**練習 1　都合を聞きましょう。／都合を言いましょう。**例　A：あした、面接に 来られますか。<br>B：はい、行けます。／　午前中は　ちょっと　行けないんです。学校が ありますので。<br><br>**2.　簡単な　ことなら　理解できます　(p. 30)**<br>**練習 1　できるかどうか言いましょう。**<br>例　漢字が　読めます。<br><br>**14 課のまとめ　(p.41)**<br>(アパートの　入口で)<br>山田：王さん、どうですか、日本語の　勉強は。うまく　いっていますか。<br>王：うーん。そうですねぇ。勉強は　おもしろいですけど、どうも　会話が　なかなか　うまく　ならないんです。<br>山田：そうですか。<br>王：このあいだ、アルバイトの　面接に　行ったんですけど、うまく　答えられませんでした。<br>(以下略) |
| **『初級日本語あゆみ』Ⅰ** |
| **第 10 課　だれかピアノがひけますか。**<br>**例文 1　(p.374)**<br>1.　だれかピアノがひけますか。<br>はい、カモンさんが弾けます。<br><br>**問題 3　(p.397)**<br>例　日本は家賃が高いですから、広い部屋には住めません。<br>①　電車の中では携帯電話は ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿。<br>②　リーさんは毎日練習しましたから、昨日の弁論大会で優勝＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿。<br>わたしはあまり熱心に練習しませんでしたから、弁論大会で上手に＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿。 |

『みんなの日本語』では、潜在可能の練習のあとに、練習 B の 4)に実現可能の例文がある。しかし、ここでの学習項目は「しか」であり、実現可能に主眼を置いたものではない。『はじめよう日本語』は、話題・場面シラバスのテキストで、14 課は「面接を受ける」という課である。そこで初めに「面接に行ける日を言う」という練習がある。その後の可能形の練習は潜在可能のみであるが、課の最後のまとめの読み物に表に挙げた実現可能の文が出てくる。『初級日本語あゆみ』も潜在可能のみを扱っているが、問題 3 の「わたしはあまり熱心に練習しませんでしたから、弁論大会で上手に」の続きは実現可能であると考えられる。以上の 3 種のテキストは、可能形の課に実現可能の例が挙げられてはいるが、可能の否定と無標の否定の違いが明示的に取り上げられているとは言えないであろう。

### 4.4.4. 可能形の課で活用表を提示し他の課に実現可能の例文が出てくるテキスト

『SFJ』と『日本語５つのとびら』では、可能形の課に活用表があり、過去非過去・肯定否定の４つの形が提示されている。そして、可能形の課では、活用表以外は潜在可能のみを扱い、それ以降の課で実現可能の例文が出てくる。『SFJ』を例に挙げる。

表 16　可能形の課で活用表を提示し他の課に実現可能の例文が出てくるテキスト

『SITUATIONAL FUNCTIONAL JAPANESE』Ⅱ・Ⅲ(第２版)

Ⅱ－第 14 課 忘れ物の問い合わせ
Grammar Notes (p.160)
I. Potential verbs
Examples
① 私は日本語が話せます。 *I can speak Japanese.*
② 日本人の名前がおぼえられません。 *I can't remember Japanese names.*
③ 図書館で本が借りられます。 *One／you can borrow books from／at the library.*
④ この水は飲めませんよ。 *This water is not drinkable. (＝You can't drink this water.)*

| | Potential verbs | | | |
|---|---|---|---|---|
| Ordinary verbs | Non-past pos. | Non-past neg. | Past pos. | Past neg. |
| Group Ⅰ -u → eru | | | | |
| kaku *to write*<br>書く | kakeru<br>書ける | kakenai<br>書けない | kaketa<br>書けた | kakenakatta<br>書けなかった |
| hanasu *to speak*<br>話す | hanaseru<br>話せる | hanasenai<br>話せない | hanaseta<br>話せた | hanasenakatta<br>話せなかった |
| motsu *to carry*<br>持つ | moteru<br>持てる | motenai<br>持てない | moteta<br>持てた | motenakatta<br>持てなかった |
| Group Ⅱ -ru → rareru | | | | |
| taberu *to eat*<br>食べる | taberareru<br>食べられる | taberarenai<br>食べられない | taberareta<br>食べられた | taberarenakatta<br>食べられなかった |
| miru *to see*<br>見る | mirareru<br>見られる | mirarenai<br>見られない | mirareta<br>見られた | mirarenakatta<br>見られなかった |
| Group Ⅲ | | | | |
| kuru *to come*<br>来る | korareru<br>来られる | korarenai<br>来られない | korareta<br>来られた | korarenakatta<br>来られなかった |
| suru *to do*<br>する | dekiru<br>できる | dekinai<br>できない | dekita<br>できた | dekinakatta<br>できなかった |

Ⅲ－第 17 課　友達を誘う
Grammar Notes (p.12－14)
Ⅳ.Passive sentences
2. Indirect passive
4. (私は)ゆうべ友達に来られて、勉強できませんでした。 *A friend came last night, so I couldn't study.*

Ⅲ－まとめ 5 (p.114)
Ⅱ. Verbs with many meanings

The following verbs have several meanings.

1. できる

1) can

1. 日本語を話すことができます。 *I can speak Japanese.*
2. 図書館で本を借りることができますか。 *Can I borrow books from the library?*
3. A：試験はできましたか。 *Did you do well in the exam?*
   B：いえ、あまりできませんでした。 *No, not too well.*

Ⅲ－第 21 課　苦情

Report　(p.134)

山下さんはきのうの晩レポートを書いていたが、隣の部屋のパーティーがうるさくてなかなか書けなかった。(以下略)

Grammar Notes　(p.137)

Ⅰ.　～て〈3〉:　because ～

Example

① 山田さんは病気で来られなかった。 *Yamada-san was unable to come because he was ill.*
② この本は難しくてわからない。 *This book is too difficult; I cannot understand it.*
③ ここは静かでよく勉強できます。 *It's quiet here, so I can study well.*
④ 遅くなってすみません。 *Sorry to be late.　(lit. Sorry because I'm late.)*

『SFJ』では、このように可能形の課では、活用表を提示し、例文では潜在可能のみを扱い、後の課で実現可能の例文を提出している。第 21 課は、「原因・理由のテ」の個所であるが、後件は実現可能に限ったものではなく様々である。なお、『SFJ』では、表 15 に引用した 21 課以降にも実現可能の例がある。

### 4.4.5. 可能形の課に実現可能の例文がないが他の課で実現可能が出てくるテキスト

『にほんご 90 日』、『語学留学生のための日本語』、『学ぼう！にほんご初級』、『J.Bridge for beginners』、『NEJ』の 5 種は、可能形の課では潜在可能のみを扱い、その後の課で実現可能が例文に出てくる。『にほんご 90 日』、『語学留学生のための日本語』を例に見てみる。可能形の課、実現可能の例が出てくる課の順に引用する。

**表 17　可能形の課に実現可能の例文がないが他の課で実現可能が出てくるテキスト**

『にほんご 90 日』Ⅱ／Ⅲ

Ⅱ－46 課　文の形　(p.102)

| | | |
|---|---|---|
| 1. ～は、 | ～が | 可能形 |
| ヤンさんは | まんがが | かけます。 |
| 私は | ワープロが | 使えます。 |
| 2. ～は、 | ・・・・・ | 可能形 |
| ブラウンさんは | パーティーへ | 行けます。 |
| 私は | 来週 | 来られません。 |

Ⅱ－50 課　読み物　(p.129)

(前略)「銀行にも、すぐに電話をしたほうがいいです。」と言って、おまわりさんは銀行に電話をかけてくれた。お金が 1 円もなかったので、そのおまわりさんに 1000 円貸してもらった。7 時ころ、やっと家に帰った。早く寝ようと思ったが、心配で寝られなかった。(以下略)

Ⅲ－79 課　形の練習　(p.121)

例　かぜをひきましたから　→　かぜをひいたために

15.　7時の新幹線に乗れませんでしたから　→ ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

『語学留学生のための日本語』Ⅰ・Ⅱ

Ⅰ－19課　日本語が話せます
B文型練習（p.123）
Ⅰ　～は　V可能形。
例）わたしは　あした　来られます。
Ⅱ　～は　Nが　V可能形。
1.　例）わたしは　日本語が　話せます。
2.　例）タンさんは　15歳です。まだ　車が　運転できません。
Ⅲ　Nが　できます。
例）日本語が　できます。
Ⅳ　V辞書形ことが　できます。
例）お酒を　飲む　ことが　できません。

Ⅱ－25課　きれいなので　買いました
B文型練習（p.28）
Ⅳ　Vて／Aくて／NAで／Nで、～
1.　例)彼と　結婚できて、幸せです。
2.　例)この町は　安全で、住みやすいです。
3.　例)地震で　うちが　こわれました。
3)雪で　歩けませんでした。

Ⅱ－35課　新聞に　よると　あしたは　雨だそうです
D会話練習　(p.97)
1.　A：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿そうですね。どう　したんですか。
B：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿んです。
A：それは　大変でしたね。
①3日間　休みました　　②テストを 受けませんでした
家族の　者が　入院しました　　熱が　高くて、学校へ　来られませんでした。

『にほんご90日』では、可能形の46課では潜在可能のみを扱っている。そして、「～てしまう」の50課の読み物に「寝られなかった」と実現可能が出てくる。「～ために(目的／原因)」の79課でも、練習に「乗れなかった」が出てくる。なお、79課以降にも実現可能の例は出てくる。『語学留学生のための日本語』も、可能形の19課では潜在可能のみを扱う。その後、25課の「原因・理由のテ」を扱うところと、35課の伝聞の「～そうです」を扱うところに実現可能の例が1例ずつ出てくる。このように、調査対象とした16種のテキストのうち5種が実現可能を可能形の課では取り上げずに、後の課で例文に入れるという扱いをしている。

以上、初級の日本語のテキストの実現可能の取り扱い方を見てきた。今回調査対象としたテキストのうち、実現可能を文型として取り上げているテキストは6種のみであることを見た。実現可能をどう扱うかはテキストの編集方針によるものであり、何が良い等と一概に言うことはできない。例えば、可能形の課で活用表を掲載するにとどめ実現可能を扱わないのは、可能形の作り方を教える日に実現可能も教えるのは学習者の負担が大きいといった配慮であろうことが推察できるからである。本研究で主張したいのは、「Vテ、感情」という文型の誤用をなくすためには、実現可能を文型として扱うのがよいのではないかということである。

## 5.　「Ｖテ、感情形容詞」の提出順序の一試案

「Ｖテ、感情形容詞」は、初級の日本語のテキストでどのように扱うのがよいのだろうか。本研究の試案は次の通りである。

まず、可能形について潜在可能だけではなく実現可能を文型としてとりあげ、可能形の否定と無標の動詞の否定の違いを明示すべきであると考える。この違いを理解することが、「Ｖテ、感情」の理解の前提となるからである。そして、「Ｖテ、感情」については、［対象認識］と［対象事態］を分けて提出したほうがよい。なぜならば、［対象認識］と［対象事態］では、前件と後件の意味的な関係が異なり、また、［対象認識］の前件には、自己制御性がないことでなければならないという制約があるからである。以下、文型と例文と文法解説を表 18 に示す。

**表 18　「Ｖテ、感情」の提出順序の試案**

<table>
<tr><th></th><th>文型・活用形</th><th>例文</th></tr>
<tr><td>①</td><td>V1 て、V2</td><td>図書館に行って、勉強します。</td></tr>
<tr><td>②</td><td>A1 て、A2</td><td>この部屋は、せまくて、暗いです。</td></tr>
<tr><td>③</td><td>潜在可能</td><td>私は、ピアノが弾けます。<br>コンビニで映画のチケットが買えます。</td></tr>
<tr><td>④</td><td>実現可能</td><td>チケットが買えました。<br>チケットが買えませんでした。<br>友達に会えました。<br>友達に会えませんでした。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">⑤［対象認識］</td><td>N が V て、感情<br>N が V なくて、感情<br>N が A くて、感情</td><td>(ア)メールが来て、うれしいです／うれしかったです<br>(イ)メールが来なくて、心配です／心配でした<br>(ウ)隣の部屋がうるさくて、困っています。</td></tr>
<tr><td>(私が)可能 V て、感情<br>(私が)可能 V なくて、感情</td><td>(エ)みんなと会えて、うれしいです／うれしかったです。<br>(オ)友達に会えなくて、さびしいです／さびしかったです<br>※(カ)合格して、うれしいです／うれしかったです。<br>※(キ)失敗して、恥ずかしいです／恥ずかしかったです。<br>※(ク)財布を無くして、困りました。</td></tr>
<tr><td colspan="2">文法解説<br>この文型は、前件の出来事が起きたことと、その出来事に対する話者の感情を表す。前件の出来事は、(ア)(イ)(ウ)のように、話者がコントロールできないことである。(エ)(オ)のように、前件の主体が話者である場合は、可能形を用いる。前件を可能形にすることによって、前件の出来事は、話者がコントロールできないことであることが示される。ただし、前件の主体が話者であっても、(カ)のように、「試験に合格する」「試合に勝つ」といった話者がコントロールできないことであれば、可能形にしなくてもよい。また、(キ)(ク)のように、前件が好ましくないことは、可能形にできないので、テ形を用いる。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">⑥［対象事態］</td><td>テ形、感情過去</td><td>(ケ)ニュースを聞いて、驚きました<br>(コ)結果を見て、うれしかったです。<br>※(サ)部屋に入って、おどろきました。</td></tr>
<tr><td colspan="2">文法解説<br>この文型は、前件の出来事が起きて、引き続き、後件の感情が生まれたことを表す。(ケ)は、ニュースを聞いたことに驚いたのではなくニュースの内容について驚いたのであり、(コ)では、見た結果がうれしかったことを述べている。この文型の前件は、「見る」「聞く」「知る」といった動詞が多いが、(サ)のような文も可能である。(サ)は、部屋に入って、それから驚いたことを述べているだけであり、何に驚いたのかは不明である。部屋の中がからりとかわっていたのか、誰かがいたのか、この文で示されていない。</td></tr>
<tr><td>⑦</td><td>受け身</td><td>～れる　～られる</td></tr>
<tr><td>⑧</td><td>受け身て、感情</td><td>ほめられて、うれしかったです。</td></tr>
</table>

| | | |
|---|---|---|
| | | みんなに笑われて、はずかしかったです。 |
| ⑨ | 行為の授受表現 | ～てくれる　～てもらう　～てあげる |
| ⑩ | ～てくれて、感情<br>～てくれて、ありがとう<br>～て、すみません | 手伝ってくれて、うれしかったです。<br>手伝ってくれて、ありがとう。<br>遅れて、すみません。 |

① 2つの動作が時間の流れに沿って行われる「V1テ、V2」を提出する。

② 並列の形容詞のテ形を提出する。

③ 潜在可能を提出する。

④ 実現可能を提出する。ここで可能形の否定と無標の動詞の否定の違いを押さえる。『JFBP』や『日本語初級大地』のように「～ようとしましたが、～できなかった」という文で提示するのも良いであろう。

⑤［対象事態］の「Vテ、感情動詞」を提出する。ここでは、「NがVテ、感情」と「(私が)可能Vて／可能Vなくて、感情」を分けて提示する。そして、後者は可能テ形が基本だが、好ましくないことの場合(可能形にできない)と、「勝つ」「合格する」のように自己制御性がない場合は、テ形でもよいという解説を加える。

⑥［対象認識］の「Vテ、感情動詞」を提出する。前件の動詞を「見る」「聞く」等認識系の動詞に限定して提出し、それ以外の動詞については、補足的に文法解説に説明を入れるにとどめる。

⑦受け身を提出する。

⑧ ⑦の受け身を提出した後にも「受け身テ、感情」という文型を提出する。

⑨ 行為の受益表現を提出する。

⑩ ⑨の受益表現の後にも「～クレテ、感情」という文型を提出する。ここでは、合わせて「～くれて、ありがとう／すみません」「～て、すみません」のように後件がお礼・謝罪も合わせて扱うとよいだろう。

以上のように、可能形の否定と無標の動詞の否定の違いをきちんと教えたうえで、［対象事態］と［対象認識］を分けて教えることによって、「*みんなと会って、うれしいです」といった誤用は生じにくくなるものと思われる。

表19は、上記の提出順序を「こういうことを言いたいときは、この文型を使う」という産出という観点から説明したものである。

**表19　「Vテ、感情」の産出の観点からの解説**

【1】自分の気持ちと感情を引き起こした出来事を述べるとき

ある出来事と、その出来事によって自分の感情が動いたことを述べる場合は、「～て、感情」という文型を使う。このとき、「～て」は、話者がコントロールできないことでなければならない。(シ)－(セ)の前件は、話者自身のことではないので、そのままテ形にする。

(シ)　母からメールが来て、うれしいです。

（ス） 母からメールが来なくて、心配です。
（セ） 隣の部屋がうるさくて、困っています。

一方、次の(ソ)(タ)は、前件が話者であるので、可能テ形にして、前件がコントロールできないことであるという述べ方をしなければならない。

（ソ） チケットが買えて、うれしいです。
（タ） チケットが買えなくて、残念です。

話者のことであっても、次のようにコントロールできないことはことは、可能テ形でなくてもよい。

（チ） 合格して、うれしいです。

また、好ましくないことは、可能テ形にできないので、可能テ形にしなくてもよい。

（ツ）失敗して、恥ずかしかったです。

【2】自分の気持ちとその直前の動作を述べるとき
「～て、感情」という文型で、自分の気持ちとその直前の動作を述べることができる。「～を見て、感情」「～を聞いて、感情」等が多く、前件はテ形でよい。

（チ） A:「昨日、××市で、火事がありましたね。」
B:「ええ、ニュースを見て、びっくりしました」
（ツ） 新聞を読んで、びっくりしました。友達の写真が新聞に出ていたのです。

(チ)は、「X 市で火事があったこと」に驚いたのである。(ツ)は、「友達の写真が新聞に出ていた」ことに驚いたのである。このように、自分の感情とその直前の動作を述べるときは、「～て、感情」を使う。

以上、「V テ、感情」の初級の日本語のテキストでの提出順序の試案と、産出という観点からの説明を述べた。

## 6. まとめ

本章では、本研究の成果をどのように日本語教育に活かしていけるかという観点で、「Vテ、感情」という文型を取り上げた。「Vテ、感情形容詞」は、前件が感情の対象である［対象事態］タイプと、感情の対象を認識する段階の動作を言語として顕在化した［対象認識］タイプに分類することができる。

本章では、初級の日本語教育においては、「Vテ、感情動詞」を「Vテ、感情形容詞」と同じ文型として取り扱うことが可能であることを確認した。そして、初級の日本語のテキストを分析し、次の 2 点を問題点として指摘した。

ア.「Vテ、感情」に、［対象認識］と［対象事態］が混在している。
イ. 「Vテ、感情」の前件について、前件の制約(自己制御性の有無)についての説明がない、または、前件が肯定で可能テ形の例が挙げられていないため、いつ無標のテ形で、いつ可能テ形かがわからない。

また、実現可能が文型として扱われているテキストが少ないことを見た。以上の点を踏まえ、初級の日本語のテキストで「Ｖテ、感情」を提出する際には、事前に、潜在可能だけでなく実現可能をとりあげ、可能形の否定と無標の動詞の否定の違いを明示的に取り扱う必要があることを述べた。そして、［対象認識］と［対象事態］を異なる文型として取り扱うべきであるということを主張し、テキストの提出順序の試案を提案した。

テキストというものは、全体の項目、順序を持って初めて完成するものであり、一部をこのような形で取り出した案は、あまり説得力をもたないかもしれない。しかしながら、こういった積み重ねが必要であることは間違いがないであろう。

最後に、文型の使用場面について言及しておきたい。本研究では、「Ｖテ、感情形容詞」という文が適格となる条件を記述し、それをどのように日本語教育へ応用するという流れで論を進めている。よって、文型の整理という形になっているが、無論、文型を整理すれば誤用がなくなると考えているわけではない。それぞれの文が、いつ、どんな場面で誰が誰に言うのかとともに提出されるべきであることは言うまでもない。「Ｖテ、感情形容詞」について言えば、「みんなに会えて、うれしいです」や「うまくできなくて、悔しいです」といった後件がル形の文は、インタビュー等での発話が考えられるし、「ニュースを聞いて、びっくりしました」「～に行って、感動しました」といった後件が過去の文は、過去の体験をまとめてスピーチする、または作文として書く、といった場面が考えられる。このように、それぞれの文型がどのような場面で使用されているかを調査し日本語教育に生かしていくことは、今後の課題としたい。

**【調査対象とした日本語のテキスト】**

テキスト名の次の数字は、巻数を示す(1／2は、第1巻と第2巻である)。刊行年は、初版と2014年8月末日時点の最新版を示す。調査に用いたのは、最新版である。なお、『初級日本語』(改訂版)と『文化初級日本語改訂版』は、奥付に改定前の第1版の刊行年の記載がないため、ここにも記載していない。

『JAPANESE FOR BUSY PEOPLE』Ⅰ／Ⅱ／Ⅲ（初版1984、第3版2006／初版1990、第3版2007／初版1990、第3版2007）　ALALT　Kodansha International

『SITUATIONAL FUNCTIONAL JAPANESE:NOTES』1／2／3(初版1991年、第2版1995年／初版1992年、第2版1994年／初版1992年、第2版1994年）筑波ランゲージグループ　凡人社

『みんなの日本語初級本冊』Ⅰ／Ⅱ（初版1998、第2版2012／初版1998、第2版2013）スリーエーネットワーク編　スリーエーネットワーク

『初級日本語げんき』Ⅰ／Ⅱ（初版1999、第2版2011）坂野永理他　The Japan Times

『にほんご90日』1／2／3(2000) ヒューマン・アカデミー教材開発室　ユニコム

『初級語学留学生のための日本語』Ⅰ／Ⅱ(2002) 凡人社教科書委員会監修 岡本輝彦他著　凡人社

『学ぼう!にほんご 初級』1／2(初版2005、第4版2014／初版2005、第3版2013)　日本語教育教材開発委員会　専門教育出版

『はじめよう日本語初級メインテキスト』1／2（初版 2006、改訂版 2013）TIJ 東京日本語研修所　スリーエーネットワーク
『J.Bridge for Beginners 』1／2（初版 2007、第 2 版 2009／初版 2008）小山悟　凡人社
『日本語初級大地メインテキスト』1／2（2008／2009）山﨑佳子他　スリーエーネットワーク
『初級日本語』 上／下(新装改訂版 2010）東京外国語大学留学生日本語教育センター編　凡人社
『日本語 5 つのとびら初級編』1／2（2009／2010）立命館アジア太平洋大学「日本語 5 つのとびら」編集委員会編　凡人社
『NEJ：A New Approach to Elementary Japanese―テーマで学ぶ基礎日本語―』1／2（2012）西口光一　くろしお出版
『初級日本語 あゆみ』1／2（2012／2013）関西外語専門学校教教材作成スタッフ　学校法人天王寺学館関西外語専門学校日本語教育部
『できる日本語』初級本冊／初中級本冊（2011／2012）嶋田和子監修　できる日本語教材開発プロジェクト著　アルク
『文化初級日本語テキスト改訂版』Ⅰ／Ⅱ（2013）文化外国語専門学校日本語科　文化外国語専門学校

**【調査に使用した日本語のテキストの文法解説書等】**

『初級日本語文法解説〔英語版〕』(2001)東京外国語大学留学生日本語教育センター　凡人社
『直接法で教える日本語』(2009)東京外国語大学留学生日本語教育センター指導書研究会　東京外国語大学出版会
『文化初級日本語Ⅰ・Ⅱ改訂版教師用指導例集』(2013)文化外国語専門学校日本語科　文化外国語専門学校
『みんなの日本語初級Ⅱ 翻訳・文法解説 英語版』第 2 版(2013)スリーエーネットワーク編　スリーエーネットワーク
『日本語能力試験出題基準〔改訂版〕』(2002）国際交流基金・日本国際教育支援協会　凡人社

**【用例の出典】**

・BCCWJ：国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパス』
コーパス検索アプリケーション中納言による　https:／／chunagon.ninjal.ac.jp／login
(最終閲覧日 2014.08.30)

・『読売新聞』：ヨミダス文書館による
ヨミダス文書館　http:／／www.yomiuri.co.jp／database／bunshokan／　(最終閲覧日 2014.08.30)

# 終章　まとめと今後の課題

本研究では、現代日本語の形容詞のうち、「感情形容詞」と呼び得るものの範囲を定め、複文の述語、連体修飾用法、副詞的用法として用いられた場合の振る舞いを記述した。最後に、各章のまとめを行い、今後の課題を述べる。

## 1.　感情形容詞の分類

第2章では、感情形容詞を「感情・感覚を表し得る形容詞」と定義し、感情形容詞2群、属性形容詞2群の計4群に分類した。分類の指標には、様態の「～ソウダ」を用いた。「～ソウダ」は、前接する形容詞によって、経験者の感情や感覚が外見に現れた様子を述べる［内部ソウダ］と、対象がある属性を持っているような様子であることを述べる［外部ソウダ］になる。次の(1)は内部ソウダ、(2)は外部ソウダの例である。

(1) 花子は、さみしそうだ。　・・・　［内部ソウダ］
(2) 花子は、やさしそうだ。　・・・　［外部ソウダ］

そして、以下の3つの指標を用いて、分類を行った。指標3は、指標1、2を満たすものに用いる。

指標1:「花子は、～そうだ(だった)」が［内部ソウダ］として適格文になる。
指標2:「花子は、～そうに～する(した)」が［内部ソウダ］として適格文になる。
指標3:「～そうな名詞」が［外部ソウダ］にならない。

分類の結果と例は、次の表1の通りである。A群が典型的な感情形容詞、D群が典型的な属性形容詞である。上記の分類の指標は、従来の「私は、～い。」という形で心の様子を表すことができるかという感情形容詞の分類の指標を裏側から見たもので、まったく新しいものというわけではない。しかし、従来の指標は、「わたしは、暑い」「私は、難しい」といった対比的な文脈でしか「わたしは」が現れない文の文法性判断が難しいという問題を抱えていた。本研究の分類の指標は、その点を克服した指標であると言える。

表１　形容詞の分類と各群の語数

| | 指標１<br>内部ソウダ<br>になる | 指標２<br>内部ソウニ<br>になる | 指標３<br>外部ソウナ<br>にならない | 語例 | 形容詞分類 | | 語数<br>計<br>642 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| A | ○ | ○ | ○ | 悲しい<br>残念な | 感情形容詞 | 典型的な感情形容詞<br>より経験者の状態を述べることを志向する | 39 |
| B | ○ | ○ | × | 寒い<br>快適な | | 対象の状態を述べることをも志向する | 49 |
| C | × | ○ | | うるさい<br>気の毒な | 属性形容詞 | 副詞句としてある限定された時間における動きの行われ方を表すことにより感情形容詞のように振る舞う | 24 |
| D | × | × | | 明るい<br>静かな | | 典型的な属性形容詞 | 530 |

## 2.　感情形容詞の使用実態

第３章では、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の生産実態サブコーパスのコアデータの形容詞 8,274 例(語幹以外 7,661 例)を用いて、感情形容詞が実際にどのように使われているのか、調査を行った。活用形ではなく、下記のように文の成分としてタグ付けを行い、感情形容詞と属性形容詞の使われ方に違いがあるのかを調査した。活用形ではなく図１のように分類することで、例えば「連用形」が動詞とともに述部となるのか、副詞句として働くのか等、実際の使われ方を見ることができるということを述べた。

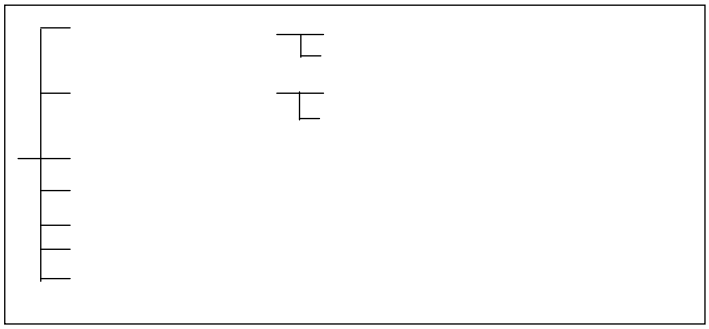

図１　文の成分

調査の結果は、表２の通りである。表３と表４は、χ2 検定と残差分析の結果である。

**表 2　文の成分別出現割合**

| | 形容詞述部 | 名詞句述部 | テ形述部 | 補部 | 修飾部 | 動詞句述部 | その他 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 感情形容詞 A | 72 | 12 | 13 | 49 | 12 | 14 | 6 | 178 |
| | 40.5% | 6.7% | 7.3% | 27.5% | 6.7% | 7.9% | 3.4% | 100% |
| 感情形容詞 B | 129 | 36 | 42 | 165 | 57 | 50 | 6 | 485 |
| | 26.6% | 7.4% | 8.7% | 34.0% | 11.8% | 10.3% | 1.2% | 100% |
| 属性形容詞 C | 97 | 13 | 16 | 59 | 17 | 8 | 2 | 212 |
| | 45.9% | 6.1% | 7.5% | 27.8% | 8.0% | 3.8% | 0.9% | 100% |
| 属性形容詞 D | 2,394 | 405 | 529 | 2,027 | 1,038 | 305 | 88 | 6,786 |
| | 35.2% | 6.0% | 7.8% | 29.9% | 15.3% | 4.5% | 1.3% | 100% |
| 計 | 2,692 | 466 | 600 | 2,300 | 1,124 | 377 | 102 | 7,661 |
| | 35.2% | 6.1% | 7.8% | 30.0% | 14.7% | 4.9% | 1.3% | 100% |

**表 3　形容詞群別の形容詞の使われ方　χ2 検定**

| | 形容詞述部 | 名詞句述部 | テ形述部 | 補部 | 修飾部 | 動詞句述部 | その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 感情形容詞 A | 72(63) | 12(11) | 13(14) | 49(53) | 12(26) | 14(6) | 6(2) |
| 感情形容詞 B | 129(170) | 36(30) | 42(38) | 165(146) | 57(71) | 50(24) | 6(6) |
| 属性形容詞 C | 97(74) | 13(13) | 16(17) | 59(64) | 17(31) | 8(10) | 2(3) |
| 属性形容詞 D | 2,394(2,385) | 405(413) | 529(531) | 2,027(2,037) | 1,038(996) | 305(334) | 88(90) |

※カッコ内は期待度数

**表 4　形容詞群別の形容詞の使われ方　残差分析**

| | 形容詞述部 | 名詞句述部 | テ形述部 | 補部 | 修飾部 | 動詞句述部 | その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 感情形容詞 A | 1.50 | 0.37 | −0.27 | −0.73 | −3.03** | 1.84 | 2.40* |
| 感情形容詞 B | −4.07** | 1.28 | 0.70 | 1.98* | −1.88 | 5.67** | −0.19 |
| 属性形容詞 C | 3.28** | 0.03 | −0.16 | −0.71 | −2.78** | −0.78 | −0.5 |
| 属性形容詞 D | 0.71 | −1.17 | −0.33 | −0.81 | 4.30** | −4.81** | −0.74 |

** p＜.01　* p＜.05

表 2 より、形容詞全体では、形容詞述部、名詞句述部、テ形述部の合計が約 5 割で、形容詞の約半数は述部で用いられることが分かった。

感情形容詞と属性形容詞の使われ方の違いについては、修飾部、動詞句述部、形容詞述部、補部に有意差が見られた。このうち、修飾部については、A と C が少なく、D が多かった。この点については、A と C の形容詞には、修飾部になりにくい語が多いためであると考察した。動詞句述部については、B が多く、D が少ないという結果であった。この点からは、形容詞には「寒い」のように変化として捉えられ「～くなる」と共起しやすい語と、そうではない語があるのではないかという示唆を得たが、結論を導くには至らなかった。形容詞述部については、B が少なく、C が多いという結果であった。B の形容詞述部が少ないこ

とについては、B は動詞述部が多いために、形容詞述部が少なくなるのではないかと考察をした。C の形容詞述部が多い理由と、B の補部が多い理由は、明らかにはできなかった。

今回の調査は、このように課題が残るものではあるが、データを結果だけではなく中身がわかる形で示すことができたこと、形容詞の分析に当たり、どのような文の成分をたてるかというひとつの案を示せたという点で、今後の研究につながる有意義なものであると考えている。

## 3. 感情形容詞が述語となる複文

第 4 章では、「動詞のテ形、感情形容詞（Vテ、感情形容詞)」という文型について考察を行った。そして、次の 4 点を明らかにした。

【1】「Vテ、感情形容詞」は、原則として、前件の出来事が後件の主体にとって、自己制御性のないことでなければならない。

(3) 友達に｛*会って／会えて｝、うれしいです。
(4) 友達に｛*会わなくて／会えなくて｝、さびしいです。

【2】「Vテ、感情形容詞」は、前件が感情の対象である［対象事態］タイプと、［対象事態］の感情の対象を認識する段階の動作を言語として顕在化した［対象認識］タイプに分類することができる。［対象認識］は、一見「Vテ、感情形容詞」の前件は自己制御性のない出来事でなければならないという制約の例外に見える。しかし、前件の感情の対象を認識するには、感情の対象となる出来事が成立しなければならない。そして、その感情の対象となる出来事には自己制御性がない。よって、［対象認識］の前件も、自己制御性がないと言える。

(5) 娘が元気に頑張っていて、うれしい。　・・・［対象事態］
(6) 娘が元気に頑張っているのを見て、うれしい。　・・・［対象認識］

【3】［対象事態］は、前件の主体によって、図 2 の通り、A・B・C に分類される。ぞれぞれの前件の制約は、以下の表 5 の通りである。

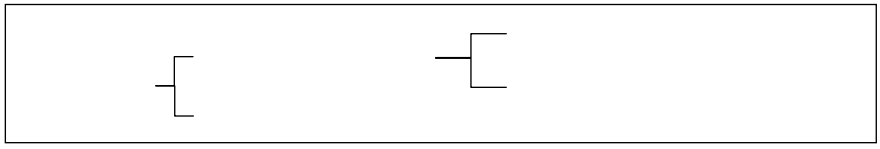

**図 2　［対象］タイプの分類**

表５　「Ｖテ、感情形容詞」が適格文となる条件

<table>
<tr><th>タイプ</th><th colspan="3">前件の制約</th></tr>
<tr><td rowspan="6">対象事態</td><td rowspan="2">A</td><td rowspan="2">肯定</td><td>好ましい⇒自己制御性無<br>(7)　着物を｛*着て／着られて｝、嬉しいです。<br>(8)　合格｛して／できて｝、うれしいです。<br>※後件が過去形⇒自己制御性有も可　（実例は可能テ形が多い）<br>(9)　着物を｛着て／着られて｝嬉しかったです。</td></tr>
<tr><td>好ましくない⇒自己制御性有も可<br>(10) 親に隠し事を｛して／*できて｝、苦しいです／苦しかったです。</td></tr>
<tr><td></td><td>否定</td><td>自己制御性無<br>(11) 本当のことを｛*言わなくて／言えなくて｝つらいです／つらかったです。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">B</td><td>関与する</td><td>受身または受益表現が必須<br>(12)　｛*友達が私を騙して／友達に騙されて｝、悲しい／悲しかった。<br>(13) 多くの人が（私の）歌を｛*聞いて／聞いてくれて｝、嬉しい／嬉しかった。</td></tr>
<tr><td>関与しない</td><td>好ましい⇒結びつきが分かりにくい⇒受益表現が必須<br>(14) 子供たちが動物を｛*かわいがって／かわいがってくれて｝、嬉しい／嬉しかった。<br>好ましい⇒結びつきが分かりやすい⇒受益表現がなくてもよい<br>(15) 阪神が｛優勝して／優勝してくれて｝、嬉しい／嬉しかった。<br>好ましくない⇒迷惑だ⇒任意で受身使用可<br>(16)　｛弟に家業を継がれて／弟が家業を継いで｝、悔しい／悔しかった。<br>好ましくない⇒迷惑でない⇒受け身の使用不可<br>(17) ｛多くの人が亡くなって／#多くの人に亡くなられて｝悲しい／悲しかった。</td></tr>
<tr><td>C</td><td colspan="2">(18) 本が完成して、うれしい。<br>(19) シュートが決まらなくて、残念だ。</td></tr>
<tr><td>対象認識</td><td colspan="3">前件は「見る」「聞く」「知る」「わかる」等の認識系の動詞に限られる。<br>(20) 娘の元気な姿を見て、うれしいです／うれしかったです。<br>(21) 知らせを聞いて、残念です／残念でした。</td></tr>
</table>

表５の通り、A 前後件が同一主体では、無標のテ形か可能テ形かが問題となる。B 前後件が異主体の場合は、他者の行為は自己制御性がないので、その点は問題とならないが、受け身と受益表現の使用が問題となる。C 前件の主体が人間以外の場合は、自己制御性もなく、無標のテ形で適格文となる。

そして、「～カラ、感情形容詞」「～ノデ、感情形容詞」は、「Ｖテ、感情形容詞」では表せない後件の感情が発生した状況を条件として示す［条件的理由］を表すことを見た。

(22)負けるとは思っていなかったので、負けて、悔しいです

以上のような感情形容詞が複文の述語となる文の研究は、これまで十分に行われてはおらず、本研究によって、一端が明らかにされたものと言える。

## 4. 感情形容詞の連体修飾用法

第 5 章では、感情形容詞の連体修飾用法について、感情形容詞と被修飾名詞の意味的な関係から［対象］・［経験者］・［とき］・［内容］・［表出物］・［相対補充］・［その他］の 7 つに分類ができることを述べた。この 7 つの中で、［表出物］は従来の研究では見逃されていたタイプであり、「うれしい悲鳴」「悲しいふり」等、「被修飾名詞が、経験者が感情形容詞で表される感情を持っている時に、経験者から発せられるものである」という関係であることを述べた。

そして、BCCWJ のデータを用い、各タイプの出現度数を調査した。感情形容詞の連体修飾用法 34,165 例のうち、「もの」2,426 例、「こと」4,403 例、「ところ」525 例の計 7,354 例を除く 26,811 例を 7 分類した。その結果、感情形容詞は［対象］で多く用いられ、［主体］が少ないということをデータで示すことができた。また、［内容］や［表出物］も一定数用いられていることを確認した。以上のまとめを表 7 に示す。

**表 6　感情形容詞の連体修飾用法**

| 統語関係 | 感情形容詞と被修飾名詞の意味関係 | | 例 | 被修飾名詞 | 用例数計 26,811 |
|---|---|---|---|---|---|
| ウチ | 対象 | 被修飾名詞が感情形容詞で表される感情を引き起こすもの・こと | うれしいプレゼント<br>つらい体験<br>迷惑な男　　懐かしい人 | 物・出来事・人間 | 20,570 |
| | 経験者 | 被修飾名詞が感情形容詞で表される感情の持ち主 | (一人で過ごすのが)つらい人<br>(成人病が)心配な方<br>優秀な学生が欲しい企業 | 人間・組織 | 548 |
| | とき | 被修飾名詞が感情形容詞で表される感情が存在するとき | 一人で過ごすのがつらい時<br>つらい日曜日　　嫌な時代 | 時や期間を表す名詞 | 2,485 |
| ソト | 内容 | 修飾部(形容詞または形容詞節)が被修飾名詞の内容を表す | つらい気持ち　　冷たい感覚<br>人に迷惑をかけるのが嫌な性分<br>人形柄がどこか懐かしい感じ | 気持ち・感覚等<br>性分・感じ等 | 1,826 |
| | 表出物 | 被修飾名詞が、経験者が感情形容詞で表される感情を持っているときに、経験者から発せられるもの | つらい顔　つらい声<br>不安な面持ち　不安なまなざし | 顔・声・様子等 | 579 |
| | 相対補充 | 「感情形容詞(節)その被修飾名詞」という関係 | 彼女に会うのがつらい理由<br>大変な理由 | 理由・合間等 | 8 |
| | その他 | (被修飾名詞が形式名詞) | 心配なはず　　つらい限り | はず・限り等の形式名詞 | 795 |

感情形容詞の連体修飾用法については、これまで一部の例が取り上げられ考察の対象とされてきたが、このように全体像が示されてはいなかった。本研究は、全体像を示したという点で感情形容詞の連体修飾用法の研究を一歩前進させたものである。

## 5.　感情形容詞の副詞的用法

第 6 章では、感情形容詞の副詞的用法について考察を行い、動作主が動作の実現中に思った・感じたことを表す「動作主認識の副詞的成分」と、話者が第三者やモノの外から見たサマを述べる「非動作主認識の副詞的成分」に分類できることを確認した。それぞれの副詞的用法の述語動詞の主体と例、副詞的成分が何を表すかを表 7 に示す。

**表 7　感情形容詞の副詞的用法**

| 分類 | 述語動詞の主体 | | 例 | 副詞的成分 |
|---|---|---|---|---|
| 動作主認識の副詞的成分 | 特定 | 話者 | (23)知らせを悲しく聞いた。<br>(24)友人をうらやましく見ていた。<br>(25)ありがたくもらっておこう。 | 主体(動作主)の感情を表す |
| | | 聞き手 | (26)みんなで楽しく遊びましょう。 | |
| | | 第三者<br>(語りの文のみ) | (27)太郎は、雨雲を恨めしく見上げた。 | |
| | 不特定の人間 | | (28)この枕を使えば心地よく眠れる。<br>(29)この本は、楽しく読める。 | |
| 非動作主認識の副詞的成分 | モノ<br>第三者 | | (30)鐘が悲しく響いた。<br>(31)花が寂しく枯れている。<br>(32)花子は寂しく笑った。<br>(33)花子の苦しみが切なく描かれている。 | 主体の外から見たサマを表す |
| | | | (34)花子はジュリエットを切なく演じた。 | 主体の外から見たサマと、できた作品のサマを表す |

そして、動作主認識の副詞的成分と述語動詞の間に因果関係はなく、同時性のみが存在するということを述べた。また、非動作主認識の副詞的成分も、同時性があることを確認することができた。本研究では、この 2 つの副詞的成分の同時性という共通点を捉えたうえで、全体像を示すことができた。

## 6.　日本語教育に向けて

第 7 章では、本研究の成果を日本語教育にどのように応用できるか、「Vテ、感情形容詞」を例に考察を行った。初級の日本語のテキストの「Vテ、感情形容詞」の取り扱われ方を調査し、以下の問題点を指摘した。

ア.「Vテ、感情」に、［対象認識］と［対象事態］が混在している。

イ.「Vテ、感情」の前件について、前件の制約(自己制御性の有無)についての説明がない、または、前件が肯定で可能テ形の例が挙げられていないため、いつ無標のテ形で、いつ可能テ形かがわからない。

そして、「Vテ、感情形容詞」の前に、「Vテ、感情形容詞」を理解する前提となる実現可能を文型としてとりあげる必要があることを述べた。そして、[対象認識] と [対象事態] を別々に扱い、[対象事態] に関しては、前件が自己制御性のないことでなければならないという制約を教えるべきであることを主張した。

この「Vテ、感情形容詞」という文型は、筆者が感情形容詞に関心を持つきっかけとなった文型である。研究の締めくくりとして、日本語の研究をどう日本語教育へ活かすことができるのかという提案をすることができた。

## 7. 感情形容詞の 3 つの用法

最後に、終止用法・連体修飾用法・副詞的用法という感情形容詞の 3 つの用法をまとめる。感情形容詞は、「感情・感覚を表しうる形容詞」であり、すでに指摘されているように、モノの属性を表すこともある。そして、本研究を通じて、表 8 のように、終止用法・連体修飾用法・副詞的用法の 3 つの用法において、感情を表すこともあれば、モノの属性を表すこともあることが明らかになった。

**表 8　感情形容詞が感情を表す時と属性を表すとき**

| | 感情を表す | モノの属性を述べる |
|---|---|---|
| 終止用法 | (35) 母の優しさがつらい。<br>(36) 知らせを聞いて、悲しかった。 | (37) 早起きは、つらい。<br>(38) あの映画は、悲しい。 |
| 連体修飾用法 | (39) （朝早く起きるのが）つらい人<br>(40) 残念な気持ち<br>(41) うれしい様子 | (42) 悲しい映画<br>(43) 残念な結果<br>(44) うれしい知らせ |
| 副詞的用法 | (45) 散っていく桜を悲しく見上げた<br>(46) 夫の懺悔を切なく聞いた。 | (47) 桜が悲しく枯れている<br>(48) 花子はジュリエットを切なく演じた。 |

終止用法においては、すでに指摘されている通り、(37) (38) のように感情の対象を「は」で取り立てることによって、モノの属性を表す文となる。連体修飾用法においては、(39) ー (41) のように形容詞と被修飾名詞が [経験者] [内容] [表出物] という関係である場合、感情を表すと言えるだろう。そして、(42) ー (44) のように形容詞と被修飾名詞が [対象] という関係の場合は、被修飾名詞の属性を述べると言える。副詞的用法においては、(45) (46) のような動作主認識の副詞的成分は感情を表すものであり、(47) (48) のような非動作主認識の副詞的成分は、モノの属性を表すものであると言える。

以上、本研究では、感情形容詞の終止用法、連体修飾用法、副詞的用法という 3 つの用法を詳細に検討し、感情形容詞の全体像を明らかにすることができた。

## 8.　今後の課題

最後に、今後の課題について述べておきたい。

本研究では「Vテ、感情形容詞」と「～カラ、感情形容詞」「～ノデ、感情形容詞」という 3 つの複文を扱ったが、「～ト」や「～ナンテ」等、他にも述部に感情形容詞が現れる複文がある。これらについても、今後、考察を行っていきたい。

本研究で、最も多くの課題が残ったのは、第 3 章の形容詞の使用実態である。まず、分類に使用する「文の成分」を決めることが非常に困難であった。ひとつの品詞がどのように使われているかを見るには、活用形による分類では不十分であることはすでに述べた。しかし、本研究で使用した「文の成分」が完全なものであるとも考えていない。第 3 章でできたのは、「このような文の成分に分類をして、このような結果が出た」というところまでである。よりよい分類を考えていくことが今後の課題である。文の成分として何を立てるかというテーマは、文節や文の成分とは何かといった議論が盛んに行われていた 1970 年代と異なり、現代はあまり議論が行われていないように思われるが、分析に使用できる文の成分を考えていくことが必要であろう。

そして、同じく第 3 章の「感情形容詞の使用実態」で、4 つの形容詞群の使用に有意な差が見られたところで、それがその群全体の特徴であるということが非常に困難だったという問題がある。ある群のいくつかの語が全体に影響を与えていることも大いに考えられるからである。今後は、今回の結果をふまえて、ひとつひとつの形容詞を丁寧に見ていく必要があると考えている。

また、本研究を通して、「見る」という行為と言語の関係に関心を抱くようになった。まず、「Vテ、感情形容詞」においては、「娘ががんばっている姿を見て、うれしい」のような［対象認識］という話者の「見る」という対象を認識する段階の動作を言語として顕在化したタイプがあることを指摘した。また、副詞的用法においては、「桜が散っていくのを恨めしく見ていた」のように、述語動詞が認識系の例が多いことも見た。「桜が散っていくのを恨めしく見ていた」は、「桜が散っていくのが恨めしかった」と意味的には非常に近い。言語は、すべて話者の認識という行為を経たものであり、「見る」等の話者の「認識するという行為」がどのように言語化されるのかは、興味深い問題である。この点も今後の課題としていきたい。

# 参考文献


浅山佳郎（1999）「感情動詞の補足語の格と感情形容詞」『神奈川大学言語研究』22　神奈川大学 p. 57－72

東弘子（1999）「感情表出文」『自然言語処理』6－4　言語処理学会　p. 45－65

荒正子（1989）「形容詞の意味的なタイプ」『ことばの科学』3　言語学研究会編　むぎ書房 p. 147－162

井島正博(1991)「可能文の多層的分析」『日本語のヴォイスと多動性』仁田義雄編　くろしお出版　p. 149－189

井本亮（2009）「形容詞連用形による副詞的修飾関係―モノのサマの修飾関係を中心に」『国文学解釈と鑑賞』74－7　至文堂　p. 52－60

王安（2005）「接尾辞「～がる」の機能再考」『研究論集』5　北海道大学大学院文学研究科　p. 241－261

大島資生（2010）『日本語連体修飾節構造の研究』ひつじ書房

大曽美恵子（2001）「感情を表わす動詞・形容詞に関する一考察」『言語文化論集』22－2　名古屋大学言語文化部・国際言語文化研究所　p. 21－30

奥田靖雄（1986）「実現・可能・必然（上）」『ことばの科学』1　言語学研究会編　むぎ書房　p. 181－212

奥津敬一郎(1974)『生成日本文法論』大修館書店

――――――(2007)『連体即連用？―日本語の基本構造と諸相』ひつじ書房

尾上圭介（1998）「文法を考える５出来文（1）」『日本語学』17－7　明治書院　p. 76－83

――――（1998）「文法を考える６出来文（2）」『日本語学』17－10　明治書院　p. 90－97

――――（1999）「文法を考える７出来文（3）」『日本語学』18－1　明治書院　p. 86－93

小野尚之編(2009)『結果構文のタイポロジー』ひつじ書房

小野尚之（2009）「日本語連体修飾節への語彙意味論的アプローチ」『語彙の意味と文法』由本陽子・岸本秀樹編　くろしお出版　p. 253－272

小山敦子（1966）「「の」「が」「は」の使い分けについて―展成文法理論の日本語への適用―」『国語学』66　国語学会　p. 61－84

柿元悦子(1993)「使役と受身―「～シテモラウ」文の分析に基づいて―」『九州産業大学教養部紀要』29-4　九州産業大学　p. 51-57

影山太郎編(2009)『日英対照形容詞・副詞の意味と構文』大修館書店

影山太郎編(2012)『属性叙述の世界』くろしお出版

加藤由紀子（2001）「感情表現における動詞とその周辺」『岐阜大学留学生センター紀要』　岐阜大学留学生センター　p. 47-59

加藤庸子(2000)「感情・感覚形容詞の連用用法について」『日本語・日本文化研究』10　大阪外国語大学日本語学科　p. 71－81

川端善明(1983)「文の構造と種類―形容詞文―」『日本語学』2－5　明治書院　p. 128－134

北原保雄（1991）「表現主体の主観と動作主の主観」『国語学』165　国語学会　p. 15－25

――――――(2010)『日本語の形容詞』大修館書店

木下りか（2001）「事態の隣接関係と様態のソウダ」『日本語文法』１－１　日本語文法学会　p.137－158
金水敏（1989）「「報告」についての覚書」『日本語のモダリティ』仁田義雄・益岡隆志編　くろしお出版　p.121－129
草薙裕（1977）「日本語形容表現の意味―情報提供という観点からの考察―」『文藝言語研究 言語編』　筑波大学文芸・言語学系　p.89－110
工藤浩（1997）「評価成分をめぐって」『日本語文法　体系と方法』川端善明・仁田義雄編　ひつじ書房　p.55－72
工藤真由美（2002）「日本語の文の成分」『現代日本語講座 文法』5 飛田良文・佐藤武義編　明治書院　p.101－119
――――――（2014）『現代日本語ムード・テンス・アスペクト論』ひつじ書房
久野暲（1973）『日本文法研究』大修館書店
久野暲・ジョンソン由紀（2005）「日本語の「非規範二重主語構文」について　目的語表示の「が」」『言語学と日本語教育』Ⅳ　南雅彦編　くろしお出版　p.13－24
黒田成幸（1965）「ガ、ヲ及びニについて」『国語学』63　国語学会　p.75－85
ケキゼ・タチアナ（2000）「「（～し）そうだ」の意味分析」『日本語教育』107　日本語教育学会　p.7－15
――――――――――（2002）「「～げ」の意味分析」『日本語文法』2－1　日本語文法学会　p.3－21
郡博子（1993）「感情形容詞についての考察」『日本語・日本文化』第１９号　大阪外国語大学留学生日本語教育センター　p.25－39
小竹直子（2007）「日本語の感情表現における動詞と形容詞の対立―形態的に対応する動詞と形容詞の比較に焦点を当てて―」『電子情報通信学会技術研究報告．TL，思考と言語』107－138　電子情報通信学会　p.35-40
――――（2010）「条件文の帰結部分における形容詞終止形と形容詞＋ナルの交替」『広島大学大学院教育学研究科紀要第二部』59　広島大学　p.249－258
小竹直子・酒井弘（2012）「「こころの動き」を言語はどのように捉えるか　心理形容詞と心理動詞の使い分けを通して」『日中理論言語学の新展望③語彙と品詞』影山太郎・沈力編　くろしお出版　p.145－167
小針浩樹（1994）「文類型の中での形容詞文の位置づけについて」『国語学研究』33　東北大学文学部　左　p.53－61
小矢野哲夫（1979）「現代日本語可能表現の意味と用法（Ⅰ）」『大阪外国語大学学報』45　大阪外国語大学　p.83－98
小矢野哲夫（1985）「形容詞のとる格」『日本語学』4-3　明治書院　p.21－28
定延利之（2002）「「インタラクションの文法」に向けて―現代日本語の疑似エビデンシャル―」『京都大学言語学研究』21　京都大学大学院文学研究科言語学研究室　p.147-185
篠原俊吾（2008）「相互作用と形容詞」『ことばのダイナミズム』　くろしお出版　p.89－104
柴谷方良（1978）『日本語の分析』大修館書店
――――（2001）「日本語の非規範的構文について」『言語学と日本語教育』Ⅱ　南雅彦・アラム佐々木幸子編　　くろしお出版　p.1－37

渋谷勝己（1993）「日本語可能表現の諸相と発展」『大阪大学文学部紀要』33－1　大阪大学
――――（1995）「可能動詞とスルコトガデキル―可能の表現―」『日本語類義表現の文法（上）単文編』宮島達夫・仁田義雄編　くろしお出版　p. 111－120
――――（2005）「日本語可能表現にみる文法化の諸相」『日本語の研究』1－3　日本語学会　p. 32－45
シュピツア・ドラガナ(2002)「「ご飯をおいしく食べた」構文についての一考察　感情・感覚形容詞の連用修飾について」『日本語・日本文化研究』12　大阪外国語大学日本語講座　p. 139－145
新川忠(1979)「「副詞と動詞のくみあわせ」試論」『言語の研究』言語学研究会編　むぎ書房　p. 173－202
――――（1996）「副詞の意味と機能―結果副詞をめぐって―」『ことばの科学』7　言語学研究会編　むぎ書房　p. 61－80
新屋映子（1989）「“文末名詞”について」『国語学』159　国語学会　左 p. 1－14
――――（1995）「「彼女を好きだ」という言い方―感情形容詞の他動性について―」『桜美林論集　一般教育篇』22　桜美林大学　p. 93－103
――――(2009)「形容詞述語と名詞述語　その近くて遠い関係」『国文学解釈と鑑賞』7 月号　p. 30－40
鈴木一彦・林巨樹編(1984)『研究資料日本文法第 3 巻用言編 2 形容詞・形容動詞』　明治書院
鈴木重幸(1972a)『日本語文法・形態論』麦書房
――――(1972b)『文法と文法指導』麦書房
高橋太郎(1994)「スルともシタともいえるとき」『動詞の研究―動詞らしさの発展と消失―』むぎ書房 p. 166－187
――――(1998)「動詞からみた形容詞」『月刊言語』27－3　大修館書店　p. 36－43
陳崗・吉田則夫(2009)「形態からみた日本語心情語彙の史的展開―語構成と品詞の観点から―」『研究集録』142　岡山大学大学院教育学研究科　p. 1－8
角田三枝（1999）「感情表現の連体修飾におけるボイス的対立」『アジア・アフリカ文法研究』28　東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所　p. 55－82
――――（2000）「いわゆる所有文型の中の感情、感覚などの表現―「車のある人」と「恨みのある人」―」『人間文化論叢』3　お茶の水女子大学大学院人間文化研究科　p. 283－292
寺村秀夫（1971）「‘タ’の意味と機能―アスペクト・テンス・ムードの構文的位置づけ」『言語学と日本語問題』くろしお出版　（寺村秀夫(1984)『日本語のシンタクス』Ⅱくろしお出版に採録　p. 313－358）
――――（1973）「感情表現のシンタクス―「高次の文」による分析の一例―」『月刊言語』2－2　大修館書店　p. 18－26
――――(1975)「連体修飾のシンタクスと意味―その 1―」『日本語・日本文化』4 号　大阪外国語大学留学生別科（寺村秀夫(1992)『寺村秀夫論文集』Ⅰ　くろしお出版に再掲　p. 157－207）
――――(1977)「連体修飾のシンタクスと意味―その 2―」『日本語・日本文化』5 号　大阪外国語大学留学生別科（寺村秀夫(1992)『寺村秀夫論文集』Ⅰ　くろしお出版に再掲　p. 209－260）
――――(1977)「連体修飾のシンタクスと意味―その 3―」『日本語・日本文化』6 号　大阪外国語大学留学生別科（寺村秀夫(1992)『寺村秀夫論文集』Ⅰ　くろしお出版に再掲　p. 261－296）
――――(1978)「連体修飾のシンタクスと意味―その 4―」『日本語・日本文化』7 号　大阪外国語大学留

学生別科（寺村秀夫(1992)『寺村秀夫論文集』Ⅰ　くろしお出版に再掲　p.297－320）
――――（1982)『日本語のシンタクスと意味』Ⅰ　くろしお出版
――――（1984)『日本語のシンタクスと意味』Ⅱ　くろしお出版
時枝誠記(1941)『国語学原論』(岩波書店より復刊『国語学原論』上下(2007)）
――――(1950)『古典解釋のための日本文法』至文堂
豊田豊子(1978)「接続助詞「と」の用法と機能(1)」『日本語学校論集』5　東京外国語大学外国語学部附属日本語学校　p.28－46
――――(1983)「接続助詞「と」の用法と機能(Ⅴ)―因果を表す「と」―」日本語学校論集 10　東京外国語大学外国語学部附属日本語学校　p.1-24
ドラガナ・シュピツァ(2005)「日本語における動作主認識の副詞的成分をめぐって」『日本語文法』５－１　日本語文法学会　p.212－222
中村亘（2000)「接尾辞「げ」の意味・用法―「そう」との事態把握の違いを通じて―」『早稲田大学大学院文学研究科紀要 第3分冊』 46　p.73－82
西尾寅弥（1972)『形容詞の意味・用法の記述的研究』国立国語研究所報告 44　秀英出版
仁田義雄（1988)「意志動詞と無意志動詞」『月刊言語』17－5　大修館書店　p.34－37
――――（1990)「日本語の形容詞文をめぐって」『ことばの饗宴―箕壽雄教授還暦記念論集―』くろしお出版　p.453－467
――――（1995)「シテ形接続をめぐって」『複文の研究（上)』仁田義雄編　くろしお出版　p.87－125
――――（1998)「日本語文法における形容詞」『月刊言語』27－3　大修館書店　p.26－35
――――（2002)『副詞的表現の諸相』　くろしお出版
――――（2004)「意志性から見た主語」『月刊言語』33-2　大修館書店　p.41－49
日本語記述文法研究会編(2010)『現代日本語文法』1　くろしお出版
橋本進吉(1969)『助詞・助動詞の研究』岩波書店
橋本三奈子・青山文啓(1992)「形容詞の三つの用法：終止，連体，連用」『計量国語学』18－5　計量国語学会　p.201－214
蓮沼昭子・有田節子・前田直子（2001)『条件表現』日本語文法セルフマスターシリーズ７　くろしお出版
バックハウス，アンソニー・E(2008)「形容詞の「ク形」を辞書に載せるべきか」『北海道大学留学生センター紀要』11　p.9-18
樋口文彦（1989)「評価的な文」『ことばの科学』３　言語学研究会編　むぎ書房　p.181－192
――――（1996)「形容詞の分類―状態形容詞と質形容詞―」『ことばの科学』７　言語学研究会編　むぎ書房　p.39－60
畢暁燕(2010)「感情形容詞による連体修飾に関して―感情形容詞と名詞との意味的関係を中心に―」『日中言語研究と日本語教育』3　『日中言語研究と日本語教育』　好文出版　p.67－77
藤田保幸（1981)「準引用」『待兼山論叢』15　大阪大学文学部　p.1－16
細川英雄（1986)「風は寒いか冷たいか―温度形容詞とその用法について―」『国語学 研究と資料』10　日本語学研究と資料の会　左 p.1－13

――――（1989）「現代日本語の形容詞分類について」『国語学』158 集　国語学会　左 p. 14－26
――――(1990)「感情形容詞の連用修飾用法について」『近代語研究』8　近代語学会編　武蔵野書院　p. 327－340
許明子(2000)「テモラウ文と受身文の関係について」『日本語教育』105　日本語教育学会　p. 1－10
堀川智也（1992）「心理動詞のアスペクト」『言語文化部紀要』21　北海道大学　p. 187－202
本田啓(2005)『アフォーダンスの認知意味論―生態心理学から見た文法現象』東京大学出版会
前川喜久雄(2009)「代表性を有する大規模日本語書き言葉コーパスの構築」『人口知能学会誌』24-5　人工知能学会　p. 616－622
巻下吉夫・瀬戸賢一(1997)『文化と発想とレトリック』中右実編　研究社
益岡隆志(1987)『命題の文法－日本語文法序説―』くろしお出版
――――（1991）「物語文のテンス」『モダリティの文法』くろしお出版　p. 156－172
――――（1997）「表現の主観性」『視点と言語行動』田窪行則編　くろしお出版　p. 1－11
三上章（1953）『現代語法序説』刀江書院（くろしお出版より復刊（1972））
三田村紀子(1966)「形容詞の意味分類」『研究年報』10　奈良女子大学文学会　p. 14－25
南不二男(1974)『現代日本語の構造』大修館書店
三原健一（2000）「日本語心理動詞の適切な扱いに向けて」『日本語科学』８　国立国語研究所　p. 54－75
宮腰幸一(2009)「日英語の周辺的結果構文－類型論的含意」『結果構文のタイポロジー』小野尚之編　ひつじ書房　p. 217－265
村木新次郎（2002）「第三形容詞とその形態論」『現代日本語の文法研究』国語論究 10　明治書院　p. 211－237
森田富美子(1988)「接尾辞「～がる」について」『東海大学紀要．留学生教育センター』8　p. 1－15
森田良行（1981）「「悲しく思う」か「悲しいと思う」か」『日本語の発想』　冬樹社　p. 84－89
森山卓郎(1992)「文末思考動詞「思う」をめぐって―文の意味としての主観性・客観性―」『日本語学』11-8　明治書院　p. 105－116
守屋三千代（2001）「必須成分としての授受形式」『日本語日本文学』11　創価大学日本語日本文学会　p . 1－14
――――――（2002）「日本語の授受動詞と受益性～対照的な観点から～」『日本語日本文学』12　創価大学日本語日本文学会　p. 1－22
八亀裕美（2008）『日本語形容詞の記述的研究―類型論的視点から―』明治書院
――――(2009)「形容詞述語文をとらえるために 分析に必要な視点」『国文学解釈と鑑賞』74－7　至文堂　p. 20－29
矢澤真人(1983)「情態修飾成分の整理―被修飾成分との呼応及び出現位置からの考察―」『日本語と日本文学』3　筑波大学国語国文学会　p. 30－39
――――(2007)『日本語情態修飾関係の研究』筑波大学博士論文
山岡政紀（2000）『日本語の述語と文機能』日本語研究叢書 13　くろしお出版
山口仲美（1982）「感覚・感情語彙の歴史」『語彙史』講座日本語学 4　森岡健二編　明治書院　p. 202－227

山崎誠(2009)「代表性を有する現代日本語書籍コーパスの構築」『人口知能学会誌』24-5　人工知能学会　p. 626－631
山田進(2005)「感情語の意味をどう記述するか」『聖心女子大学論叢』104　聖心女子大学　p. 83－99
山本和之（1983)「日英語の感情形容詞（Ｉ)」『他者の心的・感覚的状態の表出に関する日英語の比較研究』科学研究費補助金研究成果報告書　p. 1－61
山本俊英（1955)「形容詞ク活用・シク活用の意味上の相違について」『国語学』23　国語学会　p. 71－75
吉永尚（2008)『心理動詞と動作動詞のインターフェイス』和泉書院
李仙花(2006)「「てもらう」文と受身文の交替可能性について」『国語学研究』45　東北大学文学部　p. 73-85
林青樺（2007)「現代日本語における実現可能文の意味機能―無標の動詞文との対比を通して―」『日本語の研究』3－2　日本語学会　p. 31-46
ロザリンド・ソーントン（1983)「形容詞の連用形のいわゆる副詞的用法」『日本語学』2－10　p. 64－76
鷲尾龍一（1996)「語のタイポロジ―」『言語』25- 11 p. 28－35
渡辺実(1983)『副用語の研究』明治書院
―――（1991)「「わがこと・ひとごと」の観点と文法論」『国語学』165　国語学会　p. 1－14
Washio, Ryuichi. (1997) “Resultatives, composionality and language variation.” *Journal of East Asian Linguistics 6,* 1-49.

【辞書類】

国立国語研究所編(2004)『分類語彙表』増補改訂版　国立国語研究所資料集 14　大日本図書
情報処理技術振興協会(1994)『計算機用日本語基本形容詞辞書 IPAL(Basic Adjectives)辞書編上(あ～し)』情報処理振興事業協会技術センター
――――――――――(1994)『計算機用日本語基本形容詞辞書 IPAL(Basic Adjectives)辞書編下(す～わ)』情報処理振興事業協会技術センター
――――――――――(1995)『計算機用日本語基本形容詞辞書 IPAL(Basic Adjectives)解説編』情報処理振興事業協会技術センター
中村明(1993)「感情表現辞典』東京堂出版